平成８年度

第三期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実践

― 体験的学習の指導による実践的力量の形成 ―

Shin-Dai You Yu Saturday:

Saturday Fun Sharing Program at Shinshu University

―Training for Practical Teaching skills and Qualities―

（平成８年５月２５日・９月１４日・１０月１２日）

信州大学教育学部
附属教育実践研究指導センター

http://cert.shinshu-u.ac.jp/st/you/

信大ＹＯＵ遊サタデー HomePage

信州大学教育学部が、平成６年度に全国に先駆けてスタートさせた
新しい空間をご紹介いたします。

We have a home page in ENGLISH.
(Under construction)　未完成です

[ＹＯＵ遊サタデーってなに？][信州大学ってどこ？]

新着情報

第３期ＹＯＵ遊サタデー

さて平成８年度・第３期ＹＯＵ遊サタデーは？最新情報を公開中！

第２期ＹＯＵ遊サタデー

ＹＯＵ遊サタデー２年目。
ささやかな交流がいきいきとした笑顔に包まれて、
第２期も頑張りました。

第１期ＹＯＵ遊サタデー

ここからＹＯＵ遊サタデーがスタートしました。
『平成６年度「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実践』電子版（未完）ほか
まさに無からの創造でした。

ＹＯＵ遊サタデーの手引き（電子版）

ＹＯＵ遊サタデーのバイブル「ＹＯＵ遊サタデーの手引き」（第２期）が登場。
ここにＹＯＵ遊サタデーの熱い想いが記録されている！

学生スタッフのコーナー

ＹＯＵ遊サタデーをつくってきた学生の顔をご紹介します。

[ゆうサタHome | 第１期 | 第２期 | 第３期]

[問い合わせ先]

(c)1994-96

YOU遊サタデー
SINCE 1994 BY SHINSHU UNIV.

ま え が き

漆戸　邦夫（附属教育実践研究指導センター長）

いじめの深刻化などに伴い、豊かな人間性や実践的指導力を持つ教員の養成が緊急課題であるとして、教育職員養成審議会は、文部大臣からの諮問をうけ、教育実習の期間延長やカウンセリングの必修化など、大学のカリキュラムの改善を含む教員養成制度の見直しの審議に入っている。

本学においても、教育実習だけを実践的指導力養成の場として捉えるのではなく、広く様々な教育機関での豊かな教育経験も実践的指導力の基礎を培う力となるという視点から、臨床経験の授業「教育参加」を、当センターが担当責任母体となり、平成８年度１年生に必修で開講した。松本附属学校園を初め関係教育機関で行われている教育活動に実際学生たちが参加し、子どもや教師と触れ合う教育実践を通して、学生たちが子ども理解、教師理解、学校理解を深め教育への関心・意欲を高めることを目的としたものである。１年生の段階で子どもや教師と触れ合う実践経験は、従来であると３年生の教育実習まで経験できなかったので、学生にとって大きな財産である。２年次以降教科や教職専門科目の授業をうけるにあたり、学ぶ意欲や刺激となり、何をどのように学ばなくてはならないかを判断するよりどころになるものであろうと思われる。

さて、「信大ＹＯＵ遊サタデー」の源泉は、教育実習を終えてきた学生が、“もう少し子どもたちと触れ合う機会が欲しい”という、実践的指導力を培う場を求めたものであった。この「信大ＹＯＵ遊サタデー」の真髄は、学生が単位や授業と関係なく、全く無償で、自主的に、教育ボランティアとして参加する点にある。教師という道のプロになるための礎とするのだという、学生諸君の「純粋な努力心」にある。「信大ＹＯＵ遊サタデー」が今後も学生諸君の純粋なエネルギーにより続けられる限り、この精神は引き継がれていくであろう。また、その精神が風化したり、授業化されるなど純粋さが保てなくなったとき危機を迎えるであろう。今後も末永く充実発展する様子を見守りたい。

一方、「信大ＹＯＵ遊サタデー」には以下のような教育的魅力がある。学校週５日制時代における学校外教育の一つの対応例であり、生涯学習社会の到来を迎えて大学の開放や大学と地域社会との連携のあり方を模索する上での絶好の素材であるとも考えられることである。

本冊子は平成８年度第三期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実践報告書である。教材の開発や充実、キャプテン、スタッフの研修方法や数講座の出前開催、長野市や松本市以外の会場での開催など将来に向けての検討課題は山積している。

なお、本年度も（財）長野県テクノハイランド開発機構から財政的な援助をして戴いた。感謝と御礼を申し上げます。

＜目次＞

#まえがき　附属教育実践研究指導センター長　漆戸邦夫 ---------- 1
#目次 ---------- 2
#写真－講座風景－ ---------- 4

1．第三期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の歩み ---------- 7

（１）「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実施要項 ---------- 8
（２）第三期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の特徴と今後の展望　センター専任教官　土井進 ---------- １２
（３）キャプテン・スタッフ組織一覧 ---------- １７
（４）言葉にならない想いを込めて　実行委員長　加納文香 ---------- ２４
（５）人と人とのつながりの中で　ＹＯＵ遊サタデー事務局　野本聡 ---------- ２６
（６）「ゆうサタ」に想いを馳せて　渡辺一博（英語４） ---------- ３３

2．出会いと挑戦の記録　－第三期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実践 ---------- ３４

（１）第８回信大ＹＯＵ遊サタデー ---------- ３５
①プロへの一歩！？イラスト・漫画体験　山谷早苗・黒沢祐子・中島真由美（幼教４） ---------- ４０
②不思議なしおり作り　野本聡（理科４） ---------- ４３
③何でも研げちゃう！刃物研ぎ　斎藤かおる（家庭４） ---------- ４６
④おやつパラダイス
～○○でクッキーを作っちゃおう～　小林理英（家庭４） ---------- ４９
⑤カンカンアイスクリームをつくろう　加納文香（家庭４） ---------- ５２
⑥宇宙生物スラスラスライム　千葉綾子（理科３） ---------- ５５
⑦学校では教えてくれないマル秘化学実験　安喰和之・長谷川直紀・桃澤啓・宮沢元（理科３） ---------- ５８
⑧かわいいビーズ玉コレクション　美斉津礼奈（数学３） ---------- ６２
⑨いじめフォーラム’９６　渡辺一博（英語４）木戸口あい（大学院２） ---------- ６４
⑩お父さんもキャプテンだ！　竹下雅道（数学３） ---------- ７１
⑪ガリガリ竹とんぼ　丸山和利（理科４） ---------- ７４
⑫続・教育学部ってどんなところ　片桐宏（大学院１） ---------- ７８
⑬小麦粉粘土　坂本真哉（大学院１） ---------- ８６
（２）第９回信大ＹＯＵ遊サタデー ---------- ８８
①プロへの一歩！？イラスト・漫画体験
パワーアップバージョン　山谷早苗・黒沢祐子・中島真由美（幼教４） ---------- ９４
②ネイチャーゲーム　小池祐介（実践３） ---------- ９７
③うちわで書　塩苅有紀（国語４） ---------- １００
④でっかいでっかいシャボン玉をつくろう　臣川元寛（障害４） ---------- １０３
⑤お父さんお母さん
源氏物語を読みましょう　清水由美（国語３） ---------- １０４
⑥算数・数学の家庭教育　相沢大司郎（数学４） ---------- １０５
⑦英語でクッキング　渡辺一博（英語４） ---------- １０８
⑧絵本をつくろう　池上永利子（国語３） ---------- １１５
⑨家庭教育フォーラム
“お父さん、出番ですよ”　知野真里子（家庭４）長島多賀子（幼教４） ---------- １１８
⑩おしゃべり教育学　林向達（名大院２） ---------- １２６
⑪とびだすビックリカードをつくろう！　芦田恵・清水あかね（数学４） ---------- １２９
⑫おはじき・あやとり・おにごっこ　秋山薫・竹田みどり（心理３） ---------- １３１
⑬宇宙生物スラスラスライム　宮沢元（理科３） ---------- １３４
⑭万華鏡をつくろう　今井健文（理科４） ---------- １３７

（3）第１０回信大ＹＯＵ遊サタデー …… １４０
①たのしく作ろう籐かご作り　檜山いづみ（理科４）…… １４５
②プロへの一歩！？イラスト・漫画体験
パワーアップバージョンＩＩ　山谷早苗・黒沢祐子・中島真由美（幼教４）…… １４８
③小麦粉粘土　サラサラドロドロカチカチ　坂本真哉（大学院１）・小海到（医学６）…… １５１
④でっかいでっかいシャボン玉をつくろう　宮本愛（音楽３）…… １５３
⑤学校では教えてくれないマル秘化学実験　長谷川直紀（理科３）…… １５６
⑥君も紙づくり名人
（牛乳パックからはがきを作ろう）　佐々木美恵（家庭３）…… １５７
⑦親子でサッカー　柳沢勇志（数学４）…… １５９
⑧とびだす紙しばい　桐山潤（国語３）…… １６２
⑨ドラム・パーカッション入門　小林理恵（理科４）・奥井一良（理科１）…… １６５
⑩宇宙生物スラスラスライム　安喰和之（理科３）・田淵久晃（理科１）…… １６８
⑪ペーパーグライダーをとばそう　中村典史（社会３）…… １７３
⑫地図で旅行しよう　登坂武人・小宮山博（社会２）…… １７８
⑬おどってあそぼ！１・２ダンス　中村愛・尾島久美（障害２）…… １８１
⑭ペットボトルロケット　今井健文（理科４）・松下貴晴（数学１）…… １８４

３．ＹＯＵ遊サタデーに関する意識調査　－アンケート調査 から－　臣川元寛（障害４）…… １８８

４．感想文 …… ２０１

（１）参加者 …… ２０２
（２）一年生 …… ２０９

５．資料（第三期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の記録）…… ２１３

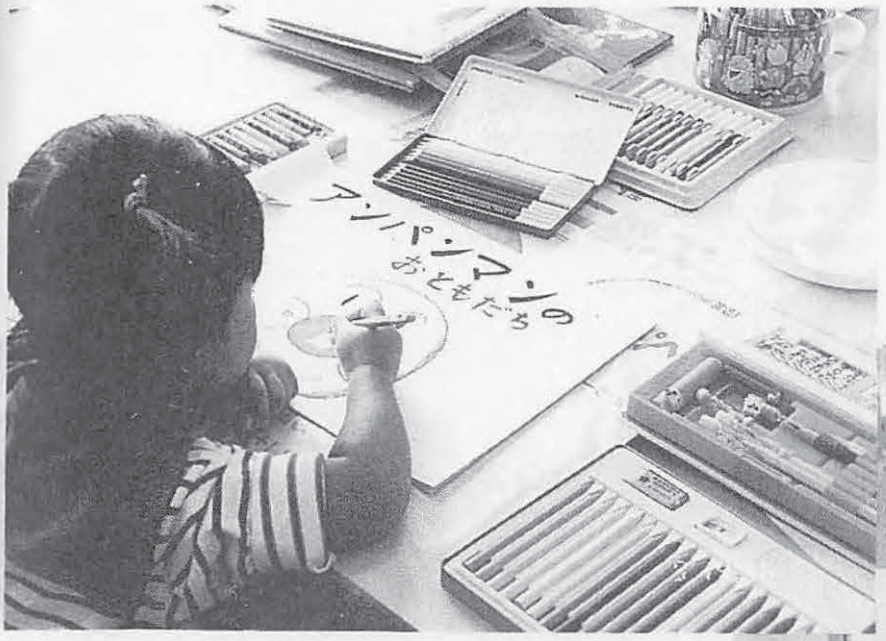
（１）マスコミ報道記録 …… ２１４
（２）スタッフマニュアル …… ２２９
（３）ＹＯＵ遊サタデー通信　野本聡（理科４）…… ２３９
（４）ＨＯＷ　ＴＯ　サタデー …… ２４８
（５）出張ＹＯＵ遊サタデー …… ２５４
（６）修了証、ＹＯＵ遊カード …… ２５６
（７）本部スタッフの仕事　高橋貴子（理科４）…… ２５８
①受付係　千葉綾子（理科３）…… ２６２
②駐車場係　宮沢元（理科３）…… ２６３
③開閉会式係　小林理恵（家庭４）…… ２６３
④Ｃｏｏｋｉｎｇ隊　斉藤かおる（家庭４）…… ２６６
⑤写真記録係　野本聡（理科４）…… ２６８
⑥前日設営係　今井健文（理科４）…… ２６８
⑦備品管理係　安喰和之（理科３）…… ２６９
⑧外報活動　野本聡（理科４）…… ２７１
#あとがき　センター専任教官　土井進 …… ２７２
#編集後記

ゆうゆう PHOTO

第8回　「ガリガリ竹とんぼ」

第１０回　「君も紙づくり名人
（牛乳パックからはがきを作ろう）」

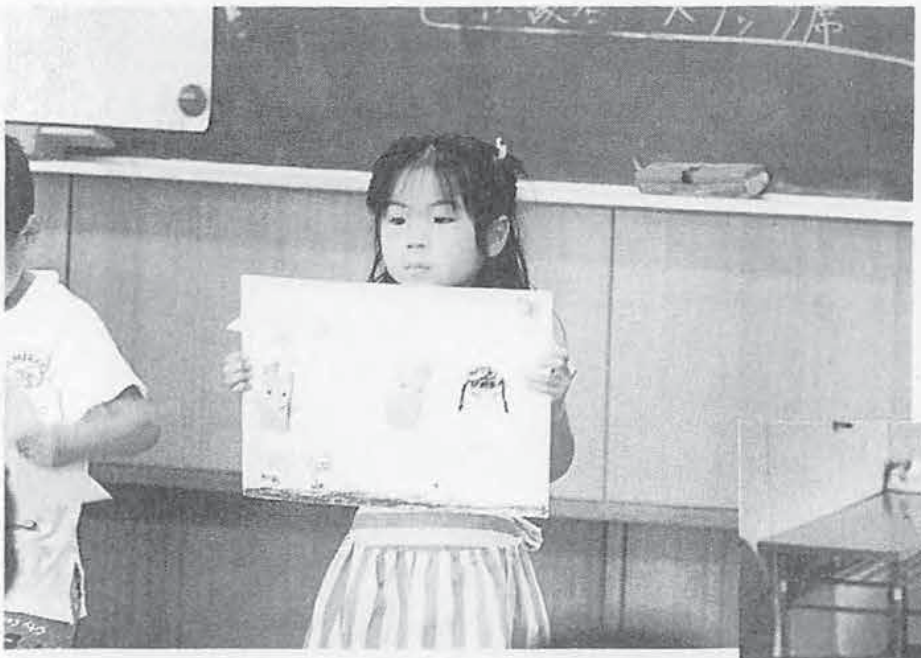
第9回　「でっかいでっかいシャボン玉をつくろう」



第９回　「プロへの一歩！？
イラスト・漫画体験パワーアップバージョン」

第９回　「英語でクッキング」

第９回　「宇宙生物スラスラスライム」



第１０回　「とびだす紙しばい」

第９回　「小麦粉粘土
サラサラドロドロカッチカチ」

第１０回　「たのしく作ろう籐かご作り」

1．第三期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の歩み

（１）平成８年度　「信大ＹＯＵ遊サタデー」実施要項
－学生が指導する体験的学習－

信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター
信大ＹＯＵ遊サタデー実行委員会

１．趣旨

①信州大学教育学部の学生が、自分の得意とする分野で、学生時代でなければできないようなユニークなアイデアによる遊びや学びの体験講座を開設することによって、学生生活の活性化を図る。（学生生活の充実）

②教育学部教官や学生の持っているすぐれた教育力を地域社会に開き、貢献することによって教育学部と地域社会とのつながりを深める。（大学開放）

③学校週五日制に対する地域社会や家庭の取り組みがまだ試行錯誤の状況にある現在、教育学部が率先して地域社会に貢献する。（学校週五日制）

④教育学部には幼・小・中・高・特殊の各学校の幼児・児童・生徒に対応できる学生が学んでいる。この学生たちが自己の持ち味を発揮して子どもたちとかかわることによって、教師となるための実践的指導力の基礎を身につける。（実践的指導力）

２．実施月日

第８回	５月２５日（第４土曜日）	９：００～１５：３０
第９回	９月１４日（第２土曜日）	９：００～１５：３０
第10回	１０月１２日（第２土曜日）	１３：００～１６：００

３．実施会場

第８・９回	信州大学教育学部キャンパス（長野市西長野６－ロ）
第10回	信州大学松本キャンパス（松本市旭３－１－１）

４．指導講師

この企画では体験的学習の指導にあたる学生をキャプテンと呼び、キャプテンを助けながらティームティーチングを行う学生をスタッフと呼んでいる。キャプテンはこんな講座を開きたいと企画した学生がつとめ、スタッフには意欲のある１、２年生も参加できる。

今年度の実行委員会組織は次の通りである。実行委員長加納文香（家庭専攻４年）、副実行委員長丸山和利（理科専攻４年）、コンピュータ部長野本聡（理科専攻４年）、事務局長小林理英（家庭専攻４年）、今井健文（理科専攻４年）。

５．参加費

無料。但し、教材費の実費を徴収するものもある。教材作成に係る経費は、センターの教材作成費から支出する。

６．責任体制

この企画は附属教育実践研究指導センターの責任において実施する。具体的には教育実践研究指導分野の土井進教官が指導の任にあたる。学生が行う体験的学習の内容については、学生が所属する研究室の指導教官に指導案を見ていただくなど、学部教官の協力を得て実施する。　（問い合わせ先：TEL/FAX　026-237-6127）

第８回信大ＹＯＵ遊サタデー（５月２５日）講座一覧表

No	講座名	キャプテン	場所	午前	午後	対象学年	定員	材料費、服装、持ち物等
1	でっかいでっかいシャボン玉をつくろう！ ～中に入れるかも！？～	宮本　愛　（音楽専攻３年）	屋外or体育館		○	幼稚園児～	２０	汚れてもいい服装で
2	たのしく作ろう簾かご作り	檜山いづみ（理科専攻４年）	S館２２４教室	○		小学１年生～	２０	３００円、はさみ、メジャー、タオル、洗面器 （あれば目打ち、平打ち、エンマペンチ）
3	プロへの一歩！？イラスト・漫画体験	山谷　早苗（幼児教育４年） 黒沢　祐子（幼児教育４年） 中島真由美（幼児教育４年）	E館４０４教室	○		小学４年生～	１５	３００円、描きたいキャラクターの絵、えんぴつ、消しゴム ３０ｃｍ定規、 （イラストに黒く塗る部分があれば筆）
4	不思議なしおり作り	野本　聡　（理科専攻４年）	S館２２４教室		○	小学４年～６年生	１２	２００円、色鉛筆、色ペンなどのイラストが描ける道具
5	ペーパーグライダーを飛ばそう	中村　典史（社会専攻３年） 丹羽　則之（技術専攻４年）	N館１０２教室	○		小学３年生～	２０	カッター、はさみ、セメダインＣ、新聞紙１日分
6	何でも研げちゃう！刃物研ぎ	斉藤かおる（家庭専攻４年）	調理室		○	小学５年生～一般成人	１０	ご家庭の包丁などの刃物
7	おやつパラダイス ～○○でクッキーを作っちゃおう～	小林　理英（家庭専攻４年）	調理室	○		小学生	２４	２００円、エプロン、三角巾、タオル
8	カンカンアイスクリームをつくろう	加納　文香（家庭専攻４年）	図書館２階	○		幼稚園児～小学２年生	１０	２００円、タオル
9	宇宙生物スラスラスライム	千葉　綾子（理科専攻３年）	S館１１８教室	○		幼稚園児～小学生	３０	汚れてもいい服装で
10	学校では教えてくれない 秘 化学実験	安喰　和之（理科専攻３年） 長谷川直紀（理科専攻３年） 桃澤　啓（理科専攻３年） 宮沢　元（理科専攻３年）	S館３００教室		○	中学～高校生	１８	汚れてもいい服装で
11	続・教育学部ってどんなところ	片桐　宏　（大学院　１年）	N館１０１教室		○	高校生～一般成人		希望学科、聞いてみたいことなどを記入して申し込んで下さい
12	かわいいビーズ玉コレクション	美齊津礼奈（数学専攻３年）	N館２０３教室	○		小学生	７	
13	いじめフォーラム'９６	越智　康嗣（信大　助教授） 木戸口あい（大学院　２年） 渡辺　一博（英語専攻４年） 北島　茂樹（数学専攻３年）	E館５０４教室	○		～一般成人	１００	１００円（資料代、切手代含む）
14	お父さんもキャプテンだ！ ー野外活動で親子のふれ合いー	渡辺　隆一（信大　助教授） 土井　進　（信大　助教授） 竹下　雅道（数学専攻３年）	N館２０２教室	○		一般成人	３０	
15	小麦粉粘土	坂本　真哉（大学院　１年）	N館１０３教室	○		幼稚園年中～小学１年生	８	１００円、小麦粉１kg、汚れてもいい服装で
16	ガリガリ竹とんぼ	吉澤　嘉寿（何でも手作り吉澤学校） 丸山　和利（理科専攻４年）	N館１０４教室	○		小学校３年生～ （小学校１，２年生は親子で参加なら可）	５０	切り出しナイフ又はカッター

どの講座も上記の材料費のほかに、参加費１００円（傷害保険料＋教材費）が必要になります。

日　時　：５月２５日（土）
会　場　：信州大学教育学部
集合時間：【午前の部】　８時５０分　　１２時終了
　　【午後の部】　１２時５０分　　１６時終了
連 絡 先：信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター　ＹＯＵ遊サタデー係
　　〒３８０　長野市西長野６－ロ　　電話：０２６－２３７－６１２７

申込み方法

往復はがきの往信に参加希望講座名、参加者氏名、学校名、学年、住所、電話番号を、復信の表に住所、氏名を明記して５月１６日（金）までに、左記の住所にお申込下さい。往復はがきは参加者１名につき１枚ご用意下さい。なお、参加できる講座はお一人１講座までとさせていただきます。

なお、定員に限りがありますので、なるべくお早めにお願いします。

第９回信大ＹＯＵ遊サタデー（９月１４日第二土曜日）講座一覧表

番号	講座名	キャプテン	時間 午前	時間 午後	使用教室	対象学年	募集人数	教材費・持ち物・服装など
1	楽しく作ろう籐かご作り	檜山いづみ（理科専攻４年）		○	新館	小学校１年～	１０名	３００円　はさみ、メジャー、タオル、筆記用具、洗面器（あれば目打ち、平打ち、エンマペンチ）
2	プロへの一歩！？イラスト・漫画体験 ーパワーアップ・バージョンー	山谷　早苗（幼児教育４年） 黒沢　祐子（幼児教育４年） 中島真由美（幼児教育４年）	○		E404 教室	年齢制限なし	無制限	A本格的漫画講座　３００円　筆記用具、（あればペン先、ペン軸） B絵本講座　２００円　筆記用具、色鉛筆、クレヨン等、色を塗る道具
3	サラサラ・ドロドロ・カッチカチ（小麦粉粘土）	坂本　真哉（大学院１年） 堀　太一郎（英語専攻３年）	○		屋外	幼稚園児～小学校２年（一人で参加できる子）	１０名	５００円（写真代込み）　小麦粉１kg、汚れてもいい服装で
4	続・教育学部ってどんなところ　Part Ⅱ	片桐　宏（大学院１年）		○	N201 教室	高校生～一般成人	３０名	希望学科、聞きたいことを記入して申し込んで下さい
5	ネイチャーゲーム	小池　祐介（教育実践３年）		○	屋外	小学校４年～	１０名	特になし
6	昔も紙づくり名人（牛乳パックからはがきを作ろう）	佐々木美恵（家庭専攻３年）	○		N303 教室	小学校４年～	１５名	４００円　新聞三日分、タオル
7	うちわで雪	塩苅　有紀（国語専攻４年）	○		M401 教室	小学校３年～	１５名	１００円　汚れてもいい服装で
8	でっかいでっかいシャボン玉をつくろう	臣川　元寛（障害児教育４年）	○		屋外	幼稚園児～小学校２年	２０名	汚れてもいい服装で
9	お父さんお母さん源氏物語を読みましょう	桐山　潤（国語専攻３年） 清水　由美（国語専攻３年） 滝沢　貞夫（信大教授）		○	E504 教室	お父さん・お母さん	１００名	特になし
10	算数・数学の家庭教育	相沢大司郎（数学専攻４年） 吉田　稔（信大助教授）	○		N101 教室	お父さん・お母さん	１００名	特になし
11	学校では教えてくれない㊙ 化学実験 Part2	長谷川直紀（理科専攻３年）		○	化学実験室	小学校４年～中学生	２０名	３００円　汚れてもいい服装で
12	英語でクッキング	渡辺　一博（英語専攻４年）	○		調理室	小学校４年～６年	１６名	４００円　エプロン、（三角きん）、筆記用具
13	絵本を作ろう	池上永利子（国語専攻３年）		○	N103 教室	小学校１年～	１０名	３００円　色えんぴつなど絵のかけるもの
14	家庭教育フォーラム "お父さん出番ですよ！"	長島多賀子（幼児教育４年） 知野真里子（家庭専攻４年） 土井　進（信大助教授） 深町　修司（真部町和児童館長） 葛田　英男（労務管理事務所長）		○	N101 教室	お父さん・お母さん ・おじいちゃん ・おばあちゃん	１００名	特になし
15	おしゃべり教育学　はるばる２	林　向遠（名大大学院２年）		○	N203 教室	一般成人	２０名	特になし
16	とびだすビックリカードをつくろう！	戸田　恵（数学専攻４年） 清水あかね（数学専攻４年）	○		N102 教室	小学校１年～４年	２０名	１００円　はさみ、のり、色えんぴつ、色ペン、クレヨン etc
17	おはじき・あやとり・鬼ごっこ	秋山　薫（心理臨床３年） 竹田みどり（心理臨床３年）	○		N104 教室	～小学校６年	２０名	特になし
18	とびだす紙しばい～私の輝く未来～	桐山　潤（国語専攻３年）	○		N204 教室	小学生	１０名	はさみ、のり、クレヨン
19	宇宙生物スラスラスライム	宮沢　元（理科専攻３年）	○		新館	小学生	２０名	２００円　汚れてもよい服装で
20	刃物研ぎ教室	斉藤かおる（家庭専攻４年）		○	屋外	小学校４年～	１０名	包丁、ナイフなど、研ぎたいもの
21	万華鏡を作ろう	今井　健文（理科専攻４年）		○	N104 教室	年齢制限なし	１０名	３００円
22	高校生のための化学実験教室	濱戸　邦夫（信大教授） 田中　栄司（大学院２年） 石井　寛子（大学院２年） 坂野　和久（大学院２年）		○	化学実験室	高校生	３０名	１０月２６日（土）に実施　１３：００より

・このほかに、参加費として、別途１００円が必要になります。当日の受付時にお支払い下さい。

・講座の申し込み方法は裏面をご覧下さい。

第１０回信大ＹＯＵ遊サタデー（１０月１２日第二土曜日）講座一覧表

番号	講座名	キャプテン	使用教室	対象学年	募集人数	教材費・持ち物・服装など
1	楽しく作ろう籐(とう)かご作り	檜山いづみ（理科専攻４年）	屋外	小学校３年～	１５名	３００円　はさみ、メジャー、タオル、筆記用具、洗面器（あれば広めのものを）
2	プロへの一歩！？イラスト・漫画体験 ーパワーアップ・バージョンⅡー	山谷　早苗（幼児教育４年） 黒沢　祐子（幼児教育４年） 中島真由美（幼児教育４年）	５２番教室	年齢制限なし（ただし、小さいお子さんは保護者同伴で）	２０名	３００円　筆記用具、ポケットティッシュ、色えんぴつ・クレヨン・絵具など色を塗る道具、黒のサインペン（太・中・細の３本、0.1mm～0.8mm位の間）、描きたいキャラクターの絵があれば持ってきて下さい
3	サラサラ・ドロドロ・カッチカチ（小麦粉粘土）	坂本　真哉（大学院　１年） 小海　　到（医学部　６年）	５４番教室	園児～小学校２年（一人で参加できる子）	１２名	５００円（写真代等）　小麦粉 1kg、汚れてもいい服装で、できれば着替えも持って
4	でっかいでっかいしゃぼん玉をつくろう	宮本　　愛（音楽専攻３年）	屋外	園児～	１５名	汚れてもいい服装で
5	学校では教えてくれない(秘)化学実験	長谷川直紀（理科専攻３年）	６４番教室	小学校４年～中学生	２０名	３００円　汚れてもいい服装で
6	君も紙づくり名人（牛乳パックからはがきを作ろう）	佐々木美恵（家庭専攻３年）	５１番教室	小学校４年～	１５名	４００円　新聞三日分、タオル
7	親子でサッカー	柳沢　勇志（数学専攻４年）	グラウンド（雨天時体育館）	小学生（親子でご参加ください）	３０名	運動のできる服装で（靴はスパイクでなくても可。雨天時は体育館でやるので、体育館シューズも）（あればサッカーボール）
8	とびだす紙しばい	桐山　　潤（国語専攻３年）	６３番教室	小学校１年～	１０名	はさみ、のり、色えんぴつ
9	ドラム・パーカッション入門	奥井　一良（理科専攻１年） 小林　理英（家庭専攻４年）	５５番教室	小学校４年～	５名	３００円　ぞうきん
10	宇宙生物スラスラスライム	田淵　久晃（理科専攻１年） 安喰　和之（理科専攻３年）	５６番教室	小学生	３０名	２００円　汚れてもよい服装で
11	ペーパーグライダーを飛ばそう	中村　典史（社会専攻３年）	５３番教室	小学校３年～	２０名	カッター、はさみ、セメダイン、色えんぴつ、新聞紙一日分
12	地図で旅行しよう ～松本駅からの旅立ち'96 秋	登坂　武人（社会専攻２年） 小宮山　博（社会専攻２年）	７１番教室	小学生	１５名	地図帳、時刻表（全国版。古くても可）（これらは、ない場合はこちらで用意いたします）、計算機、筆記用具
13	おどってあそぼ！１(ワン)・２(ツー)・ダンス	中村　愛（障害児教育２年） 尾島久美（障害児教育２年）	体育館	園児～小学校４年	３０名	１００円　はさみ、体育館シューズ、動きやすい服装で
14	ペットボトルロケット	松下　貴晴（数学専攻１年） 今井　健文（理科専攻４年）	６４番教室	小学校４年～	１０名	カッター、はさみ、ホッチキス、炭酸飲料ペットボトル１本
15	続・教育学部ってどんなところ　Part Ⅲ	片桐　　宏（大学院　１年）	６１番教室	高校生～一般成人	３０名	希望学科、聞きたいことを記入して申し込んで下さい

◎教材費のほかに、参加費として別途１００円（傷害保険料込み）が必要になります。当日の受け付け時にお支払い願います。

《開講時間》

１３：００集合　１３：３０～１５：３０　１６：００解散

《受講申し込み方法》

往復はがきの往信に、参加希望講座、参加者のお名前（ふりがな）、学校名、学年、住所、電話番号を明記し、返信の表に自分の住所とお名前を明記して、下記の宛先まで、参加者お一人につき、一通お送りください。なお、〆切は１０月５日（土）必着とさせていただきます。お申し込みが遅れますと、希望の講座に入れないことがありますので、お申し込みはお早めにお願いします。

宛先　〒３８０
長野市西長野６－ロ
信州大学教育学部附属教育実践センター
信大ＹＯＵ遊サタデー　係

《注意事項》

・信大内の駐車場は使えませんので、お車でお越しの際は北門周辺の有料駐車場などをお使い下さい。バスでお越しの際は、松本駅前ターミナル発「信大経由浅間温泉行き」乗車、「信大西門」下車正面です。
・当日は遅れないようにお越しください。
・雨天決行ですが、一部の講座で使用教室（場所）等が変更になります。

お問い合わせは実践センター、土井教宮まで
TEL/FAX　０２６－２３７－６１２７
（電話でのお申し込みは受け付けておりませんので、左記の要領でお申し込み下さい）

（2）第三期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の特徴と今後の展望

土井　進（附属教育実践研究指導センター）

３年目のＹＯＵ遊サタデーの特徴と今後の展望について、以下の５点にわたって述べ、最後にこれまでに実施された10回分の参加者数を表にして示したいと思う。

１．女性実行委員長のリーダーシップによる全員参加型の運営

学生の全く自由な意思による、自発的な教育実践の場として運営されている、「信大ＹＯＵ遊サタデー」を持続していく上で最大の課題は、如何にして後継のリーダーを見つけ、育てていくかということである。第二期も後半にさしかかる頃から、先輩たちの間では第三期を引き継いでくれそうな人が全く見当たらない、という悲観論がささやかれるようになった。しかし、来年のことは来年の人たちが考えることであるから、たとえ第二期でＹＯＵ遊サタデーが終わることになったとしても、それはそれでいいではないか。今の我々にできる精一杯の努力をして、今年を充実させることに専念しようと励まし合った。

こうして、未来展望のないまま平成８年の正月を迎えたのであったが、学生たちが正月帰省から長野キャンパスに戻って来るや異変が起こり始めた。すなわち、ＹＯＵ遊サタデーがなくなってしまうことはとても残念だ。終わらせるわけには行かないと、ＹＯＵサタの将来を心配してくれる学生が、一人また一人と現れるようになった。このような学生たちの間から実行委員長の立候補者が２人も現れた。このため立ち会い演説会を開き、投票の結果女性実行委員長の誕生となった。

彼女は、これまでの２年間の運営を側面から見てきて、執行部の学生たちだけが忙しい思いをしているのではなく、スタッフをつとめてくれる学生たちにもオープンに様々な仕事を担当してもらい、全員参加の運営によって苦楽をともにするＹＯＵサタを作ろうよ！と情熱を込めて訴えた。この開放性と平等性を基本とする全員参加型の考え方が圧倒的な支持を受けた。

この考え方は、女性のもつ細やかな気配りから生まれてきた発想であったと思われるが、これが具体的な作業の場面で実に大きな力となって発揮された。男子学生が女子学生にモノを言ったのではとても受け入れてもらえそうにないことも、明るい女性の声一つで女子学生が一致団結するだけでなく、男子学生も大いに本来のパワーを発揮したのである。

信大教育学部は女子学生が６割以上を占めている。やがて我が国の教育界も女性教師の細やかな気配りと深い教育愛、そして不屈の忍耐によって一歩一歩教育改革を成し遂げていく以外に道はない、と私は思っている。

２．「信大ＹＯＵ遊サタデー」と授業科目「教育参加」の両立

今日のさまざまな教育問題は、教師の資質や実践的指導力の欠如と深く関わっていることが指摘されている。そのため教員養成学部においては、学生の実践的指導力の基礎を培うためのカリキュラム開発を行うことが重要な課題となっている。この課題に立ち向かうためには、学生にとって教育実習だけが子どもたちと触れ合うことのできる唯一のカリキュラムとなっている現状を改革し、今後、学校教育現場における教育実習のみを実践的指

導力養成の場として捉えるのではなく、広くさまざまな教育機関での豊かな教育経験もカリキュラムに取り込んでいくことができる新しい授業の枠組みが必要となってくる。

このような現状認識と将来展望に立って、信州大学教育学部では、専門系科目の中に「教科に関する科目」「教職に関する科目」「卒業研究」と並ぶ新しい枠組みを設定することになった。そして、その新しい枠組みを平成７年度から「臨床経験」と名づけることになった。

平成７年度の臨床経験の授業科目としては、３年次に実施されている「教育実習」と「教育実習事前・事後指導」が自動的に位置づけられた。これらに加えて、教育学部としての４年一貫カリキュラムを充実するために、平成８年度から１年次に臨床経験の授業科目を新設することについて教授会で検討されるようになった。こうした教育養成カリキュラムの改革という時代の要請の中から誕生したのが「教育参加」（１単位、教育実習と同様に必修）であった。

ＹＯＵ遊サタデーのキーワードである「遊び」や「ふれあい」、そして「体験」をそのまま授業の柱とした「教育参加」のシラバスが、教授会において承認されたのは、２年間に亘る「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実践の成果が評価されたからであると考えられる。「教育参加」のシラバスには、１年生もＹＯＵ遊サタデーに参加することが盛り込まれていた。授業の単位とは無関係に進められてきたＹＯＵ遊サタデーを、敢えて必修科目の中に取り込んだのは、１年生もお兄さん、お姉さんの立場で思う存分子どもたちと関わる体験をすることができるようなシラバスでなかったら、とても教職をめざして入学してきた学生たちのニーズに応えるものにはならないと思われたからである。

しかし、ＹＯＵ遊サタデーを授業科目の一部に取り入れることは、本来、学生の自由意思で実践され、単位もお金もいらないという基本的精神に抵触することになった。この点について学生たちと私の間で苦渋に満ちた議論が戦わされた。長い話し合いの末、「信大ＹＯＵ遊サタデー」はあくまでも実行委員の学生たちの自主的な活動として実践していく。その活動に１年生の希望者を受け入れていくことは、１年生にとっては授業という位置づけになるが、それはあくまでも「教育参加」の一部分に過ぎないので問題にはならない。このような理解のもとに「信大ＹＯＵ遊サタデー」と「教育参加」の両立をめざす方針がうち立てられた。この方針に基づき１年生との関わりを全面的に担当し、結果的に143名という多くの１年生をリードしてくれたのは、実行委員の学生たちであった。夏休み中に松本キャンパスの１年生に何度も何度も電話をしたり、松本キャンパスで行われている「教育参加」の授業に一緒に参加して直接１年生に説明するなど、真剣に取り組んでくれたのである。私は心から感謝している。

３．ＹＯＵ遊サタデーの理論構築の場としての「教育実践学演習」

学生は一般には暇があると思われている。しかし、教員養成学部に学ぶ学生はピアノの練習あり、水泳、スキーの練習あり、専門教科の学問はもとより、学業を支えるアルバイトと実に忙しい毎日を過ごしている。ＹＯＵ遊サタデーに参加したいという学生たちが集まれる場も、わずかに１週間に１度、昼休みの12時40分から13時までの20分だけである。これまで３年間やってきてみて、この20分でやりくりできないことはやれないということ

がわかった。この20分も30～50人がそろっての会合であるから、正味は10分～15分である。この時間を積み上げて約100名の学生が約300名の子どもたちと関わるプログラムを作り出さなければならないのである。人に集まってもらうためには、その前に資料を用意し段取りを決めておかなければならない。これを行う時間を放課後に作り出すことはできないことが経験的に明らかになった。

そこで平成７年度から通年の「教育実践学演習」（２単位）の授業を木曜日の１コマ目に開講し、ＹＯＵ遊サタデーの実行委員をやってみたい学生には是非とも受講するように勧めてきた。この授業において教育実践の哲学を探究し理論構築を行ってきた。

科　目	共通専門教育科目	授業科目	教育実践研究		教　官　名
授業題目 (英文名)	教育実践学演習 Seminar in Teaching Practice				土井　進
授業番号		開設学期	通年	対象学生	２・３・４年生

１．授業のねらい
応用教育実習としての意義を有する「信大ＹＯＵ遊サタデー」を企画、運営することによって、実践的指導力の向上を図る。

２．授業の内容
受講学生の話し合いを通して、「信大ＹＯＵ遊サタデー」の原案を企画し、実行委員会において決定された方針に基づいて運営する。

３．履修上の注意
「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実行委員として活動したいと思う学生。

４．授業計画
「信大ＹＯＵ遊サタデー」の意義、ねらいについての討議。物つくり講座、交流体験講座、料理講座、運動講座、科学実験講座などを開講するキャプテン、スタッフの学生募集。講座一覧表の作成。マスコミ各社を通じての報道。参加者の募集。遊学プラン（指導案）の作成、検討。予備実験、試作品づくり。参加者への「ゆうゆうカード」の返送。参加者の名札の作成。開会式、閉会式の運営。実践記録の執筆、製本。

５．課題及び成績評価
100名近い学生、ならびに300名近い子どもたちの活動を安全に運営するためにはどうすればよいか、を考えて実践することが求められる。

教科書		参考文献	『信大ＹＯＵ遊サタデーの実践』

４．21世紀への展望－「遊び隊」の出前－

長野県には17市36町67村、合わせて120の市町村がある。信大教育学部に学ぶ学生の約４割はここを故郷としている。それ以外の約６割の学生は北海道から沖縄まで、全国から集って来ている。まさに全国区の教員養成学部となっている。また、中国をはじめとする諸外国からの留学生も学んでいる。「古来山河の秀でたる国は偉人のあるならい」と詠われた信州の地より、教育、文化面に活躍する人物が現れたことは周知の通りである。

今、我が国においては、2003年に学校週五日制を完全実施し、「学校」と「家庭」と「地域社会」の連携による新たな教育の枠組みを作り出す教育改革が推し進められている。人間形成の本来の姿に立ち戻るべく「学校」をスリム化して「家庭」や「地域社会」と連携して、次代を担う子どもたちの人間形成に当たろうとしているのであるが、一歩「家庭」や「地域社会」に目を転ずるとき、そこにはかつての「家庭」や「地域社会」が有していた豊かな教育力は失われつつある。村で働く青年の姿は少なく、子どもたちが寺社の境内

や田んぼで遊んでいる姿はほとんど見られなくなった。

信大教育学部を卒業してめでたく就職した「学校」において、青年教師たちは「家庭」や「地域社会」のおかれている厳しい現実に直面することになる。したがって、学生時代から「地域社会」の舞台で力量形成を図ることは、教育への広い視野を培うことになる。「学校」と「家庭」と「地域社会」を結ぶ上で、教師の果たす役割は大きい。その資質を学生時代に培っておくことは有意義なことと言わなければならない。

「大学内を見学させていただけることも意義がありますが、外へ出張していただけたら嬉しいです。例えば育成会や子ども会からの依頼に応えていただく等。是非お願いします。」「準備などが大変とは思いますが、いろいろな小学校や中学校の体育館や調理室など外に出てやっていただいても楽しいし、多くの人が参加できると思います。」

これは平成7年5月の第4回信大ＹＯＵ遊サタデーに参加した母親から郵送されてきたアンケートに書かれていたものである。「家庭」や「地域社会」は、今、活力にあふれた学生パワーを求めている。120市町村を故郷とする学生と長野県以外の学生が「遊び隊」チームをつくって、それぞれの市町村から要請があれば夏休みなどに出前のＹＯＵ遊サタデーを実践することも検討していきたいものである。また、国立信州高遠少年自然の家や松本青年の家、松川青年の家、望月少年自然の家、小諸青年の家、須坂青年の家、阿南少年自然の家で行われる教育活動にも希望する学生が参加させていただき、子どもたちとふれあいながら学ぶことも検討していきたいものである。

さらに、教育実習を修了した4年生のうち希望者が、附属長野小学校、中学校、養護学校の教育活動に先生方のアシスタントとして参加し、児童・生徒とふれあう取り組みを平成9年4月から実施することになった。

これらのさまざまな体験活動を学生時代に経験することによって実践的指導力の基礎を培い、やがて学校に勤めても即戦力となって活躍できるような頼もしい教員を輩出できる信大教育学部でありたいと思う。

5．教職への厳しい道を切り拓く

信大教育学部の教員就職率は、平成6年度卒業生54.3%、平成7年度卒業生57.8%（全国第4位）となっており、平成8年度のデータはまだ示されていない。「信大ＹＯＵ遊サタデー」は平成6年度から始まったが、これまでにＹＯＵサタに関わった学生は、大学院進学者と2～3人の民間企業就職者を除いて、ほとんどが教職に就いている。この結果からもＹＯＵサタを担っている学生の教職への強い志と、自己の力量形成への真摯な願いを看守することができるのである。

ＹＯＵサタの目的の一つに「学生生活の充実」が掲げられているが、ＹＯＵサタでの苦楽を共にした切磋琢磨が学生の力量形成つながっているものと思われる。このような学生同士の深いつき合いと真剣な研鑽の輪がさらに一層発展することを願っている。

教員養成学部はこれから厳しい冬の時代を迎えるといわれている。たとえどんなに厳しい試練がやってこようとも、子どもがいる限り先生は絶対に必要なのである。問題は如何にして本当に必要とされる教師となっていくか、その力量を研鑽するかということではなかろうか。

6．「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実施日時

第１回　平成６年　９月１０日（第２土曜日）　８：５０～１５：４０（長野）
第２回　平成６年１０月　８日（第２土曜日）　８：５０～１５：４０（長野）
第３回　平成６年１１月１２日（第２土曜日）　９：１０～１５：２０（長野）
第４回　平成７年　５月２７日（第４土曜日）　９：００～１５：３０（長野）
第５回　平成７年　９月　９日（第２土曜日）　９：００～１２：００（長野）
第６回　平成７年１０月１４日（第２土曜日）　９：００～１５：３０（長野）
第７回　平成７年１０月２８日（第４土曜日）１２：３０～１６：００（松本）
第８回　平成８年　５月２５日（第４土曜日）　９：００～１５：３０（長野）
第９回　平成８年　９月１４日（第２土曜日）　９：００～１５：３０（長野）
第10回　平成８年１０月１２日（第２土曜日）１３：００～１６：００（松本）

7．学年別参加者数と指導に当たった学生数

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	合計
幼稚園	2	5	4	19	10	28	23	29	27	35	182
小学校1年	7	35	35	39	21	36	22	21	15	22	253
2年	6	44	47	33	23	34	27	31	26	27	298
3年	6	32	27	53	19	37	12	40	29	22	277
4年	22	42	74	30	17	20	11	23	18	24	260
5年	8	27	38	82	23	38	19	28	44	12	319
6年	4	20	16	17	6	9	3	21	15	4	115
中学生	0	4	0	7	5	13	1	7	3	1	41
高校生	0	1	20	10	0	37	2	25	0	0	95
一般成人	2	3	13	10	17	55	3	105	38	8	254
合計	57	213	274	300	141	307	123	330	215	155	2115
学生	26	51	75	72	78	100	65	90	107	199	863
(ｷｬﾌﾟﾃﾝ)	(11)	(20)	(16)	(14)	(12)	(24)	(18)	(24)	(27)	(23)	189
(ｽﾀｯﾌ)	(15)	(31)	(59)	(58)	(66)	(76)	(47)	(66)	(80)	(176	674
外部教官	0	0	0	1	2	5	1	4	3	0	13
地域社会人	0	0	0	6	0	4	1	6	2	0	19
開設講座数	9	15	17	18	11	22	15	16	22	16	161

（３）キャプテン・スタッフ組織一覧

第８回信大ＹＯＵ遊サタデー

【実施日時】　平成8年5月２５日（第４土曜日）

【参加者数・キャプテン・スタッフ組織】

No	講　座	人数	キャプテン	アシスタント・スタッフ
1	シャボン玉	２１	宮本愛（音３）	清水あかね（数４）岡田和泉・池田淳子・酒井美千代・早川史恵・小熊奈穂・中川啓（音３）福田香織（教２）
2	籐かご作り	２２	檜山いづみ（理４）	泉貴子（音４）山口美咲（心４）佐々木美恵・土屋淳子（家３）築谷清生（音２）
3	イラスト・漫画体験	8	山谷早苗（幼４）黒沢祐子（幼４）中島真由美(幼４）	唐木紫織・森下房枝（家２）
4	しおり作り	8	野本聡（理４）	小林裕子・辻井大作（理４）田中新吾（美３）赤間美佳（障３）
5	ﾍﾟｰﾊﾟｰｸﾗｲﾀﾞｰ	１８	中村典史（社３）丹羽則之（社４）	中村愛・早武まき子（障２）芦田英央（社３）
6	刃物研ぎ	2	斉藤かおる(家４）	島田裕子（家４）
7	おやつパラダイス	２３	小林理英（家４）	工藤晴佳・内藤小有里・堀内文恵（家４）伊藤未佳・長田ひろみ・酒井由香里(家３）吉沢麻依子（国２）
8	カンカンアイスクリーム	１３	加納文香（家４）	加藤恭子（家４）石垣理香・水野僚子・森清花（教２）赤間美佳・尾島久美・本間紀子（障２）
9	スラスラスライム	３２	千葉綾子（理３）	阿部理恵・中島亮太（教２）今井健文（理４）安喰和之・長谷川直紀・宮沢元・桃沢啓（理３）
10	化学実験	6	安喰和之（理３）長谷川直紀(理３）宮沢元（理３）桃沢啓（理３）	髙橋貴子（理４）成田英直・千葉綾子（理３）
11	教育学部	２６	片桐宏（院１）	
12	ビーズ玉	7	美斉津礼奈(数３）	寺越崇征・吉岡真由子（数３）斉藤聖子・増田紀子（家２）
13	いじめフォーラム		木戸口あい(院１）渡辺一博（英４）北島茂樹（数３）	吉越優子（幼４）寺田慶子（英４）小池祐介（教３）井手窪孝子（家３）
14	お父さんもキャプテンだ！	3	渡辺隆一(助教授）土井進（助教授）竹下雅道（数３）	常盤井・寺嶋・平林（数２）
15	小麦粉粘土	5	坂本真哉（院１）	堀太一郎（英３）
16	ガリガリ竹とんぼ	２１	吉澤嘉寿（何でも手作り吉澤学校主宰）丸山和利（理４）	柳沢勇志（数４）藤沢貴子・森川優子・島谷有紀（社２）小木曽雄亮（数２）長畦明人（内地留学生）

【第８回ＹＯＵ遊サタデー本部スタッフ一覧表】

	午前	午後
スタッフ長	高橋貴子（理４）	丸山和利（理４）
副スタッフ長	今井健文（理４） 野本聡（理４）	加納文香（家４） 今井健文（理４）
受付係	○吉越優子（幼４）千葉綾子（理３） ２．佐々木美恵（家３） 森下房枝（家２） ３．唐木紫織（家２） ５．中村愛（障２） ７．長田ひろみ（家３） ８．水野僚子（教２） ９．阿部利恵（教２） 島谷有紀（社２） 12．吉岡真由子（数３） 14．早武まき子（障２） 15．尾島久美（障２） 16．藤沢貴子（社２）	○檜山いづみ（理４） 千葉綾子（理３） １．岡田和泉（音３） ４．小林裕子（理４） ６．山口美咲（心４） 10．森川優子（社２） 11．築谷静生（音２）
駐車係	○今井健文（理４） 野本聡（理４）長谷川直紀・宮沢元・ 桃沢啓（理３）中村典史（社３） 竹下雅道（数３）田中新吾（美３） 小木曽雄亮（数２）	○今井健文（理４） 竹下雅道（数３）田中新吾（美３） 堀太一郎（英３）中島亮太（教２） 小木曽雄亮（数２）
開閉会式係 （図書館２階への案内も含む）	○小林理英（家４） 清水あかね・柳沢勇志（数４） 加藤恭子（家４）土屋淳子（家３） 泉貴子（音４）黒沢祐子・中島真由美・ 山谷早苗（幼４）堀太一郎（英３） 赤間美佳・本間紀子（障２） 片桐宏（院１）	○小林理英（家４） 清水あかね・柳沢勇志（数４） 加藤恭子（家４）山谷早苗・ 黒沢祐子・中島真由美（幼４） 泉貴子（音４）堀太一郎（英３） 赤間美佳・本間紀子（障２） 片桐宏（院１）
Cooking隊	○斎藤かおる（家４） 工藤晴佳・内藤小有里・堀内文恵（家４） 長田ひろみ・伊藤美佳・酒井由香里（家３）吉沢麻衣子（国２）	
写真記録係	○林康成（理４） 臣川元寛（障４）	○林康成（理４） 臣川元寛（障４）坂本真哉（院１）
前日設営係	○加納文香（全体） 看板：丸山和利（理４）,テント：野本聡（理４）,図書館：今井健文（理４） 各講座の準備‥‥キャプテンを中心に	
備品管理係	○安喰和之（理３）	

○印‥‥係長または隊長

第９回ＹＯＵ遊サタデー
【実施日時】　平成８年　９月１４日（第２土曜日）

【キャプテン・スタッフ名簿】

No	講座	キャプテン	アシスタントスタッフ
1	籐かご作り	檜山いづみ（理４）	柳沢勇志（数４）山口美咲（心４）梶谷祐介（技３） 酒井由佳里（家３）澤田奈奈（理２）
2	イラスト ・漫画体験	山谷早苗（幼４） 黒沢祐子（幼４） 中島真由美（幼４）	増田紀子・斉藤聖子（家２）登坂武人（社２）
3	小麦粉粘土	坂本真哉（院１） 堀太一郎（英３）	唐木紫織・森下房枝（家２）
4	教育学部	休講	
5	ネイチャー ゲーム	小池祐介（実３）	樫山兼造・藤沢淳子（人文４）
6	紙づくり	佐々木美恵（家３）	土屋淳子（家３）小木曽雄亮（数２）青山朋美（理２）
7	うちわで書	塩苅有紀（国４）	雨宮志保・佐藤雅子・高野明子・村田道代 ・倉島　慈（国4）大蔵　麗（国３）村田恵・中井和弘 ・羽生智子・竹澤志真（国２）鈴木俊史
8	シャボン玉	臣川元寛（障４）	市川明貴・金井弘子（理２）赤間美佳・尾島久美 ・中村　愛・早武まき子・本間紀子（障２）
9	源氏物語	清水由美（国３） 滝沢貞夫（教授）	桐山　潤（国3）
10	算数・数学	相沢大司郎（数４） 吉田　稔（助教授）	浅沼康理（数３）奥川礼子（理３）平林　徹（数２）
11	化学実験	長谷川直紀（理３）	桃澤　啓（理３）
12	英語で クッキング	渡辺一博（英４）	長畦明人（研究生）浦野研（院２）佐々木栄子（院１） 橋詰並子・中村たみ子（英４）相場　真（技３） 酒井由佳里・寺町知江子（家３）
13	絵本作ろう	池上永利子（国３）	木内理映子・中村栄司（国３）宮本郁子（美３）
14	家庭教育 フォーラム	長島多賀子（幼４） 知野真里子（家４） 土井　進（助教授）	
15	教育学	林　向達 （名大院１）	
16	びっくり カード	芦田　恵（数４） 清水あかね（数４）	井上千晶・寺嶋宏江（数２）
17	おはじき	秋山　薫（心３） 竹田みどり（心３）	井手窪孝子（家３）中森由美子（数２）
18	紙しばい	桐山　潤（国３）	藤沢貴子・島谷有紀（社２）
19	スライム	宮沢　元（理３）	千葉綾子（理３）吉澤麻衣子（国２）築谷清生（音２） 伊藤冬樹・下條陽子・下村晴彦・渡辺祐一 ・小市有希（理２）
20	刃物研ぎ	休講	
21	万華鏡	今井健文（理４）	工藤晴佳・内藤小有里・堀内文恵（家４） 松井美栄（数２）

【第９回ＹＯＵ遊サタデー本部スタッフ一覧表】

	午前	午後
スタッフ長	高橋貴子（理４）	高橋貴子（理４）
副スタッフ長	吉越優子（幼４） 丸山和利（理４）	吉越優子（幼４） 渡辺一博（英４）
受付係	○檜山いづみ（理４） ２．黒沢祐子（幼４） 増田紀子（家２） ３．唐木紫織（家２） ６．寺嶋宏江（数２） ７．森下房枝（家２） ８．本間紀子（障２） 赤間美佳（障２） １０．平林　徹（数２） １２．佐々木栄子（院１） １５．早武まき子（障２） １６．中村　愛（障２） １７．井手窪孝子（家３） １８．中森由美子（数２） １９．千葉綾子（理３）	○檜山いづみ（理４） １．山口美咲（心４） ５．赤間美佳（障２） ９．本間紀子（障２） １１．尾島久美（障２） １３．中村たみ子（英４） １４．知野真里子（家４） ２１．松井美栄（数２）
駐車・誘導係	○今井健文（理４） 堀太一郎（英３）相場　真（技３） 小木曽雄亮（数２）	○丸山和利（理４） 野本　聡（理４）相沢大司郎（数４） 相場　真（技３）小木曽雄亮（数２）
開閉会式係（図書館２階への案内も含む）	○小林理英（家４） 清水あかね・柳沢勇志（数４） 中島真由美・山谷早苗（幼４） 奥川礼子（理３）築谷清生（音２） 藤沢貴子・島谷有紀（社２） 吉澤麻衣子（国２）井上千晶（数２）	○小林理英（家４） 清水あかね・柳沢勇志（数４） 中島真由美・山谷早苗（幼４） 奥川礼子（理３）築谷清生（音２） 藤沢貴子・島谷有紀（社２） 吉澤麻衣子（国２）井上千晶（数２）
Cooking 隊	○斉藤かおる（家４） 工藤晴佳・内藤小有里・堀内文恵（家４）酒井由佳里・佐々木美恵・土屋淳子（家３）	
写真・記録係	○野本　聡（理４） 柳沢勇志（数４） 小宮山博・今吉昌史（社２）	○野本　聡（理４） 坂本真哉（院１） 小宮山博・今吉昌史（社２）
前日設営係（代表者）	○加納文香（家４） 看板：丸山和利（理４）　　テント：野本　聡（理４） 図書館：今井健文（理４） 講座準備：各キャプテン	
備品係	安喰和之・宮沢　元（理３）	

第１０回ＹＯＵ遊サタデー
【実施日時】　平成８年１０月１２日（第２土曜日）

【キャプテン・スタッフ名簿】

No	講座	キャプテン	アシスタントスタッフ
1	籐かご作り	檜山いづみ（理４）	泉　貴子（音４）矢野昌子（社３）奥川礼子（理３）
2	イラスト ・漫画体験	山谷　早苗（幼４） 黒沢　祐子（幼４） 中島真由美（幼４）	
3	小麦粉粘土	坂本　真哉（院１） 小海　到（医学６）	築谷清生（音２）森下房枝・唐木紫織（家２）
4	シャボン玉	宮本　　愛（音３）	赤羽恵子（国３）岡田和泉・早川史恵・中川　啓（音３）
5	化学実験	長谷川直紀（理３）	
6	紙づくり	佐々木美恵（家３）	竹下雅道（数３）酒井由佳里（家３）大島智子（音２）
7	サッカー	柳沢　勇志（数４）	宮沢　元（理３）斉藤哲也（実３） 小木曽雄亮（数２）
8	紙しばい	桐山　　潤（国３）	斉藤聖子・増田紀子・山田尚美（家２）
9	ドラム	奥井　一良（理１） 小林　理英（家４）	
10	スライム	田淵　久晃（理１） 安喰　和之（理３）	
11	グライダー	中村　典史（社３）	芦田英央（社３）平林　徹（数２）
12	地図で旅行	登坂　武人（社２） 小宮山　博（社２）	丸山和利（理４）赤間美佳（障２）
13	ダンス	中村　　愛（障２） 尾島　久美（障２）	島谷有紀・藤沢貴子（社２）水野僚子（実２） 本間紀子（障２）
14	ペットボト ルロケット	松下　貴晴（数１） 今井　健文（理４）	伊藤未佳（家３）
15	教育学部	片桐　　宏（院１）	

第１０回ＹＯＵ遊サタデー
【実施日時】　平成８年１０月１２日（第２土曜日）

【１年生スタッフ一覧表】

No	講座	キャプテン	１年生スタッフ
1	籐かご作り	檜山いづみ（理４）	北澤香織・薄田麻千子・山崎織恵（社）鈴木崇晃・高橋慶（理）小口恭子・田口美千代（音）加藤隆之（美）小林円・宮田美緒（体）岸本香里（家）矢野令子（実）・塚脇瑞恵・原田あきを（心）白畑陽子（障）
2	イラスト・漫画体験	山谷　早苗（幼４） 黒沢　祐子（幼４） 中島真由美（幼４）	大坪加奈子（数）堀内卓（社）渡部真裕（音）青松幸子（障）服部知子（幼）
3	小麦粉粘土	坂本　真哉（院１） 小海　到（医学６）	桐原さやか（社）加藤志保（美）渡邊和人（生）
4	シャボン玉	宮本　　愛（音３）	高木綾子・堀内美早（国）大島明子・本間涼子・吉田亜希子・鳥元美鈴（社）花岡佑美・土屋亜也（音）岡澤加奈恵（体）大松加織・吉越貴子（英）横打史雄・芦澤純・高木絵梨香・常井健司（生）
5	化学実験	長谷川直紀（理３）	庄司昭子・丹下亜衣・向原歩・山本恵子（社）桑原学・宮下直彦・山田大（理）山崎哲郎（美）平澤佳子・福島さや佳・吉田法子（心）行待範子・山田歩美（生）
6	紙づくり	佐々木美恵（家３）	下平昌美（家）後藤祐貴子・須山優子（実）大谷敏寛（心）児玉幸子・榊原知世・澁澤敬子・赤羽梢・永井あづさ（障）三谷由有子（幼）
7	サッカー	柳沢　勇志（数４）	井浦徹・徳原宏樹（体）福島章浩（技）安田亜琴子（家）中原賢一郎（幼）清井利香・鍬塚隆直・田畑亜貴子・山口恭史・山根慶彰（生）
8	紙しばい	桐山　　潤（国３）	松岡奈都子・武末裕子（美）泉　真・徳永吉彦（技）坂口明実・大同由美子・池田裕美（家）鎌倉香寿美・鎌倉麻衣・七尾郁子（幼）
9	ドラム	奥井　一良（理１） 小林　理英（家４）	佐々木崇雅・橋本哲（理）小林奈穂子・坪井郁恵・波間美咲（音）
10	スライム	田淵　久晃（理１） 安喰　和之（理３）	増澤るみ・村上久美子・柳沢知香子（国）大田英之（社）井出徹（理）二唐章子（音）近藤昭人（美）沢田直樹・宮原祐史・上杉丈夫・菅沼太郎（体）竹内泉（心）木下真里・塚本依子（幼）広部裕子・細萱美帆・山口直樹（生）
11	グライダー	中村　典史（社３）	石川毅（国）田代義人・熊崎啓文・高橋康弘（理）坂田暁子・竹野万希子（美）吉野有亮（技）黒田祐・永井将史（生）
12	地図で旅行	登坂　武人（社２） 小宮　山博（社２）	田中崇（社）金澤宏一郎（数）養田武・関口学（理）塩沢臣城・中村知宏（技）猿田知永・宮澤愛（家）
13	ダンス	中村　　愛（障２） 尾島　久美（障２）	菊池沙織・宗玲子・萩原麻友（心）岡部真美・平松由布子（際）奥田幸史（障）瀬在裕美・林加奈子・寳中菜穂・森藤香奈子・柳澤奈穂子（幼）
14	ペットボトルロケット	松下　貴晴（数１） 今井　健文（理４）	高久陽・正谷晴邦・峯村宏・矢澤幸子・山川喜寛・加藤誠一・関広美・松井良平・両角穂（数）
15	教育学部	片桐　　宏（院１）	福田留美・宮尾志保（社）山端一也（実）森田大智（生）

【第１０回ＹＯＵ遊サタデー本部スタッフ名簿】

係名	スタッフ
スタッフ長	渡辺一博（英４）
副スタッフ長	高橋貴子（理４）
受付係	○千葉綾子（理３） 檜山いづみ（理４） １．矢野晶子（社３） ２．唐木紫織（家２） ３．森下房枝（家２） ４．早川史恵（音３） ５．赤羽恵子（国３） ６．大島智子（音２） ７．築谷清生（音２） ８．斉藤聖子（家２） ９．増田紀子（家２） １０．山田尚美（家２） １１．芦田英央（社３） １２．水野僚子（実２） １３．島谷有紀（社２） １４．伊藤未佳（家３） １５．藤沢貴子（社２）
誘導係	○宮沢　元（理３） 丸山和利（理４）平林　徹(数２) ・小木曽雄亮（数２）
開閉会式係	○小林理英（家４） 泉　貴子（音４）竹下雅道（数３）奥川礼子（理３） 酒井由佳里（家３）赤間美佳・本間紀子（障２）
写真・記録係	○野本　聡（理４） 相沢大司郎（数４）成田英直(理３)
前日設営係（代表者）	加納文香（家４）高橋貴子（理４）
備品係	安喰和之（理３）

言葉にできない想いを込めて

～実行委員長の挨拶にかえて～

実行委員長　加納文香（家庭専攻４年）

はじめに

信大ＹＯＵ遊サタデーも今年で３年目となりました。有り難いことに、スタッフよりもＹＯＵ遊サタデーのベテランである子どもたちや保護者の方もいらっしゃるほど、地域の方にも愛され続けています。スタッフの人数も増え、ＹＯＵ遊サタデーの内部の環境もだいぶ変わってきました。また、長野冬期オリンピック開催も間近ということで信州大学を取り巻く環境もどんどん変わりました。

第二期実行委員長の渡辺一博さんは、第二期の実践記録において、先輩方に土台を作っていただき、自分たちはその上に柱を立てたと述べていました。今年は何を加えることができたのか、実践された活動を振り返りながら、ＹＯＵ遊サタデーでの体験を通して感じたことを言葉にしてみたいと思います。

「みんなで仕事をやろうＤＡＹＳ」

この小見出しは、ＹＯＵ遊サタデーのある活動名です。ＹＯＵ遊サタデーでは、一握りの人間だけで仕事をするのではなく、参加するスタッフ全員が、少しでも自分のできる仕事をしていくことが大切です。みんなが集まりやすいように特別な作業日を設けました。

スタッフたちは自分の都合にあわせ、自分のできる仕事を探して、自主的に動いてくれました。そして、作業をするだけでなく、異学年の仲間であってもお互いに名前を覚え、声をかけあい、スタッフ間の連帯を強めることができたのです。みんなで作り上げていくという雰囲気がこれまでになく高められました。

私は、学校教育においては教師同士のコミュニケーションが大変重要であると考えています。「三人寄れば文殊の知恵」とはよく言ったもので、ＹＯＵ遊サタデーでも、一人ではできないことがあっても、グループを作ってそれぞれの持ち味を出しあうことで、困難なことを乗り越えてきました。同じように私たちが旅立っていく学校現場においても、一人の力では解決できない問題を教師同士で助け合い解決できればと思います。

成せば成る～Where there is a will,there is a way.～

第９回のＹＯＵ遊サタデー開催時期には、オリンピックに向けての道路拡幅工事が始まってしまったため、校舎の一部が取り壊され、正面玄関も駐車場も使用できなくなりました。お借りするはずの教室もＹＯＵ遊サタデー当日には、水が全く使えなくないということが一週間前に学部から知らされました。八方塞がりとも思えましたが、「９月１４日にはＹＯＵ遊サタデーをやろう」という気持ちだけは絶えることはありませんでした。

その一念が通じたのか、８月に建ったばかりのペンキのにおいもまだ消えない新館をお借りすることができました。調理室に至っては、まだ学生も使ったことがないのに、主旨をご理解いただき使わせていただきました。当日は雨が降る確率が高いということでしたので、新館を汚してはならないと思い、毛布やタオルを集め足ふきマットとして新館中に敷きました。 また、門の閉鎖と駐車場の閉鎖によって生じる交通の混乱を防ぐためには、参加者のご家庭に自家用車の利用を出来るだけ避けていただくようにすることが何よりの

方法であるという結論に達しました。前々日の夕方、車での来場をご遠慮いただくよう一軒一軒に電話を入れ、協力をお願いしました。

準備万端で迎えた当日は好天に恵まれ、子どもたちはいつものように楽しんでくれました。心配であった車の誘導も駐車・誘導係の臨機応変な対応と、保護者の方々のご協力のおかげで、なんの事故もなく、滞りなく行うことができたのでした。ＹＯＵ遊サタデー常連のお母さま方からも、「こんなに大学のまわりが変わっているとは思わなかったので、電話連絡をいただいて大変助かった」というお言葉をいただき、万全な対策を講じておいてよかったと思いました。

今思えば、第９回は「中止になって当然」の状況でした。私たちは、目的を達成するために、方法をみいだし、道を開き、目的地に辿り着くことができたのです。目的と意欲があったからこそ方法をみいだすことができたのだと思います。

ＹＯＵ遊サタデーの双方向性

私たちが行ってきたことに関心を持って意見やお叱りの言葉を下さる方がいらっしゃるということは、大変有り難いことです。お褒めの言葉をいただければもちろんうれしいですが、批判がなければ成長もまたないのではないでしょうか。ＹＯＵ遊サタデーを、このような励ましや批判の言葉をバネにしてさらに発展させてほしいと思います。

そういった貴重なお言葉をいただくためにも、多くの人々にこの活動を知ってもらう必要があると思います。そのために、自分たちから情報を発信することを第三期では大切にしてきました。

情報を発信する一つの方法として「ＨＯＷ　ＴＯ　サタデー」という冊子を作りました。講座で扱った教材紹介を載せて子どもたちへのお土産としたのです。そのお土産は、参加した子どもの家族や友だちの目にも入り、ＹＯＵ遊サタデーでの活動を多くの人々に知っていただけたのではないかと思います。

一方でこのお土産には、その場限りでなくいつでもご利用頂ければという気持ちや、家族みんなで楽しむことができる活動を紹介することができればという願いも込められています。

これからもこの活動の情報を全国、いや世界中に発信し、耳を傾け、インターラクティブな関係を持つことができるＹＯＵ遊サタデーであってほしいと願っています。

ここに挙げたことは、私の乏しい表現力でなんとか表したＹＯＵ遊サタデーのほんの一面であります。心の中には、言葉でうまく表現することができない想いが募っています。言葉で伝えることができない自分を情けなく思いますが、このあとに続く様々な記録が、その想いを伝えてくれることと思います。

最後に、温かいご理解とご協力をいただいた学部の先生方、地域の皆様に心からお礼申し上げます。そして、至らぬ私を応援して下さったキャプテン・スタッフの皆様に厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

（５）人と人とのつながりの中で
～平成８年度第三期ＹＯＵ遊サタデー実行委員会報告

ＹＯＵ遊サタデー事務局　野本　聡（理科専攻　４年）

１．ＹＯＵ遊サタデー実行委員会発足の経緯

今期のＹＯＵ遊サタデーの実行委員は、第二期のＹＯＵ遊サタデー実践記録編集委員会が暫定的に移行するかたちで始まった。１月当初に実行委員長の選挙が行われ、加納文香さん（家庭専攻当時３年）と丸山和利君（理科専攻当時３年）の二人で委員長の座が争われた。投票の結果、加納さんが実行委員長となり、丸山君が副実行委員長となった。４月には、実行委員長以下の役員も決まり、本部の枠組みが出来上がった。今期の実行委員４役を、以下に示す。

実行委員長	加納　文香（家庭専攻　４年）
副実行委員長	丸山　和利（理科専攻　４年）
事務局長	小林　理英（家庭専攻　４年）
コンピュータ係長	野本　　聡（理科専攻　４年）

しかし、この役職は、必ずしも明確な分別がされているわけではない。皆が協力しながら、仕事を分担し、進めているのである。その中で今期から設けられたコンピュータ係長だけがやや特異な位置を占め、スタッフ名簿の管理や講座一覧表の作成、ホームページ作成など、コンピュータ関係の仕事が、最初から分担されている。

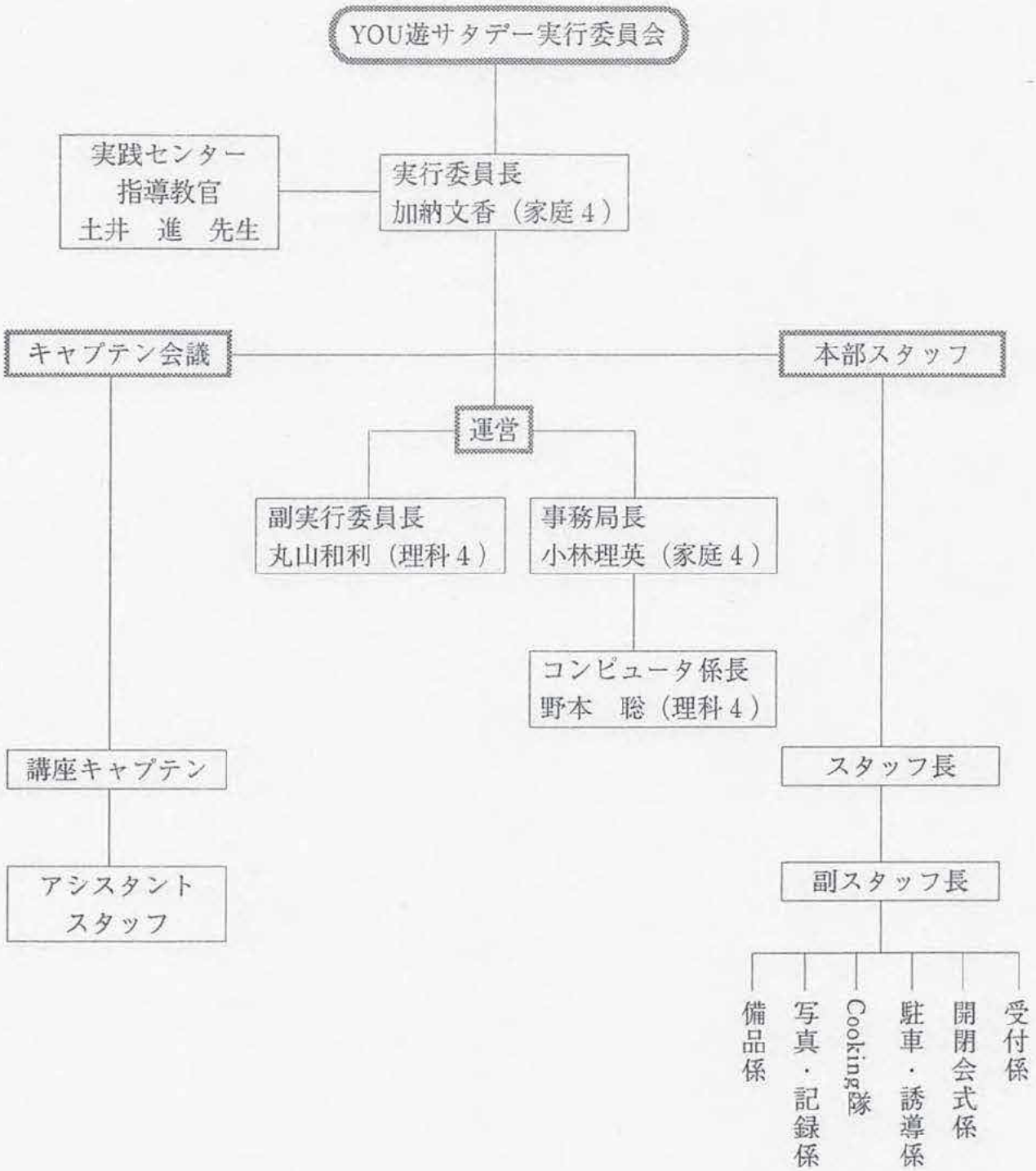
２．実行委員会の形態

ＹＯＵ遊サタデーの実行委員会は、毎週木曜日の昼休み、１２：４０からの２０分間におこなわれる。通常、これを「定例会」と呼んでおり、内容はＹＯＵ遊サタデー当日のスタッフの調整や、今後の仕事に日程の通知などである。また、ＹＯＵ遊サタデー当日が近くなると、キャプテンとスタッフの打ち合わせなどにも使われる。その時には、実践センターの会議室に入りきらないほどの人が集まることがあった。

このほかに、各キャプテン間で情報の交換や遊学プランの読み合わせをする「キャプテン会議」というのもがある。これは、ＹＯＵ遊サタデー当日の２週間ほど前、講義終了後の夕方におこなわれる。遊学プランの読み合わせをすることにより、プラン上の不備をなくしたり、講座をもっと有意義なものにしていくことができる。これは今井健文君（理科専攻４年）の提案によるものである。

この二つの委員会が主なものであるが、それらの委員会の内容を決定するのが、上に挙げた４人を中心にしたメンバーである。一つ大事なことは、全てをこの４人で決めているわけではないということである。この４人が意見のまとめ役をし、多くの人からの意見を取り入れながら、実行委員会は運営されているのである。

<第三期YOU遊サタデー実行委員会組織図>



3．実行委員会の記録

月／日	協議名	協　議　内　容
4／3	第1回実行委員会	(1)第8回ＹＯＵ遊サタデーの講座について ・開講する講座の決定と、講座の名前 ・講座紹介執筆願 (2)係の分担 ・第8回ＹＯＵ遊サタデーの係分担 ・新事務局長の決定 （小林理恵さんに決定） (3)諸連絡 ・教育実践学演習について
4／8	第2回実行委員会	(1)第8回ＹＯＵ遊サタデーについて ・講座紹介の提出 (2)諸連絡 ・教育実践学演習について ・ＦＭぜんこうじ出演について (3)はじめてきた人への説明 ・2年生が新たに参加
4／16	第1回キャプテン会議	(1)講座がそろったことの連絡 （この時点で14講座、後2講座追加あり） (2)スタッフ希望数調査
4／18	第3回実行委員会	(1)アシスタントスタッフの配置 ・スタッフ登録者中心に集まってもらって (2)希望する講座へ振り分け ・おおかた希望通りの人数がそろうが、一部でスタッフ不足、アシスタントスタッフとの簡単な打ち合わせ ・講座内容と予備実験の日時などの確認
4／24	第2回キャプテン会議	(1)遊学プラン検討会議 ・キャプテン間で遊学プランの検討 ・キャプテンの疑問点の相談

4／25	第4回実行委員会	(1)受付業務の協力要請 ・受付の方法の説明 (2)キャプテンへ連絡 ・開講時間、材料費などについて
5／9	第5回実行委員会	(1)受付業務の詳細について ・キャプテンへの協力要請 (2)アシスタントスタッフの割り振り ・アシスタントスタッフの調節 ・新規登録者の割り振り (3)「みんなでやろうＤＡＹＳ」について ・5月16、20、21日に決定したことの連絡
5／16	第6回実行委員会	(1)これからの日程 ・「みんなでやろうＤＡＹ」についての説明 ・ＹＯＵ遊サタデー当日の集合時間等確認 (2)キャプテン、スタッフとの連絡 ・スタッフの調節 ・予備実験などの日時を連絡
5／23	第7回実行委員会	(1)本部スタッフの仕事確認 ・各係ごとに仕事内容の確認 (2)講座の最終打ち合わせ
---------- 第8回ＹＯＵ遊サタデー（5月25日） ----------		
5／30	第8回実行委員会	(1)今後の日程について ・6月6日までに講座を出す ・夏休み中にみんなで集まる、1～2日か3日か4日 (2)実践記録の依頼 ・来ていたキャプテンに連絡
6／6	第9回実行委員会	(1)9月14日（第9回）、10月12日（第10回）の講座について ・講座の案を出す、十数講座の案がでる (2)今後の日程について

		・次回の実行委員会、及び夏休み中にやることの連絡
6／13	第10回実行委員会	(1)9月14日（第9回）、10月12日（第10回）の講座について ・キャプテン募集のお知らせ (2)夏休みの日程について ・7月17日16：30～集まることに決定
7／17	第11回実行委員会「みんなでやろうDAY」	(1)9月14日（第9回）、10月12日（第10回）の講座について ・キャプテンの決定
9／2	第12回実行委員会（臨時）	(1)一覧表配布 ・スタッフ希望アンケート (2)10月の講座開講案内 ・スタッフ希望アンケートと同時に希望調査、近日中に一時締め切り (3)今後の日程について (4)遊学プラン返却 (5)冊子作りについて (6)実践記録について （加納さん、小林さんはFMぜんこうじに出演中）
9／5	第13回実行委員会	(1)スタッフの確認 ・本部スタッフ、アシスタントスタッフの確認 ・当日の会場の状況について （工事により、車の進入駐車は不可、水道、ガス工事に伴い、水の使える場所が制限される） (2)キャプテン、スタッフの顔合わせ
9／9	第3回キャプテン会議	(1)使用教室の変更について ・水道管工事に伴い、新館以外の水が使えないので、教室を新館内に移動 ・教室使用に当たっての諸注意 （壁、床等を汚さない、片づけについて）

		(2)講座終了後の見送りについて
9／12	第14回実行委員会	(1)漆戸先生のお話 (2)当日の注意事項 ・会場の掃除について ・子どもたちたちの見送りについて (3)本部スタッフ打ち合わせ ・各係ごとに仕事の打ち合わせ
---------- 第9回ＹＯＵ遊サタデー（9月14日） ----------		
9／19	第15回実行委員会	(1)第10回の講座の募集 ・10月12日は松本、〆切は20日 (2)キャプテンへの説明、講座概要・紹介の依頼 ・15講座決定（20日現在）
9／26	第16回実行委員会	(1)今後の日程の確認 ・別紙日程表配布 (2)松本でのスタッフ希望調査及び交通手段確認（アンケート記入）
9／30	第4回キャプテン会議	(1)今後の日程の確認 ・ＹＯＵ遊カード記入等で、学校に来られる日の確認 (2)1年生スッタフの受け入れ人数の確認 ・12～3人はいることの了承 (3)必要な物品の請求 (4)困ったことはないか (5)松本の教室で、確認してほしいことはないか
10／7	第17回実行委員会	(1)講座スタッフ、本部スタッフ、1年生スタッフ名簿の配布 ・確認と訂正 (2)キャプテン、スタッフの顔合わせ ・講座ごとの話し合い ・今後の準備日程等

１０／９	第１８回実行委員会	(1)日程の確認 ・当日の朝の日程 (2)本部スタッフ打ち合わせ ・係長、スタッフも顔合わせ ・当日の打ち合わせ
１０／９	第５回キャプテン会議	(1)遊学プラン読み合わせ
---------- 第１０回ＹＯＵ遊サタデー（１０月９日） ----------		
１０／２２	第６回キャプテン会議	(1)第１０回及び、全体を通しての反省と、今後の課題
１／２２	第１回実践記録編集委員会	(1)編集委員会の発足 ・編集作業の日程と締切日 （２月１０日～２月２０日まで） ・編集の進め方
１／２９	第２回実践記録編集委員会	(1)写真の配布 (2)今後の日程

「ゆうサタ」に想いを馳せて

渡辺　一博　（英語専攻４年）

第３期「ＹＯＵ遊サタデー」も無事終わった。第１期から３期にわたる私の「ゆうサタ」もまもなく終わりを迎える。これまで「ゆうサタ」から学んできたことを基に、私なりに今期を振り返り、今後の課題と提案を述べてみたい。辛口の批評もひとえに今後の参考になればとの願いからである。どうかお許し頂きたい。

１．見えない失敗からのスタート

今期最初の開催（５月）は、誰の目にも大成功に見えた。しかしながら、気づかぬところに様々な危険もあった。第一に、本部スタッフ陣が手薄であったこと。たまたま「ゆうサタ」卒業生が穴を埋めてくれたからよかったようなものの、本来なら運営上パニックが起きていても不思議はなかった。第二に、閉会式の後子どもたちの見送りを忘れたことである。もし、校門の目の前で事故にでもあっていたら、と思うと「たかが見送り」とはいえない。第三に、教室や備品の後片づけの不徹底である。これは今後「ゆうサタ」が学部施設や備品を使用する際の制限や禁止につながりかねない。子どもの生命の安全や「ゆうサタ」の存続にも関わる基本的な部分で配慮に欠けていたことは否めない。

２．見事な転身

しかしながら、このことに気づいた執行部は安全と注意事項を徹底的に見直し、充分すぎるまでの運営シフトを確立した。土井教官は、今期は手取り足取りの指導はできなかったが、裏を返せば学生が自立してくれたということでもあると述べている。またなんと言っても「自分からやる」、「みんなでやる」という雰囲気が見事にできあがった。これも加納委員長の人柄と采配によるものであろう。また委員長を実務面、精神面で支えてきた多くの仲間たちの働きも忘れるわけにはいかない。

３．今後に望むこと

今後の「ゆうサタ」のさらなる発展のために特に以下の点について検討されたい。（１）話し合いの場を持つ、（２）「楽しい」を科学する、（３）自分なりの「ゆうサタ」を追究していく、の３点である。

（１）話し合いの場を持つ

学生同士、また教官方との話し合いは欠かせない。自分一人では見えていなかったものが見えてくるだろうし、多くのことを学ぶことができる。時には意見がぶつかりあったり、誤解が生まれたりすることもあるだろう。人にはそれぞれの立場や意見がある。しかし、少々大げさだが子どもたちの命を預かる以上本音で話し合うことも時には必要である。お互いに意見を交わし、理解しあい、納得のいく答えが見つかるまで話し合っていく中で知識を得、友情を育み、信頼しあえる関係を築いていければよいと思う。また教師論や人生観を語りあう親しい友ができることも「ゆうサタ」の醍醐味の一つであろう。

（２）「楽しい」を科学する

「楽しい」とはどういうことなのかもう一度考える必要があるのではないだろうか。活動そのものの楽しさ、知らなかったことを知る楽しさ、何かを成し遂げたときに得られる楽しさなど様々な「楽しさ」がありそうである。また「ゆうサタ」はただ「楽しい」だけでよいのだろうか。何が、どうして、どうすれば子どもたちにとって「楽しい」のかを見出すことは子ども理解、教材研究にもつながるだろう。

（３）自分なりの「ゆうサタ」を追究していく

「ゆうサタ」のとらえ方、関わる動機、スタンスは学生一人一人違う。とにかく子どもと接することができればいいという人もいれば、自分の研究の一環としたいという人もいるだろう。「安全に楽しく」という大原則が守られている限りそれもよいだろう。学術的であれ、と言いたいのではない。ただその気になればいくらでも教師としての力量を磨く場として「ゆうサタ」を活かしていけるということを言いたいのである。それぞれの「ゆうサタ」があってよい。また自分なりの「ゆうサタ」をしっかりと持ちながらも互いに影響し合い、よりよいものを追究していく姿勢も大切であると思う。

以上勝手な意見を述べさせていただいた。冒頭で私の「ゆうサタ」は終わると言ったが、ある意味ではこれからが本番なのかもしれない。「ゆうサタ」で得てきた力量と経験を教師として活かしていきたい。教員の卵として一回りも二回りも大きくしてくれた「ゆうサタ」と土井教官に心から感謝したい。

2．出会いと挑戦の記録
－第三期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実践－

注

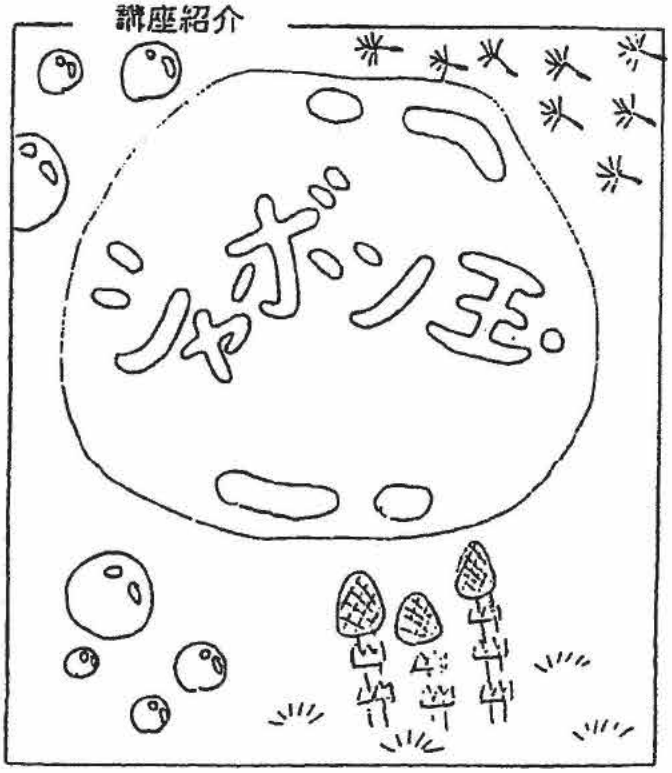
各実践記録は、第８回、９回、１０回と回ごとに載せてありますが、重複して行った講座で実践記録が１部のみ提出されている講座については、第１０回に寄せてあります。なお、新館とは、平成８年に完成した自然科学校舎のことです。

（１）第８回信大ＹＯＵ遊サタデー

No. 1

講座名
でっかいでっかいしゃぼん玉をつくろう!
～中に入れるかも!?～

講座紹介



No. 2

講座名
たのしく作ろう籐(とう)かご作り

講座紹介

自分の手で
かわいいかごを
作ってみませんか?

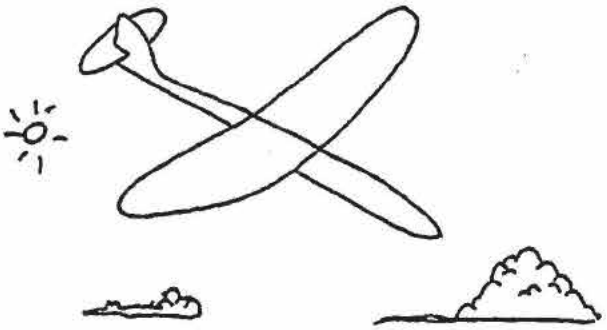
よく見かける、すてきなかわいい籐のかご
実はそんなに、作り方は難しくないのです。一緒にたのしくかごを作りましょう

材料費：300円
持ち物：タオル、洗面器
はさみ、メジャー
(あれば、目打ち、
平打ち、エンマペンチ)

No. 5

講座名
ペーパーグライダーを飛ばそう

講座紹介



画用紙を切りぬいてペーパーグライダーを作ろう。
うまく飛ばしたらギネスブックにものるらしいぞ!?

No. 6

講座名
何でも研(と)げちゃう! 刃物研ぎ

講座紹介

何でも研(と)げちゃう!

刃物研(と)ぎ

※研いだ後はこうなります。

- 砥石(といし)を使って刃物をピカピカにします。
- 砥石(といし)を3つ、組み合わせて刃物を研(と)ぎます。
- これであなたも刃物研(と)ぎ王!

No. 3

講座名
プロへの一歩!?イラスト・漫画体験

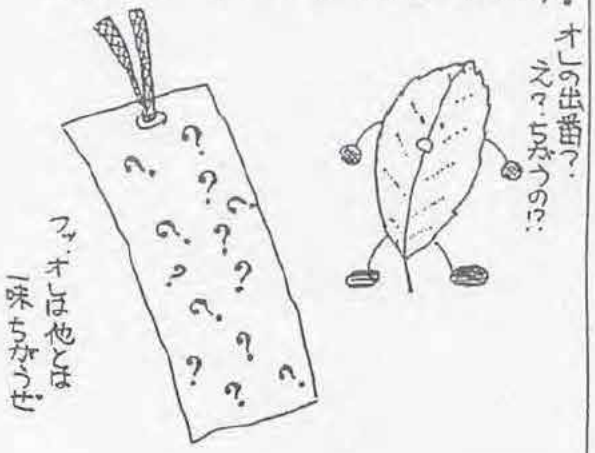
講座紹介

No. 4

講座名
不思議なしおり作り

講座紹介

え? おし葉でしおり?
いったい何のおし葉かな?
それは来てのおたのしみ。

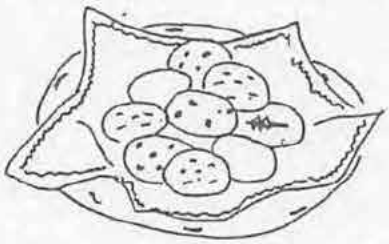


No. 7

講座名
おやつパラダイス
〜○○でクッキーを作っちゃおう〜

講座紹介

材料(ざいりょう)を まぜて まぜて



おいしいクッキーを作ろう

No. 8

講座名
カンカン アイスクリームをつくろう

講座紹介

みんなの だいすきな
アイスクリーム
を つくってみよう!!

No. 9

講座名
宇宙生物 スラスラスライム

講座紹介

宇宙生物

スラスラ

スライム

No.10

講座名 学校では教えてくれない
㊙ 化学実験

講座紹介

学校では
教えてくれない

秘

化学実験

No. 13

講座名
いじめフォーラム'96

講座紹介

いじめフォーラム

「いじめ」問題は
「学校(教師)」のせい? 「家庭」のせい?
それとも、いじられている「本人」のせい? 今、みんなで考えなくてはならない!! 涙とさよならするために!

"本音"で語り合いましょう。それぞれの立場で、思いをぶつけ合い、「いじめ」問題と真っ正面から向き合いましょう。共に手をとりながら…

■ 対象:「いじめ」と闘う人、現場の教員、専門家の方々をはじめ、「いじめ」問題に関心のあるすべての方々。

■ 当日は、学部教官や専門家の方々にも同席していただくことになっています。

■ 講演会ではなく、誰でも発言できる、フリートーク形式でおこないますので、どしどしご参加下さい。

〔主なプログラム〕

■ 第一部:全体討論会
〜いじめ、その現状・原因・とも問題点〜

■ 第二部:分科会
① 子ども・親・教師のためのカウンセリング(予定)について
② 学校・家庭・地域のあり方
③ 教師は何をすべきか
④ 「いじめ」による不登校児のために(予定)

No.14

講座名
お父さんもキャプテンだ!

講座紹介

高齢化社会 と 小子化社会

"ベーゴマまわし" "アウトドア"

を活性化するのは……

そうです。お父さんの出番です!

お父さん
おじいちゃん
お母さん
おばあちゃん

昔の楽しかった
あの遊びを、子ども
たちに伝えましょう。

あなたも、秋には YOUサタの
キャプテンです。

No.11

講座名
続・教育学部ってどんなところ

講座紹介

教職の道へ進みたいと考えてるあなたへ

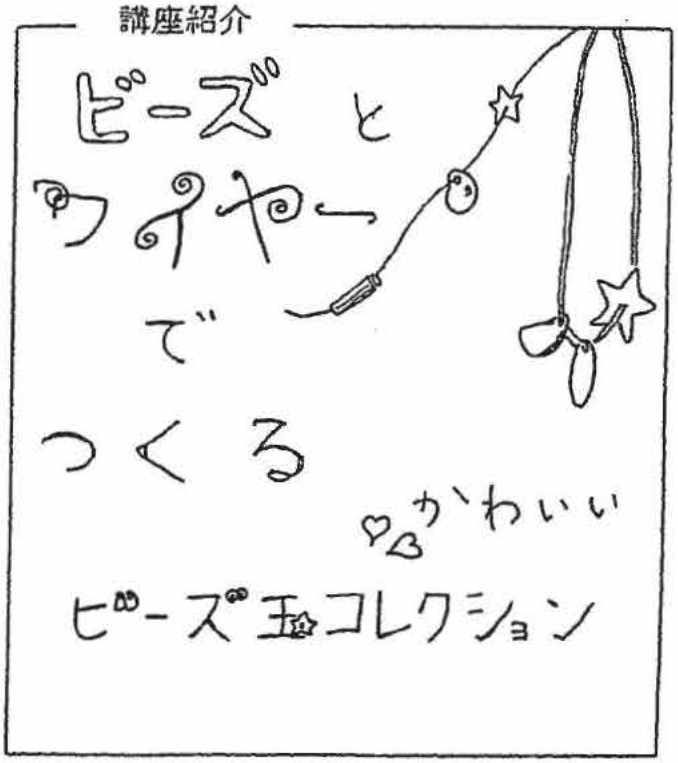
信州大学教育学部で一昨年からスタートしている、「信大You遊サタデー」を御存知でしょうか。学生と子どもが肩ひじ張らずに遊んで学んでいます。You遊サタデーの見学を通して新しい視点からあなたの好奇心を刺激します。教育学部や学生生活についても、学生が体験談を「生々しく」語ります。「先生になろうかな」と思ったら、まず教育学部のキャンパスへ…。

「だれも、はじめは子どもだった。しかしそのことを忘れずにいるおとなは、いくらもいない。」

No.12

講座名 かわいい
ビーズ玉コレクション

講座紹介



No.15

講座名
小麦粉粘土

講座紹介

【講座の説明及びお願い】

本講座においては、製作物などの結果は最重要視せず、小麦粉粘土を体験することを目的としています。私は「学びある活動」とは子どもが主体的に関わる物であり、大人の既全の押しつけでは獲得できないと思います。

このため本講座開講時間は、大人の関わりを出来るだけ減らしたいと思いますので、保護者の方には成人を対象とした講座に参加していただきたく思います。もちろん私たちキャプテン、スタッフは困っているお子様には出来る限りアドバイスしていきます。

【参加募集対象】

対象としては年中児から小学校1年生と考えています。ただし、年少児のお子様でも一人で活動できるようでしたら参加してくださってもかまいません。

【小麦粉粘土サブスタッフ募集】

将来教師を目指している高校生、幼児期の子ども論と遊んでみたい中学生を募集します。ぜひ、この機会に参加してみてください。

No.16

講座名
ガリガリ竹とんぼ

講座紹介

ガリガリガリガリガリガリガリガリガリ
ガリガリガリガリガリガリ・・・・
「何してるの？」
ガリガリガリガリ・・・・
よ～く見てごらん。
「何なのそれ？ 飛ばないの？」
ガリガリガリガリガリ・・・・
飛ぶ竹とんぼは
ただの竹とんぼさ。
これはガリガリ竹とんぼ!!

自分の手でガリガリ竹とんぼを作ってみよう。

第（8）回倉大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン　（２次案）

講座名	プロへの一歩!? イラスト・漫画体験	平成8年5月25日（土）（午前　午後）
キャプテン名	山谷 早苗　中島 真由美 黒沢 祐子　（幼教専攻 4年）	アシスタントスタッフの人数 2名 参加者募集定員 15 or 20名 ?
指導教官名	布谷 光俊 教官	使用教室 E 404

講座のねらい　自分の描きたいイラストを拡大して描くことにより、その楽しさを感じると共に、知らない人達と同じ活動をすることを通して友達の輪を広げる。

講座の展開

③～⑥（片付け含む）を85～90分で

導入

① 自己紹介（10分）

☆ 白の布テープにマジックで名前を書き胸に貼る。

② 今日の内容の説明 道具の使い方・手順など（10分）

※ペン先とがっているので気をつけてください!!

☆ 説明はカンタンに。あとは子どもたちがやってる間に随時指導。

展開

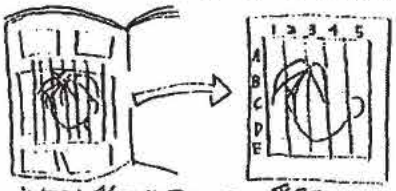
☆ここからはそれぞれのペースで進んでください。早く終わるのために紙をあめに用意。（2回目用）

③ 持ってきてもらったキャラクターの絵に線の入った透明のシートをかぶせる。

（5分）

※線に番号をつけると次の作業がラク。テープなどでズレないよう止める

④ ケント紙に線を引き、シートをのせた絵を拡大して描く。えんぴつで。（30分～1時間）



※ケント紙にも同じように番号をつけて。

⑤ ペン入れ。（20～30分）墨汁をつけながら描く。

※墨汁はこぼさないよう容器に少しずつ入れる。足りなくなったらたす。

⑥ 乾いたらケシゴムをかけてできあがり。ベタ入れ、効果のある子はそれを描き加えてできあがり。（20分ほど）

※時間がなければこの作業は家でやってもいい。

※できたら友だちのを見るのも楽しいよ。

※片付けは各自行う。

まとめ

⑦ 感想を書いてもらい修了証を渡す（15分）

※時間があれば感想を書いてもらう前に作品の発表会をしたい。

準備するもの

- 透明のシート
- ケント紙（30枚）
- ペン軸 150円～200円
- ペン先 60円～100円
- 墨汁
- 筆
- ホワイト
- 墨汁を入れる容器
- マスキングテープ

持ってきてもらうもの

- 描きたいキャラクターの絵（オリジナルの絵だけでいい子はいらない）
- 鉛筆&けしゴム
- 30cm定規
- 細い筆（あればよい）

※これらは忘れた子用にこちらでも用意しておく。

プロへの一歩！？イラスト・漫画体験

山谷　早苗（幼児教育専攻　4年）
黒沢　祐子（幼児教育専攻　4年）
中島真由美（幼児教育専攻　4年）

1．講座設定の理由

誰でも漫画を夢中で読んだことがあるだろう。漫画の世界の中で主人公と共に過ごす時間はとても楽しく、いくつになってもやめられないものである。

学校の授業で子どもたちが描く絵は、もっぱら風景画や人物画である。だが、普段の生活の中で子どもたちが好んで描く絵は、イラストや漫画が多いのではなかろうか。ノートの端や机にイラストを描いたり、4コマ漫画に挑戦してみたりと、イラスト・漫画の存在は子どもたちにとても近いもののように思われる。そこで今回私たちは、学校の授業では扱うことのないイラスト・漫画の講座を開くことにした。私たちキャプテンの中にプロの漫画家を目指している人がいるので、その技術を子どもたちに伝えることにより子どもたちの描く絵の範囲を広げ、子どもたちに絵を描くことの楽しさをより一層感じて欲しい、との願いのもとに「プロへの一歩！？イラスト・漫画体験」はスタートしたのである。

2．講座のねらいと教材観

私たちの講座では、自分の描きたいキャラクターの絵を拡大してケント紙に写し、ペンを使って仕上げる、ということを行った。このねらいとしては、そっくりに描き写すことにより自分も漫画家と同じ絵を描ける、という自信と喜びを感じられるということ。また、漫画家と同じペンを使って描くことを体験することにより絵の描き方の幅が広がり、漫画家の気分が味わえ楽しめるということ。そして、知らない人達と一緒に好きな絵を描くことにより、友達の輪を広げることができるということにある。

教材として使ったペンは、ペン先とペン軸とに分かれたもので、実際にプロの漫画家も使っているものである。先が尖っているため人や自分を傷つけることがないよう注意する必要があるが、ペンの使い方による線の違いや描くときの感触は子どもたちにとっておそらく始めての経験で、漫画家の気分を味わい楽しむには適した教材であると思われる。

3．参加者の取り組みの様子

参加してくれた子どもたちは自分の描きたいキャラクターの絵を各自持ち寄り、黙々と作業をしていた。キャプテンやスタッフと時折話をしながら、作業に熱中していた。小学校4年生以上の子どもたちは私たちの教えたように絵を描き進めていたが、小学校3年生（参加は小学校4年生からであったが是非参加したいということで参加してくれた）は、なかなか私たちの予想していたようには作業がはかどらず、不満そうな表情も見られた。思いがけず下書きの段階で手間取り、ペンで仕上げる時間があまり取れなかったので最後の数分間に全員でペンの使い方を練習したが、子どもたちは楽しそうにペンで線を引いていた。

4．良かった点・改善すべき点

良かった点は、子どもたちがキャプテン・スタッフと仲良く話をしている場面が多く見られた点である。また、子どもたちが予想以上に作業に集中し、専門的な技術を自分のものにすることができた点である。

改善すべき点として４つ挙げられる。１つは、ケント紙に鉛筆で線を引くことに時間がかかりすぎたことである。ペンを使うことを一番楽しんで欲しかったのだが、ほとんどペン描きの時間がとれなかった。こちらで下書きをしたものを用意しておけば良かったかもしれない。２つめは、トレーシングペーパーが見づらかったことである。私たちが用意したものは、１ミリずつ青の線が引いてあり、１センチごとに線が太くなっているグラフ用紙であったが、線が青だったためキャラクターの絵を透かしてみたときに線が見づらかったことと、マスが細かすぎたことに下書きに時間がかかった原因があったと思われる。トレーシングペーパー以外のものを用意しておくか、マスをおおまかに赤のペンで引いておくかすれば良かったのかもしれない。３つめは、参加者を４年生以上の子どもに限定してしまったため、３年生以下の子どもが参加できなかったことである。子どもによってやりたいことも異なるし年齢によってもできることが変わってくるので、年齢を制限せず内容を２～３に分けてみるのも良いかもしれない。４つめは、子どもたち同士が仲良くなる時間がなかったことである。ねらいとして同じ活動をすることで友達の輪が広がる、ということを挙げたが、実際は子どもたち同士の会話が少なかった。最後に作品を見せあったり感想を言いあったりする時間をとれば良かったのかもしれない。

第８回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	不思議なしおり作り	平成8年　5月25日（土）（午後）
キャプテン名	野本　聡　（理科専攻4年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　4　名 参加者数　12　名
指導教官名	坂口　雅彦　教官	活動場所　S224教室

講座のねらい　海藻押し葉を使ってしおりを作り、海などをイメージしてイラストを描いたりする場面で、海藻と陸上の植物との形態、色などの違いから、海と陸との環境の違いに気づき、また、同時に、海というものを身近に感じることができる。さらに、楽しい押し葉のおかげで、読書が好きになる。

講座の展開

段階	学習活動	予想される子どもの動き	時間	キャプテンの活動、援助	教材
導入	1．グループに分かれ、自己紹介す 2．今日の内容、段取りを知る。	○各班に分かれ、自己紹介をする。 「いったいどんなものができるんだろう。」	10 10	・1班3～4人に分かれる。各班に1人スタッフがつき、全員で自己紹介していく。 ○海藻押し葉でしおりを作ることを告げる。 ○作り方を説明する。一つ作ってみせる。	見本のしおり、海藻
展開	3．海藻押し葉を作製する。 4．しおり、カードに絵を描き込む	○きれいな海藻を選び、しおりを作っていく。 「紙を水につけるのか」 「なかなかうまくひろがらないな」 「きれいにできたよ」 ○自分がイメージした絵を描いていく。 ○できあがった子からラミネートパックしていく。	50 40	○各班ごとにスタッフがつき、援助をしながら子どもと一緒に一つつくってみる。 ・つくったしおりの水が切れてきたら、布で挟んでおく ・子どもたちの動きを見ながら、援助していく。 ・海藻はうまくひろがらない ・海藻が紙におさまらない　など ・海藻の色の違いをいかしていけるように助言する。 ○一人最低5つくらいつくった頃を見計らって、次の作業に移る。 ○前日までに用意をしておいた海藻押し葉のカード、しおりに、絵を描き込む。 ・どのような絵を描くか迷っている子に、自由な発想をいかせるよう助言する。 ○できあがったら、ラミネートパックをする。 ○ラミネートパックの余白部分を裁断機で切る。（危険なため、スタッフがおこなう）	海藻、水バット、ﾋﾟﾝｾｯﾄ、ｹﾝﾄ紙、水切り用の板 カード、しおり、色えんぴつ、ペン
まとめ	5．工夫した点を発表し合い、修了もらう。 6．後片づけ	○工夫した点を発表していく ○後片づけをする	10	○作品の発表会をおこなう。 ・それぞれの作品のいい点をあげる ○修了証を渡す。 ○後片づけの指示を出す。	

不思議なしおり作り

野本　聡（理科専攻　４年）

１．講座設定の理由

本年の３月に、私は臨海実習のため、下田市の筑波大学附属臨海実験センターに行った。そこで、実習の一つとして、海藻押し葉による標本作りを行った。私自身、押し葉を作ることは初めてであり、また、海藻から作るということで大変な興味を覚えた。今回、この講座で利用した海藻押し葉の方法は、この臨海実験センターで考えられたものであり、非常にきれいで繊細な押し葉を、簡単に作ることができるので、これなら子どもたちにもできる上、長野県にはない海を、身近に感じられるのではないかと思い、この講座を開講することを決めた。

２．教材・材料について

海藻というと、どうしても海がそばになければならないと思ってしまう。私も最初は材料の海藻をどこで調達しようかと迷っていた。そこで考えたのが、海藻サラダを使う方法である。海藻サラダの中心はワカメであるが、中に、赤や白、緑の海藻が含まれている。これは主にトサカノリと言う紅藻の一種であり、ピンク色できれいな形をしている。更に、中には緑や白のトサカノリもある。これらはトサカノリを脱色して出来たものであり着色料などを使ったものではない。赤い海藻でも、中には陸上の植物と同じ様な緑色の色素を含んでいるのである。なぜ海藻には赤いものがあるのかということは、海中に届く光の色や、色素による光の吸収などが関わってくるので、今回の講座では特に取り上げないことにした。

今回の講座の目標を、子どもたちに海を身近に感じてもらうことと、海藻の色について、少しでも関心を持って考えてくれるということにした。そのため、海藻サラダだけではどうしても「造られた色」という感覚を持たれるのではないかと思い、実際に海まで海藻を採りにいった。海藻は夏にも見られるが、主として早春が旬であるため、やや遅い感があり、実際きれいなものはあまり多くはとれなかった。これらに関しても、手を加えればきれいな赤や緑を出すことが出来るが、先程述べたように、これは出来るだけ自然のまま使いたかったので、手は加えなかった。自然の海藻がそこにあるというだけでも、子どもたちにとっては相当なインパクトがあり、海を感じることが出来るだろうと考えた。

３．講座の様子

参加者は小学校４年から６年までの１２名。兄弟や友人など、何人かでまとまって参加していることが多かったので、最初の班わけはだいたいそのグループでまとまった。３人ずつ４つの班を作り、各班に一人スタッフがついた。スタッフのうち２人は臨海実習にいっていたので、海藻押し葉の経験もあったが、残りの２人は未経験者である。しかし、海藻押し葉作り自体は非常に簡単で、すぐにコツがつかめるので子どもたちと一緒に楽しくやっていたようである。予定では私も一つの班を持つはずであったが、一人が飛び入りでスタッフをやってくれたおかげで、すべての班を見てまわることができた。飛び入りで入ったスタッフも、ＹＯＵ遊サタデーの経験があり、また海藻押し葉経験者であったので、何の違和感もなくスタッフをやってくれた。

前半は上述の方法により、海藻押し葉を作っていった。今回使ったのは海で採ってきた海藻、市販の青海苔、乾燥海藻サラダの３種類であった。意外であったのは、発色のいい海藻サラダよりも、海で採ってきた海藻の方が、子どもたちに人気があるという事であった。これは海へのあこがれから来るものなのだろうか。子どもたちは一人で５～７つの押し葉を作ることが出来た。これは思っていたよりも早いペースであった。

後半は前日に予め準備しておいた海藻押し葉に、絵を書いて自分だけのオリジナルのしおりを作った。海藻押し葉は乾燥させるのに一日以上かかるので、当日、子どもたちが何かおみやげを持ち帰ることが出来るように、と考えたものである。１人１～２つの押し葉に絵を描いて、個性的なしおりが出来上がった。描かれた絵は、海をイメージして、魚やタコが登場するものや、虫の体に見立てたものなどさまざまであった。これをその場でラミネートパックをして、持ち帰ってもらった。

最初なかなか話してくれなかった子も、最後には楽しそうな笑顔をみせてくれたので、子どもたちは楽しんでくれたと確信している。

４．最後に～反省にかえて～

今回は海藻を題材にとったために、準備には相当の手間がかかった。まず、海藻を採るために、新潟まで出かけた。隣の県といえども、海への「距離」というものを感じてしまった。この時に採ってきた海藻を水で洗い、選別し、冷凍して保存しておくのだが、海藻のにおいが大きな問題となり、まわりの仲間にずいぶんと迷惑をかけてしまった。

今回の講座では、私の準備不足や不備な点が多く出た。講座の進む時間を読みとれなかったため、講座の終了時間を超えてしまい、成果発表に遅れたため、また、多くの人に迷惑をかけてしまった。ラミネーターの処理時間等、事前に測っておけば、もっと早く絵を描くことを切り上げて、終了時間に間に合うようにもできたであろう。予備実験不足という後悔や反省もあるが、子どもたちが喜んでくれたということが、何よりである。

第８回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講　座　名	何でも研げちゃう！ 刃物研ぎ	平成８年　５月２５日（土） （午後）
キャプテン名	斉藤　かおる　（家庭専攻４年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　１　名 参加者数　４　名
指導教官名	入江　建久　教官	活動場所　屋外（生協前）

講座のねらい

現在は使い捨て時代の世の中であるが、刃物を研ぐことによって、物を大事にすることの大切さを知ることができるようにする。

講座の展開

過程	学習内容	時間	キャプテンの学習指導	教材
導入	１．自己紹介	５´	・自己紹介をする。	
	２．刃物研ぎの原理の説明	７´	・包丁がなぜ切れなくなるか，刃物研ぎをするとなぜ切れるようになるのかを図を用いて説明する。	画用紙　１枚
	３．実際の包丁を見てみる	５´	・研いでいない（切れない）包丁と，研いだ（切れる）包丁を爪で感触を確かめさせることによって，自分がこれからやることと到達目標を確認させる。	研いでいない包丁　１丁 研いである包丁　１丁
展開	４．包丁を研ぐ	90´	・包丁の研ぎ方を説明しながら実際に包丁を研いでもらう。 ①粗砥，中砥は水に鎮めてよく湿らせる。 ②先ず粗砥で包丁を研ぐ。片刃の場合は平らな方のみ，両刃の場合は両側面を均等に研ぐ。刃は立てない。 ③刃を爪に当ててみた引っかかる感じが出てきたら中砥に移る。中砥も粗砥と同じ要領で行う。粗砥にも共通するが，砥石と包丁の背の間が十円玉が挟まるぐらいの角度で，砥石の大きさいっぱいに研ぐ。 ④大体研げたら仕上げ砥で仕上げをする。刃の側面のぎざぎざがなくなったら完了。	砥石　人数分×１セット バケツ
まとめ	５．あとかたづけ	８´	・研いだ刃物を危険の無いように持ち帰ってもらうため新聞紙に各自包丁を包んでもらう。 ・使った砥石やバケツを洗って干しておく。	新聞紙
	６．修了証書授与	５´	・修了証を各自に渡してたたえる。	

何でも研げちゃう！刃物研ぎ

斉藤　かおる（家庭専攻　4年）

1．講座を開くにあたって

私は昨年１０月に行われた第７回信大ＹＯＵ遊サタデー（松本）で、吉沢嘉寿さんがキャプテンをなさった、「地域で役立ちます～刃物の研ぎ方教室」にスタッフとして参加しました。それがご縁で私が刃物の研ぎ方教室を吉沢さんより引き継ぐこととなり、今回長野でこの講座を開きました。前回の講座でも大人の方のみの参加であったことからもわかるように、刃物研ぎというと、今の子どもたちにはいまいちぴんとこないところがあると思ったため、子どもたちにも親しみがわくようなネーミングにしようと思い、講座名を決めました。前回は刃物研ぎのプロフェッショナルでいらっしゃる吉沢さんのご指導という事もあり、地域の方々の刃物も研いでさしあげましょうというくらいの刃物研ぎの技能を伝授していただけました。しかし今回は技能がまだまだ未熟な私がキャプテンとなったため、とりあえず子どもたちに刃物研ぎのおもしろさ、切れなくなった包丁がまた切れるようになったことを見ることによって物を大事にすることの大切さを知ってもらいたいという気持ちで臨みました。

2．刃物研ぎについて

刃物研ぎの「刃物」にも様々な種類がありますが、私たちが簡単にできるのは包丁研ぎです。包丁は料理作りには欠かせないものであり、ほぼ毎日使われるものです。料理人の中には毎日包丁を研いでから料理を作る人もいるほど、包丁研ぎは料理をおいしく作る上でも大切なことです。包丁研ぎの技術は人それぞれですが、こつさえつかめれば誰でも簡単にできます。しかし、包丁研ぎを研ぎもの屋さんに頼む家庭もあるので、特殊な技能であるともいえるかもしれません。また砥石さえあれば一人で何本も研ぐことができます。よって、隣近所の人の包丁も研いであげることができるし、自分の技能を他の人達に教えてあげることもできます。刃物研ぎは地域との交流にも役立つのです。

3．参加者の取り組み

今回も一般女性の方２名と信大の学生さん・先生のみの参加ということでちょっと残念でしたが、みなさん一生懸命取り組んで下さいました。私の頼りない説明にも熱心に耳を傾けてくれ、応援に駆けつけて下さった吉沢さんにも助けていただき、包丁研ぎもマスターしていただけたと思います。

日頃は包丁の扱いは慣れているお母さん方も刃物研ぎは初めてということで、包丁を熱心に研いでいるうち指が砥石によってすれたためかすり傷を作ってしまう方もいました。今回はあまり大きなケガでもなく私がたまたま絆創膏を持っていたため処置はできましたが、子どもたちが参加してくれる場合はケガに十分注意する必要があると思います。また、私はケガの対処はできましたがどうすればケガをせずに済むかを適切に教えることができなかったのは反省すべき点です。

4．スタッフの声

スタッフとして急きょ、家庭専攻３年の長田さんに手伝っていただきました。包丁研ぎを参加者と一緒にやってもらうという形でしたが、刃物研ぎは面白いと言ってくれました。来年はキャプテンとして刃物研ぎ講座を引き継いでくれることでしょう。

5．参加者の声

参加者の女性２人は、刃物研ぎは初めてでおもしろそうな講座だから参加してみたということでしたが、さびていた刃物が蘇ってとても喜んでいました。またやってみたい、研げた刃物を大切に使いたいと言ってくれました。

6．講座を終えて

刃物研ぎはスタッフとして参加するより、キャプテンになる方がとても大変でした。また，吉沢さんに頼ってしまって参加者に教えることが十分できなかったのは残念でした。そしてもし吉沢さんがいなければ講座が果たして講座が成立したのかとても怪しいところなので、もっと精進しなければと思いました。しかし参加者が少なかったとはいえ、アットホームな雰囲気で刃物研ぎができたことはとても楽しかったです。参加者のみなさんも刃物研ぎを楽しんでやってくれたようなので、講座を開いてよかったなと思いました。来年はどもたちも参加してもらえるよう工夫して、この講座を続けて欲しいなと思います。

7．ＹＯＵ遊サタデーに参加して

私は３年になってからＹＯＵサタに参加しましたが、いろいろ大変な面もあったけれど参加して良かったなと思いました。ＹＯＵサタ運営の一番大変な雑用や企画の部分はほとんど実行委員会の幹部のみなさんに任せてしまってすみません。でも、参加して以来毎回携わってきたクッキング隊は私としては頑張ったのではないかなと思います。何事にも当てはまりますが子どもたちとの楽しい時間を過ごすためには多くの人々の並々ならぬ努力があるのだなあということが分かっただけでも自分を成長させてもらえたなと思います。私は今春から教師として毎日多くの子どもたちと接していきます。多くの責任も背負っていきます。こんな私にとってＹＯＵサタは本当にいろいろなものを与えてくれたし、良い経験になったと思います。これからはＹＯＵサタで学んだことを生かして、子どもと過ごしていきたいと思います。

最後に土井先生はじめ実践センターの先生方、ＹＯＵ遊サタデー実行委員会のみなさん、私にこのような貴重な体験の場を設けていただきまして本当に有り難うございました。また、それぞれのキャプテン・スタッフのみなさん１年間お疲れさまでした。これからＹＯＵサタを引き継いでいくみなさん、あまり無理をせずに子どもたちに夢を与える活動を続けていって下さい。本当にありがとうございました。

第８回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

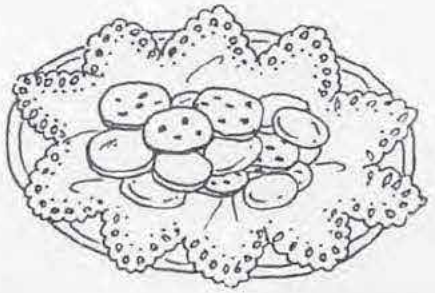
講　座　名	おやつパラダイス ～○○でクッキーを作っちゃおう～	平成８年　５月２５日（土） （午前）
キャプテン名	小林　理英　（家庭専攻４年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　７　名 参加者数　２０　名
指導教官名	角尾　篤子　教官　　粟津原　宏子　教官	活動場所　Ｓ館調理室

講座のねらい

材料におからを取り入れたクッキーを作ることを通して、おからの原料や作られる過程を知ったり、自分でおやつを作る喜びを知るとともに、後かたづけまでやり遂げる大切さを理解できるようになる。

講座の展開

時間	こどもたちの活動内容	キャプテン、スタッフの動き・支援	教材
10 15	・クッキーづくりをすることを確認する。 身支度を整える。 班員とスタッフの自己紹介 。 ・クッキー作りの手順を覚える。 おからを見て、食べてみる。 クッキー作りの基本手順を知る。 たね作りを覚える。	・「おから」でクッキーを作ることを発表する。 ・身支度を見てあげる。 ・ポイントとなる材料のおからを知っているかな？　　におい・味はどうかな？ ・クッキー作りの基本過程を絵で説明する。 ・たね作りを実演する。	おからと大豆の本
25 45	・たね作りを始める。 →冷蔵庫で生地をねかす。 ・「おから」って何だろう？ 原材料、製造方法を知る。 クッキーのほかに利用する方法を知る 豆腐と比べてどうかなあ？ ・たねを好きな形にして焼く。 スタッフと友達と一緒に自由に形作りを楽しむ。	・各班のスタッフはすべての子が参加できるように役割分担する。 ・手洗い、安全確認の指導を徹底する。 ・生地をねかしている間、「おから」を使う理由を説明する。 栄養があること 廃棄される物を有効利用すること ・おみやげ用のラッピングの説明、後片づけの指示をする。 ・子どもの想像力を発揮させるような言葉をかけてあげる。 ・オーブンにいれる時間を把握し、子どもに焼き上がりの時間を教える。 ・後片づけを一緒にする。	
15 15 5	・試食する。 おいしさを味わう。おやつを考える。 ・ラッピングをする。 ・後片づけをする。 ・修了証をもらう。	・楽しい雰囲気で食べられるようにする。 席に着き、麦茶を飲みながら。 ・普段、どんなおやつを食べているのか、おやつ作りの感想など問いかける。 ・できずに困っている子に手を貸す。 ・手作りのプレゼントができることを紹介する。 ・後片づけまでやり遂げることの大切さを理解させる。 ・スタッフが修了証を渡す。	



おやつパラダイス
おからでクッキーを作っちゃおう

小林　理英（家庭専攻　4年）

1．講座設定の理由

今までに開講した「おやつパラダイス」にはスタッフとして毎回関わってきたが、その度に、おやつを作っているとき、そして試食するときの子どもたちの嬉しそうな表情が印象に残った。自分自身が小さかった頃もそうだったが、おやつを作るのはとても楽しいものだ。何よりも出来上がったときの喜び、そのおやつを食べるときの嬉しさがいい。「おやつパラダイス」では、おやつ好きの子どもたちの純粋な表情を見ることができるのである。

そこで今回は、子どもたちに身近なおやつで簡単に作れるものを考えた。第8回で「クッキー作り」をしたが、自由に形作りをするときには学年に関係なく、誰にでもでき、とても楽しんでできた。しかし、再びクッキー作りでは面白くない。そこで、使う材料にも視点を向け、料理をするだけでなく、食品に興味を持ってもらおうというねらいを持ち、講座に臨んだ。

2．おからを使うことの意味

「おからクッキー」は、お料理ブックからヒントを得たのだが、「おから」に注目するのはすごくいいぞ！と即座に今回のテーマに決めてしまった。「おから」のどこがよいのかと言うと・・・まず、おからを子どもたちが知っているかしら？ということが一点、そして、原材料や、栄養は何か知っているのだろうか？ということが一点、子どもたちの興味を引きつける要素がたくさんあるのだ。それに、おからの料理と言えば「うのはな」と呼ばれる炒りおからがもっともポピュラーで、クッキーの材料にできることは私自身も初めて知った。これをたくさんの人に知ってもらうことも良いのではないかと思ったのだ。

おからの原材料は大豆。大豆には植物性たんぱく質が豊富に含まれている。豆腐を製造する過程で、豆乳を搾った後に残ったものがおからと呼ばれる。残ったカスと考えられることも多いようだ。栄養がたっぷり含まれているにも関わらず、食に利用されるのはわずかで、ほとんどが家畜の飼料や、土壌の肥料となっているのだと言う。今回、おからを取り上げることで、栄養があるにも関わらず、あまり食卓に登場しない食品を見直してみよということを、子どもを通して家族で考えられればよいと思った。

テーマに決定する前に、実際に作って食べてみたのだが、普通のクッキーに比べ歯触りがサクサクしていて大好評だった。おからのにおいも形も全くわからず、本当におから入りなの？と言った感じであった。そんなこともあり、当初は、「おから」という部分を伏せておき、当日まで秘密にしておこうと言うことを企み、「～○○でクッキーを作っちゃおう～」というネーミングで紹介したのであった。

3．子どもたちの様子

「クッキーは作ったことがある」という子どもたちが何人かいたが、おからを材料にして作った子はいなかった。おからに対して期待したほど驚きはなかったようだ。それよりもやはり、クッキーを作るんだということの喜びの方が大きかったようで、タネ作りの実演の時は真剣な目つきで見入っていたことが印象的だった。高学年の子どもが多かったので、班分けは、低学年の子どもと組んで調節しやすかったが、始めてみると、おとなしい

子はなかなか馴染めず、つまらなそうな子どももいた。しかし、それぞれの班にスタッフもついていることもあってか、どこの班でも作業を分担し、譲り合い、協力する姿が見られた。学年の大きい子ばかりでなく、小さい子にも必ず作業の順番が回ってきていた様子に、とても感心した。タネを冷蔵庫で寝かせている時は、スタッフとの会話を楽しんでいたが、冷蔵庫から出すのを待っている様子がとてもかわいかった。そして、この講座のメインである型作りの時には、自分の好みの形にするのに真剣に取り組み、思い通りの形にするのに悩んでいたようだった。特徴的だったことは、多くの子どもが、沢山の形を作ることより、一つの形（作品とも言える）に納得いくように作っていたことだ。子どもたちの指先と、目と、創造力が存分に働いている時の雰囲気は、何か重みが感じられた。そして、クッキーをオーブンから出したとき、それを食べるときのうれしそうな顔は見ている私たちもとてもうれしかった。その際に発見したことがあるのだが、「どんな味？」と尋ねたときなど、自分で作ったためだろうか、とても照れくさそうに「おいしい」と答えるのだ。子どもたちの素直な様子と、夢中になって取り組む姿が見られた2時間だった。

4．講座を開いて感じたこと

今回の講座では、おからの栄養や、再利用についても考えてもらおうという試みがあったが、子どもたちの興味はクッキー作りそのものにあったことがよくわかった。子どもたちは何か自分の力で作るというときに、夢中になって取り組み、自分の力を発揮しようとするのではないだろうか。キャプテンやスタッフ（指導する人）が何か教えようとすることより、子ども自身が手を動かし、考えることが一番子どもたちの身に残るのだと思う。今回のクッキー作りは、子どもたちが料理をしてみようとか、片づけるのが大変だからお手伝いをしよう、という気を起こすそのきっかけになればいい、それで十分だ、そんなことを感じた。

第８回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	カンカンアイスクリームをつくろう	平成8年　5月25日（土）（午前）
キャプテン名	加納　文香　（家庭専攻　4年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　7名 参加者数　13名
指導教官名	林　隆子　教官　渡辺　敏明　教官	活動場所　図書館２階

講座のねらい

氷に塩をかけてアイスクリームを固める活動や簡単な実験を通して、塩をかけるとアイスクリームが固まる不思議さを味わってほしい。

講座の展開

時間	活動内容	スタッフ、キャプテンの活動	教材・材料
講座前		○子どもたちを迎える準備をする ・ビニールシートを床にはる ・遊具の設置	
9:30	○いっしょに活動をする仲間やスタッフと出会う ・みんなであいさつをする ・カンでアイスクリームを作るということだけを知る ・グループが決まる	・みんなであいさつをする ・カンで作る、ということだけを言う ・二人組グループを決める	・作り方のプリント ・ビニールシート ・断熱材 ・蓋つき缶 ・ビニール袋 ・ガムテープ ・氷、塩
9:50	○アイスクリームを作る ・グループ毎に作る ・キャプテンの説明を聞きながら同時進行で作る	・スタッフはグループに１人ずつ付いて、いっしょに作る ・キャプテンが作り方を説明しながら同時進行で作る ・カンを転がす時は、スタッフお手製の遊具で遊ぶ ・実験をはじめる	・卵黄、牛乳、生クリーム、砂糖 ・皿 ・スプーン ・食器を洗うための水（バケツに入れたもの） ・実験セット
10:50	○カンをあけてみる ・アイスクリームが固まっているか見てみる ・固まったアイスクリームを食べてみる	・アイスクリームをお皿に盛る	
11:05	○片付ける ・バケツの水で食器をすすぐ ・ビニール袋などはごみ袋に入れる ・遊んだ遊具を片付ける	・食器を洗ったものを置くスペースを用意する ・雑巾、タオルの準備し、濡れないように配慮する	
11:15	○実験を見る	・事前に用意した実験セットを見せる	
11:20	○「ありがとう」のあいさつをする ○修了証をもらう	・「ありがとう」のあいさつをする	・修了証

カンカンアイスクリームをつくろう

加納　文香（家庭専攻　4年）

1．カンカン！！アイスクリームってどんな講座？

「カンカン！！アイスクリーム？なんだこのタイトルは？」そう思って下さればこのタイトルをつけた甲斐がある。なぜなら、「普通のアイスクリーム作りではなさそうだぞ」と思ってもらうためにこのタイトルを考えたからだ。

この講座は、第5回の時に「アイスクリームをつくろう」という講座名で開講され、アイスクリームが大好きな子どもたちに大人気であった。ここで扱う教材は、調理的要素、理科的要素、ものつくりの技術的要素など、様々な要素を含ませた講座展開が考えられる。今回は冷凍庫を使わずに、塩と氷だけでアイスクリームを固めることができる（氷に塩をかけると氷点下以下の温度になる）理科的要素に注目し、簡単な実験を取り入れた講座展開を考えてみた。アイスクリームが冷凍庫の中で固まることは、自然と日常生活の中でわかることである。他の友達は知らない、塩と氷でアイスクリームが固まるということ知ってしまおうというのがこの講座のねらいである。

2．実験を取り入れた効果

この講座は、まずアイスクリームを作らなければ始まらない。子どもたちは、キャプテンの説明と同時にどんどん作業を進めていき、見事全グループのアイスクリームが固まった。

出来上がったアイスクリームをもくもくと食べ、満足した様子の子どもたちの目の前に、ふたつのカンを見せた。アイスクリームのかわりに水を入れ、ひとつのカンは氷に塩を入れて冷やしたもの、もう一つのカンは氷だけで冷やしたものである。前者は氷がはり、後者は水のままであるという、塩の有無による違いがありありとわかる結果を用意することができた。

子どもたちは、身を乗り出して食い入るようにカンの中をのぞき込んだ。「アイスクリームも白いし、塩も白いから固まるんだよ。」というユニークな発想も飛び出す。正確な解答はせず、「不思議だね」というまとめ方をした。子どもたちにとって満足のいく解答はしなかったが、アイスクリームが固まった不思議に注目する時間を設けることができた。「不思議だな。どうしてだろう。」という気持ちを大切にし、園児から2年生までの小さな子どもたちが、驚き、考える機会が持てたことは有意義であった。

3．カンでのアイスクリーム作りの発展

第5回の「アイスクリームをつくろう」では、アイスクリームを楽しく作るという製作活動が主な目的であり、第8回では、「カンカンアイスクリームをつくろう」と改名し、塩の有無による氷の冷え方に注目した講座の展開とした。この教材を用いた講座の展開には、次のようなものも考えられる。

①アイスクリームは攪拌するからふわっとする

材料を入れて密閉をしたカンを転がす理由は、ふわっとした「アイスクリーム」を作るためである。しゃりっとした「シャーベット」を作るのであれば、転がす必要はない。

そこで、カンを転がしたものと、転がさないものを比較して、攪拌の有無の違いをみる。
②道具の工夫

カンと言ってもいろいろある。コーヒーのカンは、二人分の材料をいれ、攪拌するために十分の広さがあり、密閉できるふたがあるということで、アイスクリーム作りには有効であり、粉ミルクのカンは、コーヒーのカンがすっぽり入り、さらにカンのまわりに氷を入れてふたをして密閉ができ、アイスクリームを冷やすために有効なカンであった。しかし、今回は全部のグループで同じカンを使ったため、コーヒーのカンと粉ミルクのカンがなければアイスクリームはできないと考えた子どもたちが、講座終了後に使用したカンをとりあう姿が見られた。密閉できる様々な種類のカンを用意して、自分で工夫してアイスクリームを作ってみる、という講座の展開も考えられる。

③バニラアイスクリームの他に

今回はバニラアイスクリームを作った。材料の中に、チョコレート、ナッツ、などをいれたアイスクリーム作りも考えられる。

カンでのアイスクリーム作りは、ほかにも取り上げ方によっていろんな講座が展開できる遊びである。

4．たった一度の出会いを大事にして

アイスクリームを作るためには、まず道具の準備が必要であった。例えばカン。ひとつはコーヒーのカン、ひとつは赤ちゃんのミルクのカン。2つの缶が1セットで、2人分のアイスクリームができあがる。当日来てくれる子どもたちは13人。最低でも、7個づつのカンが必要になる。さあ、探した探した。困ったのはミルクのカン。近所の、赤ちゃんがいるお家にお世話になったり、乳児所に電話し、主旨をご理解いただいて、カンをいただくことができた。

道具が準備できても、当日子どもたちが楽しく過ごすことができるとは限らない。一度も会ったことのない子どもたちのことを予想して、年齢だけを頼りに頭をひねってくれたのは、7人のスタッフである。子どもの気持ちになって、細かい配慮をしてくれた。楽しい雰囲気を作り出してくれたポスター、ただカンを転がすだけでは子どもが飽きてしまうよ、ということから考え出してくれたカンをボールにして遊ぶペットボトルボーリング、カンを転がしながらスイスイともぐることが出来る段ボールトンネルなどは、講座には欠かせない遊具となった。楽しみにしてくれている子どもたちのために全力を注いで準備をしたスタッフたちは、講座が終わるころには、はじめて出会ったとは思えないほど、子どもと仲良くなっていた。

講座の最後に、全員で「ありがとう」というあいさつが気持ちよくできたのは、楽しみにしてくれていた子どもたちと、準備をしながら子どものことを考えてきたスタッフの気持ちが、今回の講座で一つになったからである。

第８回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講　座　名	宇宙生物スラスラスライム	平成８年　５月２５日（土） （午前）
キャプテン名	千葉　綾子　（理科専攻３年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　６　名 参加者数　３２　名
指導教官名	中村　浩志　教官	活動場所　Ｓ１１８教室

講座のねらい　身近な素材を使用して、市販のスライムができてしまう驚きを持ってもらいたい。また、スライムを作る中で、友達をつくり、楽しく過ごす場の発見や、外（学校外）での参加に積極的に取り組めるようになることをねらいとする。

講座の展開

時間	過程	子どもたちの学習内容	キャプテンの学習指導	教　材
２０分	導入	１．自己紹介 ２．スライムつくりを学ぶ。 ①コップの下の線まで水を入れる ②洗濯のりをコップの上の線まで入れる。 ③よくかき混ぜて色を付ける。 ④四ほう酸ナトリウム水溶液を加えてよくかき混ぜる。 ⑤固まってきたら、コップから取り出し、スライムを手でペタペタとやる。	「大きな声ではっきりと言おう！」 ◎スライム作りの説明 Ⅰ スライムの作り方 Ⅱ 注意事項 ・服や、髪の毛につかないようにしよう。 ・絶対に口の中に入れないでね。 Ⅲ かたずけ	「スライムの作り方」は、模造紙に書いて用意 机には新聞紙をひいておく。 （バケツも置いておく ２～３個）
９０分	展開	３．スライムの制作 ４．みんなで巨大スライム作り	◎グループをみて回りながら声をかける。 「他の色も作ってみようか。」 「スライムの触り心地はどう？」 ※みんなの手は動いているかな？ 何か困っている子はいないかな？ ◎みんな一緒にやろう。	用意する物 ・洗濯のり ・水（ペットボトル入り） ・飽和四ほう酸ナトリウム水溶液 ・食紅・着色剤 ・ビニール袋 ・コップ
１０分	まとめ	５．かたずけ ６．終了	◎かたずけまでしっかりやろう。 修了証を渡す。	修了証

宇宙生物スラスラスライム

千葉　綾子（理科専攻　2年）

1．スライム作り

「スライムって、どんなものだろう。こんな形なのかなあ。」マンガに出てくる姿がぱっと思いつくだろう。「でも、本当はどうなのかなあ。」という興味を子どもたちは抱いてやってきていると思い、「スライムは、こういうのだよ。」という提示は、始めからしないことにした。マンガに出てくるスライムのイラストを、ちょっと拝借して、至る所に描いてはいたが、子どもたちが実際に手にすることで、「これがスライムか。」という感動を持って、たくさんのスライムを持って帰ってもらいたかった。

実際には、ＰＶＡ（合成洗濯のり）、水、四ほう酸ナトリウムという無色透明の液をコップの線に合わせて入れていけばできてしまうなんでもないものである。しかしあの感触は、年齢を問わずにこにこしながらペッタンペッタンと行うことができ、また、自分の好きな色に色付けできることから、手に溢れんばかりに持って帰る姿をたくさん見ることができた。その姿は、とても嬉しそうであり、見ている私たちも嬉しい気持ちになるのである。「ただの液だったのに、スライムができた！」と、驚いてくれたり、感動してくれることにこの意義があると思う。材料は、極身近にあり、「こんな物からできてしまうんだ。」と思える物。参加してくれた人たちのにっこりとした笑顔と、両手いっぱいにスライムを作ってくれることを願いながらのスライム作りである。

2．スライムを触る子どもたちの様子

「できたよ！」という顔で、こちらを見て１つめを袋に入れる。ここまではちょっぴりもじもじとしていたが、２つめ、３つめと作るたびに、「よし、次作るぞ。」「えっと、次は何色にしようかな。」と、自分から手にしたり、スタッフの人に「水を入れて」「四ほう酸ナトリウムどこ？」「のり終わったよ」と、自ら積極的に取り組もうとしていた。スタッフもどんどん忙しくなっていったごとだろう。１つ、２つ、３つ・・・と、数が増すたびに、その顔もハツラツとして始めの頃の緊張した顔ではなくなっていった。

そんな中では、作ることに夢中で、お友達との関わりがあまりないようであったが、お互い譲り合いながら、水やのりを使う姿が見られたり、お友達の作ったスライムの色を見て、「うーん、次は○○色。」と決めている姿や、自分より数の多いお友達がいたら、その数を目指している姿は、お互いが刺激しあえていて良かったのではないだろうか。また、洗面器を用いて、巨大スライムを作ったときにも、グループで色を決めたり、四ほう酸ナトリウムをみんなでよーくかき混ぜている姿があり、スライム作りを通して今日初めて会ったお友達とも関わりが持てたのではないだろうか。

全体を通しては、楽しく行っていて、夢中になっている姿やたくさんの笑顔が見られたので、私はとても満足だった。

3．スライム講座を開いて

キャプテンとしての私は、「水をくんでこなきゃ。」「え?!糊がない?!」「四方酸ナトリウム？」「うわー、デロデロのスライムだ。」と、万全であるはずが、準備不足でどた

ばたとしてしまった。おかげで、スタッフの方々も、大変疲れてしまったことだろう。こどもたちに対しても、私は、声がけが不足であったと思い、悔やまれてならない。実習前ということもあり、失敗は良い経験になった。進行していくのにも、いかに分かりやすく、いかに手短に説明できるかを、もっと考えておけば良かったであろうし、大人数の中の自分という自覚が足りなかったと思う。手伝っていただいたスッタフの方々に感謝である。

こどもたちに対しても、今までどおりで、発展性のなかった点では、マニュアルに頼りすぎていたと思う。初めて参加してくれたお友達には、それなりに感動はあったかもしれないが、2回、3回目ともなると、「うん、知ってるよ。」という声とともに、「前も作ったんだよ。」といわれると、ちょっぴりがっかりしてしまうものである。同じようにただ作るのではなく、ゲーム性や、別の物を組み合わせてみたりすることも必要だと、終わってみてから考えていたのである。

しかし、たくさんの笑顔が見れたことは、一番のうれしさである。スタッフの方々も、疲れたと思うが、こどもたちの溢れるパワーの中、うれしそうに、楽しそうに作る姿を見ることができて良かったのではないだろうか。私は、この笑顔を決して忘れることはないと思う。こどもたちの前に立つ者として、大事なことは、どれだけこどもたちのことを思ってあげられるかということのように思う。怪我をさせないこと、感動をなくさないこと、孤立させないこと。そして、最後には、満面の笑顔のこどもたちを見送る。こどもたちと一緒に気をつけて、楽しみながら輪を作っていけるものにしていくことは、ほんとに大事だなあと思った。

これからも、「ＹＯＵ遊サタデーは、笑顔がたっくさんあるといいな。」と思う。

第８回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講　座　名	学校では教えてくれない マル秘化学実験	平成8年　5月25日（土） （午後）
キャプテン名	安喰　和之　　長谷川　直紀　　桃澤　啓 宮沢　元　　（理科専攻　3年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　　8名 参加者数　　6名
指導教官名	漆戸　　邦夫　　村松　　久和　　岩井　　邦中　教官	活動場所　　Ｓ３００教室

講座のねらい　　最近「理科離れ」が進んでいると報告されているが、依然として教科としての「理科」は人気が高い。そしてその中でも、「実験・観察」への興味は特に高い。そこで本講座では６種類の実験を用意し、普段学校では行えない実験を自ら体験することによって、「自然科学」の楽しさやおもしろさを知る。

講座の展開

時間	段階	子どもたちの経験内容	アシスタントの支援	教材
１０分	アシスタントと各実験の紹介及び諸注意	・どんな実験やるのかなあ？ ・僕は「火で書く文字」から行こうかな！ ・見たことも聞いたこともない実験だぞ！！ ・結構危ない薬品も使うんだって。気を付けなくなくっちゃ！！！ ・早く実験したいなあ。	・実験書の配布 ・キャプテン、スタッフの自己紹介 ・各実験の概要の説明 ・実験を行う上での諸注意	・実験書
１００分	好きな実験をどんどんやろう！！	○自分が興味を持った実験を自由に選び、その実験が行われている実験台へ移動する。そこで簡単な説明と注意を聞いたあと実験開始。 ・液のついてる部分だけどんどん燃えてくよ！ ・丸くかこんじゃったからそこだけ燃えちゃって字にならない！！ ・今度こそ字にしてやる！！！ ・あっ！液が赤色になった。 ・今度は緑だよ！何で？どうして？ ・また赤色に戻ってく！！また振ったら緑になるの？ ・早く混ぜないと固まっちゃうよ！！ほーらね！ ・いろんな色の火がついた。キレーイ。 ・花火が簡単に作れるんだって。いってみよう。 ・ほんとだ花火のにおいがする。でもちょっとけむーい。ゴホッ、ゴホッ！ ・この液をか紙に塗っておいて、この液でなぞると赤い字や青い字が出るんだって。ちょっとやってみようぜ！！ ・電池の中を見せてくれるんだって見に行こう！ ・果物で電池作るんだって。できるの？ ・あっ！オルゴールが鳴ってる、鳴ってるよ！	・各実験の詳しい説明 ・各実験台で子どもたちが体験する実験の手伝いをする。 ・危険な薬品への充分な配慮をする（ＮａＯＨ　ＨＣｌ等）	わら半紙 筆 ブドウ糖 ＮａＯＨ インジゴカルミン メチレンブルー メタノール 酢酸カルシウム 炎色反応用アルカリ金属 硫黄 炭素 硝酸カリウム シュウ酸鉄 塩化鉄 チオシアン酸鉄　等
１０分	まとめ	・もう終わり？まだやりたーい！ ・まだやってない実験あるー！！ ・閉会式終わってからやりにきてもいい？ ・すっごくおもしろかった！！！	・修了証を渡す。	・修了証

学校では教えてくれないマル秘化学実験

安喰　和之　　長谷川　直紀　　宮沢　元　　桃澤　啓
（理科専攻　3年）

1．講座設定の理由

窓の外をのぞいてみてください。今私の目の前には今にも沈んでしまいそうな太陽と、その太陽に彩られた美しい赤からオレンジ、そして青へと続くあざやかなグラデーションをたたえた空があります。さあ、空からもう少し視線を落としてみましょう。春ならばいてつく寒さに耐え、ようやく訪れた遅い信州の春を体中で喜び、その暖かい風を受けようとして芽を出した黄緑色の若葉が元気よく風にたなびく姿が見えるはずです。そしてこれらの美しい風景をバックに、人々の住む家屋の窓からは白い電灯の明かりが見えかくれし、その合間をぬって家路へ帰る人々の姿や車のテールランプの赤が列を作って点滅しています。この様な幻想的な風景を見ていると自然が作り出す美しさは言うまでもなく、我々人間が作り上げてきた物もまんざらではないなあと思います。しかしそれと同時に、なぜ空はこの様に様々に色を変えていくのでしょうか。またなぜ木々は秋になると葉の色を緑から赤や黄色に変化させていくのかといった様々な「不思議」は限りなく浮かび上がってきます。そして人々はこのような「なぜ」を追求し、その成果を体系化していきました。この結果できた学問が「自然科学」です。つまり「自然科学」は人々が行う日常活動の中に生まれる疑問や興味、そして少しでも豊かな生活をという願いから生まれた学問なのです。このようにして人々の飽くなき疑問と興味、及び欲求によって「自然科学」は現在にいたり、さらに発展していこうとしています。

しかしこの様な「自然科学」の発展と逆行して、現在の小・中学校では深刻な「理科離れ」が嘆かれています。本来生活に密着しているはずの「理科」がなぜ
この様に嫌われてしまうのでしょうか。様々な原因は考えられますが一つの要因として、現在学校で行われている「理科」の授業が、授業時間の関係上充分な「実験・観察」の時間をとれず、体験なき知識の構築に終わっているためだと考えられます。本来「自然科学」における知識とは体験と同時に積み上げられていくものです。そこでこの講座では実験を通して、自然科学の一部を体験し、「自然科学」のもつ美しさやおもしろさを再認識し、「自然科学」への第一歩を踏み出していただければ良いなあと考え本講座を構想しました。

2．教材について

1．でも書きましたが本講座ではある現象が起こったときに、「すごい」、「きれい」、「おもしろい」といった素朴な驚きと感動を味わって欲しいとおもいました。そこで以下のような観点で実験を選びました。

（1）普段利用しているものの原理がわかる教材。

（2）色の変化が美しい教材。

（3）子どもが実験をやってみて楽しいと感じられるような教材。

この様な観点で選ばれた実験は以下の6個です。

・交通信号フラスコ…ある液体を振ると黄色→赤色→緑色へと次々に変化する。

・火で書く文字…半紙に火を近づけるとある液体をつけた部分だけ焼け落ちる。

・電池…分解した乾電池を見て、電池の仕組みを知り、さらにその仕組みを利用して果物電池やコイン電池を作る。

・固形燃料…2種類の液体と炎色反応を示す元素の含まれた塩を混ぜ、カラフルな固形燃料を作る。
・線香花火…線香花火を火薬から作ってみる。
・赤い字、青い字…ある液体をぬった半紙に別の液体を塗ると字が浮かびあがる。

3．子どもたちの反応

はじめ緊張のせいかなかなか笑顔もみれず沈んだ雰囲気があたりを包んでいました。しかし実験が始まり自分の予想していないことがおこったり、また自分で作った溶液が正しく反応し、色が変化したり、紙が焼け落ちていく様子を見て、にっこり笑う子、のぞき込んでみようとする子、「おっ」という短い感嘆の声を漏らす子、と反応は様々でした。しかしどの実験でも共通して言えることは、真剣に上皿天秤で薬品の量を量り、針のふれを一喜一憂しながら見ている子どもたちの姿がとても印象的であったことです。これに関しては普段薬品を計ることが実験のOne stepでしかないと感じ始めてしまった我々スタッフにとっては、全く予想ができなかった態度であるとともに、見習わなければいけない態度だと痛感しました。しかし実験が進み、子どもたちとスタッフの間で様々な会話のやりとりが行われるに従って、講座全体の雰囲気も開始当初の緊張した雰囲気からとても和やかな雰囲気へと変わっていきました。そんな頃から、実験によっては自分で何を組み合わせるか、どんな色を出そうかと試行錯誤していく姿が随所に見られました。さらに言えば、一度やった実験でももう一度チャレンジしてみよう、またあの溶液は変化していないかと何度も同じ実験台へ足を運ぶ子どもも数人見られました。このように子どもたちは自分から実験を楽しんでいったのですが、無情にも終了時刻はこのような子どもたちの姿には関係なくやってきてしまいます。しかしスタッフも子どもたちのあまりの熱中ぶりに終了時刻が告げられず、閉会式にかなり遅れていくはめになってしまったのです。しかしこの時点でも実験の数が多かったためか、はたまた丁寧に薬品の量を量りすぎたのか、ほとんどの子どもが6個の実験を終わらせていませんでした。このまま中途半端な形で終わってしまうのかなあと思っていた矢先、閉会式後数人の子どもたちが僕たちスタッフのところへやってきて実験を続けたいと言ってくれたのです。さらにこの際子どもたちを迎えにきてくださった保護者の方にも何年ぶりかの「理科」を体験してもらうことができたのです。また固形燃料などはアルミのマドレーヌ用カップに入れ、「うちでみんなの前で燃やすんだ」といって大事そうにしまっていた子どもも見られるほどでした。全体を通して言えることは、人数が少なかったせいか各実験とも充分時間をかけ、納得のいくまで実験をすることができ非常に満足してかえってもらえたのではないかということです。

4．講座を通しての反省

3．でも書きましたが、講座を終わって帰っていく子どもたちの顔はとてもにこやかで、講座における準備不足や、予備実験の不足をスタッフに感じさせないような集中ぶりだったと思います。この点は講座に参加してくれた子どもたちに感謝をしたいとおもいます。しかし落ちついて考えてみると、この講座の中にかなりの問題点があったように思われます。そこで今後の課題として以下のようなものを挙げておきます。

（1）実験数が適当であったか。

これについては閉会式に遅れる、時間内に子どもたちが実験を終わっていない、という観点から考えるとかなり実験数が多かったのではないかと考えらます。「様々な実験を通

していろいろな現象に触れて欲しい」という願いが強すぎたためか用意した実験が多くなってしまったようです。

（２）実験方法は適当であったか。

本講座では薬品や水の量を量るところからやってもらい、実験の最初から最後までを自分の手でしっかりやってもらいたいとおもいました。しかし、本講座に参加してくれた子どもは中学１・２生の子どもだけであり、上皿天秤、メスシリンダーなどの使い方にまだまだ慣れていない子どもたちが多く見られました。子どもたちの実験技術の習得状況、発達段階を考えると実験方法を見直す必要性があると考えられます。具体的には事前に薬品をこちらで量っておくなどがあります。それにより薬品を量る時間がそのまま実験や現象を楽しむ時間となり、さらなる興味・関心へとつながったのではないかと思います。

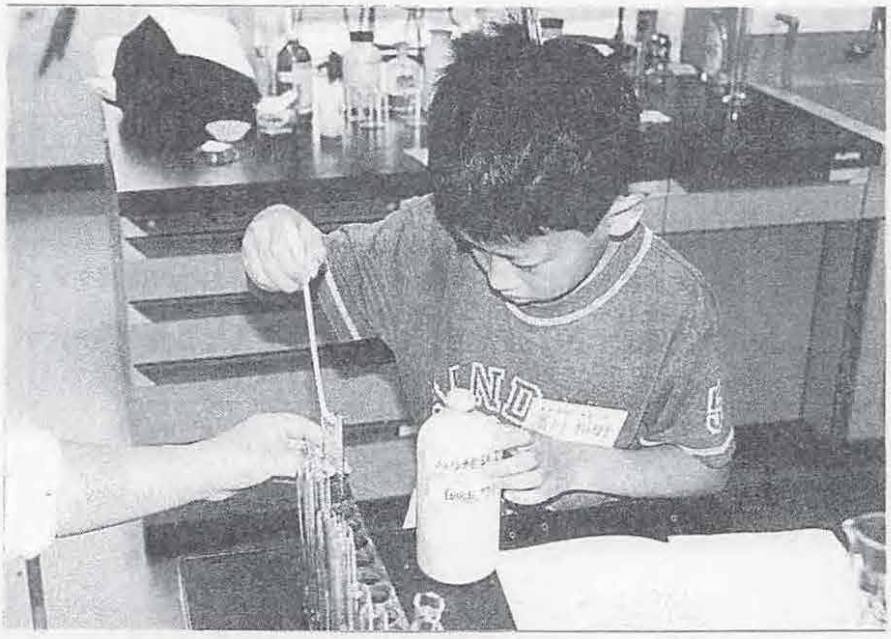
（３）実験内容は適切であったか。

実験の選択には２．であげた観点を充分考慮したつもりですが、やはり子どもたちの興味・関心を充分満たすことができたのか、また普段耳慣れない薬品を多く使ったことを考えると、講座が終わってから家や学校に帰ったときに身の回りの自然現象に目が向いていってくれるのかは疑問が残ります。この点については、実験を選ぶ際もっと重視するなり、身近な現象へ結びつく実験を多く取り入れていくなどの工夫が必要であると思われます。

（４）安全対策は充分であったか。

講座内での事故はなく笑顔で子どもたちが帰れたことは大変良かったと思います。これはスタッフの配慮は当然のことですが、それにもまして子どもたちがはじめの実験の注意をよく守って安全に実験が行えたためだと思います。しかし実際には水酸化ナトリウムなど非常に危険な薬品を使っているにもかかわらず、万が一の事故に備えての体制がしっかりできていたとは決して言えません。そのために、ほう酸の薄い水溶液を目の洗顔用に用意したり、事故が起こらないように実験中の実験台の上の整理整頓などにもっと気を配る必要があったと思います。

しかし何度も言いますが、講座が終わって子どもたちが笑顔で帰れたという事実に対してはこれを上回る喜びはなく、この講座を開いて本当に良かったと思います。改めてこの講座に参加してくれた６人の子どもたちにはお礼のことばを言いたいと思います。



第８回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講　座　名	かわいい ビーズ玉コレクション	平成８年　５月２５日（土） （午前）
キャプテン名	美齊津　礼奈　（数学専攻３年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　４　名 参加者数　７　名
指導教官名	吉田　稔　教官	活動場所　Ｎ２０３教室

講座のねらい

「こんな講座があったらいいな」という声を聞いて開いた。共通の興味を通じ、また、夢中になることで、参加者が交流できることを目的とする。

講座の展開

時間	過程	子供たちの学習内容	キャプテンの学習内容	教材
４５分	導 入	○箱にビーズで飾りを着ける。 ・好きな色のビーズのある席に座る。 ・分からないことを聞きあう。 ・スタッフやできた人に手伝ってもらいながら進める。	・今日の活動を説明する。 ・名札の確認をする。 ・説明が分かった人から始めさせ、１人でできないところは手を貸しあうように伝える。 ・箱を乾かす。	・箱 ・はさみ ・のり ・ビーズ ・ワイヤー ・作り方のプリント ・新聞
４５分	展 開	○ビーズで好きな動物などを作る。 ・飛び魚・兵隊・海藻・花のなかから何を作るか決める。 ・どんな色のビーズを作るか決める。 ・一人で出来ないときは、声をかけて、手伝ってもらう。 ・時間があれば、次の作品を作る。（時間内に作れるか、スタッフに相談する。） ・最初に作った箱に、自分の作品を入れる。	○こども達と一緒にビーズ作品を作る。 ・作り方の紙を各机に配る。 ・ワイヤーの用意。 ・ワイヤーを切るときは、力がいるため危険なので、スタッフが関わる。	・作り方の紙
３０分	ま と め	○修了証をもらう。 ・床に落ちたビーズを拾う ・使った道具をまとめる。 ・修了証をもらう。 ・荷物を確認する。	○修了証を各自に手渡す。 ・片づけをする。 ・こども達の持ち物の確認をする。 ・終了証をみんなの前で、一人１人に手渡す。	・修了証

かわいい
ビーズ玉コレクション

美斉津　礼奈（数学専攻　3年）

1．講座を開くにあたって

講座を開くきっかけは、知り合いの女の子に「ビーズの講座はないのか」と言われたことであった。この女の子は小学校高学年の女の子で、私が勉強を教えるだけでなく、一緒に遊んでもいる子だ。折り紙やビーズ、ゲームにテレビと、小学生の遊びを経験させてもらっている。そんな中、「ビーズの講座はないのか」と言われたとき、大学生である私と、彼女の間のギャップを感じた。ギャップがあるのは当然であるが、彼女と遊んでいて、私もおもしろく、楽しい。私の発想では、なかなかそのギャップを埋めることは難しい。そこで、彼女の意見を使わせてもらった。ＹＯＵ遊サタデーで、ビーズの講座を開いたら、参加してみたいと思う児童も多いのではないだろうか。

2．ビーズについて

ビーズと言っても分からない人も多いと思う。例えば真珠のネックレスもビーズと言えるかもしれない。遊戯に使える手頃な値段の真珠のような物をビーズ玉と言う。ビーズ玉の条件は穴があいていることで、ビーズを大まかに言えば、真珠のネックレスのように、ビーズ玉に糸を通すことでなにかを作ることを言うのだと思う。しかしおもしろいのは、糸とビーズと言う２種類の道具だけで、直線的な物だけでなく、立体的な様子を作り出すことができるのである。ほとんどの物を糸とビーズは表現してしまう。折り紙が、一枚の紙からいろいろな表現を作り出すのと同じである。折り紙と同じおもしろさがあるのである。

折り紙が、子どもから大人までどんな年齢層の人にも楽しまれるように、ビーズも年齢にあった遊び方をいくつも選ぶことができ、また、適度な複雑さを持つことと達成感があることからも、適した教材であると思う。

3．子供たちの様子

対象学年をしぼらなかったことで、子供たちの中にもビーズの使い方に慣れている子と、全くやり方も分からない子とがいた。これはどんな環境の中にもあり得ることとして期待通りであった。そこでどんな環境を私が作れるかと考えたとき、できる子とできない子とが交流できる橋渡しをしてあげればと思い、スタッフを大勢おくことにした。スタッフもビーズができる人できない人と関係なく、子供たちと同じことをしてもらった。子供たちは、子供たち同士話しかけることはしないが、スタッフに話しかけることは必ずしてくるので、むしろ、スタッフもビーズが初めてだという人たちの方が良かったのである。しかし、結局は交流と言える場面は作れなかった。スタッフは少なくするなど、他に方法はいくつもあったとも思うが、２時間あまりの間でビーズのような個人で創作する活動は、交流の場面としては難しかったように思う。

子供たちの間の動きはなかったけれども、ビーズを作る子供たちの様子は真剣であった。一つの作品を作り終わったときに、すぐに次の作品を探し始める様子は、この講座を開く価値があったようであり、嬉しく感じた。

4．反省にかえて ―― 講座を開いてみて思うこと ――

「子供たちの様子」に挙げたように、子供たちは知らない子とは話したがらない。どの人は甘えて良い存在か、その中でも誰が中心かを常に見分けていた。その様子は非常に私を暗い気持ちにした。一方でそんな環境になってしまったことが、私の反省点である。それはとても難しいことだった。集団で遊ぶ環境なら、また違ってきたのか、どうあるべきだったのか。

第８回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講　座　名	いじめフォーラム'　９６	平成８年　５月２５日（土） （終日）
キャプテン名	木戸口 あい（大学院２年）　北島 茂樹（数学専攻３年） 渡辺　一博（英語専攻４年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌの人数　５名 参加者数　約１００名
指導教官名	越智　康詞教官　　筒井　健雄教官　　土井　進教官	使用教室　Ｅ５０４

講座のねらい　「いじめ」問題は、学校現場だけでなく、家庭・地域との連繋を図りながら考えていかなければならないとの観点から、さまざまな立場からの報告を聞き、理解し、意見を交換し合うことによって「いじめ」問題への意識を高めることができる。

講座の展開

進行	時間	進行内容	スタッフの動き・留意点	準備物等
当日朝	３０分	・集合・直前準備（実践センター） ・受付 ☆アンケート記入	・集合、食事、直前打ち合わせ ・受付準備 受付 3人　会場 3人　案内 1人	受付(机名簿、ﾍﾟﾝ集金、ｱﾝｹｰﾄ用紙ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ用紙)
開会	５分	１．開会のあいさつ （漆戸　邦夫センター長）	・司会進行（キャプテン）	視聴覚機器、マイク OHPシート
全体（前半）	６０分	☆アンケート記入 ２．「いじめ」についての報告 ①高山 勝氏「私が体験したいじめ」 ②幅　佳織氏 「母親の立場から」 ③土井 進氏「教師の姿勢といじめ」 ④守時　公枝氏 「いじめの着眼点・早期発見・対策」 ・質疑応答	・記録係は、記録する（カメラ、テープ、筆記により） ・質疑応答の際、マイクの移動を補助する ・トイレ、禁煙等の案内	マイク、飲み水、ＯＨＰシート、記録用紙、ﾃｰﾌﾟﾚｺｰﾀﾞ（ﾋﾞﾃﾞｵ）カメラ
休憩	１０	トイレ休憩	後半の準備	
（後半）	６０分	⑤越智　康詞氏 「学校現象としてのいじめ」 ⑥鈴木　英二氏 「いじめの報道について」 ⑦葛田　英男氏　「経営者から見たいじめ」　・質疑応答　・諸連絡	（前半に同じ） ・報告書の申し込み ・昼食の案内 ・分科会会場の案内	（同上）
休憩	７５	昼休み	昼食、話者の接待	
分科会	９０分	３・（第一分科会） ―いじめにあっている子どもへのカウンセリングについて― ［担当］葛田英男氏・土井進氏（N102） （第二分科会）　―家庭・地域・学校はどのように連繋できるのか― ［担当］越智　康詞氏　（Ｎ１０３） （第三分科会） ―教師として何をすべきか― ［担当］今井　康哲氏　（Ｎ２０２） （第四分科会） ―「いじめ」による不登校について― ［担当］國安哲夫氏・漆戸邦夫氏(N104)	・新規受付 ・分科会会場への案内 ・それぞれの分科会で記録係は、記録を取る ［担当］ 第１　吉越　優子 第２　木戸口　あい　・寺田　慶子 第３　渡辺　一博・井出窪　孝子 第４　北島　茂樹・小池　祐介	（同上）
報告会	２５分	４．分科会の報告 ５．アンケート ６．感想発表・講評　（Ｎ１０１）	・記録係がそれぞれの分科会の様子を報告する（２、３分で）	マイク
閉会	５分	・諸連絡 ７．閉会の言葉	・報告書申し込み案内 ・誘導	

「いじめフォーラム’９６」

渡辺　一博（英語専攻４年）・木戸口　あい（大学院２年）

１．「いじめフォーラム’９６」開催の経緯

「いじめ問題」はますます複雑さを極め、深刻化している。本校実践センターは、平成７年１１月に大学関係者、学生、一般の教育関係者や市民からなる「いじめ研究会」を発足させ、幾度にも渡り「いじめ問題」解消のために討議を重ねてきた。しかし、もっと多くの人々と共にこの問題を考えていきたいと願い、同実践センターが開催している「ＹＯＵ遊サタデー」とタイ・アップし、「いじめフォーラム’９６」を開催することになった。

２．全体会の様子

午前の部では全体会が行われ、いじめに悩む親子、現職教員、学生、専門家などを含め、80名を超える参加者が集まる中、７名の発表者からそれぞれの立場でいじめ問題についてお話しいただいた。発表の内容を簡単に紹介する。

（１）「私が体験したいじめ　～いじめの追憶～」　髙山　勝（会社員）

10年前自分が体験したいじめと、その当時の思いや苦しみをせつせつと語った。学校に行くのは処刑台に連れていかれるような思いだったし、一時は自殺まで考えたこともあったという。自分と違う人を異常と思わないでほしい、と訴えた。

（２）「母親の立場から ～もし私の子が『いじめ』に出会ったら～」

幅　佳織　（主婦・信州大学聴講生）

子を持つ母親の立場から、自らの子育てへや学校へ子どもを預けることの不安をいじめに絡めて話した。「うちの子に限って」という見方はやめるべきであり、普段から教師と親とが何でも気軽に話せる関係が必要であると述べた。

（３）「教師の姿勢といじめ」　土井　進　（信州大教育学部助教授）

14年間にわたる中学校教員時代の経験談の中から、いじめに耐え切れず、母親に「死にたい」とまで言っていた生徒の事例を挙げ、いかにいじめ問題を解決していったのかを話した。学生に対し、一人一人の生徒の心が分かる先生になって欲しいと述べた。

（４）「いじめの着眼点・早期発見・対策」　守時　公枝　（教育専門相談員）

現代の「いじめ」は調べれば調べるほどわからなくなる。いじめの対策のポイントは、まず親・教師・地域の人々が子どもを受け入れる「受容」、子どもからの「信頼」、そして子どもといっしょに考えていく「共感」であると主張された。

（５）「学校現象としてのいじめ」　越智　康詞　（信州大学教育学部助教授）

まず、いじめは「子どもにつきもの」「撲滅すべき」という考えは誤りであることを指摘した。「自分自身を愛すること。自分が社会の中で、安心して、自由に、自信をもって生きる権利」としての“人権”というルールを学校の中に確立することが重要であると強調された。

（６）「いじめ報道について」　鈴木　英二　（読売新聞記者）

自らが長年に渡り取材をしてきたいじめに関わる事件の真相に触れつつ、記者の立場からいじめ問題を扱うことの難しさと、学校側のいじめ問題に対する対応のもどかしさを率直に述べた。学校は本来、子どもたちが一番安心できる場所でなければならないと主張した。

（７）「経営者からみたいじめ」　葛田　英男　（社会保険労務士）

かつて子どものころ自分がいじめる側になっていった経緯や、ある会社の社長の若い社員に対する態度などを事例として取り上げ、人を指導する立場にあるものの心構えについて熱っぽく語った。教師は、労働者ではなく、単なる先生でもなく、聖職者であれと学生に訴えかけた。

この後に行われた質疑応答では、高山さんがいじめを乗り越える原動力となった力は何だったのかという質疑応答や、いじめにあっている子どもを持つ母親が、「先生はいじめられて悩んでいる子どもに目を向けてくれない。本当に親身になって話を聞いてくれる先生がいてくれれば…」、と涙ながらに訴える一幕もあった。

３．　分科会の様子

午後の部では、約 50 名の参加者が 4 つの会場に分かれて分科会が開かれた。分科会の様子は次の通りである。

（第１分科会）　「いじめにあっている子どもへのカウンセリングについて」

第一分科会では、「カウンセリング」と「コンサルテーション」の違いや、カウンセリングの心得を葛田氏から教わりつつ、カウンセリングのあり方について話し合いの機会が持たれた。参加者からは、“聴く”ことの大切さを実感したなどの感想も聞かれた。

（第２分科会）　「家庭・地域・学校はどのように連携できるか」

第二分科会では、文部省のいじめに関するアンケート調査で、多くの親が子どものいじめを知らなかったという結果が出たことを切り口として、親子間のコミュニケーションの不十分さがどこからきているのか討議がなされた。さらにもう一度“人権”の大切さを確認しあったが、悩んでいる親と学校との接点をどのよううに見出していったらよいのかについてもっと話し合いたかったなどの感想もあった。

（第３分科会）　「教師として何をすべきか」

高山氏と、氏の呼びかけに応じて参加していた中学当時の学級担任とが、それぞれの立場で当時を振り返りお互いの心境や事情を打ち明けた。教師と学校体制の問題点も浮き彫りにされた。参加していた学生は教師の置かれている厳しい状況を認識しつつも、負けないように頑張っていきたいと口々に語っていた。

（第４分科会）　「いじめによる不登校について」

(いじめにあっている) 子どもが自分の思いを言える場所がどこにもないことは大きな問題であり、そういう意味で「言える場」としてのフリースクールの存在は大きい。不登校児を抱える親も世間体を気にせず、子どもに決定権があるのだということを教師も含めて理解する必要があるのではとの提案がなされた。どんな時でも「自分の居場所」は必ずあるのだということを本人のみならず周りの人も知るべきであるという意見もだされた。

４．アンケート調査報告

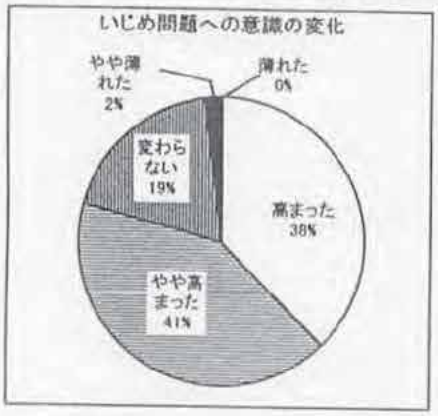
参加者：　約１００名（のべ約１３０名）／ 回収率：　約５０％

（1）「いじめフォーラム’９６」への参加の動機

もちろん参加の動機は様々であるが、いくつか紹介してみると、「子供がいじめで苦しみ、不登校になっているので」、「教育の現場にいる人たちが何を考えているのか知りたい」、「学齢期の子供を抱

えており、いつ我が子が（いじめに合い）自殺に追い込まれるかもしれないという切実な気持ちから」といったものが挙げられる。教員志望者（教育学部生を含む）のほとんどが「教師になったとき、いじめ問題は避けて通れない」ものであり、「いじめについて理解を深めたかったから」といった意識で参加しているようである。また、いじめを広くとらえ直したい、家庭内にもいじめがあることを知ってほしい、といった動機で来られた方もおられたようである。

（2）フォーラム参加前後の意識の変化



実際にフォーラムに参加した後で、参加者の意識がどう変わったのかも調べた。「（Q４）参加してみて、『いじめ問題』に対する意識が高まりましたか？」の問いに対し、回答者 48 名のうち「高まった」…18 名（38%）、「やや高まった」…20 名（41%）、「変わらない…9 名（19%）、「少し薄れた」…1 名（2%）、「薄れた」…0 名（0%）という結果になった。「高まった」、「やや高まった」を合わせると約８割もの参加者がフォーラムを通していじめ問題への意識を高めたことになる。

（3）いじめ問題の原因はどこにあるのか

アンケートＱ１、Ｑ５での「学校でのいじめがおこるのは、どこにどの程度問題があるからだとお考えですか」という設問の回答を基に、いじめ問題に関する全体的な意識、またフォーラム前とフォーラム後の意識の変化を比較してみた。

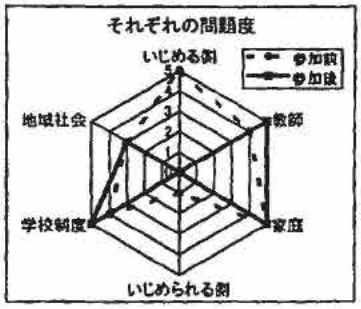
フォーラム前後とも、参加者全体の傾向として家庭・地域社会の度合いに比べ教師・学校制度の方の度合いがより高いことが分かった（ただし、スタンス別の人数のばらつきに偏りのあることを考慮に入れていただきたい）。もう少し細かく見ていくと、「いじめる側」への意識が変化していることが分かる。フォーラム後には「いじめる側」への問題度が多少低くなった。これは、「いじめる側もいじめられる側も心にひずみを持って」おり、それは周囲の人々の影響によるものであるという意識を持つようになったからのようである。

もう一点の傾向として、「学校制度」の問題とする度合いがより高くなった。これはあくまで筆者の推測であるが、家庭・地域社会の方々がそれまで教師個人がいけないと思っていたのに、教師は教師で学校という管理社会のもとで時間的にも物理的にも身動きが取れない状況下におかれていることが分かった。すると、問題は教師に子どもとじっくり向き合う余裕を与えていない学校制度にあるのでは、という意識の展開があったのではないかと思われる。見方を変えれば、これは様々な立場の生の声を聞くことにより、それぞれの立場を幾分なりとも理解できたことも示唆しているのではないだろうか。

以上のことは、特徴的な部分だけを切り取りクローズ・アップして述べただけであり、「いじめた側に問題はない、問題は教師や学校制度にある」と一概に断定できないことを付け加えさせていただく。

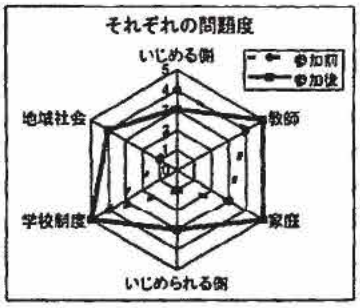
（4）参加者個人の意識変化とその理由

全体の変化では分かりにくい、個々人の意識の変化を見ていただくため何人かの回答を勝手に選択し掲載させていただく。



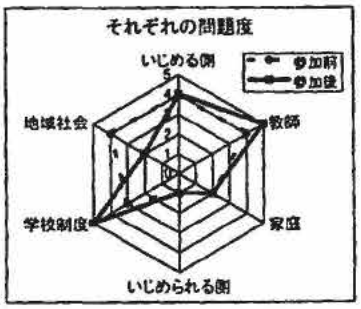
（本人のコメント）

＊いじめる側であれ、いじめられる側であれ、子供は悩んでいて、ＳＯＳを出している気がする。いじめ問題はそのＳＯＳに気づかない社会、親、教師に問題があるのでは？と思うようになった。(20 代女性)



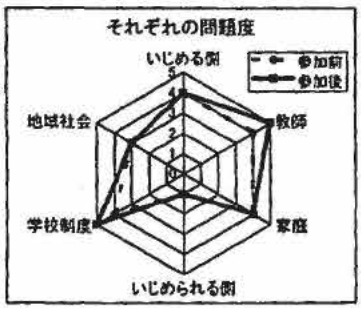
（本人のコメント）

＊学校制度や教師が子どもを縛りつけていると思います。それにいじめられて学校に行きたくない子供がいても親が自分の世間体を気にして無理矢理行かせようとするし、いじめる側も家庭の環境が関係していたりするから家庭の影響もすごいあると思ったからです。(10 代女性)



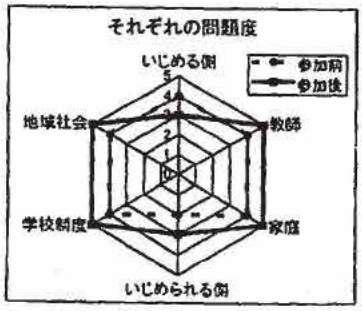
（本人のコメント）

＊いじめの風潮のようなものは、大人の社会、周りの地域社会がもっと大きく影響していると思ったが、学校における日々の生活からの様々なストレスが、いじめが起こる大きな原因ではないかと感じたから。そのためにも、もっと子どもが息を抜けるような学校制度にしていくことが大切なのではと思ったから。 (20 代女性)



（本人のコメント）

＊子供を理解できない親（家庭）、教師、いじめに対応するだけの意欲も時間的余裕もない学校制度に特に問題があると思った。いじめに関心がありつつも行動に移さない社会や、登校しない子に対して冷たい目を向ける社会、教育のゆきとどかない家庭の問題もあります。いじめる側にもいじめられる側にも悪い点があり、（一方）被害者とみてとれる面もある。今の学校制度は、子供にもよくない。 (20 代女性)



（本人のコメント）

＊教師に問題があると感じるのは、いじめ問題が自殺という形で世間の目にさらされた時の対応に見られるような逃げの傾向があること、見て見ぬふり、状況を把握する時間が長すぎることによって、結果的に何もしていない時間をつくってしまうこと、そういうのが多すぎる。また、いじめは学校に原因があるとして、自分たちにフィードバックしない家庭にも問題はある。いじめ問題に十分かかわれるような時間がない学校制度にも問題はあると思う。でも、いじめが学校で起こる起こらないにかかわらず、社会全体のひずみが原因ではないかと考える。 (20 代女性)

（5）参加者の声

ここでは、Ｑ７．「いじめ問題」の改善策について、あなたの考えをお聞かせください。」、Ｑ８．「あなたはこれから『いじめ問題』とどのように関わっていきたいと思いますか。」の二項目の問いに寄せられた参加者の声の一部を抜粋した。

①いじめ問題の解決策について

○「いじめられる」ことを恐れるのではなく「いじめる」ことを恐れるような意識改革が（親、子ども、教師の三者とも）必要である。　（教員をめざす人、20代男性）

○長野県の教育現場は忙しいです。体制として、ゆとりがほしいですね。そうでないと子どもの声さえ聞けませんから。教師一人で悩まないことですね。民間などのサークルに参加していくとよいのでは。（教員・学校関係者、30代男性）

○周りには「支え」があるんだという思いを持たせてあげられるようなカウンセリングをする。（教員をめざす人、20代女性）

○学校が悪い、家庭が悪い、社会が悪いといった原因のなすり合いの域から抜け出さないと、改善の糸口は見つからないと思う。いじめに気付くか気付けないかが問題なのではなく、そういうアンテナがないことを問題にすべきだ。　（一般・その他、２０代女性）

○やはり教師が一つ一ついじめに対して子どもの心をわかっていくことで解決していくことだと思います。（いじめにあった子の保護者、女性）

○「いじめ」という陰湿なものでなくするためには、（1）逃げ場所をつくる。（2）自信を持たせる。（いじめに苦しんでいる（苦しんでいた）当人／いじめにあった子の保護者、40代男性）

○子どもは「自信を持って、安心に自由に生きる権利がある」、それは自分だけではなくて他の人も皆同じなのだと改めて思いました。このルールが守られるようになれば、いじめる側も、いじめられるひとも、もっと自由に安心して生きられるのではないかと思います。　（教員をめざす人、20代女性）

②「いじめ問題」とどのように関わっていきたいかについて

○子どもと、上から、横からでなく、正面から向かい合っていきたい。（一般・その他、20代女性）

○今までは傍観者の立場だったけれど、見て見ぬふりはやめようと思います。フリースクールのことなっと調べていこうと思いました。　（一般・その他、10代女性）

○「学校をどうかえていくか。」を考えていくこと。そして、地域の教育委員会など、かえていく必要も感じています。楽しい学校を作りたい。　（教員・学校関係者、30代男性）

○教員志望なので第三分科会に行きましたが、どちらかというと教師の擁護論で終わってしまったような気がします。教師の板挟みの苦しさもわかりましたが、それでもあえてその壁にぶつかっていく方法を模索して態度や姿勢を忘れないようにしたいと思います。　（教員をめざす人、20代男性）

５．まとめと結び

こうしてアンケート調査の結果を眺めて見ると、「いじめ問題」の原因は教師や学校制度にあるという意識の高いことが分かった。しかし、個人レベルの意識を見てみると、紙面には載せきれなかったものも含めて、実に様々なとらえ方がなされており、「いじめについては学校・教師に一番の問題がある」とは必ずしも結論づけられない。たとえ問題があるとしてもそれはやはり程度の差でしかない。「いじ

め問題」は、「（資料を）読めば読むほど分からなくなってくる」と守時氏がおっしゃった言葉に象徴されるように、複雑で根が深い。またある参加者が言われたように、「この人にこのくらい問題があるか、・・・責めっぽく」なっているだけではいけないのだろうと思う。確かに学校制度にかなりの問題はありそうだ。是非とも改革を、と望んでいるのは教師も地域社会の人々も同じだと思う。しかし、この調査を行ったのはいじめ問題について責任の所在を明らかにし、断罪するためではない。結果についてはそれぞれの立場の人々が真摯に受け止めるべきだとは思う。しかしもっと大切なことはフォーラムで学んだこと、感じたことを基に一人ひとりが行動を起こすことだと思う。社会の一員として、人間としてすべきこと、できることを十分にしていない一人ひとりにこそ「いじめ問題」の一番の責任があるように思てならない。もう一度「いじめ問題」について深く考え、それぞれにできることを実行していただければ、このフォーラムが設けられた意義もさらに深まるだろうと思う。

最後に、当フォーラムの開催にあたり、快く責任を引き受けてくださった発表者ならびに、分科会の司会者の方々（高山勝氏、幅佳織氏、土井進教官、守時公枝氏、越智康詞教官、鈴木英二氏、葛田英男氏、今井康哲教諭、国安哲夫氏、漆戸邦夫教官）、そして企画・運営・報告書編集の各段階で献身的な協力をしてくださった信州大学の同志諸君（井出窪孝子、寺田慶子、吉越優子、小池祐介、北島茂樹）に深く感謝申し上げたい。

第８回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講　座　名	お父さんもキャプテンだ！	平成8年　5月25日（土）（午前）
キャプテン名	渡辺　隆一　（信大助教授）土井　進　（信大助教授） 竹下　雅道　（数学専攻３年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　２名 参加者数　８名
指導教官名	吉田　稔教官	活動場所　Ｎ２０２教室

講座のねらい

伝承遊びや野外活動の素晴らしさを実感してもらい、お父さん方がそれらを各々の地域に持ち帰り、日頃の活動に役立てると共に、親子の交流を深めるきっかけとする。

講座の展開

時間	計画	内容
２分	・挨拶（渡辺先生、竹下） ・オカリナの演奏（竹下、平林）	・挨拶をする。 ・オカリナで「かっこう」を演奏する。
３０分	・人間知恵の輪（渡辺先生）	・全員で、手を交互につなぎ合わせていき、人間知恵の輪を作る。
１８分	・他己紹介（２人ずつ） ・他己紹介（全員）	・２人でお互いに自己紹介をする。なるべく相手をほめるように努める。 ・全員の前で他己紹介する。
１０分	・パフォーマンス（工作）（全員）	・各地の伝承遊び（けん玉、ヨーヨー、玉すだれ、ベーゴマなど）を紹介する。 ・お父さんが用意してくれた技のお披露目をする。
２０分	・ミーティング（お話し会）	・渡辺先生を中心に野外活動の話しをする（お茶を飲みながら）。
４０分	・共同制作（熱気球） ・修了証を渡す。	・薄く黒いビニール袋をつなぎ合わせ、細いエナメル線でバランスをとり、固形燃料を燃やす（閉会式の成果発表で子どもたちをドッとわかせる）。 ・修了証を渡す。

お父さんもキャプテンだ！

竹下　雅道（数学専攻　３年）

１．講座を開くにあたって

僕は、「子どもは親の背中を見て育つ」と思います。お父さんが地域活動などに参加して、子どもたちと共に昔の遊びなどを体験することを通して、子どもは「お父さんてすごいなあ」と思うでしょう。僕はこれが大切ではないかと思います。しかし最近、こういった親子の触れ合いが減り、子どもが父親を尊敬することが少なくなったと思います。

そこで今回、地域のお父さんから、伝統文化などを私たちが学び、ＹＯＵ遊サタデーに生かしていきたいと思いこの講座を開きました。

２．伝承遊びや野外活動について

子どもたちの遊びが変わってきたのは、今に始まったことではありません。遊ぶための自然空間や時間がなくなるとともに、昔の遊びはどんどん姿を消しました。その一方で、テレビゲームが増えてきました。テレビゲームは自分流のやり方や子どもなりのルールを挟む余地もなく、ひたすら飽きるまでやったら次のソフトを求めます。自由な発想などに欠けています。昔から伝わる伝承遊びは、自分でそれなりに試行錯誤をしたり、練習をしなければ、うまくなりません。自分で何か技ができた時の喜びは絶大なものです。自分の体を使って得た楽しみというのは、心に残ります。心の躍動を体験できるのは、「伝承遊び」だと思うのです。

また、自然は子どもたちの知的好奇心を育ててくれます。手や体を使った体験の乏しい子どもは、生きた知識を獲得できません。与えられるだけの楽しみ方に対して、自分で作り出す能動的な楽しみ方は、内側から知恵や判断力を呼び起こします。子どもたちが思いきり力を出し、思いきり心を動かし、自分の可能性を十分に高める能力を子どもたち自身で身につけていって欲しいです。

３．参加者の声

- 人間知恵の輪等、大変勉強になりました。
- とても楽しかったです。有り難うございました。親子で遊べる簡単なコマやゲームなどを教えていただいて有り難うございました。また、参加したいです。
- 若い学生さんたちとのひととき楽しかったです。
- 自然の中で親子で楽しめるいろいろなことも知り皆さんとお話するなかで吸収できたことが良かったです。また皆さんとお会いできることを楽しみにしています。ご活躍下さい。
- 人間知恵の輪が楽しかったです。他己紹介も良かったです。いろいろな話が聞けて良かったです。熱気球がちゃんと飛んでよかったです。

４．反省にかえて

自分が予想していた以上にも、お父さん方も、子どもとそう変わりはないと実感しまし

た。人間知恵の輪を楽しむ姿は子どもそのままの姿でした。大人だから子どもとちがうのではなく、大人も子どももともに育っていくことが最も大切な事ではないか、と思います。子どもとのかかわりの中で、これから大切な事を見つけて、そして考えていかねばなりません。

急ぎすぎ、与えられすぎている子どもたち、子どもたち一人一人の個の価値を認め、子どもたち自身が欲することを正確にキャッチすることが大切だと思います。

「共に育つ」ことができるよう今後も精一杯やっていきたいです。

第８回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講　座　名	ガリガリ竹とんぼ	平成8年　5月25日（土）（午前）
キャプテン名	吉澤　嘉寿　（何でも手作り吉澤学校主催） 丸山　和利　（理科専攻４年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　６名 参加者数　２１名
指導教官名	岩井　邦中　教官	活動場所　Ｎ１０４教室

講座のねらい

ガリガリ竹とんぼを制作しながら、刃物（切り出しナイフやカッター）の扱いに慣れ、自分自身でものを作り出す楽しさを感じることができる。

講座の展開

時間	過程	子供たちの活動内容	キャプテンスタッフの支援・配慮	教材
２０	導入	１．自己紹介 ・一緒に活動する友達、キャプテン・スタッフの顔と名前を覚える		
８０	展開	２．ガリガリ竹とんぼとの出会い ・ガリガリ竹とんぼの紹介 ３．ガリガリ竹とんぼの作り方を知る ４．ガリガリ竹とんぼの制作、そして遊びへ ・プロペラの工夫 ・時間に余裕のあるときは、吉澤さんを中心にノーマル竹とんぼ等の制作も行う	・刃物の扱いの指導。 ・安全面に注意する。 ・子供たちの光る部分をみとって全体へ返す。 ・ガリガリ竹とんぼはなぜ回るのか不思議に思う気持ちに共感し、子どもによりそっていく。	ガリガリ竹とんぼ 制作方法、注意事項を書いた模造紙 材料 道具
２０	まとめ	５．後片付け（そうじ）をする ６．作品発表をし、修了証を受け取る ７．カードに感想等を書き、提出 ８．図書館２Ｆへ→閉会式	・この講座を受講して良かったという満足感と、１人で作った達成感を味わってもらえるようにする。 ・子どもたちを誘導する。	修了証

ガリガリ竹とんぼ

吉澤　嘉寿（何でも手作り吉澤学校）
丸山　和利（理科専攻　４年）

１．講座を開くにあたって

吉澤さんは、昨年度の９月の第５回ＹＯＵ遊サタデー「お父さん地域で講座を開きませんか」に参加され、その後、松本で行われた第７回ＹＯＵ遊サタデーでは「刃物研ぎ方教室」を開講してくださいました。

今回開いた講座は、以前からキャプテンを務めてみたいと考えていた私に、いい題材があると吉澤さんからガリガリ竹とんぼを勧めていただき、開設したものです。私自身このガリガリ竹とんぼに非常に興味を持ち、これならきっと子どもたちも興味を持つに違いないと考え、これをぜひ講座として扱ってみたいと思い、吉澤さんに製作技術等を伝授していただき開講するに至りました。本講座で使用した主な材料と道具は吉澤さんに提供していただきました。

２．教材研究（ガリガリ竹とんぼについて）

ガリガリ竹とんぼの構造については、こするところのギザギザを等間隔につけた方が良くまわるようです。また実際には、のこぎりの歯をあてて、少し傷をつけただけでもまわるので、後はデザインの要素も多く含んでいると思います。用いた材料や仕上がり具合が良いとプロペラが両回転できるものも偶然に出来上がることもあります。

プロペラがはずれないように、先端部分に栓をしなくてはならないのですが、吉澤さんが「何でも手作り吉澤学校」でも使用している柳の枝を輪切りにしたものを栓として使いました。これは、枝の中心部が柔らかく、先端をとがらせると穴を開けずに刺すことができ、また仕上がったときの見た目が非常によいということから使用しました。ちなみに、栓はプロペラがはずれるのを防止するためのものですから、セロテープを巻いたり、消しゴムを刺したりと代用品は様々です。それから、プロペラに色を付けてガリガリ竹とんぼをまわすと、それが模様になります。このときは、牛乳パックや厚紙で作ったプロペラに色を付けるととてもきれいな模様ができます。

最後に、本体の先端部分（プロペラのあるところ）を削るときは、刃物の使い方が特に難しいので、指を切らないように細心の注意が必要です。また、この部分を丸く削ることだけに意識を集中してしまいますと、この部分を細くし過ぎてしまう恐れがありますから注意が必要です。

３．講座の様子（子どもの動きとスタッフの働きかけ）

子どもたちはガリガリ竹とんぼに非常に興味を示して、熱心に取り組んでいました。子どもたちはもちろんのこと、保護者の方でも結構苦労していたので、かなり難しかったと思われます。そんな中、持ち物の中のペンを使って、プロペラに色を付ける子どもがいてとても驚きました。スタッフが、教えたわけでもないのに、自分から工夫していたからです。そこで、こちらで準備した色付け用のプロペラの材料である牛乳パックを渡したところ、とてもきれいな模様を描いていました。このような子どもの動きがあったことはとても良かったと思います。

スタッフは、３人の子どもに１人の割合でつきました。スタッフ１人ひとりが徹底して安全指導を行ったため、けが人は１人も出ませんでした。しかし、全体に刃物の扱いに不

慣れな今の子どもたちの状況から考えると子ども２人に１人、あるいは、マンツーマンでスタッフがつくことが望ましいと思われました。

最後になりますが、講座が終わって午後になっても、本部テントのところでガリガリ竹とんぼを見たり、まわしたりする子どもがたくさんいました。また、普通の竹とんぼの材料も用意してあったので、そちらの製作に取り組もうとする子どもも見られました。子どもたちが手作りおもちゃである竹とんぼに興味を持ってくれて本当に良かったです。

４．講座を通しての反省と今後の課題

まず、良かったことは、けが人が出ず安全に終われたことと、天気が良かったので屋外で制作が行えたことです。

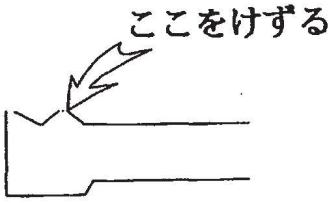
反省点としては、思った以上に今の子どもたちにとって刃物を使うことは難しいことなので、２時間では納得のいく完成までに少々時間が足りなかったことが挙げられます。しかし、製作に時間はかかるものの、刃物を扱うことに子どもたちは恐がっていないようでした。ただ刃物を使うことに慣れていないだけで、安全面に気を配って正しい使い方の指導をすれば、その子なりに刃物を安全に使いながらものを作ることが出来ることがわかりました。その証拠に、この講座が終わる頃にはだいぶ刃物の扱いに慣れ、自分のイメージした通りに刃を動かせるようになりつつある子どもが大勢見られました。このことから経験の重要さを再確認させられました。

ガリガリ竹とんぼは、本体のぎざぎざをこするとプロペラが回り出すという大変面白い手作りおもちゃで、子どもたちにとっても、また大人にとっても大変興味をそそられるものであると思われます。そこで、今後の課題として、このガリガリ竹とんぼをもっと地域に浸透させられたらと思うので、今後もしこの講座を行うことがあれば是非ＨＯＷ　ＴＯサタデーに載せて欲しいと思います。

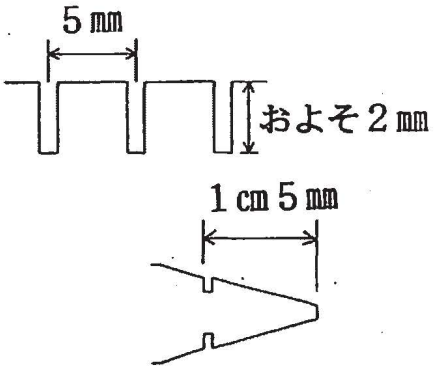
最後に、本講座を開講、運営するにあたって、多大な助言と御指導をしていただいた吉澤さんに心から御礼を申し上げます。また、援助して下さった学生スタッフの皆さんに感謝の意を表します。

ガリガリ竹とんぼの作り方

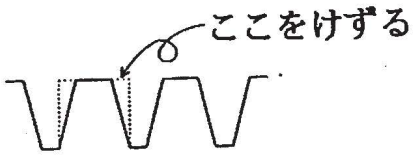
① 竹の割りばしを２本に割る。割った部分はささくれているので最初にけずっておく。



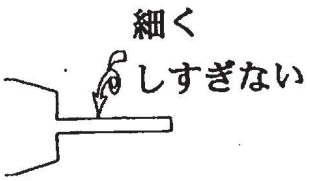
② 割りばしに鉄ノコ（金ノコ）の刃でおよそ**5㎜間隔**で切り込み（深さはおよそ２㎜）を入れる。はしの先からおよそ**1㎝5㎜**のところを鉄ノコを１周させて軽く溝を掘る。



③ 切り込みの両側からナイフでけずって**台形**の形をつくる。

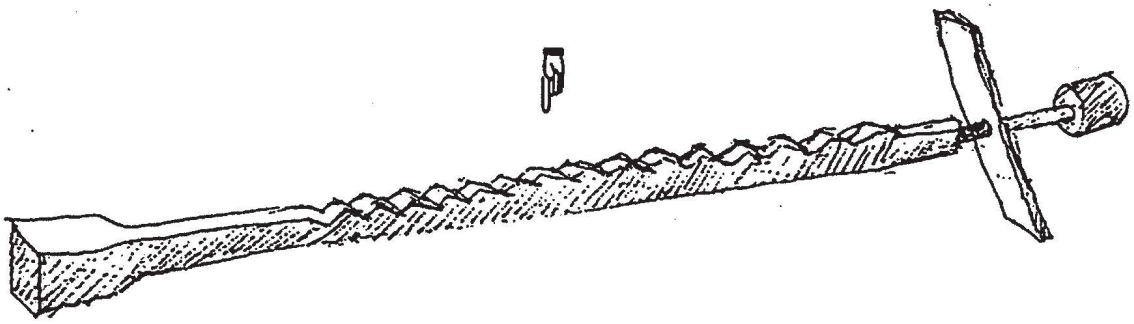


④ はしの先をプロペラの穴に合わせて細くする。**細くしすぎない**ように注意する。



⑤ プロペラを差し込んで楽々回ったら、栓をして出来上がりです。

ここのギザギザを「ガリガリガリガリ・・・・」とこすると
プロペラが勢い良く回りだすぞ！



第８回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講　座　名	続・教育学部って どんなところ	平成8年　5月25日（土） （午後）
キャプテン名	片桐　宏　（大学院1年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　１５名 参加者数　２６名
指導教官名	北澤　競　教官	活動場所　Ｎ１０１

講座のねらい

教育学部への進学を希望する高校生たちに、学生の体験を聞いてもらったり、ＹＯＵ遊サタデーを参観してもらったりすることにより、教育学部に対するイメージを豊かにしてもらう。

講座の展開

過　程	参加者の活動内容	キャプテン・スタッフの支援計画	備　考
導　入	・自分の出身地，氏名，学年，この講座に何を期待するか等を含めて自己紹介をする。 ・この講座は受験勉強のノウハウが伝達されるのではなく，教育学部がどんな教育研究活動を行っているのかＹＯＵ遊サタデーの見学や学生の生の体験談を聞くことによって，教育の営みの一断片を考えてみることを目的にしていることを理解する。	・キャプテン→参加者の順番に自己紹介をする。和やかな雰囲気になるような導入の工夫。 ・この講座の主旨をレジュメに沿って説明する。教育学部の公式な説明会とはひと味違ったガイダンスであることを伝える。	・レジュメ ・授業計画の冊子 （これらはあらかじめ配布しておく）
展　開	・教育学部の組織，意義，学生の活動等についてレジュメや諸資料，キャプテンの体験談を聞く中で，イメージを膨らませる。 ・ＹＯＵ遊サタデーの活動を理解し，シャボン玉講座を実際に参観，参加することによって，教育という営みにおける子どもとの関わりについて考えてみる。 ・自分の希望する専攻の学生の話しを聞いたり，自分の疑問や悩みを語ることによって，教育学部や学生生活についてより具体的なイメージを膨らませる。	・レジュメや諸資料をもとにしながら，自分の体験を交えて学生生活，教育学部について説明する。その際に，教育学部が主に教員を養成するための専門機関であること，カリキュラムや学生学生生活もこれに沿ったものであること，大学生活は個人の自由と責任と義務に委ねられており，自主的な活動が大切であること等を中心に押さえる。 ・ＹＯＵ遊サタデーの活動について概説し，シャボン玉講座を参観，参加することで「教育」の営みの一断片を直接体験してもらう。 ・受講者の希望する専攻ごとに分かれて専攻ごとのガイダンスを行う。受講者の個人的な悩みや質問に答えることによって，今までの総括の場とする。	
まとめ	・アンケートに回答することによってこの講座の評価をする。	・アンケート用紙を配布し，受講生からの評価の資料を得る。 ・キャプテンが本講座の総括をし修了証を配布する。	・アンケート用紙 ・修了証

続・教育学部ってどんなところ

片桐　宏（大学院技術教育専修　1年）

1．講座開設の経緯

私はＹＯＵ遊サタデーが産声をあげたときから講座を開講した，しないに関わらず，何らかの形で，このＹＯＵ遊サタデーに関わってきた。正直のところ大学院進学後はＹＯＵ遊サタデーとは「おさらばしよう」という気持ちでいた。フレッシュな後輩たちが，彼らのｃｏｌｏｒで新たなＹＯＵ遊サタデーに盛り上げていってくれれば……と思うと「老兵はただ去るのみ」の言葉が似合った。そんなことを考えつつ，大学院での第二の学生生活が始まって間もなくの頃，留守番電話に土井先生からのメッセージが入っていた。「片桐さん，教育学部の講座紹介のキャプテンとして是非お力貸していただけませんか」。土井先生との直接的な関わりは学部時代３年生の事前事後指導アンケートの教育ボランティアの欄に「子どもたちと竹馬づくりでもやってみたい」といった旨を綴ったことに始まる。教育実践に熱心な土井先生，ひいては，ＹＯＵ遊サタデーとの出会いが無ければ，私の大学生時代は「無味乾燥」なものになっていたのかもしれない。土井先生をはじめとする多くの「同朋」との出会いやＹＯＵ遊サタデーとの関わりで，私自身充実した大学生活を送ることができた。これらの方々に感謝し，信州大学教育学部から受けた様々な恩恵を些少ながら還元する意味を込めて，さらに，将来の「ＹＯＵ遊サタデーの舵取り」の発掘（？！）をも含めて，本講座を開設することにした。

2．講座の目的

講座名を「続・教育学部ってどんなところ」としたのは，根本的には昨年，一昨年までの宮澤弘至先輩が開講された「教育学部ってどんなところ」を引き継ぎつつ，さらにプラスαを目指したい，といった私自身の新たな希望を含めているからである。私が本講座を開設するにあたり特に重要視した点は次の２点である。

①「提供する情報の質」を高くしたい

信州大学教育学部だけではなく，大学入試に関する情報は多かれ少なかれ，受験産業界からきめ細やかに広く提供されている。とかく，受験生にとって「これくらいのレベルだったら入れそうだ」という情報は，大学選択のための重要なファクターになっている。そのため，本来持っているはずの「自分が何をやりたくて，この大学に入りたい」といった「目的意識」が後回しになってしまうきらいがある。不本意入学の末，無味乾燥な大学生活を送ってしまう学生が見受けられる現状の中で，将来の信州大学教育学部の担い手になりうる高校生たちに，ぜひとも大学生活を有意義に過ごしてもらいたい…，そんな私の強い思いから，大学受験情報雑誌や大学説明会などからでは得られにくい「学生の立場から見た大学情報」と，普段私たちが「教育」という営みに対して何を思い，何を考えて生活しているのかという「学生生活の情報」を提供したいと考えた。

②「ＹＯＵ遊サタデー」の中から教育という現象を体験してもらいたい

このことは，宮澤先輩がいう「他の講座を参観させてもらい‘教育’という現象を実際に見てもらい実感してもらう」ことと同じである。あらかじめ参加者に，どんなことを聞きたいのか，調査をしてみたところ，教育学部へ進学を希望している高校生たちにとって最も関心のあることは，大学でどんな授業があるのか，どんな資格がとれるのか，といったいわば「教務」的な内容であった。わざわざ教育学部まで足を運んでもらって，学生便覧や教育課程一覧表にあることを椅子に座って聞くことよりも，学生と子どもたちが直接触れ合って遊び学んでいる姿を見てもらったり，実際に子どもと関わってもらうことの方が教育学部進学を考える際の貴重な体験になるのでは，と思い，本講座の中にＹＯＵ遊サタデーの参観を位置づけたい。

以上の２点を考慮して，続・教育学部ってどんなところの講座の主旨は，教育学部に進学を希望している高校生や教育学部の研究活動・学生生活などの様子に興味関心をもっている人に，教育学部のイメージを少しでもふくらませてもらい，ＹＯＵ遊サタデーを参観することにより「教育」という現象を肌で感じてもらうこととした。

３．講座内容と方法

私自身，このような教育学部紹介の講座は初めてだったので，昨年，一昨年の宮澤先輩の実践記録をおおいに参考にさせていただいた。また，参加者にはあらかじめ，聞きたいことや希望専攻を聴取しておき，講座内容を決定する際に参考にした。なお，今回の講座概要は次の通りである。

①信州大学教育学部の紹介（ハード面・ソフト面）
②大学生活について（学習面，生活面，その他諸々）
③ＹＯＵ遊サタデーの紹介
④ＹＯＵ遊サタデーの参観（しゃぼん玉講座）
⑤希望する専攻ごとに分かれての進学相談

参加者には，「信大ＹＯＵ遊サタデーの目指すもの」（ＹＯＵ遊サタデー実践記録より抜粋），「共通教育センターと教育学部各専攻の紹介」（信州大学広報誌より抜粋），「教育学部の暦」「教育参加実施計画」「教育実習事前・事後指導実施計画」「臨書経験の大要」「各課程別の卒業用件」（教育課程一覧表より抜粋）等の諸資料と，「教育学部のソフト・ハード面の概要」，「学習面・生活面について」等の私の主観をも交えた雑記とをまとめた「レジュメ」，教務係のご協力を得て「平成８年度授業計画」の冊子を参加者全員に配布した。①～③については私がひたすらしゃべり，大学の「講義」を擬似的に経験してもらった。④については実際に教室外に出て子どもの輪の中に入り，でっかいシャボン玉をつくろう講座を参観，もしくは参加してもらった。そして，⑤についてはあらかじめお願いしてあった各専攻の学生に専攻の概要や様子を話していただいたり，参加者からの質問や悩みに答えたりしていただき，より具体的な進学相談とした。

4．当日の様子

今回の参加者は当日参加者も含め，２６名と過去にない盛況ぶりであった。参加者のほとんどが高校３年生で，高校１年生，高校２年生，浪人生，主婦の方の参加もあった。開会式が済み，教室へ移動しながら簡単な建物と掲示板についての紹介を行った。「大学は高校とは違い呼び出し放送がほとんどない」ことを話したら参加者がとても驚いていた。教室に入ってからは，私自身の簡単な自己紹介を行い，参加者にこの講座に期待することを交えた自己紹介を行った。私の高等な（？！）ギャグや笑い話の効果もむなしく，緊張感のみなぎった開講になってしまった。資料に基づいて説明を始めると熱心にメモをとったり資料に目を通す人もおり，かえって私の方が緊張してしまった。私もあらかじめ話すことを整理してきたつもりであったが，あれも話したい，これも話したいで，的を得た話ができなかったように思えた。大勢の前で簡潔に要領よく話すことの難しさを体験できたのは幸いだった。では，参加者にどのような話をしたのか，「当日のメモ」から掻い摘んで以下に述べることにする。

まず，信州大学教育学部が「教員養成」のための専門機関であること，時代の変化と社会の要請等から，新しく生涯スポーツ課程や国際理解の専攻が設置されたこと，教養部の解体等にともない，カリキュラムが変わったこと，等についてその概略を説明した。新カリキュラムのもとでは，自分がどの分野の「副免」を取得するのかを入学したときから考えていかなければならない。つまり，入学すると同時に，大学４年間の方向付けがある程度なされてしまうわけである。このような意味から，不本意に教育学部を目指したり，目的意識を持たずに入学した場合，「苦しい」「つまらない」４年間になってしまうこともあり得るのである。ここで私は，教育学部が以上の意味から「就職予備校」といった側面をも持っていることを高校生にまず認識してもらうように強調した。

次に，事前アンケートでも質問の多かった「どんな免許が取得できるか」について，学部の各課程ごとの卒業要件と関連させながら説明した。高校生にとっては，自分の時間割は自分で作ることが「未知」に感じたらしく，「全員時間割が違うんですか？」という質問も飛び出した。そこで，大きな時間割表と冊子「平成８年度授業計画」について簡単に説明しながら，自分の専攻の卒業要件を満たせば，最低１つの免許状が取得できること，そういった意味でも，免許状取得が卒業するための１つの要件であること，更に，現在では２つ以上の免許状を取得することが求められていること等についても触れた。高校生たちにとっては，少々難しい話だったかもしれないが，前述のように興味を持っている事項の１つだと考えて，あえて詳しく説明した。

続いて，私の学生生活について笑いを交えながら話した。この中で，教育実習や卒業研究等の学習面での苦悩や喜び，アルバイトや一人暮らしの経験，サークル活動や「盃」を交わす仲間のこと，等について恥ずかしながら「暴露」（？！）した。私が高校生たちに伝えたかったのは，大学生活は「義務」と「責任」と「自由」の３側面の中で，自分からいかに「考えて，行動するか」にかかってくること，そして，私の主観が入っているが，「故郷」の自分の家族や親がいて，はじめて大学生活が成り立つのであり，家族や親のことをないがしろにしている人は，大学進学前にこのことを良く考えてほしい，ということであった。今持っている自分自身の夢を実現できるかは，残された高校生活や受験勉強に

主体的に関わることにも依ってくるだろう。これらの点は高校生への激励の意味を込めつつ自分自身への戒めの言葉として強調したつもりである。

引き続き，ＹＯＵ遊サタデーの概略について簡単に説明し，本講座の１つのメインでもある，シャボン玉講座の見学を行った。参加者には「子どもたちと一緒になって遊んでみてもいいよ」ということをあらかじめ話しておいたものの，子どもたちの元気に圧倒されてしまったのか，それとも，どう接したらいいのかわからなかったのか，その多くは「傍観者」になってしまった。このとき，参加者たちが何を考えていたのかについては，アンケート結果を参照していただきたい。

最後に，再び教室へ戻り，参加者があらかじめ希望しておいた専攻ごとに分かれての進学相談を行った。ここでは，あらかじめお願いしておいた各専攻の学生の方に「専攻ごとのミニガイダンス」を行っていただき，参加者からのより具体的な質問等について個別に答えていただいた。お互いの住所等を交換する場面もみられ，和やかな雰囲気の中で行われたと思う。

５．参加者の声

講座終了前に参加者に無記名式でアンケートを実施した。以下，その結果を紹介する。（）内は回答した人数を示す（複数回答も含める）。回答者数２６名（回収率１００％）。

【Ｑ１】講座参加のきっかけ

・志望校だから（７）
・教育学部は何を学ぶか知りたかったから（１２）
・教育学部の中に入ってみたかったから（５）
・教師になりたいから（５）
・大学に進学するしっかりとした目的意識を持つため（３）
・興味のある専攻について知りたかったから（３）
・好奇心（３）

【Ｑ２】講座に参加してみての率直な感想（無作為抽出，原文）

・来て良かったです。がんばって是非信大に来たいと思いました（来れるかなあ）
・とても参考になった
・予想していたのと全然ちがった
・今まで全然知らない大学の授業のこととか教育学部のこととかが分かった
・疑問に思っていたことを聞けてよかった
・学校では分からないようなことが聞けた
・学生の方の教育に対するマジメさがわかって，教育の奥深さを垣間見た気がする
・自分は本当に教育学部志望でいいのだろうかと思った
・子供と同じ視点に立てず，上から見下ろすような形で「教えてあげるんだ」みたいな変な責任感を持って，肩に力が入りすぎていたのですが，その肩の力がなくなった感じがしました

・難しい話が多くてわからない所も多々あった
・頑張ってぜひ信大に入りたい

【Ｑ３】ＹＯＵ遊サタデーを見学してみての感想（回答者全員の原文）
・子供たちと一緒にあんなに楽しくやっていて驚いた
・あたたかでアットホームな所だと感じた
・久しぶりに子供と接する機会になった
・皆，とても楽しそうに遊んでいてよかった。シャボン玉（あんな大胆にすること）はなかなか家ではやれないので，子供達にとってもよい体験になるだろう
・とてもためになった
・おもしろかった
・よかったです
・もう少しいっぱい遊びたかったです
・楽しそうだった。一緒に参加したかった
・子供って何て無邪気なんだろう（悪ガキもいるけど，ボクもそうだった）
・けっこう楽しかった
・楽しそうだったけどあまりとけ込めなかった
・シャボン玉づくりを見学し，自分は子供が好きだと改めて実感しました
・思っていたよりも楽しくてよかった
・シャボン玉がきれいで，楽しそうだったので良かったです
・大学生と子供が楽しそうにしていて良かった
・子供達が本当に楽しそうにしていて学生のみなさんにとってもよい勉強になるように思えた
・しゃぼん玉のところで学生の方々と子供がとてもいい関係を作ってるのを見て，とてもいいなあと思いました。とても充実していました
・子供達にとっても学生の方々にとってもとても意義のある場だと感じました
・とても楽しそうに見えて，思わず一緒に遊んでしまいました

【Ｑ４】講座を受講してみての今の心境（多岐選択式，複数回答なし）
・信州大学教育学部に進学したい（１６）
・教育学部に進学しようかな（４）
・どこかの大学の教育学部に進学したい（２）
・教育学部はひょっとしたら私には向いていない（１）
・その他（３：まだ悩んでいる，興味のある分野の情報が得られて良かった）
・教育学部は私には全く向いていない（０）

【Ｑ５】その他（回答者全員の原文）
・古いと聞いていたけど本当に古いと感じた
・遠かった
・貴重なお話，ありがとうございました

・またこういうことがあったら来てみたい
・丁寧に説明していただきありがとうございました
・信州大学っていいなー
・校舎がきれいになるようで楽しみです
・絶対に合格できるようにがんばります！！
・先輩方のお話がとてもよく，目的がはっきりしてきた
・絶対来年ここに来ます！
・次のときはもっと学部ことの話をききたい

6．反省

開講してみて，教育学部とＹＯＵ遊サタデーの両方を見て体験して考えて知ってもらうには半日では足りないと感じた。私がもっと内容を凝縮してエッセンスのみを話せば良かったが，ここはひとえに私の力量不足として猛省したい点でもある。専攻ごとのガイダンスが良かったと答える受講生も比較的多かったことや，もっと参加者に子どもたちと一緒になって遊んで「教育」という現象を考えてもらいたい，という私のねがい等からも考えてみて，講座そのものの内容や形態について再考する必要があるのではないか。特に，講座の参観や参加については，たくさんの時間をかけて，参加者に積極的に関わってもらえるように，別の「体験」講座も考えてみる必要があるだろう。また，今回は受講者数制限を行わなかったので非常に盛況だったが，その反面，印刷部数の増加や教室の雰囲気等思わぬところに弊害が生じてしまったのは残念だった。

今回の講座に参加した高校３年生から暑中見舞いと年賀状が届き，その中で「私は何が何でも信州大学教育学部に入学したいです。……子どもたちがあんなに輝いて見えたのは初めてでした。私がもし教育学部に入学できたら，ＹＯＵ遊サタデーに関わってみたいと思います。 ……」と述べられていた。アンケート結果からもわかるように，信州大学教育学部にぜひとも入学したい，と思ってくれる受講生が多かったことは幸いなことであった。「教育」に対する自分の夢を高く持ちながら，子どもと「遊び」と「学び」を共感できる高校生の入学を期待したい。

最後に，加納実行委員長をはじめとする本部スタッフには，各専攻ごとのスタッフ集め，講座が休講にならぬようにと各高等学校等への案内状送付，資料づくり等，本当に尽力していただいた。私の忙しさを理由とする怠慢に対し心からお詫びするとともに，心から感謝とお礼を申し上げたい。また，急で無理なお願いを快諾してこの講座を盛り上げていただいた，各専攻のスタッフのみなさんにも，遅ればせながら，この場を借りて深謝したい。そして，私のような老兵をＹＯＵ遊サタデーの輪に加えさせていただき，私に「教育」という営みについて改めて深く考え直す機会を提供して下さった，土井先生をはじめとする関係諸氏に心から感謝申し上げたい。

7．最後に

本講座は，第９回，第１０回のＹＯＵ遊サタデーにおいても企画されていた。第９回は

私個人の都合から休講とさせてもらった。第１０回の松本キャンパスにおいては，受講申し込み者が皆無だったが，実行委員の粋な計らいにより，保護者を対象にした講座「教育学部ってこんなところ」を急遽企画したところ，６名の方の参加があった。松本キャンパスに在学中の１年生４名の協力を得ながら，教育学部紹介のビデオ鑑賞，学生生活の紹介，ＹＯＵ遊サタデーの紹介・見学，座談会を行った。その中で，保護者から教育学部生（教師をめざす学生）に望むことや期待すること等をお聞きする貴重な機会を得られた。以下参考までにここで得られた意見等を掲げておく。

・「教育」に対して，まず気持ちの面で一生懸命取り組んでいただきたい
・同じ目の高さ，同じ視野で考える先生や手を差しのべてくれる先生が少ない
・未就学児の親としては，正直の所「学校」が怖い（マスコミの影響かも）
・体罰はやめてほしい（自分が手塩をかけて育ててきた子どもに手を出してほしくない）
・学校の組織で個人の伸びを押さえないでほしい（多少のはみだしを許してほしい）
・教育熱心な先生には「理想家」が多い（自分の理想の子どもを作ろうと押しつけないでほしい）
・先生と親は人間同士。連絡が密にできる雰囲気がほしい
・親はつい自分の子どもを「キーキー」言って怒ってしまうが，先生には子どもを余裕を持って怒って欲しい
・体当たりで子どもとぶつかってほしい
・大学の先生は教育実習をすべきだ（教育学部の先生方は研究者である前に教育者であってほしい）
・学生と親（ＰＴＡ）の懇談会を設けてみては？

小麦粉粘土

坂本 真哉(大学院1年)

1．本講座のねらい

今回の小麦粉粘土は「体験重視」をねらって講座を考えた。多くの人はこれを当たり前のことのようにとらえるかもしれない。しかし、　どこかでＹＯＵ遊サタデーの公開性に重点を置き過ぎ、「見える結果」を知らず知らずのうちに追い求めているのではないだろうか。ＹＯＵ遊サタデーは子どもが主役であり、結果を出すことが目的ではないのである。このことを肝に据え、気持ちを初心に帰して講座を行ってみたいと思ったのである。

2．「体験重視」

今まで行ってきた小麦粉粘土は、こねた時の手の感触はあじわえても、どちらかというと製作することに重点をおいてきた。特に講座開設の段階では、小麦粉をこねた時の感触を堪能するとともに、小麦粉自身に関心を持ってくれることを願っていたため、作業はテーブルの上で行い、多少汚れることはあっても「小麦粉粘土細工」という「工作」でしかなかったのである。

そこで今回は机上の作業から床の作業へと活動場所の変更を行った。これは今まで手でしか関われなかった小麦粉を、なるべく全身を使って関わってもらいたいと思ったからである。床の冷たさの問題は、スタッフの人に段ボール座布団を作ってもらい対処した。

次に、教材への思いを深めてもらいたいと思い、一人一袋（１キロ）の小麦粉を子どもたちに家から大学まで直接持ってきてもらった。小麦粉粘土の講座は体重が２０キロにも満たない子どもたちが大半である。運ぶのもヨッチラ、ヨッチラふらつきながら歩いてきて大変である。ただ、これで講座に望む子供たちの関わり方が変わったように思えた。これだけの苦労をして運んできた小麦粉である。前日も、お母さんなどと一緒に準備してきたのだろう。家から小麦粉との関わりは始まっているのである。また、そんな小麦粉だからこそ、子どもは「私の家の小麦粉」という材への思いを強く持っていたと思う。この思いがあったからこそ、家から小麦粉を持ってくる時も、袋から出す時も楽しい活動となり小麦粉との直接的な関わりへの動機づけとなっていったのではないかと思われた。

講座が始まり、小麦粉を袋からだし、指で触ったときの子どもたちの目は、何かしら戸惑っている様子であった。大抵の家庭ではふだんから見慣れているはずの小麦粉である。どうしてなのか疑問に思い、子供たちと話をしていると、どうやら多くの子供が小麦粉に触ったことがない事が分かった。これには驚かされたが、それだけに子どもたちは「小麦粉」にとても興味を持っているようだった。

とくに印象的だったのは、乾いた状態の小麦粉に飽きる事なく関わっていた子供の姿であった。これは造形活動を主眼としていたときには見られなかったものであり、今後の講座を考えて行く上で、子供一人一人を活かして講座を行っていくことの難しさを教えてもらったような気がした。

2．学習発表会の方法についての疑問

以前から閉会式で行われる発表会に対しては難しさを感じていた。私はＹＯＵ遊サタデーでは子供たちにさまざまな体験をしてもらいたいと思う。しかし、小麦粉粘土のような

体験中心的な活動では何を発表すればいいのだろうか。わたしも迷ったし、子供たちはステージに出て行くこと自体にも抵抗を示した。これは当たり前だといえる。ほかの講座はきれいな物、格好いいものを作っており、それを発表していく。しかし、わたしたちには制作活動が中心でないために、人前に自信を持って提示できるものはなかった。わたしたちの講座では「小麦粉で遊んで楽しかった」「小麦粉はおもしろいな」という思いが収穫だからである。今回の学習発表の場は、子供たちの小麦粉で汚れた姿を見てもらい、活動時の子供たちの様子を話したが、この方法でよかったのだろうかという反省が残った。

学習発表会とは外部からよく見られるために行うものではないはずである。子供たちが学習発表会に参加することによって講座時の活動に自信を持ったり、次回の活動場面に生きてくるものであると思う。しかし、現在の発表方法だと視覚的結果の追求となってはいないだろうか。そして信大 ＹＯＵ遊サタデー自身が結果主義に陥っているのではないかと不安になる。

以前ソフトボールの講座があったとき、一人一人についてＨキャプテンがコメントをつけていた。それは子供を中心に考えており、会場の人に対してでなく参加者の子供に話しかけていたものだった。子供たちは照れてはいたが満足げな表情だったのを覚えている。

今になって思えば、あのキャプテンの関わりはすばらしい対応であったと思う。本来「参加者の子供のための発表会」とはこのようなものなどであろう。しかし、他の講座の参加者や保護者の方への紹介のために、いつしか「保護者の方のための発表会」になってしまっているのではないだろうか。もちろんＨキャプテンのような発表形式が現在の態勢でできるかといえば時間的にも無理である。

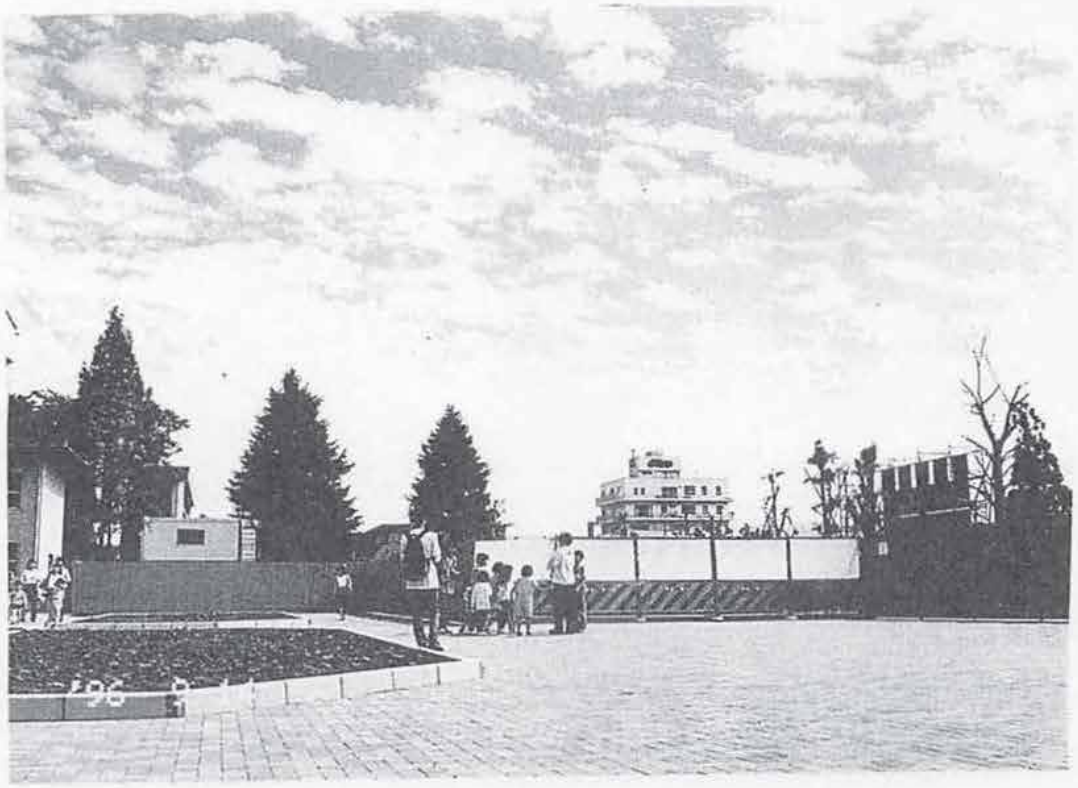
そこで一つの提案として、発表会のステージへの参加を自由参加の形にすることを勧めたい。現段階においてはステージへの参加が子供たちに「出なくてはいけないものだ」と伝わっていることは否めない。小麦粉粘土は楽しく遊べても、発表会でいやな思いをするようなことがあれば「子供のための発表会」とはいえないであろう。それよりも子供が前に出たくなかったらキャプテンとスタッフがステージに出て、活動時の様子を劇にするなどの工夫をこらしたらいいのではないだろうか。もちろん、子どもたちにやってよかったと思われる発表会の方法があれば取り入れていけばよいし、今後とも発表会の形式は検討していくべきである。

３．最後に

今回は９人という少人数で開講させていただいた。信大 ＹＯＵ遊サタデーも回を重ねる中で参加者が大幅に増加し、私も手順を進めるのに必死で子供と関われないことも度々であった。だから、９人という人数の少なさのおかげで一人一人の子供と十分に関われる時間が取れたこと、参加してくれた子供全員の名前が覚えられたことはとてもうれしいことであった。ただ、反省すべき点もいくつかあったので、それは課題として次回の実践に活かしていきたい。

最後となってしまったが本講座を支えてくれた大学の先生方、ＹＯＵ遊サタデー関係者の方々、本講座スタッフの方々、本講座参加者の子供たちおよびその保護者の方々、私にこのような体験の場を提供してくださったことを心より感謝したい。

（２）第９回信大ＹＯＵ遊サタデー



No.1

講座名 たのしく作ろう籐かご作り

講座紹介

自分の手で
かわいいかごを
作ってみませんか?

よく見かける すてきなかわいい籐のかご
実はそんなに、作り方は難しくないのです。一緒にたのしくかごを作りましょう

材料費: 200円
持ち物: タオル、洗面器
はさみ、メジャー
(あれば、目打ち、平打ち、エンマペンチ)

No.2

講座名 プロへの一歩!? イラスト・漫画体験 パワーアップバージョン

講座紹介

Aコース
本格的漫画講座

基本的なことから
雑誌に投稿することまで
みなさんの質問に答えつつ実践
していきます。どんどん描いてうまくなろう!!

どちらのコースも年齢は問いません。
どなたでも参加できます!

Bコース
絵本講座

世界でただ1冊の、あなただけの絵本をつくってみましょう!!
字のないものでもOKなので小さなお子さんも参加できます。

注 申し込みのときA・Bのどちらなのか書いてね!!

No.5

講座名 ネイチャーゲーム

講座紹介

ネイチャーゲームとは —
"五感"を利用し、自然に気づき、自然と一体感を共有するためのゲームです。

No.6

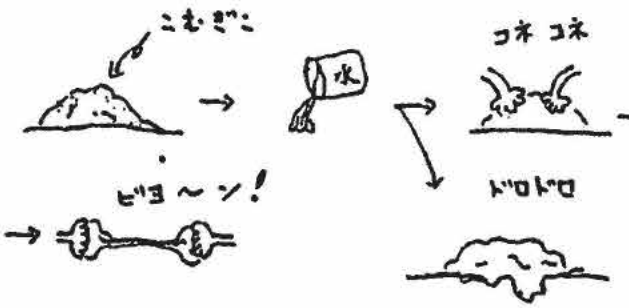
講座名 君も紙づくり名人
(牛乳パックからはがきを作ろう)

講座紹介

No. 3

講座名
サラサラ・ドロドロ・カッチカチ（小麦粉粘土）

講座紹介



・アッ！ こむぎこだ。サラサラしてる。
　水をいれてみよう。
・アッ！ドロドロになっちゃった。
・アレッ！ カチカチになってるよ。
・こむぎこっておもしろいなあ。

みんな、こむぎこであそんでみようよ！

No. 4

講座名
続・教育学部ってどんなところ Part II

講座紹介

今回は、一日かけて「教育学部」ひいては「教育」のひとかけらを体験してもらおうと考えました。

〈午前中〉 You遊サタデーの午前中に開講されている講座に大学生とともにスタッフとして参加してもらいます。子どもたちと遊んだり学んだりすることを通して、「教育」という現像を体験します。

〈午後〉 現在未定です。参加者の皆さんの要望に応じて教育学部に関するガイダンスを行います。自分の希望する要旨と聞きたいことを具体的に明記して申し込んで下さい。

学生の体験談を交えながら、なるべく具体的な情報を提供したいと思います。

No. 7

講座名
うちわで書

講座紹介

和紙にマーブリングしたものに、書をかき、うちわをつくってもらいます。

信大書道研究会

No. 8

講座名
でっかいでっかいシャボン玉をつくろう。

講座紹介

この講座は「なかよしキャンプ」（学生と自閉症児がともに2泊3日をすごすキャンプ）で知り合えた友だちの、「また会いたい」、「もっと遊びたい」という願いからつくられた講座です。
活動として、前回のYou遊サタデーで好評だったシャボン玉を選びました。

「なかよしキャンプ」にでた人を中心にするので人数に制限がでてしまいますが、私たちは多くの新しい友だちを喜んで迎えたいと思っています。

たくさんの友だちで
　でっかいでっかいシャボン玉
　　つくれたらいいですね。

No.10 講座名 算数・数学の家庭教育

講座紹介

算数・数学嫌い

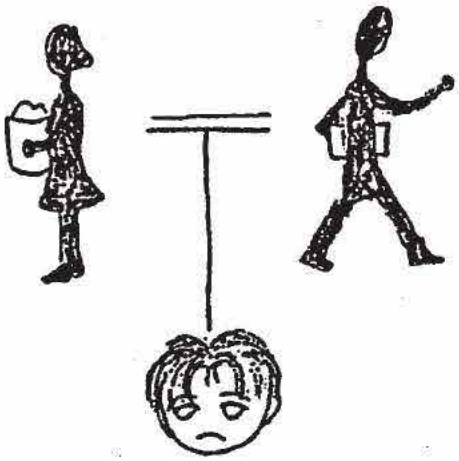
と言われている子どもさんは年々増えていることが統計で明らかにされています。そのような算数・数学嫌いを克服していけるような楽しく、わかりやすい算数・数学を考えていくと同時に教えたいと思っています。

No.11 講座名 学校では教えてくれない 秋 化学実験 part 2

講座紹介

No.14 講座名 家庭教育フォーラム "お父さん、出番ですよ！"

講座紹介



日本の子どもたちは、お父さんとのふれあいを求めています。お父さん！出番です。そのために……

No.15 講座名 帰ってきた!! おしゃべり教育学

講座紹介

おしゃべり教育学 はるばる2

教育学って何だろう？難しそうな感じがしますか？

いえいえいえ… YOU&サタデーの教育学はちょっと違います。難しいけど楽しい!! これが本当の教育学です。

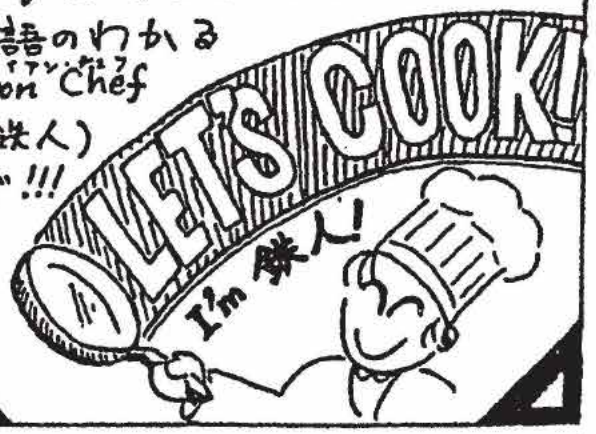
飛び入り大歓迎!!

No.12 講座名 英語でクッキング

講座紹介

Hi, every one. Do you like cooking? Come and cook the delicious lunch with us.

さあ、今回は英語でクッキングに挑戦だ！英語と料理の好きな子 Come on!! 今日からキミは英語のわかる Iron Chef（アイアン・シェフ）（鉄人）だ!!!



No.13 講座名 絵本を作ろう

講座紹介

No.16 講座名 とびだすびっくりカードをつくろう！

講座紹介

★ 9月15日は敬老の日
おじいちゃん、おばあちゃんに…
★ 大好きな お父さん、お母さんに…
★ 友だちのたんじょう日に…

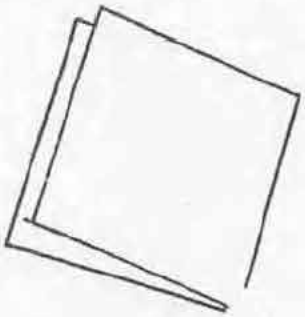
プレゼントしちゃおう!!

No.17 講座名 おはじき あやとり おにごっこ

講座紹介

No.18 講座名 とびだす紙しばい ～私の輝く未来～

講座紹介



みんなの『みらい』を「とびだす紙しばい」にして、おはなしを作っていこう。

No.19 講座名 宇宙生物 スラスラスライム

講座紹介

No.20 講座名 刃物研ぎ教室

講座紹介

切れにくくなった　さびて使ってない

を

あなたの手で

よく切れる包丁に

よみがえらせましょう！

三種類の砥石を使った

本格派の研ぎ方です。

でもやり方はとってもかんたん！

＊刃物研ぎ教室＊

No.21 講座名 万華鏡をつくろう

講座紹介

万華鏡って知ってますか？

今回かぎりの講座ですので

ふるって御参加下さい

第（ 9 ）回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	プロへの一歩!? イラスト・漫画体験 ――パワーアップ バージョン――	平成 8 年 9 月 14 日（土） （午前）・午後・終日）
キャプテン	山谷 早苗 黒沢 恵子 中島 真由美　（幼教 専攻 4 年）	アシスタントスタッフ数 3 名 参加者数 29 名
指導教官	布谷 光俊 教官	使用教室 新館 505 教室

☆何をするのか（具体的に）

A：本格的漫画講座……プロを目指している子どもたちに、漫画を描くうえでわからないところなどをこちらで実演してみせてから実際にやってもらう。

B：絵本講座……小さい子でもできる講座。自分で簡単なストーリーを考え、絵や字を書き色をぬり、絵本づくりをする。出来上がったら発表する。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

・絵を描くことの楽しさを味わい、「自分の目標（B こんなふうに作りたい、A ここができるようになりたい等）を達成することや、「新しい友達と知り合い一緒に取り組むこと」の喜びを実感してほしい。

講座の時間配分

時間	A：本格的漫画講座（山谷担当）	B：絵本づくり講座（黒沢・中島担当）
	※事前にアンケートをとる。 ストーリー・効果・キャラクターづくりなど、苦手としているところはどこか、できるだけ具体的に把握したい。（例：効果ではナワアミができません……というように） 当日～ ① 自己紹介（10分）…Bと一緒に ② 講座の説明（5分） ③ 講座の展開（95分） 説明 みなさんからのアンケートでは「ナワアミの描き方がわからない」というのが多かったです。ナワアミは「××××」というような感情を表す時に使いますね。では やってみます。 例示 紙をまわしながら描くとうまくいくと思います。ほらね♪（うまくいくコツを教えてあげる） 《みんなちょっと練習したあと》 実演 じゃ、こんどは みなさんにやってもらいます。今配った紙に1人「××××」の感情が表れている顔つきの人を描いて下さい。できたらうしろにナワアミを描いてみよう！ ……というのを時間の許すかぎりくり返す。できるだけたくさん扱いたい。 ④ 修了証をわたす（10分）	① 自己紹介（10分）…Aと一緒に ② 講座の説明（10分） 今日は絵本づくりをします。まず簡単なストーリーを考えて…… こうすると こんなふうにできあがりヨーすね ③ 絵本製作（80分） 簡単なストーリーを考える ↓ 絵と字を描く（字は書ける子のみ） ↓ 色をぬる 色をぬるための道具はできるだけ持参してもらいますが、絵具などはこちらでも用意しておきます。 ④ 絵本の発表（10分） オオー 遠う発表のしたかた ワクワク ③は進行に関係がありますので1人1人の子どもたちに目を配ります。 ⑤ 修了証をわたす（10分） 今日はよくがんばりましたね♪ また来て下さい♪

プロへの一歩！？イラスト・漫画体験
～パワーアップ・バージョン～

山谷　早苗（幼児教育専攻　4年）
黒沢　祐子（幼児教育専攻　4年）
中島真由美（幼児教育専攻　4年）

1．講座設定の理由

第8回イラスト・漫画体験は小学校低学年には難しいと思われる内容であったため、小学校4年以上と年齢を制限した。しかし、小学3年男子のどうしても参加したいという強い希望や、小学1年女子の紙しばいをつくる講座に参加したかったがそういう講座がなかったのが残念だったという声があった。そこで、第9回では、講座を2つに分け年齢に応じた内容にすることにした。

2．講座のねらいと教材観

Aの本格的漫画講座では、漫画家が実際に使用するペンを用意し漫画家の気分を味わうことや、簡単な効果技術を習得し、より納得のいく作品を制作すること、Bの絵本講座では、自分で簡単なストーリーを考え絵や字をかき、色を塗り世界でたった一つしかない絵本を作ること。以上の二点を通して子どもたちが絵を描くことの楽しさを味わい、自分の目標を達成することや新しい友達と知り合い一緒に取り組むことの喜びを実感すること、これが本講座のねらいである。

A講座では、墨滴やガーゼや六角形の紙など身近な道具を使うことによって、簡単に効果の仕方を習得することができる。B講座では、絵の具・クレヨン・色鉛筆などいろいろな絵を描く道具を使うことで、画風の違いを知ることができる。したがってより楽しく絵を描くことができ、絵に親しむのに適した教材であると思われる。

3．子ども・参加者の取り組みの様子

A講座では始め子どもたちは静かで、作業に集中していた。時間と共にキャプテン・スタッフと子どもとの間で会話が弾んだり、子どもたちはお互いに自分の作品を見せあったりと和やかな雰囲気であった。B講座ではキャプテンと子どもとの間で会話をする場面がよく見られたが、新しい友達同士で会話をしたり作品を見せあったりという場面はほとんど見られず、黙々と作業に取り組んでいた。

4．良かった点・改善すべき点

A講座の良かった点は、専門的な技術をわかりやすく教えることができたので、子どもたちの興味を引きだし、絵の上達に役立ったことである。改善すべき点は、専門的に教えられるのが1人だったので、人数的にも時間的にも子ども1人ひとりに細かい指導ができなかったことである。

B講座の良かった点は、絵本をたくさん用意したことといろいろな種類の絵の道具を用意したことである。このことにより、子どものイメージをふくらませ活動意欲を高めるこ

とができた。改善すべき点は、対象が幼稚園から小学校低学年だったので、小学5年生の子には物足りなかったことである。

講座全体の良かった点は、子どもたちとのコミュニケーションがスムーズにとれたことである。改善すべき点は、作業中心で子どもたちも熱心に取り組んでいたため、A・B講座とも子ども同士の交流がほとんどんなかったことである。さらに、A・B間の交流もなかった。A・Bを同一講座とした意味がなかったように思われる。

5．参加者の声

本講座に参加した子どもから、お礼の手紙が届いた。その手紙には、

「いらすとまんがのおねえさんへ

えをおしえてくれてありがとう。これからもこのぺんでえおかいたりまんがをかきたいです。またおしえてください。」

と書かれ、裏には本講座であつかった効果が上手に描かれていた。

第９回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	ネイチャーゲーム	平成　8年　9月14日（土）（午後）
キャプテン	小池　祐介　（教育実践科学専攻３年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　2　名 参加者数　4　名
指導教官	越智　康詞　教官	使用教室　屋外

☆何をするのか（具体的に）

動物や昆虫になりきってお互いを当てっこしたり、視覚をつかわないで鬼ごっこをしたり歩いたりしながら、自然と一体になり、自然を見つめなおすことができる。
親子で参加してもかまいません。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

身近な自然も、感覚をみがけば感じとることができる。楽しむことができる。一体となることができる。そして、身近なちょっとした自然でも、大切にしてほしい。

講座の時間配分

時間	場　所	講　座　内　容
１０	Ｎ１０１前	・集合したら、自己紹介、ネイチャーゲームの紹介をする
２０	Ｎ館裏 Ｎ館前	☆ブラインドウォーク 『いも虫になってみよう』　～日本列島横断だ！次は、クモの巣に捕まったぞ ～ ☆目隠しトレイル 『ロープづたいに目隠しで歩いてみよう』
３０	まほろ場	☆居眠りおじさん 『目隠しをして、鬼ごっこをしよう』　～宝物の奪い合いゲーム～
５０	ロータリー	☆カモフラージュ
１０	ロータリー	・修了証を渡す

ネイチャーゲーム

小池　祐介（教育実践科学専攻３年）

１．講座の開講の理由とねらい

僕は個人的にも環境問題に関心があり、「自然体験」の不足が大人になれない子どもたちを生産していることに気がついておりました。自然体験と言っても、ここ教育学部のまわりは、開発がめまぐるしく、大それた森林がなかなか存在しないので、あえて身近なキャンパス内のちょっとした自然に目を傾けてもらうために、こういう設定をしました。これなら、たとえ自然が乏しい都市部でも自然を大切にしたり、それを使って遊ぶことが出来るでしょう、というねらいです。

２．素材研究とプランづくり

ネイチャーゲームとは、米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏により発案された自然とのふれあいプログラムです。自然に対するきめ細やかな知識はなくても、誰もがリラックスして楽しめる遊びです。のめり込んでいる内にいつのまにか感性が高まり、自然に触れ、理解を深めることが出来るんです。

さて、今回のプランは①目隠しいも虫②目隠しトレイル③居眠りおじさん④カモフラージュという順番でした。①は、視覚をあえてふさぎ、前の人の肩のふれあいと音をたよりに歩いて行くゲームです。②は、今度はあらかじめロープを木に沿って張っておき、そのロープだけをたよりに歩いて行く、と言うようなゲームです。③は、宝物を番人（目隠ししている人）が見張っていて、その番人をよけながら宝物を奪うゲームです。番人は、目隠しをしているわけですから、よく耳を澄ましてかすかな音で判断しないと宝物を守ることが出来ません。④は、自然の中に人工物を隠しておいて、いくつ発見できるか競うゲームです。どれも触覚、聴覚、視覚をとぎすましておかないと出来ないゲームばかりでした。

３．当日の様子

最初の予定は子どもが３人だけでしたが、飛び入り参加の母親２人が加わり、スタッフも入れて８人になり、ちょうど良い人数になりました。まず、Ｎ館の前から目隠しをしていも虫になり裏に出て、図書館の横でトレイルをしてもとの位置に戻る予定でした。当日みんなには、どこに行くか教えていなかったために、「ここはどこ？」という声が飛び交い、終わってからもとの位置に戻ったことがわかると、「うっそー」と、驚きの声を隠せない様子でした。「途中、アスファルトや土や草の区別を付けることが出来た」という子どもの声にあるとおり、当初のねらいは達成されたようでした。「カモフラージュ」では、より鋭い自然観察力が求められるのですが、これがなかなか難しいことでした。枯れた松の葉の中にタワシを隠したり、木に造花を掛けたりしたので、「自然なもの」をイメージさせておかないと見分けがつきません。中には、木に登って上から見た子もいました。

「子どもは、ファミコンばかりしているけど、自然を使った遊びって身近にこれだけあるんだね。目隠しをして音をたよりに鬼ごっこをするのも面白いじゃない。今度子どもとやってみよう。」と言ってくれた母親の方もいらっしゃったように、全体的に見ればみんなそれぞれ感じてくれたようでした。

4．これからの課題

自分が変わる、子どもも変わるような、ネイチャーゲームを目指そうと思っています。そのためにはまず、少しでも多くのゲームをマスターし、楽しみ、子どもにあった、季節にあった臨機応変的なゲームが出来るようになれたらいいなと思っています。「現代の子どもたちを救えるのは、ネイチャーゲームが一番さ」、と言う認識に基づき、研究していきたいと思っています。私にこのような場を提供して下さった皆さんに、お礼を申し上げます。

第９回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	うちわで書（しょ）	平成　8年　9月14日（土） （午前）
キャプテン	塩苅　有紀　（国語専攻4年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　13　名 参加者数　8　名
指導教官	市澤　要三　教官	使用教室　新館５０１教室

☆何をするのか（具体的に）

障子紙にマーブリングしたものに、書をかき、粋なうちわをつくる。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

いろいろな筆使い、文字の構成、字配り、墨の濃淡、潤渇など、書には様々な表現方法があることを知り、それぞれの特徴を工夫して表現することの楽しさを味わうこと。

講座の時間配分

時間	活動内容	キャプテン・スタッフの支援
9:30	・自己紹介する。説明を受ける。	・できあがったうちわを見せ、作り方の説明をする。
9:40	・マーブリングで色づけをし、乾かす。	・乾かす時にしわにならないように気を配る。
10:00	・書く字を決め、練習する。 ・うちわの形を書いたプリントにレイアウトを考え、字を書いてみる。	・いろいろな筆使い、文字の構成、字配り、墨の濃淡、潤渇などの見本を見せる。 ・マンツーマンで練習に付き添い、多様な書表現をアドバイスする。
10:40	・マーブリングした紙に清書する。	・絵を添えたり、印を押したりしてもよいことを伝える。
10:50	・紙を貼るために、紙の縁に切り込みを細かく入れる。 ・墨と印が乾いたら、紙をのりでうちわの骨に貼る。 ・きれいに仕上げるために、おもしをのせて乾かす。	・作業がスムーズに進むよう、見本を見せる。
11:20	・片づけをする。	・修了証を渡す。

うちわで書

塩苅　有紀（国語専攻　4年）

1．講座開設の理由とねらい

「学校で習う書写教育的なものだけが書ではない」ということを少しでも体験的に知ってもらいたい。その思いは昨年の「かこう・書こう・描こう」から変わっていない。「かこう・書こう・描こう」では、筆と墨を使って自由に表現する楽しさに重点を置いた。その結果、参加者からは「楽しかった」という感想が多く寄せられたが、反面「楽しい落書き」の域を超えることが出来なかったように思う。

この昨年の反省をふまえて今年は、筆使いや字形、墨の濃淡や潤渇を工夫することによって様々な表現が出来ることを体験してもらうことに重点を置こうと考えた。

2．教材観

ねらいは上で述べたように多様な表現方法を体験してもらうことにあるが、ただ半紙に書くだけではつまらない。何か実用に生かせるものはないだろうかと考えた。そこで頭に浮かんだのが「うちわ」であった。講座を開くのは9月半ばでやや季節はずれの感が否めなかったが、書を施せる実用的で身近なものといえば「うちわ」が一番適当だと考えたのである。そして、うちわにする場合、真っ白の和紙に黒い文字だけでは物足りないと思い、マーブリングで色づけもしようと考えた。

また、「楽しい落書き」の域を出て書の世界に一歩踏み込むためには、書く字を決めて充分に練習することが避けられない。ここで私たちが気をつけたことは次の4点である。

・書く時間を充分確保すること
・うちわに書くのに適当な言葉を例示すること
・1つの文字を多様に書いた見本を提示すること
・多彩な表現ができることをマンツーマンでアドバイスすること

3．参加者の取り組みの様子

マーブリングを施す場面では、どの子も初めてだったらしく、予想した通りみんな楽しそうに意欲的に活動していた。そして実は、マーブリングがきれいなあまり、そこに墨で字を書くということに抵抗を感じる子が出るのではないかと心配していたのだが、それは杞憂であった。みんなマーブリングを終えるとすぐに書の練習にとりかかり、その切り替えは見事であった。

今回のポイントである多様な書表現の体験の場面では、書体字典を見て「雨」という字を様々な古代文字で書いて練習していた子や、「雷」という字の古代文字を見て「へえ、昔はこんな字だったんだ。おもしろい。」と興味深そうに書いていた子、また筆の割れた穂先を利用して独創的な書き方をしていた子など、実に様々であった。中には、普段習っている書写教育的な字から離れない子もいたが、その子も納得のいくまで練習していた。

清書の段階では、思いきって書き出せない子もいるかと思っていたが、前段階でうちわの形を書いたプリントでシミュレーションしていたためか、ほとんどの子がすんなりと清書していた。

4．反省と今後の課題

アンケートを見ると、「うまく書けなかった字もうまく書けてよかった。（小3・女子）」

という書に関する感想は一人だけで、後は「うちわの作り方をおぼえられてよかった。（小３・女子）」、「うちわの色づけのやり方がわかった。きれいにできてよかった。（小５・男子）」、「自分のうちわが作れて良かった。（小３・男子）」というように、うちわづくりに関するものが多かった。確かにマーブリングを施すうちわづくりというのは、書の練習よりはるかにインパクトが強い。それは予想していたことであり、だからこそ「教材観」で述べた４点を工夫し、準備したのである。実際に参加者は、いろいろな書体や筆使いで意欲的に書いていた。

だが、参加者の心が「多様な書表現」より「マーブリングのうちわづくり」に動いているという結果から、両者をもっとバランスよく効果的に結びつけるためには、「多様な書表現」の取り組みにおいて更なる工夫が必要であったと思う。

２時間という限られた時間で奥深い書の世界にどのようにしていざなっていけるか、年齢に幅のある参加者たちが楽しんで達成できるようなねらいをどう設定するか、など課題は難しく今後もこのことに頭を悩ますことであろう。しかし、この書の講座を引き継いでくれる後輩たちには、子どもたちが日本の伝統文化である書に少しでも親しめるよう考え、この課題に挑戦していってほしいと思う。

第９回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	でっかいでっかい シャボン玉をつくろう	平成　8年　9月14日（土） （午前）
キャプテン	臣川元寛 （障害児教育専攻　4年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　１９名 参加者数　２６名
指導教官	小島哲也教官	使用教室　泉会館２号室

☆何をするのか（具体的に）

しゃぼん玉でひたすら遊ぶ

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

仲良しキャンプで知り合えた友だちが、こうして再開できることを素直に喜びたい。
そして、キャンプに参加したことのない人も、こうしてたくさん参加してくれることに感謝したい。
これをきっかけに、再びこういう活動をやろうという意識がみんなに芽生えたら最高です。

講座の時間配分

時間	
60分	①グループを発表する　　しゃぼん玉の実演―鉄板１ A、B、C班を発表する ②しゃぼん液をつくり、大鍋・鉄板に移す 〈a液〉　〈b液〉 小泉＝笠原　永野＝原田 ― 髙橋　穂刈　柏倉　穂刈 → 大鍋 守屋＝山本　早武＝杉山 ― 西尾　田村　近藤　山本 → 大鍋 滝澤＝河原田　藤森＝穂刈 ― 上村　花岡　塩川 → 大鍋 松田＝二木　妹尾＝塩川　門谷＝峯川　吉田＝花岡 → 尾島　麻田　本間　麻田　市川　小山　小山 → 鉄板２　鉄板３ 2 ― 中村　宮崎　金井　宮崎　数本　生地 → 鉄板４　鉄板５
30分	③しゃぼん玉をつくって遊ぶ ※しゃぼん液を吸い込まないように注意する
30分	④片付けをする ※あらかじめ用意したバケツなど使って全員で掃除をする 修了書とシャボン玉をつくった道具をプレゼントする

お父さん、お母さん源氏物語を読みましょう

清水　由美（国語専攻３年）

１．講座の概要

この講座は、ＹＯＵ遊サタデーに参加している子どもたちのお父さんお母さん、一般の方、学生を対象に教育学部国語科の滝澤先生が、お父さんお母さん方にもっと古典文学に親しんでもらいたいということで、紫式部が書いた世界中の人々に広く読まれている「源氏物語」について学ぼうとする講座です。

今回は、「源氏物語」の冒頭の部分である「桐壺の巻」について、一般の方々と学生が一緒に学びました。

２．講座の様子

残念ながら、ＹＯＵ遊サタデーに参加している子どもたちの父母の方々はお見えになりませんでしたが、英語科の北澤先生、北澤先生が一緒に参加しようと呼びかけて参加した海外の方々、国語科の学生、国語を副免でとろうとしている学生が参加しました。海外の方が参加していることもあり、滝澤先生はいつもの講義の時よりも丁寧に説明されていました。と言うのも、「源氏物語」に限らず、古典文学作品を読むときには、当時の日本の文化、社会背景を知る必要があり、それを知らないで読んだと言っても真の理解とは言えないからです。

参加者の様子ですが、我々学生よりも海外の方々のほうが熱心に講義を聴いていらっしゃいました。海外の方々の日本の文化を吸収しようとする姿勢には、頭の下がる思いです。近頃は、我々日本人でもなかなか古典を学ぼうとする機会はありません。まして、日本人であっても難解な「源氏物語」はなおさらです。今回は、古典を学ぶよい機会であったと思います。

第９回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	算数・数学の家庭教育	平成　8年　9月14日（土）（午前）
キャプテン	相沢大司郎　（数学専攻　4年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　3　名 参加者数　18　名
指導教官	吉田　稔　教官	使用教室　新館1階会議室

☆何をするのか（具体的に）

算数・数学が実際にどのようになされているのか、その内容の紹介と、算数・数学教育に対する父母の意識の探究。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

いかに家庭での算数・数学の教育が大事であるかということ。

講座の時間配分

時間	
10分	1.調査
20分	2.分数について
30分	3.折り紙
30分	4.光りと影
10分	5.天才の動陰法から
20分	6.数学を通した親子とコミュニケーション
15分	7.調査
	時間があれば野外の算数・数学、また算数・数学学者についても触れる。

算数・数学と家庭教育

相沢大司郎（数学専攻　4年）

1．講座を開くにあたって

算数・数学嫌い、分からない、出来ないという子どもが増えているということは、統計でも明らかになっている。しかも、学年が上へ上がっていくに従って増えているという現状がある。そんな中で、いったい子どもたちはどのような家庭教育を受けているのであろうか？学校では、もちろんしっかりしたカリキュラムのもとで算数・数学の授業を行っているわけではあるが、それだけでは不十分と考えている子どもやそのお父さん、お母さん達は多いと思う。現に学年が上がるにつれ、心配になってきて学校以外のもの、つまり塾などに頼るようになる訳である。しかし塾に行けば安心であろうか？私はそうは思わない。だからといって塾を批判しているわけではない。個人的に教えてくれるところなどでとても丁寧な教育を施してくれるところもある。またそうでなくても先生ととても上手くいき、自分の力を伸ばしていけることも多くある。しかしそんなに上手くとは限らない。それは子どもや親の満足でしかないのではないかと私は考える。そこで、家庭で算数・数学の家庭教育ができないかという事になる訳である。こんな事から吉田先生と一緒にこのような講座を親を対象にして開いた。

2．教材について

教材はいくつかのものが使われた。まずは、文献などの文章の抜粋を始めから読んでいくだけでは、久しぶりに講義などを聴くお父さん、お母さん達には苦痛なので、VTRやOHPを使って講義に入っていった。またメインのものとしては吉田先生必見のアイテムである折り紙で分数や放物線を表すということを実際にお父さんやお母さんにやってもらうようにした。その理由としては、なぜそうなるのかを現に体験することができることと、家庭の中で楽しく、しかもゲーム感覚でみんなで夢中になって取り組めるものだからであった。

3．参加者の様子

この講座は、今までで初めての、親を対象にした講座であった。どのくらい集まるのか心配だったが、20人ほどのお父さん、お母さんが参加してくれた。吉田先生のお話に皆さんが真剣に耳を傾けている姿がとても印象的だったので、さぞかしお子さんが算数・数学に困っているのだと思っていた。しかしそうではなく、たいがいのお父さん、お母さんは、お子さんが他の講座を受けているので、それを待つためにこの講座を受講したということだった。それはともかく眠くなってくるような時間帯もあったかと思うが、算数・数学に対する何かしらの手応えを感じることができたように思われた。

4．講座を通しての成果と課題

この講座は、他の講座と違い、キャプテンは私（相澤）がやったが、それは名ばかりで、ほとんどは吉田先生の下で行われた。その上に吉田先生が忙しく、なかなか連絡を取り合うことができず、前日に本当に簡単に打ち合わせをしただけであった。よってスタッフの段取りの悪い点がいくつも出てしまったが、吉田先生自体はさすがベテランで、何なりと進められていった。先程も述べたように私たちとしては、お子さんが算数・数学にさぞかし困っているお父さんやお母さんが参加してくるものと思っていたがそうではなかった。しかし参加してくださったお父さんやお母さんがこの講座を受講してくださったことによって、算数・数学の家庭教育に対して新たな観点を見いだすことができたのではないかと

思った。吉田先生も、もっとグレードアップしてまたやってみたいという気持ちがあるそうなので、学生スタッフと共にこれからもこのような講座を是非開いてほしいと思った。そして何と言っても子どもの講座だけでなく、こうした親を対象とした講座ももっと開くことができたらいいなとつくづく思った。

第９回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	英語でクッキング	平成 8年 9月14日（土）（午前）
キャプテン	渡辺　一博　（英語専攻　4年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数7名　参加者数 13名
指導教官	渡辺　時夫教官　伊原　巧教官	使用教室　調理室

☆何をするのか（具体的に）
キャプテンやスタッフが提供する言語的または非言語的情報を基に、子どもたちが料理をつくりあげる。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）
言葉が違っていても、なんとかコミュニケーションができるという達成感を味わってもらいたい。
料理や交流を通して、中国（人）を身近に感じるようになってほしい。

講座の時間配分　　★ご飯・ガラスープはあらかじめ準備しておく。

時間	活動の流れ	具体的な活動	留意点・指導・助言	用具・器具
9:30	1．自己紹介 Self-introduction Introcuction of China	・英語で簡単な自己紹介 (name, age, school, etc. …) ・中国人のゲストの紹介と中国についての紹介	◎英語の雰囲気に緊張しないように気を配る。 ◎中国の位置、あいさつ言葉 ｅｔｃ．…	世界地図
9:45	2．調理 Warning Menu	・注意事項の確認 ★刃物でケガしないよう気をつけましょう。 ★火の扱いには気をつけましょう。 ★お兄さん・お姉さんは英語しか使いません。でも、みんなは日本語を使ってもいいです。 ★「わからない」と言わない。じっくり聞けば絶対にわかります。 メニューの発表～炎の中華～ （１班）マーボー豆腐　（２班）チンジャオロース （３班）ギョウザ　（４班）中華スープ・あんにん豆腐		注意事項を書いた模造紙
9:50	Cooking	・班ごとに割り当てられた料理を作る。 ・盛りつけをする。 ・片付けをする。	◎キャプテン・スタッフは極力日本語を使わないこと。 ◎子どもがケガややけどをしないよう細心の注意を払う ◎時間内に終わるよう臨機応変に対応する。 ◎できるだけ片付けておく。時間が余れば他班を手伝う	調理器具 材料 食器類
10:40	4．会食	・楽しく交流しながら食べる ・チャイニーズ・タイム	◎会食の間は、日本語で楽しく話しながら食べましょう ◎中国（人）についてもっと理解するための活動を行う	
11:10	5．まとめ	・アンケート用紙記入	◎できれば数人に感想を聞く	ｱﾝｹｰﾄ用紙
11:15	6．片付け	・後片付けと部屋の掃除。	◎できるだけきれいに！	ぞうきん　ふきん
11:30	7．修了証授与	・修了証を一人一人に渡す。	◎思いきり誉めましょう。	修了証

「英語でクッキング」

渡辺　一博（英語専攻４年）

１．はじめに

ＹＯＵ遊サタデー誕生以来、これまで過去７回に渡り児童のための英語活動の実践を行ってきた。初年度はとにかく楽しい英語遊学を目指してさまざまなゲームや活動を取り入れてみた。次年度は楽しいばかりでなく、実際に英語を聞いて理解したり自然な場面で英語を使ってみたりすることができるような活動の展開や、国際理解教育を取り入れた英語遊学のあり方を模索してきた。しかしながら、その後卒業論文のための研究や実践を続けていく中で、幾つかの疑問にぶつかることとなった。①「楽しい」とはどういうことか、②単なる言葉遊びで終わってよいのか、③英語活動の中に国際理解教育につながる題材をもっとうまく取り入れることはできないか、といったものが主なものである。

２．今期の課題

（1）「遊ぶ」楽しさ、「知る」楽しさ、「達成する」楽しさ

教育活動における「楽しさ」には大きく３つの領域があるように思う。遊び的要素からくる楽しさと知的好奇心を満たされるときの知る／分かる楽しさである。さらに問題を解決したり物事を成し遂げたりしたときの達成感がもたらす楽しさである。楽しさを追求しすぎるあまり「遊び」を意識しすぎると、活動のための活動に終始し教育的意義は半減する可能性がある。筆者の講座には、知的楽しさ、ないしは達成する楽しさをもっと取り入れる必要があるのではないかと思う。

（2）単なる遊びか習得か

遊び的楽しさに重点を置くと、生きた英語に触れさせるというより単語を覚えさせてその単語を使って遊ぶという活動にとどまってしまう。そこに英語を用いたコミュニケーションはほとんど介在しない。英語に慣れるとは、英単語を覚えるということとは違うはずである。より多くの英語を聞かせ("Input"を多量に与え）ながらコミュニケーション活動中心("Meaning-centered"）の英語活動が行われれば言語習得にもつながっていくであろう。ただしここでいうコミュニケーション活動とは対話活動や英会話のような決まり文句を使ったロールプレイをさせることではない。指導者は常に英語を使い、子どもたちに話しかけたり指示を与えたりする。子どもは日本語、英語、非言語的表現のいずれを用いてもよいこととする。このような自然な言語的相互作用("Interaction")を取り入れることが重要であろう。

（3）英語活動における国際理解教育

国際理解教育はいつでもどこでもできる反面、深く子どもたちの情意面や思考面に働きかけるのは難しい。あまりにも教唆的になるとおしつけがましくなるし（筆者はかつてそれで失敗したことがある）、子ども自身が関心を持っていなかったり、子どもたちの認知力を超えていたりするような題材は不適切である。かといってただ単に外国（多くの場合アメリカ合衆国やイギリス）の行事やパーティーばかりを扱っていては、国際理解というにはあまりにも偏りすぎているように思われるし、教えたいことも気づいてほしいことも見出しにくい。英語活動の中で無理なく自然に取り入れられる国際理解のための適切な活動とそのあり方を見出していかなければならない。

３．「英語でクッキング」の着想とねらい

前年度の反省を基に練り上げられた今回の英語活動のポイントは主に５点ある。①講座の大部分を英語で行うことにした。②終始英語で進めていっても取り組みやすい創造活動（料理）を取り入れた。③異文化理解の題材として中国（料理）を選び、本校の中国人留学生をゲストとして招いた。④他教科（家庭科）

との関連が図られた。そして、最大の特色は⑤上記の４つの項目が一つの講座の中に融合されていた点であろう。この総合的な英語活動を通して子どもたちが、（1）言葉が違っても何とかコミュニケーションができるという達成感を味わい、（2）料理や交流を通じて、中国（人）を身近に感じるようになることを本講座のねらいとした。

４．講座の実際　— 各分野からの考察 —

ここでは、スタッフとして協力してくれた言語習得、異文化理解教育、家庭科のそれぞれの専門の学生にコメントを寄せていただいたので、これを紹介し考察に替えさせていただく。

（1）言語習得の観点から — 調理を通しての英語学習の効果 —

信州大学大学院２年　浦野　研

現在までの母語・第２言語習得研究によると、我々が言語を獲得するのは、その言語を話すことによってではなく、むしろ聞いて理解することが重要であることが明らかになっている (e.g., Krashen, 1981; Long, 1987)。しかしながら、日本の中学校でのこれまでの英語科教育は、教科書を音読したり、特定の表現を暗記して言えるようにしたりと、いわゆる言語表出の訓練を中心に行われてきた。そこで、これからの英語教育は、英語を聞いて理解する（できる）ことを第一の目標にする必要がある。

子どもたちが実際に食材や調理器具を見ながら英語を聞くことは、英語を理解する手助けになっている。一般に「here and now の原則」と言われるように、学習者が実際に目で見ながら、手で触りながら英語を聞くことは理解を促進する上で効果的である。また教師が実際に動作をして見せながら英語を話すことも、言語と意味との関係を明確にする上で役に立っている。渡邉 (1995) は、教師が理解可能な英語を話す方策の１つとして、ジェスチャーを使うことを挙げているが、調理を活動の中心に据えることによってそういった動作を無理なく取り込むことが可能である。

また、活動の重点が、言語的な達成よりもむしろ料理を完成させる点に置かれるため、学習者は英語を学習していることをあまり意識する必要がないことも利点となりうる。Krashen (1985) は、学習者が言語形式よりも意味に意識を向けたときに言語は習得されると主張しているが、この点においても今回の活動は効果的であったと言える。

以上のように、何か別の活動を通して英語を学習することは有効である。調理以外にも、工作やちょっとした運動など、他の活動も活動の１つとして挙げられるだろう。

＜参考文献＞

Krashen, S. D. (1981). *Second Language Acquisition and Second Language Learning.* NY: Pergamon.

Krashen, S. D. (1985). *The Input Hypothesis: Issues and Implications.* NY: Longman.

Long, M. H. (1987). Native speaker/non-native speaker conversation in the second language classroom. in Long, M. H., and Richards, J. C. (eds.) *Methodology in TESOL: A Book of Readings,* pp. 339-354. Rowley, MA: Newbury House.

渡邉時夫 (1995). 「The Input Hypothesis（インプット理論）：MERRIER Approach のすすめ」. 田崎清忠（編）. 『現代英語教授法総覧』, pp. 181-196. 東京: 大修館.

（2）異文化理解教育の観点から

英語専攻４年　橋詰　並子

今回、YOU 遊サタデーにおいて、「英語でクッキング」の講座を通じて国際理解を深めようとする試みは、とても画期的なものであったと思う。また、その対象を、私たちが深く馴染んでいる、そしてまた、近年急速にあらゆる意味で、近い国となっている中国においた点においても、この講座のキャプテンである渡辺氏の視野の広さをうかがい知ることができる。

ここで、この講座を通じての私の反省と感想を述べさせていただきたい。「何か国際理解につながる授業をしてください。」と言われたとしたら、たいていの先生方は「さあ、どうしよう。」と戸惑ってしまうのうではないだろうか。正直、私もこの講座の前に困ってしまい、「何か中国について調べて、興味深い話をしなければ. . . 」と考えてしまったのである。例えば、今回の受講生が比較文化に興味のある大学生ならば、それも面白かったかも知れないが、学年もさまざまな小学生にとっては、あまり好ましいトピックであったとは思えない。それよりも、今回は、中国からの留学生である白さんが来てくださったのであるから、子どもたちと白さんとの関わりを中心に据えるべきであったように思う。例えば、私たちのグループにも白さんが竹の子を切りにきてくださり、皆その腕前に感心する場面があったが、今思えばこのような場面をもっと強調したかった。外見も私たちと似ており日本語も上手な白さんが、鮮やかな手つきで料理をしてくれ、私たちの知らない中国語を話すことができ、簡単な中国語を教えてくれる。そんな白さんが自分たちの作った料理をたべて「おいしい」と言ってくれ、一緒に楽しい時間を過ごすことができた。「白さんってすごい。」と子どもたちが思えるが、やがて、自分と異なる文化背景をもった人を、そしてその人の文化を尊敬する姿勢へとつながっていくのではないだろうか。

このような過程はSleeter&Grant (1989)によれば『いろいろな文化背景をもつ人々が皆と仲良暮らせるように教育する』という項目に相当する。これは、文化的多様性を社会発展のエネルギーとする、『多文化教育』への５つのアプローチのひとつである。異なりを積極的に受け入れ、多様性を尊重するといえば堅苦しく聞こえるかもしれないが、『私たちとはどこか違うけれども、私たちの知らないことを知っている、私たちのできないことができる白さん。』という意識が、言葉にならなくても感じられれば、やがて、それが異なる文化をも尊重できる姿勢につながっていくように思う。この姿勢は、異文化理解、国際理解の目指すものと大きく重なってくるといえよう。

異文化理解、国際理解とは、改まって特別に伝えられるものばかりではなく、日常の生活のいたるところに見出すことができる。問題は、指導者として、いかに私たちがそこにスポットをあてられるか、自分の中にある文化的背景だけで物事を判断して教材化しないことであると思う。

＜参考文献＞

Banks, James A. and Banks, C. A. M. (eds.)(1988). *Multiethnic Education: Issues and Perspectives.* Boston : Allyn and Bacon.

（３）家庭科の観点から

家庭科３年　　酒井　由佳里

家庭科の学生としてこの講座に参加させて頂いたが、感じたことを述べたい。基本的に「料理」を作ることは、常に食べるという喜びとつながっているので誰もが楽しめるし、目標もはっきりしている。今回は３、４人の班に分かれて行ったので、協力し合ったり、役割分担し合ったりするのが自然にできるという利点もあった。しかし、料理というものは包丁を使い、火を使うといった危険な面もあわせ持っている。本来家庭科を習うのは、小学校５年生からである。今回の講座にはそれ以下の子どもも参加していた。私たちが英語しか話さない中で、作り方の指示を理解できるのか、きちんと協力してできるのか、そして安全にできるのか、といったことが一番心配であった。

しかしながら、子どもたちは指示が英語であったにもかかわらず上手に仕上げていった。はっきりとした意味は分からなくても内容を雰囲気的につかんでいるようであった。顔の表情やジェスチャーによる部分も大きかったように思う。料理をする場合、ゆっくりとやり方を見せてあげると視覚的に理解できる。注意すべきポイントはその動作を繰り返すことによって「ここはポイントなんだ」とわかってもらえる。例えば、「包丁に添える左手の指は丸める」などといったことは左手をさして強調してあげると、子どもたちにちゃんとそれが通じていた。こんなに理解できるものなのかと私のほうが驚かされた。また子ども

たちは（日本語で）普通に話してもよいとはじめに指示してあったので、分からないところはスタッフに聞くことができ、スムーズに作り上げることができた。

私はほとんど英語が話せない。英語のみというプッレシャーもあり、本当に簡単な単語しか浮かんでこなかった。子どもたちにとっても英語を理解することは簡単ではなかったはずなのにうまく料理を時間内に作り上げることができたのは、やはりジェスチャーや場の雰囲気といった言葉以外の手がかりが十分にあったからだと思う。むしろ、英語よりもそういった言葉以外の助けによって理解していたのではないかと思う。

「英語で料理を作ったんだ」と自信を持って帰っていく子どもたちをみると、英語があまり喋れないこんな私がスタッフでも良かったのかもしれないと思うことができた。

5．アンケート結果と考察

（1）アンケート結果

「英語でクッキング」アンケート

Q1．今日、英語で料理をつくってみてどう思いましたか。（2つ選んで○をつけてください。）

(ア)	英語ばかりですごく緊張した。	…5 [38.5%]
(イ)	やってみれば何とかなるものだなあと思った。	…7 [53.8%]
(ウ)	もっと英語がわかるようになりたいと思った。	…7 [53.8%]
(エ)	英語は意外と簡単なんだなあと思った。	…2 [15.4%]
(オ)	英語は意外と難しかしいなあと思った。	…3 [23.1%]
(カ)	自分にもいつか英語ができそうな気がしてきた。	…2 [15.4%]
(キ)	英語は難しいので自分にはできないと思った。	…0 [0.0%]
(ク)	その他（　　）	…0 [0.0%]

Q2．自分は英語がよくわかったと思いますか。（○をつける）

とても	だいたい	半分くらい	あまり	ぜんぜん
(2)	(3)	(5)	(3)	(0)

Q3．中国や中国の人についてわかったこと、感じたことなどなんでも書いてください。

＊少し中国語を教えてもらえてうれしかった。

＊中国の人と話（し）てよかった。中国の人と話したのは始（初）めてだったのできんちょうした。

＊中国の中でもいろいろちがう言葉があることがわかった。

Q4．今日「英語でクッキング」に参加して一番よかったなあと思ったことはどんなことですか。

＊英語で何を言っているのかわかってよかった。

＊自分の知らなかった料理が一つでもわかってよかった。

始めはきんちょうしたけど、作ってみると、楽しくて、とっても、おいしかったです。

＊私は、あまりうまくないけど料理とか、家庭科などが好きなので、今日は、いろんな人と作って楽しかったです。

（Ｑ１は複数回答なので全項目を足しても100%にはならない。Ｑ３、Ｑ４は回答の一部を原文のまま抜粋した。ただし括弧の中は筆者の加筆である。）

（2）考察

Ｑ２の「英語がよくわかったと思うか」の質問に対し、「半分くらい」と答えた子どもの数が比較的多いが、Ｑ１の回答としては「やってみれば何とかなるものだなあと思った」、「もっと英語がわかるようになりたい」と感じている子どもも多い。一人一人を見てみると、Ｑ２で「あまり」と答えている３人の子どものうち２人はＱ１で「英語ばかりですごく緊張した」と答えている。しかし、２人とも「やってみれば何とかなるものだなあと思った」とも回答しており、「難しい」、「できない」といったネガティヴな感情は抱いていない。全体的には、かなり積極的な心的態度が子どもたちの中にあったとみてよいであろう。

６．全体を振り返って

講座全体の子どもたちの様子やアンケートの結果から、（1）言葉が違っても何とかコミュニケーションができるという達成感を味わわせる、というねらいはおおむね達成されたといってよいだろう。これまで言葉遊びで終わっていた英語活動の実践から英語をフルに活用した今回の取り組みへの移行は、浦野氏が言っているように第二言語習得の点からみて非常に大きな進展を遂げたといってよいだろう。またこのような英語活動は子どもの集中力・思考力・判断力・自主性を高めるものと思われる。話される英語を聞き取り、推測し、理解し、判断し、行動し、フィードバックするというプロセスを常に繰り返しているからである。最初は訳が分からず戸惑っていた子どもたちであったが、閉会式では筆者の英語の支持にさっと反応する子も見られるようになった。これはただ単に英語を理解したというだけではない。自ら思い切って行動してみようという積極性が２時間という短時間の間に高められた結果であると考えられる。

（2）料理や交流を通じて、中国（人）を身近に感じるようになって欲しい、というねがいについては、アンケートの不備もありはっきりと断言はできないが、料理ばかりでなく中国語についての発見や白さんとの出会いをＱ３の回答としてあげている子どもが多かったこと、また料理を作っているときの子どもたちと白さんの関わり合いの様子からみてある程度の成果があったものと思われる。異文化理解教育の観点からのコメントのなかで、橋詰氏が指摘しているように国際理解教育とは、特別改まって教えるものばかりでなく、むしろあらゆる教育活動のなかで子どもたちが自然に感じ、気づくことのできるような場の提供をしていくことが大切なのかもしれない。かつて国際理解をテーマにした講座で自分自身が失敗した理由を改めて認識できたような気がする。

また、酒井氏が指摘したように子どもたちが理解していたのは英語そのものというよりはむしろジェスチャーや場面であったかもしれない。筆者も、英語はほとんどはじめてと言っていいくらいの子どもたちが言語的情報だけでメッセージを理解できると期待していたわけではなかった。大切なのは、英語がわかった、英語で料理ができたという達成感と自信を味わえるようにすることであった。しかしながら、このような方法で理解可能な英語を聞かせ続ければやがては英語だけでメッセージを理解できるようになるときが来るはずである。言語外メッセージを使えばなんでも通じるというものではない。目の前に道具や

素材があり（「Here and Now の原則」）、目標のはっきり見える料理という活動だったからこそ、はじめての子どもたちにもできたのだと思う。そういう意味では家庭科と英語の融合は理にかなっている。またこれは他の教科、例えば、体育、音楽、図画工作（美術）、技術などいわゆる技能教科との融合が、英語学習の初期段階では容易かつ有意義であることを示唆している。

「目的は『料理』、手段は『英語』、気づいてみたら『国際理解』」という浦野氏の言葉に本講座は集約される。今後、このような総合的で自然な英語教育（国際理解教育）のあり方についてさらに研究と実践を深めていきたい。

7．おわりに

今回は数年にわたる児童英語活動の実践と、卒業研究の集大成ともいえる満足のいく講座となった。ただし、包丁や火を使う危険性や具合の悪くなった参加者への配慮など、子どもたちを預かる上で基本的な部分で大いに反省すべき点もあった。「安全に楽しく」という YOU 遊サタデーの基本理念を再確認したい。

最後に、本講座を実施するにあたり励ましと御指導をくださった英語科の渡邊時夫、伊原巧両教官、真新しい調理室の使用を許可してくださりいろいろと手配してくださった家庭科の粟津原宏子教官、スタッフまたはゲストとして協力をしてくださった皆さんに心からの感謝の意を表します。

<参考文献>

斎藤栄二、高梨庸雄、森永正治、渡邊時夫（1986）『楽しい英語科授業の創造』 桐原書店

「『信大 YOU サタデー』の実践 ―体験的学習の指導による実践的力量の形成―」（1996） 信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター

「第二期『信大 YOU サタデー』の実践―体験的学習の指導による実践的力量の形成―」（1997） 信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター

第９回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	絵本を作ろう	平成　8年　9月14日（土）（午後）
キャプテン	池上永利子　（国語専攻　3年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　3　名 参加者数　3　名
指導教官	梅原　恭則　教官	使用教室　新館５０３教室

☆何をするのか（具体的に）

・絵本をかく。
・かわり絵本の作り方やサンプルも用意しておく。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

・文をかく機会が少なくなったので、絵本という身近のものに取り組む形で文をかくことのおもしろさを伝えたい。
・文をかくことで、表現・想像力を育てたい。

講座の時間配分

時間	活動内容	スタッフの支援・留意事項
１０分	○自己紹介・説明	○黒板に注意事項と時間の予定を板書しておく。 活動ができるように机上の整頓。
８０分	○作業 ●自分自身で絵も話も考える。 ●用意した絵をもとにまねして描く。 ●かわり絵本にする。	○サンプルの提示 絵本の用意 本の大きさを選択させる。
２５分	○製本 、片づけ	○各自に体験させる。（全部やってしまわない）
5分	○移動 ●発表を閉講式で行うことに変更	

絵本を作ろう

池上　永利子（国語専攻　３年）

１．講座をひらくにあたって

教育実習がおわって、自分がこれから子どもと接していく機会を持っていないことに気付きました。そのとき、以前から参加してみようと思っていた「ＹＯＵ遊サタデー」のことを思い出したのです。「これはもう挑戦してみるしかない！」と思ったのです。実習で自分が何を学んだのか、これから考えて行かなくてはならないことは何か、そんなことを考えるきっかけにもなると思っていましたし、子どもと共に学びたいと思ったことなどが、講座を開こうと思った理由だと思います。

２．絵本を選んだ理由

最近の子どもは表現が上手なようでいて、実はそうではないんだな・・・
そんなことを実習中に感じていました。何か自分が考えていることを形にできるものはないか、そう考えていました。私自身が国語専攻ということもあり、「文章を書くことはどうだろうか。お話を読むことは好きでも、作文は苦手という子がいる。だったら好きなお話を書けばいい、自分が書きたいと思ったお話が良い。そうだ、読みやすいように絵もつけよう。じゃあ絵本がいいだろう。」そんな感じで「絵本」というものを考えついたのです。正直言って今までの講座は絵を描いたり、何か作ったりで、思考させる講座が少なかったように思うのです。子供たちが何も考えずに活動していたとは思いませんが、それからあとに発展していくものが少ない気がしていたのです。「絵本がそれからあとに活かせるのか。」そう聞かれると、自信を持って「はい」といえるわけではないのですが、少なくとも絵本ができて「ああ、良かった。また作ってみようか。」で終わってしまうものではないと思っています。学校でも、家でもあまりやらないことですが、それらのことと関連性を持った教材であると考えています。

３．子どもたちの様子

どのくらい人数が集まるか、何歳くらいの子どもなのか、ということが一番気にかかっていました。どのような子どもたちが講座に参加希望を出してくれたのかを知ったのもぎりぎりのことで、正直私が考えていたプランはうまく機能しなかったように思います。子どもたちは、事前にお願いしていたので何を書きたいのか考えてきてくれました。しかし、自分自身が考えたお話や名作といったものではなく、アニメのキャラクターや他人がかいた絵などを持ってきていました。

創造や創作ではなく、何かをもとにした「まねっこ」の要素があったことは否めない事実です。しかしそれをもとに、日常的なものに目を向けたお話づくりの姿もわずかながらみられました。

小学校三年生ということもあって、元気いっぱいでした。自分自身の考えがいえる年齢であるが、個人活動ができる年齢ではないということと人と話すことで、創造を膨らませることができるのではないかという考えから、マンツーマンの指導を考えました。私自身は全体の流れを見るため、個人にはつかないようにし３人のスタッフに一人一人面倒をみてもらいました。しかし３人の子どもたちがばらばらではおもしろくないであろうと考え、活動中に「・・・ちゃんは、こんなお話書いているよ。」と話しかけ、他の人のお話を聞いて一緒に作っていく活動を取り入れました。また絵が描けない子どものために、手伝い

として美術専攻の学生をスタッフに入れました。

ＹＯＵ遊サタデーのスタッフが写真を撮りにくるたび、「写真とんな！」「あっち行け！」など元気いっぱいでした。

４．反省にかえて

今時の子どもは、お友達とでないと参加できないのかもしれない。しかしこれは子供たちの責任でしょうか。私は今回のＹＯＵ遊サタデーという場においては違うように思います。子どもが、お友達と一緒でなくても参加したいと思うような講座を開くべきであって、私たちの努力不足があるように思うのです。

今回の講座の子どもたちは元気はありました。しかし私たちの準備不足のため（講座の時間不足という話もある）子どもたちの活動時間が十分ではありませんでした。時間がないであろうと考えて自宅で構想をねってきてもらったのにそれでもつくりきれませんでした。片づけ仕事になってしまったところもありました。

今回の講座は、成功ではないかもしれません。しかし何かをつくって楽しかったで終わってしまうものではなく、作りかたを学んだでおわってしまうのでもなく、「考えてみる」という今後にも活かせることをあつかった講座であったと私は思っています。

５．私の戯言

今回、事前に参加者のお宅へ電話をして、それぞれのお子さんの特徴や好きなもの等を聞きました。それを参考にそれぞれの子を主人公にした絵本を作っていきました。
スタッフに絵本づくりを体験してほしかったことと、子どもに喜んでほしかったためです。（スタッフも大変だったと言っていた。）私たちが作った絵本を読んで一つの刺激にしてくれれば、という思いももちろんありました。活動の中身から何かを考えて感じとるなんて、小学校低学年では無理だと思いました。だから活動そのものに価値があることをさがしました。私の今回の試みには悔いがいっぱい残っています。

手作り絵本を貸してくださった益地先生とスタッフの木内さん、中村くん、宮本さんに感謝しています。

第９回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	家庭教育フォーラム 「お父さん、出番ですよ！」	平成　8年　9月14日（土） （午後）
キャプテン	長島　多賀子　（幼児教育専攻　4年） 知野　真里子　（家庭専攻　4年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　0 名 参加者数　6 名
指導教官	山田　敏　教官　粟津原　宏子　教官　土井　進　教官	使用教室　新館５０６教室

☆何をするのか（具体的に）

家庭教育における父親の役割の重大さや、子どもへのかかわりの具体的方法について、２人の講師からお話を聞き、それをもとに自由に討議する。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

教育の根本は家庭にある。今まで家庭教育に父親の関わりが不足しがちであったが、学校週５日制、週休２日制に伴い、父親が子どもと過ごす時間がとれるようになってきた。その時間を生かし、父親が教育に関わる意識を高める必要性を伝えたい。

講座の時間配分

時間	内　　容
13:00	開会のあいさつ（長島、知野） ＜設定の理由、主旨＞ ①子どもの人間形成における父親・母親の役割の重要さ ②社会の状況の変化 ③学校５日制・週休２日制による父親参加への期待 ＜自己紹介＞ 参加の動機、期待すること ＜講師の紹介＞（土井）
13:20 (30分)	講演１　「おやじの出番」 講師：葛田英男氏（葛田労務管理事務所長） 意見、質問受付
13:50 (50分)	講演２　「お父さん、外でも子どもら待ってるよ」 講師：深町修司氏（東部町立和児童館長） 意見・質問受付
14:40 (10分)	休憩
14:50 (40分)	自由討議
15:30	閉会のあいさつ（土井、知野、長島） アンケートに記入してもらう

家庭教育フォーラム
お父さん出番ですよ！

知野　真里子（家庭専攻　4年）

1．開講設定の理由

家庭教育フォーラム「お父さん出番ですよ！」を第九回ＹＯＵ遊サタデーで開きました。私達キャプテンが伝えたかった事は、端的に言うと「お父さんも育児（家庭教育）に積極的に参加してほしい」ということです。

子育てにおいての父親の役割は一般に、子供に社会のルールを教えることだといわれています。父親の家庭での不在は、社会性を欠いた子どもを作り出す、と言われています。そのため、父性の欠如が現在のいじめを引き起こしている、という考え方もあります。父親の家庭教育への関与は、とても重要だと思います。

私は、教育の根本は家庭にあると考えています。今までの父親は、会社に多くの時間とエネルギーをとられ、あまり子どもと接する機会と余裕が無かったのだと思います。しかしこれからは、学校５日制、週休２日制の導入に伴い、父親が家庭で過ごす時間が増えるようになりました。その時間を生かして、父親がもっと家庭に関心を持ち、家庭教育に関わるようになって欲しいと思います。今回は、そんな私達の願いを込めて、家庭教育における父親の役割の重大さや、子どもへのかかわりの具体的方法について、深町さんと葛田さんの二人の講師からお話を聞き、自由に討議したいと思い、この場を設けました。

2．資料の解説

お二人のお話を聞く前に、現在の父親一般の実態を把握するための資料（出典『家庭教育に関する国際比較調査報告書』財団法人日本女子社会教育会）を用意しました。

表１「父親の１週間の労働時間」では、欧米に比べ、アジア３カ国の父親の労働時間の長さが目立ちます。

表２「子どもと一緒に過ごす時間」からは、①国や性別に関わらず、子どもの年齢が高くなるにつれて接触時間が減る②日本の父親は他国の父親に比べ、子どもとの接触時間が少ない③どの国も無職の母親の方が子どもとの接触時間が多いが、日本の母親の場合、特に有職と無職の母親の接触時間の差が大きい、ということが読み取れます。

表３「父親の子育て分担」では、父親の子育ての内容が示されていますが、日本の場合一般に父親は“遊び相手をする”“生活費を負担する”という役割を分担していることがわかります。逆に言えば、それ以外は母親が主に分担しているということです。さらに、他の国と比べて日本の父親は、圧倒的に子育てに消極的な姿勢がうかがえます。

表４「子どものしつけ－５歳の時にできること－」は「～さんが５歳の時次のようなことを一人でできましたか？できたものをいくつでも挙げてください。」と、基本的生活習慣が５歳の時までにどの程度できるかを、親に問うたものです。これを見るとタイ、アメリカ、イギリス、スウェーデンの４カ国は、大体の項目においてほぼ８０％～９０％できていると思っているのに対し、韓国と特に日本は、親が期待するほど現実にはできていないことがわかりました。

家庭教育フォーラム
「お父さん出番ですよ！」

長島多賀子（幼児教育専攻４年）

1．自己紹介(参加動機等も)

参加者１０名（キャプテン含む）

2．フォーラムの趣旨の説明

①子どもの人間形成における父親・母親の役割の重要さ

②社会の状況の変化

③学校５日制・週休２日制による父親参加への期待

3．統計にみる子どもと父親の実態

表１　父親の１週間の総労働時間

平均時間でみると日本は韓国に次いで多い。福祉の充実しているといわれるスウェーデンは６ヶ国中最も少ない。

表２　子どもと一緒に過ごす時間

父親と母親の差が最も大きいのは日本である。

表３　父親の子育て分担

日本が最も低いのは「食事の世話をする」で、「勉強を教える」「進路の相談相手になる」「悩み事の相談相手になる」というのも低い方だ。逆に「生活費を負担する」のはかなり高い割合だ。

表４　子どものしつけ－５歳の時にできること－

「行儀よく食事ができる」の割合が、日本は他国に比べてかなり低い。

表５　子どものしつけ－１５歳の時にできること－

日本は「ボランティア活動をする」「アルバイト等で報酬を得る」の割合が低い。「家族のための食事をつくる」男の子もまだまだ少ない。一方スウェーデンはどれも７割を越えている。

表６　子どもとの接触内容

日本では「テレビをみる」が第３位になっている。「趣味を教える」は第13位である。

4．講演１「おやじの出番」　葛田英男氏（葛田労務管理事務所長）

1)家庭のあり方

家庭とは･･･家の人が一緒に生活する場

３つのパターン

①父＝母　　②父　母は父に遠慮している　③　母

子　　子　母　　父　子

いじめを受けやすいケースは②

（子どもが萎縮してしまう）

☆父は母と子の強いつながりに入りこめないのか?－ＮＯ

＜子どもが父にどこまで向かっていけるかが問題＞

2)父のあり方

①子どもの様子をじっと見ていてほしい

②父自身の本音や悩みを子どもにぶつけてほしい

だめおやじでいいじゃないか、子どもは自分の所有物ではない!

③家庭に勝負の論理を持ち込まないでほしい－勝負から降りる

④がまんをしないでほしい

3)「欠感情症候群」と呼ばれる子ども

①何を考えているのかわからない　②人の気持ちがわからない

③非指示的　④感情がない

4)子どもへの態度

★「共感」「受容」「一致」

子どもを自立させるには･･･「あなたはどう考えるの?」と問う

5)子どもが事件をおこした時どうするか(自らの経験をもとに)

○おごらない

○正直に話せ

○それを約束する

○世間の人に知れてもかまわない

子どもの一日をみると・・・

８時間－学校に預ける←先生に思うように指導してもらう←私が責任を取る

８時間－家庭にいる　↓

８時間－寝る　事件うまく収まる

［まとめ］「共感」「受容」「一致」が大切

子どもがボールを投げてきたら投げ返してあげる

5．講演２「お父さん、外でも子どもら待ってるよ」

深町修司氏（東部町立和児童館長）

常田寺子屋のビデオ、スライドから

影絵、手遊び、マレットゴルフ、蛍を見に行こう、常田祭り

子どもとお師匠さんとの触れ合い

父親が出ていくには

1)素人の父親がいい－すきまだらけ、ゆとりがある、本音で語れる

2)父親が学んでほしい→変わっていく　出ることが学び

子どもの方も、先生とちょっと違うぞと感じる

先輩の父親との接触→地域の仲間との交流

3)男性として頼りになるもの

父は黒子でいい→縁の下の力持ちとなってほしい→父性の役割

4)経験の蔵を開けてほしい

父親が出ていくには母親の支えも必要

6．自由討議

吉澤さん:古里育成会に携わって１３年になる

目標①生活文化の伝承　②心の豊かさを育む

竹とんぼ、実、オトギリソウを持ってきていただいた

1)人に親切にすること

2)ありがたい、申し訳ないと思う心

3)損得の感情は別の世界

4)隣の家との関わり

髙山さん:1)登校拒否の研究会に参加して

勉強、勉強と言われるといや　自分のやりたいことができない

生活のゆとりをなくしていないか？　今自分自身にもゆとりがない

2)学校５日制のねらい

どれだけの国民が理解しているか？－１０％ぐらいだろう

行政にアピールすると共に自分も課題を持つ

北原さん･４人の子どもを持って～その子自身のもつ力が出る家庭を

トドになってもいいと子どもに言った→それぐらいゆとりを持ってほしい

常田寺子屋瓦版

平成8年 8月30日

常田区 小学生の皆さんへ
〃 〃 保護者の 〃 〃 〃

常田区公民館長 小林紀夫

P.T.A支部長 宮下直樹

第46回常田寺子屋

まっ白い土で 自分がつかえる
やきものつくろう
色もつけよう、もようもつけよう

1. とき　9月14日(土) 9じ～12じ
2. ばしょ　常田公民館
3. もちもの　・エプロン　・ぬのぎれ　・ビニール袋
4. かいひ　1.2年 200円　3年いじょう300円
5. お師匠さん
   - 深町 修司　・美育津正子　・渡辺 明　・半田弘子
   - 渡辺 正　・小林 正利　(アトリエ童心)
   - 小林三鈴　・土屋けさ代　・荻原春代 (心陶クラブ)

キ---リ--ト--リ--セ--ン

常田寺子屋(やきものつくり)参加申し込みカード

児童氏名		男 女	年 組	支区
保護者名		当日、9時～12時連絡先		

申し込み〆切 9月7日(土)

ことしは みんな つかえるもの

——いちどやいて(すやき) 800ビ　色をつけ、うわぐすりつけて、またやく(本やき)— 1250ビ

ちいさい「どれい」2つはできるよ、たかい音がでる「りん」、そこに、えや、じも かけるよ。

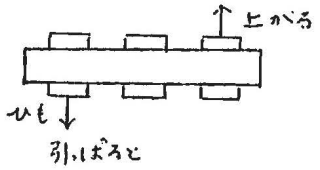
まっ白なホワイトハウス、色つきのやねの「ちょきんばこ」。それと、ぼくわたしの、「おさら」だよ。

がんばれば 2つはできるよ。 絵や字もいれ、色もつけよう。

山岸さん:県の仕事で女性の金銭問題を扱っている。
伝える場面のなさ→地域にもっと広めていきたい

宮崎さん:教職8年→現在信大大学院在籍　「ゆとり」ができた
父の立場というより教師の立場で
ビデオの中のホタルを見つけた時の子どもの歓声
体験を通して学ぶことを改めて教えてもらった
クラスの子どもにお父さんの特技を聞いて人材バンクをつくってみたい

吉澤さん:



このしくみがわかりますか?
わからないということは、世間なみの目しか持っていないということです。

深町さん:「共感」「受容」「一致」　家庭には競争社会を持ちこまない
理想の父親像･･･家族の柱となる、大きく受け止める
父親は相対愛ではなく絶対愛を貫いてほしい
『父性の復権』　林 道義　著　　中央公論新書
「父親の役割」とは
①家族を統合する力を持つ ②理念を掲げる←子どもをふらつかせない
③文化を伝える　　④社会のルールを教える
父は健全で権威が尊敬される存在であってほしい
まず「出る」(子どもの前に)こと、これこそが経験である

葛田さん:日本の常識は間違いが多い
(例)高校野球－監督の指示、采配に全て従う子どもに自主性は感じられない。監督は観客席にいてもらいたい。
☆子どもの自主性は実は大人が奪っている
忠告 これからは父も母も土・日まで働く社会になる(第三次産業の発展の為)
そこで父母のいない家庭になることが問題になってくる
○30、40代の校長先生を出して頂きたい、そしてまた教員に戻ってほしい

知野さん:理想としては、父母が1人の人間として子どもを育てていってほしい。
父母の役割を決めるのではなく、父はもっと子育てに入ってきてほしい。

7.反省

1)テーマ設定について

このフォーラムに参加して頂いた皆さんは、父親の役割についてそれぞれご自分の考えをお持ちでいらっしゃった。よって、我々キャプテンが話をすすめていくというより、参加者全員で話し合いをすすめていくという形であった。ただ、父親の役割というとかなり範囲が広く、様々な意見が出て、話し合いの焦点がぼやけてしまった時があった。これについては、我々の方で「家庭における父親」「社会の中の父親」「現代社会の親子関係」「不登校やいじめと家庭環境」などのようにテーマを設定してもよかったかとも思う。しかし、参加者の立場が様々であること、時間も限られていることから、今回はこのような漠然とした流れの討議にせざるをえなかった。次回は今回のこの反省を活かして、もう少しテーマを絞ってみたい。

2)講座開設にあたっての準備について

予定していたより時間に終えることができなかったのは、開始時刻が遅れたことと、自由討議の時間が長引いたことが原因である。しかし、これは我々の時間設定の甘さを指摘しなければならない。開会の挨拶や自己紹介等を手短に済ませ、自由討議の時間をもっととれるようにするべきであった。また、スライドの使用方法が曖昧であったため、当日はスライドの向きが逆になってしまった。今後スライドを使用する時は、少なくとも一回は全てに目を通しておくべきである。

3)今後の展望

父親が家庭教育に積極的に関わっていくためには、社会全体の人々の理解がまず必要であると感じた。どうして週休2日制や学校5日制が導入されるようになったのか、この制度を私たちはどう受け止めてどう活用していくかをよく考えなければならない。そしてまず行動を起こしてみることが大切である。我々教育に携わる者としては、学校に通ってくる子どもたちがよい家庭環境の中で育てられているかを常に把握していなければならない。子どもと親と教師の3者でコミニケーションをとる機会を多く持ちたい。その中でそれぞれが1人の人間として教育する、されるのだということを実感してほしい。今我々にできることは、ひとりひとりが先の社会を担う教育者であるということに気付いてもらうために、こうしてこのような講座を開いて、もっと意見わ交わしあうことであると思う。

最後になりましたが、この講座を開設するにあたって多くの方々のご協力を頂きましたことに感謝しまして、この実践記録の終わりとしたいと思います。本当にどうもありがとうございました。

以上

おしゃべり教育学　－実践記録にかえて－

林　向達（名古屋大学大学院　２年）

「おしゃべり教育学」は、今年もＹＯＵ遊サタデー９月の講座として開くことができました。「物語のちから」と「場のちから」という２つのちからでもって教育をデザインしていこう、ＹＯＵ遊サタデーとはまさにそんな場なんだという内容のおしゃべりでした。申込数はゼロでしたが、当日興味を持っていただけた父母の皆さんを参加者に得て、ＹＯＵ遊サタデーの見学なども交えながら楽しいひとときをすごしました。

さて、本来ならば講座の実践記録をまとめるべきなのですが、例のごとくＯＢの立場としてものを語ることで、この場をかえさせていただきたいと思います。

教育学部の未来

以前から様々なところで記されていることですが、教育学部の将来はいささか複雑です。目に見えるところでは、全国の教育学部が改組したり、廃止されるところまで出てきています。しかし、一方で中央教育審議会が示した「生きる力」というキーワードを実現するために、教員養成に一層の充実が望まれる時代でもあるのです。そのような状況の中で、信州大学教育学部は学部側の努力として改組が、そして学生側の活動としてＹＯＵ遊サタデーが展開され、全国で類をみない充実した学部運営が進行しています。

改めてこの事態を整理すれば、学部内で、学部と学生の両側から動きのぶつかりあいがあるという事実です。どちらか一方というわけではないところがポイントです。教育学部の改革は、ともすれば学部改組や教官の仕事量の増加で賄われることが多く、学生側の努力については、云々すること自体が土台無理だとばかりに、さほど語られません。しかし私達の経験では、全く無理なことでもなさそうなのです。

1996年11月には、私達の仲間ともいうべき活動が富山大学で始まりました。「富大遊ばん会」と命名されたその活動も、学生主導の教育実践活動です。こうした学生側のやる気によって教育学部が活気みなぎる場となる可能性は、まだ十分残されているといってよいでしょう。

教育の未来

教育学部にとどまらず教育の未来ともなれば、さらに混沌としており、見極めることが困難です。私達はこれを悲観的なイメージで語ることも容易ですが、また楽観的なイメージで語っていくこともできないわけではありません。もちろん現状分析は、しばしば深刻な問題を伴って私達の目前に現れてきます。しかし次代の教育を担う私達に望まれているのは、そのような現状を認識しつつも、それをそのまま引き継ぐのではなく、新たな教育の物語を生成していくこと、デザインし直していくことではないでしょうか。

長期的な予測に立って将来の教育を語るとすれば、一つに教師への大きな権限委譲が実現されると思われます。たとえば教育内容について教師や学校が独自に選択できたり、学校経営の形も多様化します。これを教師自身がコントロールできるのです。しかし同時に、

教師の責務も増大することになります。現時点でも多忙をきわめる教員にとり、自由と引き換えのさらなる多忙は歓迎されるはずがありません。そこでこれをサポートする機関が設置されると思われるのです。たとえばカリキュラム・センターといった機関が各都道府県に設置され、各学校からの相談や依頼に対処することになります。また教育委員会にならぶ教育組織が併設され、学校運営の手助けをする役目を負うのです。ただしあくまでもサポートの範囲内という限定付きです。

この予測は、それほどいい加減ではありません。今後進む教育改革や情報通信技術を勘案すれば、こうしたシステムは不可能ではないのです。しかしそのためには、教師にプロフェッショナルとしての素質を持ってもらう必要がより強くなってきます。教師の専門性は様々な議論のあるところですが、ここでの主張をもっと平たく表現すれば、人間としての素質「人間力」を豊富に持つことが必要ということです。

ＹＯＵ遊サタデーの未来

ＹＯＵ遊サタデーの未来について、私が述べるというのはおせっかいといったところでしょう。活動に参加するスタッフとしては現役だとしても、ＹＯＵ遊サタデーの未来を云々する者としてはいささか不適当となりつつあります。ＹＯＵ遊サタデーに対する理念的な記述は、すでに公にしている文章を参照していただくことがいいかと思います。しかしＹＯＵ遊サタデーの理念などというものは、その時期に居合わせた現役大学（院）生の皆さんが考えるところのものがホンモノであって、私のような古い人間の語るものは、すでにカビの生えた戯言なのです。

それでもなお私の言葉が役に立つことがあるかも知れません。たとえば「ＹＯＵ遊サタデーとは、どうしてはじまったのか」という問いかけのときには、何らかの過去を伝えられるように。

第３期の学生が言いました。「ＹＯＵ遊サタデーというのは、いずれなくなるものだと思っています」と。正直なところ、感心しました。後輩達がそんな深いところを考えていることにです。しかしそれは当然でしょう。彼らはＹＯＵ遊サタデーに２年以上かかわっている人達なのです。この活動が一体どういう意義を持つものであるのか、たった１年でその場を去った私に比べ多く、繰り返し自問したに違いありません。その結果、ＹＯＵ遊サタデーが今後も信大教育学部の目玉として残るという見解に達する人達もいると思います。私自身は、個人的意見の範囲内で、ＹＯＵ遊サタデーの単位化や学部講義との絡みについて否定的ですが、そういう望みの方が強いならば選択され得る道でしょう。いずれにしてもＹＯＵ遊サタデーの未来は、つねに流動的なのです。

自分達の未来

そして私達の未来です。子ども達の未来を切り拓く立場になる者として、自身の未来をどのように描いていくかは、とても重要な問題です。

プラス思考を唱える書物がこの時期多く刊行されましたが、その説明の信憑性は別として、こうした主張は参考になるところです。私達は、些細なきっかけで想像だにしない事

態へと移ってしまえるものです。たとえば新たに知り合った学生同士が、一つのことに向かって団結するという事を数年前誰が予測していたでしょうか。

第３期の実行委員会のメンバーと接していて感動したのは、それぞれが他のメンバーのことをちゃんと認めて、むしろ尊敬さえしているという関係ができていたことです。面白いことは、メンバーが互いに面と向き合っているときには相手にそんなことを一言も言わないのに、私がそれぞれのメンバーと個人的に接すると、ぽろぽろと他のメンバーを褒め始めるのです。口に出しては言わないけれども互いに評価して信頼している集団。うらやましいほどです。

そこで私は、自分の理想に強い自信を得ました。その理想とは「他の人を評価できる人を育てる教育を実現したい」というものです。これは非常に難しい課題なのですが、しかしこれを実現しない限りは、教育の未来を開こうと思っても開けないのです。

『「王様のレストラン」の経営学入門』という本で、著者の河村尚也は「クリエイティブ・チーム」というものを示しています。そしてその中で「フローティング・リーダーシップ」という考え方が重要であると言います。状況に応じてチームメンバーの適当な誰かがリーダーシップを取るような、そういう柔軟なリーダーシップ論です。こうしたものを実現するためにも、他の人を評価でき、信頼する個人が求められるのです。

ＹＯＵ遊サタデーや教育という領域に限定せず、広く世界をとらえるときでも、この考えはとても重要だと思います。そのためには、自分というものを評価できるようになることも必要です。自己の評価から他者の評価へ、そしてそれらを踏まえた上で関係をデザインしていくことが、これからの時代を担う基礎的な原理として必要になるはずです。

あなたの未来

ＹＯＵ遊サタデーも３年目を終えつつあります。個人的な感慨を記せば、第１期にかかわった最後の学年がこれで卒業を迎えるということになり、一つの節目かなと思います。

もちろんＹＯＵ遊サタデーは毎期新鮮な気持ちでスタートしているわけですから、今後のＹＯＵ遊サタデーもまた新たな面を出してくれるでしょう。学生達の顔は入れ替わっていきますが、その学生が望む限り、ＹＯＵ遊サタデーは続いていくのです。

勝手なことばかり書いてきましたが、これがおしゃべり教育学の一端です。「物語のちから」ばかり使って「場のちから」を使いませんでしたが、それはまた別の機会に。実際のおしゃべり教育学は、もっとわかりやすくしゃべっていますから、誤解しないでくださいね。

それでは、あなたの未来に大いなる期待を抱きつつ、おしゃべり教育学はお開き。

以上

第９回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	とびだすびっくりカード を作ろう！	平成　8年　9月14日（土） （午前）
キャプテン	清水あかね　（数学専攻　4年） 芦田　　恵　（数学専攻　4年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　2　名 参加者数　10　名
指導教官	梅原　恭則　教官	使用教室　新館３００教室

☆何をするのか（具体的に）

折り紙などを二つ折りにし、ほぼ左右対称に切り取ったものを、カードの中央部分にはりつけ、カードを開いた時それが飛び出してくるようにする。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

ちょっとした工夫で、ただのカードがこんなにも楽しくなるということを感じてほしい。また、そのカードを人にプレゼントして、人が喜んでくれることで、作って良かったという気持ちを持ってほしい。

講座の時間配分

時間	キャプテン・スタッフの支援
2分	◎見本を見せる。 子どもたちを前に集め、あらかじめ作っておいた見本を開いてみせる。
10分	◎作り方を説明する。 こどもたちを好きな場所に座らせ、黒板に貼っておいた模造紙を使いながら説明する。 特に注意すること ・貼り付ける紙は必ず真ん中がくっついていること。 ・必ずのりしろ部分をつけること。 ・のりしろを後ろに折ってV字に貼ること。
93分	◎カード作り（四つの班それぞれにスタッフが一人ずつつく）。 分からないことがあったら班にいるスタッフやキャプテンに聞くように言う。 切ろうとしている子、貼ろうとしている子には、間違えていないかスタッフとキャプテンが特に注意してみてあげる。
15分	◎後片付け 自分の持ってきたはさみやのりは忘れないようにさせる。 ごみを班の机の上に一つにまとめるように指示する。

とびだすビックリカードを作ろう！

清水あかね（数学専攻　4年）
芦田　　恵（数学専攻　4年）

1．講座を開くにあたって

ＹＯＵ遊サタデーのスタッフとして、何回か参加しているうちに、自分で何か講座を開きたいと考えていた。子どもたちが何かの形として残せる内容をやりたいと思っており、二人で考えたところ、９月１５日は敬老の日だから、おじいさん、おばあさんへ送るカードはどうかということになった。おじいさん、おばあさんのいない子どももいるので、仲の良い友達やお父さん、お母さんに送ってもすてきなカードになるよう何か楽しいカードを作ろうと考えた。そこで、飛び出すカードは簡単で楽しいし、工夫もいろいろできるという点から、この講座を開くに至った。

2．ビックリカードについて

ＹＯＵ遊サタデーの講座の中だけでなく、子どもたちが家に帰ってもできるよう、身近にある画用紙や折り紙を使った。また、本当に少し工夫するだけでこんなに楽しいカードになるという喜びを子どもたちに味わって欲しいと思った。さらに、自分の作ったカードを人にプレゼントすることで、子どもたちがその人が喜んでくれたという体験をしたり、手作りのものをあげることの良さを味わうことができると考えた。カードに一言書かれた“ありがとう”“おめでとう”という言葉が、どれだけ相手を喜ばす力があるか子どもたちに知って欲しかった。

3．子どもたちの様子

何回もＹＯＵ遊サタデーに参加している子どもたちは、この講座は退屈に感じるかも知れないと少し不安だったが、どの子どもたちもとても楽しんでいたと思う。男の子はカードからはみだすくらい大きいものを作ったり、いくつも作ったりしていたが、女の子は小さなものを丁寧に作ったり、色塗りに時間をかけたりしていた。おじいさん、おばあさんへのカードを作って、明日あげるといっていた子どもが何人かいて、おじいさん、おばあさんたちが喜ぶ顔が浮かび、私までうれしくなった。また、もともと予想していたが、こちらで用意してあった見本をまねる子が何人書いた。しかし、作りたいものが見つからなくて終わってしまうより、ビックリカードを作るという経験をして欲しかったので、私はそれはそれでよいと最初から考えていた。

4．講座を終えて思うこと

ＹＯＵ遊サタデーに参加すると毎回思うのだが、子どもたちの予想していなかった発想に驚かされる。今回私が驚いたのは、折り紙をつなげたままで、大きなものを飛び出させようとする子どもがいたことだった。しかし、折り紙は柔らかいため、うまく立たなかったので、もっと固い紙で作った方が良かったかもしれない。私たちも事前にあれこれ試してみて、大丈夫だと思っても、いざ講座を開くと不十分なところがでてくるものだということを実感した。

また、作り方の説明はもっとわかりやすくした方が良かったかもしれないが、足りないところをスタッフの方々が補ってくれたことに感謝したい。今回はスタッフが一緒に作らなかったが、本当はキャプテンやスタッフも子どもたちと一緒に作って楽しめたら良かっただろう。

第９回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	おはじき、あやとり、鬼ごっこ	平成　8年　9月14日（土）（午前）
キャプテン	秋山　　薫　（心理臨床専攻　3年） 竹田みどり　（心理臨床専攻　3年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　2　名 参加者数　10　名
指導教官	野口　宗雄　教官	使用教室　泉会館１号室

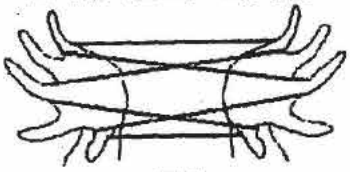
☆何をするのか（具体的に）

昔の遊び、おはじき（はじき方、二人遊びなど）、あやとり（一人あやとり、二人あやとり）、鬼ごっこを中心に、同じ講座になった新しい友だちと楽しく遊ぶ。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

初めて出会った友だちと遊ぶことを通して、友だちと仲良くなるとともに、昔の遊びの楽しさを知ってもらいたい。

講座の時間配分

時間	講座の流れ	留意事項
１０'	１．始めの会 自己紹介・あいさつ	○キャプテン、スタッフから自己紹介をした後、子どもたちにも自己紹介してもらう。 ○今日やることの説明をする。
３０'	２．活動に入る ①「おはじき」をやる。 ・こども、スタッフとも２つに分かれ、グループごとに活動する。 ・まずスタッフがはじき方をやって見せる。 ・２つ（またはそれ以上）のおはじきを当てたりして遊ぶ。	○子どもの様子を見てグループ分けをし、おはじきをそれぞれのグループに配る。 ○幼稚園児が多いので、口の中におはじきを入れないように注意するとともに、子どもにも口頭で伝える。
４０'	②「あやとり」をやる。 ・まず一人でできるあやとりをやる。 糸のかけ方 基本形（図１）の作り方  図１ ・ほうき、東京タワーをやってみる。 ・様子を見て二人あやとりをやる。	○用意した糸を一人一人に配る。 ○糸を使って危険なこと(首のまわりに巻く等)をしないように注意する。 ○うまくできない子にはスタッフが手助けする。
３０'	③「鬼ごっこ」をやる。 ・子どもたちがやりたいものをやる。	○範囲を決め、子どもたちに伝える。 ○鬼が一人に固定しないようにする。 ○子どもたちに怪我をさせないように注意する。 ○スタッフも子どもたちの中に入り一緒に楽しむ。
１０'	３．終わりの会 感想発表・あいさつ 修了証書・お土産を渡す。	○お土産は、当日使用したものを人数分に分ける。 ・あやとりのやり方のプリントも配る。

おはじき・あやとり・鬼ごっこ

秋山　薫（心理臨床専攻　3年）
竹田　みどり（心理臨床専攻　3年）

1．講座を開くにあたって

最近の子どもたちは、何をして遊んでいるのだろう・・・。

私たちが子どもの頃は、缶けり、ゴムとび、あやとり、折り紙、おはじき、鬼ごっこ・・・といった遊びをしたものだ。このような遊びは主に、私たちの母親、そして祖母から教わった遊びであった。そんな遊びを今度は、自分たちが子どもたちに伝え、そして子どもたちに実際に体験してもらいたいという思いから、今回この講座を開くことにした。

まず、これらの遊びの中からどんな遊びを子どもたちに体験してもらいたいかを考えた。子どもたちにとって指先を使うことは難しく、苦手であろう。そこで、これらの要素を含んだ遊びで、子どもたちがあまり経験したことがないであろうおはじき、あやとりを選んだ。また、今の子どもたちは学校から帰った後、屋外で、近所の友達と大勢で遊ぶことが極端に減ってきているという。このことから、体をおもいきり動かして、大勢で楽しく遊ぶ機会を子どもたちにもってもらいたいと思い、鬼ごっこを選んだ。

2．これらの遊びについて

＜おはじき＞

古くは1800年もの昔、中国の魏の時代に、「はじき碁」という遊びが生まれた。これは、碁石6個ずつを盤の両端に並べて、2人が交互に自分の石をはじき、相手の石をはじき落とすものであったようだ。それが奈良時代の日本に伝わり、貴族たちの遊びとなった。

江戸時代にはいると、簡略化されたおはじき遊びが人々に広がっていった。碁石は、貝殻や木ノ実、形の良い小石を使うようになった。盤は使用せずに、床の上で行うようになった。また、様々なルールも作り出され、女の子の遊びとして定着していった。

明治から大正時代には、ガラス製の「おはじき玉」がつくられるようになり、梅、菊、ぼたん、小判などの様々な形のものが登場した。

＜あやとり＞

平安時代が起源と言われているが、はっきりしないようである。一般に広まったのは、江戸元禄時代と言われ、当時は子どもだけでなく、成人女性にも大流行、あやとり専門の糸まで売られていたという。

ちなみに、東京タワーが完成してから、あやとりに「タワー」が仲間入りした。このように時代の波を遊びに取り入れる子どもの柔軟さは、感心させられる。

＜鬼ごっこ＞

遊びといえば誰でも思い当たるのが「鬼ごっこ」。古くは「かーごめ、かごめ・・・」といった「あて鬼」、キャンプ場でよくやる「ハンカチとり」、戦時中に戦闘訓練を兼ねて行われた「穴とり」に始まり、「かくれんぼ」、「追いかけっこ」、「目かくし鬼」、「いろ鬼」、「たか鬼」、「手つなぎ鬼」、「こおり鬼」、「影踏み」、「だるまさんころんだ」など今では数え切れないほどの遊び方がある。

３．子どもたちの様子

畳の部屋に集まった子どもたちは、そのほとんどが小学生以下の子どもたちであった。そのため、どんな対応をしたらいいのか、おはじきやあやとりにどれだけ興味を持ってくれるのだろうか、という思いを抱いていた。しかし子どもたちの明るい笑顔が最後まで見られ、彼らは楽しんでくれたのだろうと感じている。

子どもたちは、おはじきが目の前に積まれると、「わっ」という歓声とともにすぐに触れ始めた。「きれいだね」、「この色、集めよう」、両手におはじきをいくつか入れ、上下に振りながら「おもしろい音するよ」などと言って、はじくというよりもいじることに集中していたため、事前に計画していた流れからは、どんどんかけ離れていってしまった。しかしはじいて見せると、自分も同じようにやってみようと真剣に真似、遠くまで飛ばせるようになっていった。

あやとりでは、子どもたちの様々な表情が見られたように思う。あやとりのひもを手にかけよう、スタッフや他の子どもが作った形を見て、あの形を作ろう、はやくあれを作りたい、できたよ・・・。子どもたちの、必死に取り組んでいるときの姿、できるようになったと教えにきてくれたときの顔から、私たちが忘れがちな、何にでも夢中になれる気持ち、粘り強く取り組むこと、その大切さを教えられたように思う。

鬼ごっこをすることになり、小さな部屋で物足りなくなっていた子どもたちは、外に出るとすぐに走り出した。そして鬼を決め、初めて会った友達と元気に追いかけごっこをしていた。子どもたちは本当に外が好きなのだと、改めて思った。

講座全体を通して、中でも年長の男の子が、他の年下の子どもたちの面倒をよく見ていたのが印象的だった。

４．感想

教育実習直後の初めてのＹＯＵ遊サタデー、それもキャプテンということで、準備不足、進行をどうやっていったらよいのか、など不安ばかりの今回の講座であった。しかし、子どもたちが活動の中で見せてくれた様々な表情を見ているうちに、みんなで楽しく遊ぼう、そして私たちスタッフも、子どもと同じ気持ちになって楽しめばいいんだ、と思うようになっていった（あまりにも同じ気持ちになりすぎて、時間を忘れてしまったが・・・）。そこで実習とは違うものを感じていた。

おはじき、あやとり、鬼ごっこ・・・。これら昔からの日本の遊びをすることで、講座を開くにあたってねらった能力や願いは、本当の意味では伝わらなかったかもしれない。しかし、子どもたちそして私たちスタッフ合わせて１４人という大勢でもって、畳の上で肩を寄せ合い、また、屋外で思い切り走り回って遊ぶことのできる場を提供できたという意味では、この講座をやってよかったと思う。

スタッフへの連絡不足、時間配分など不備も多々あり、反省として様々な分野で活かすことのできる、また活かしていかなければならないことがたくさんあった。子どもたちに対しても、未知の年齢層であったこともあり、適切に教えられなかったと思う。けれどもそんな中でも今回の講座が成立できたのは、遊びという活動の中で、子どもとともに作り上げていけたからではないかと思う。このような機会を持てたことに感謝し、ご指導、ご協力くださった方々に御礼申し上げます。

第９回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講　座　名	宇宙生物スラスラスライム	平成8年　9月14日（土）（午前）
キャプテン名	宮沢　元　（理科専攻3年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　8　名 参加者数　21　名
指導教官名	村松　久和　教官	活動場所　新館５０７教室

講座のねらい　スライム作りを通して、自分の作りたいものを材料から作る楽しさを味わってほしい。また、薬品を混ぜると、スライムができてしまうことなどに疑問を持ち、これをきっかけに理科に興味関心を持ってほしい。

講座の展開

時間	過程	子どもたちの学習内容	キャプテンの学習指導	教　材
10分	導入	1，自己紹介をする	・自己紹介は、キャプテン・スタッフが子供たちより先に行い、場の雰囲気を和らげる。 ・スライムの作り方の説明の前に教室の使い方の約束をする。	
60分 20分	展開	2，スライムの作り方の説明を聞く自分でスライムを作る。 3，班ごとに大きなスライムを作る	・スライム作りの説明のときに、キャプテンが子どもたちより先にスライムを作ってしまわない。 ・各テーブルを見て回って、作り方の分からない子がいたら教える。 ・スライムを２個以上作る場合には、コップを洗わなければならないので洗い方のこつを教える。 ・子どもたちは、スライム作りに夢中になっていると思うが、トイレに行きたい子がいないか確認し、いたら連れて行く。 ・個人で使ったコップなどを片づけるように伝える。 ・大きなスライムの色を何色にするか決めるように伝える。	・Ｐ．Ｖ．Ａ．（洗濯のり） ・四ホウ酸ナトリウム（ホウ砂） ・食紅，絵の具（スライムの色づけのため） ・割り箸 ・コップ ・ビニール袋 ・新聞紙 ・バケツ ・洗面器
20分 10分	まとめ	4，片づけをする。 5，修了証をもらう。	・何かを作ったときは、片づけをすることも大切だと言うことを伝え、みんなで片づけをする。 ・時間があったら今日の感想を、発表する。	・修了証

宇宙生物スラスラスライム

宮沢　元（理科専攻　3年）

1．講座を開くにあたって

スライム作りを通して、自分一人でも材料から作りたいものを作れたという満足感や喜びを味わってもらい、薬品を混ぜるだけでなぜスライムができてしまうのかというような疑問を持つことで、理科に興味関心を持って欲しい。私は、この2つのことを願いとして講座を開きました。

また、私は、今までに何回かスライムの講座にスタッフとして関わってきましたが、いつも定員を超えるほど子どもたちに人気があります。この要因はどこにあるのか探りたかったというのもこの講座を開くきっかけとなりました。

そこで、私は次のことにこだわりを持って講座を開きました。それは、子どもたちが自分でスライムを作る前に、できあがったスライム（実物）を子どもたちに見せないでおこうということでした。子どもたち自身が自分の手で作ったのだという思いが強くなるように私はこのことにこだわりを持ちました。

2．子どもたちの取り組みの様子

参加したのは、4歳の幼稚園児から小学6年生まで、合わせて21名いました。年齢の離れた子どもたちによって構成されていたのは毎回のことですが、今回は女の子が多く3／4を占めていました。自己紹介やスライムの作り方の説明を聞いているときには、とても緊張して椅子に座っていました。各自、スライム作りを始めると不安な面持ちで、スタッフに聞きながら、恐る恐るスライムを作っている子がいました。一方、スライムの講座に来たのは2回目という子や、学校で前に作ったことがあるという子もおり、数多くスライムを作るのだと言っていました。初めてスライムを作った子も以前に作ったこともある子も、溶液を混ぜていくうちにだんだん固まってきてスライムができてきたときの表情には共通するものがありました。とても楽しそうな表情で、アシスタントの私達にとって忘れられない笑顔でした。そのときの子どものつぶやきには、次のようなものがありました。「わーすげえ。」、「スライムだ、スライムだ。」、「おもしろいなあ。」などは子どもたちが、本当に楽しいひとときであったり、感動したときであったので、出たつぶやきであったと思います。最初は、スタッフの人に聞きながら不安そうにスライムを作っていた子も、1つ作り終えると自分で作れたことに自信を持てたためか、1人で作れるようになり、何個も作っていました。スライムの色を付けるための食紅や絵の具は、スタッフの人にやってもらうことになっていましたが、子どもたちが自分でやっているところもありました。色がとても濃くなってしまったりして自分の思い通りの色にならない子が多かったのですが、中にはスタッフが作った色よりもきれいな色のスライムを作った子もいました。自分の納得できない色のスライムも自分で作ったためかちゃんと持ち帰っていました。テーブルごとに大きなスライムを作った場面では、「わーでかい。」などの歓声が上がり、我先にという感じで大きなスライムを触っていました。その大きなスライムは、テーブルごと子どもたちが分けて持ち帰りました。そのとき、取り合いになってしまいもらえない子も出てしまいましたが、スタッフがもらっていない人にも分けてくれるようにお願いすると、素直に分けてくれて子どもたちの優しさというのも見受けられました。子どもたち

は、修了証を渡すときには、スライムを作る前の緊張感はすっかりほぐれて自分で作ったスライムを満足そうに見ていました。中には、スタッフのお兄さんやお姉さんとはすっかり仲良くなって、自分で作った大切なスライムを少し分けてくれて、大きな声で「バイバイ。」といって帰っていく子もいました。

3．スタッフの声から

今回のスタッフは、スライム講座を受け持つのは初めてという人がほとんどでした。あるスタッフは、「私は、2年生で教育実習には行ってないし、ＹＯＵ遊サタデーに参加するのは初めてでした。今日は、私の周りにいた3人の子供を中心に接していたのですが、とても大変でした。教育実習に行ったら４０人ぐらいの子どもを相手にするのでもっと大変なのですね。私は大丈夫かな、不安だなあ。」と言っていました。私の見ていた限りでは、とても落ち着いていて、笑顔を絶やさず真剣に子どもたちと接していたと思います。思い返せば、私も教育実習に行くまではこのスタッフの方と同じ様なことを思っていました。私ですら教育実習をやってこれたのだから、このスタッフの方なら大丈夫だと思います。ＹＯＵ遊サタデーは、子どもたちだけではなく、私達大学生も成長する場であるなあと思いました。

4．今後の課題・講座を通しての成果

今回は初めてＷ館（新館）でのスライム作りとなりました。当初、Ｗ館では行わない予定だったので、私は新しい教室を汚しては大変だと思い、スライムを作っている子どもたちにとても敏感になっていました。スライム作りの約束事として、「できるだけこぼさないようにしよう。」、「周りの戸棚は開けないように。」と言ってしまいましたが、それは、キャプテンの都合のいいように子どもたちを押さえつけてしまったような気がします。子どもが自由に活動できる場（環境）を設定する必要があるのではないかと思います。

また、子どもたちは、スライムを作りたいという思いだけでこの講座に来ているので、アンケートを書くと言ったことは嫌がるのではないかと思い、アンケートをすることはあえてしませんでしたが、スライムを作っているときの子どもたちのつぶやきの中から得たものはたくさんありました。次のつぶやきは特に印象的でした。それは、「学校では、こういうことやってくれないからなあ。」というつぶやきでした。私は、学校ではできなくても、子どもたちのやりたいことができる場を作ってあげたいと思いました。学校とは違う雰囲気作りも必要だと感じました。

この講座は、これだというはっきりした成果が得られない講座ですが、子どもたちが、けがもなく、たくさんのスライムをお土産に、笑顔で帰っていけたことから成果があったと思っています。これも、スタッフの協力があってのことだと思います。私は、子どもたちだけではなく、子どもたちと接しているスタッフからもたくさんのことを学ばさせていただきました。本当にありがとうございました。

第９回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	万華鏡をつくろう	平成　8年　9月14日（土）（午後）
キャプテン	今井　健文（理科専攻　4年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　4名 参加者数　12名
指導教官	河内　晋平　教官	使用教室　新館４００教室

☆何をするのか（具体的に）

長方形のガラス３枚を正三角柱の形に組み合わせ、中に紙を入れて両サイドにふたをし、折り紙を巻いて万華鏡を作る。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

ガラスに反射してうつる万華鏡の世界のおもしろさを感じると共に、友達のものと比べながら自分だけの世界をもった万華鏡をつくって欲しい。

講座の時間配分

時間	具体的な活動	子どもたちの動き	支援・援助
5	1、自己紹介をする。 （キャプテン スタッフ）	・お兄さん、お姉さんの話をしっかり聞く。	・キャプテン、スタッフが明るくあいさつをすることにより、こども達が楽しめるような環境をつくる。
95	2、完成作品を見ながら自分の作品をつくる。 ①すりガラスと長方形のガラス３枚で三角柱を作る ②折り紙の切ったものを入れる。 ③三角形のガラスをはめのぞき窓をつくる。 ④折り紙を巻く。	①すりガラスと長方形のガラス３枚で三角柱をつくる。 ・ガラスを正三角形にくっつけるのって難しいなあ。 ・セロテープでくっつけて固定してみよう。 ②折り紙の切ったものを入れる。 ・細長い形でちいさいものの方がきれいに見えるね。 ・外に巻く折り紙によって中の様子も変わるんだね。 ③三角形のガラスをはめのぞき窓をつくる。 ・すき間が出来ないようにするのは難しいなあ。 ④折り紙を巻く。 ・１枚巻くのと、２枚巻くのとどちらがいいかな。 ・折り紙の裏表をひっくり返して巻いても中の様子が違うんだね。	・自分たちのアイデアを生かしてもらえるようこころがける。 ※ガラスで手を切らないように注意する。 ・中に入れる折り紙の量や大きさ、外側に巻く折り紙を工夫することにより、万華鏡の世界の美しさを楽しんでもらえるようこころがける。 ・友達の作品と比較して良いところを取り入れたり、お互いの意見を述べあったりしながら、それぞれが個性を生かした作品を作ってもらえるようこころがける。
10	3、片づけをする。	・折り紙の切れはしや、使った道具などを片づける。	
10	4、修了証を渡す。		・修了証を渡す。

万華鏡を作ろう

今井　健文（理科専攻　４年）

１．講座を開くにあたって

私が「万華鏡を作ろう」という講座を開くに当たっては、きっかけが２つある。

１つは、私が小学校２年か３年ぐらいのとき、母が私に万華鏡を作ってくれたことである。その中の世界は、まぶしくキラキラとしていて、花やお星様のようにも見えたが、幻想的なその世界に「夢の世界ってこんな感じかなぁ？！」と思ったことを覚えている。今回ＹＯＵ遊サタデーに参加してくれる子とのふれあいの教材として万華鏡を使うことは、私と同じような感動を持って欲しいという気持ちのあらわれだった。

もう１つは、夏休みにＳ館からＷ館への引っ越しをしながら、「Ｓ館を壊すならその廃材を利用してＹＯＵ遊サタデーで講座を開くことは出来ないだろうか」と考えたことである。そこで、私の研究室の河内先生にご協力いただき、ガラスを５、６枚手に入れることができた。廃材を利用できたことでこの講座は開くことができたのである。

「万華鏡」をいまのこどもたちの中に知っているこどもがどのぐらいいるだろうか。ましてや、自分で作ったことのあるこどもはほとんどいないであろう。そんなこどもたちに自分だけの夢の世界を作ってもらえたら…。

ちょっと理想は高いがこれが講座を開くにあたっての経緯である。

２．教材研究（万華鏡について）

教材研究については３点について述べたいと思う。

まず万華鏡というと、「どのように作るのだろう？」と疑問に感じる人も多い。第一感は「鏡かな！」と思う人も多いのだろうが、私の母が作ってくれた万華鏡は、ガラスを使って三角柱を作るといういたってシンプルなものだった。実際売られているものはもう少し複雑そうだが、原理はほとんど同じであると思われるので、万華鏡の中でも基本の形であると考え、今回は三角柱で作ることにした。

つぎにガラスの加工についてであるが、素人がダイアモンドカッターでガラスを切ることは非常に難しい。大きいものであればまだしも、１辺３㎝の正三角形をかなりの精度で作ることはほとんど不可能である。そこでガラス屋さんに持っていったのだが、「大変だったがとても勉強になった。」とのコメントをいただいた。ガラスで手を切ることも考えられるので、ガラス屋さんできちんと加工してもらうことをお薦めする。

最後に作る過程で工夫した点であるが、巻く折り紙の１辺の長さを１５㎝のものを使用し、三角柱の長辺の長さも１５㎝に統一した点である。折り紙などの外に巻くものは、内部の映像にも大きな影響を与えるため、少しでもこどもたちが簡単に取り替えれるよう工夫することが必要であろうと考えたのだ。

このような３点をふまえて、本番を迎えたのだが……。

３．講座の様子（子どもの動きとスタッフの働きかけ）

スタッフについては、まず、この講座は私が予想していたよりも小さい子が多く、親御さんが一緒に参加している方も多かったため、そういう子どもにはなかなかつくことができなかった。また一人で来ている子にどうしても目が行ってしまいがちになるので、キャ

プテンが全体に目を配るようにしていた。もう少しスタッフの数を増やし、負担を減らしてあげたら、もっと個々の能力に応じた援助ができたのではと感じた。そしてもっと周りをみて子どもと子どもの橋渡しができたらさらに良くなっていただろうと思う。

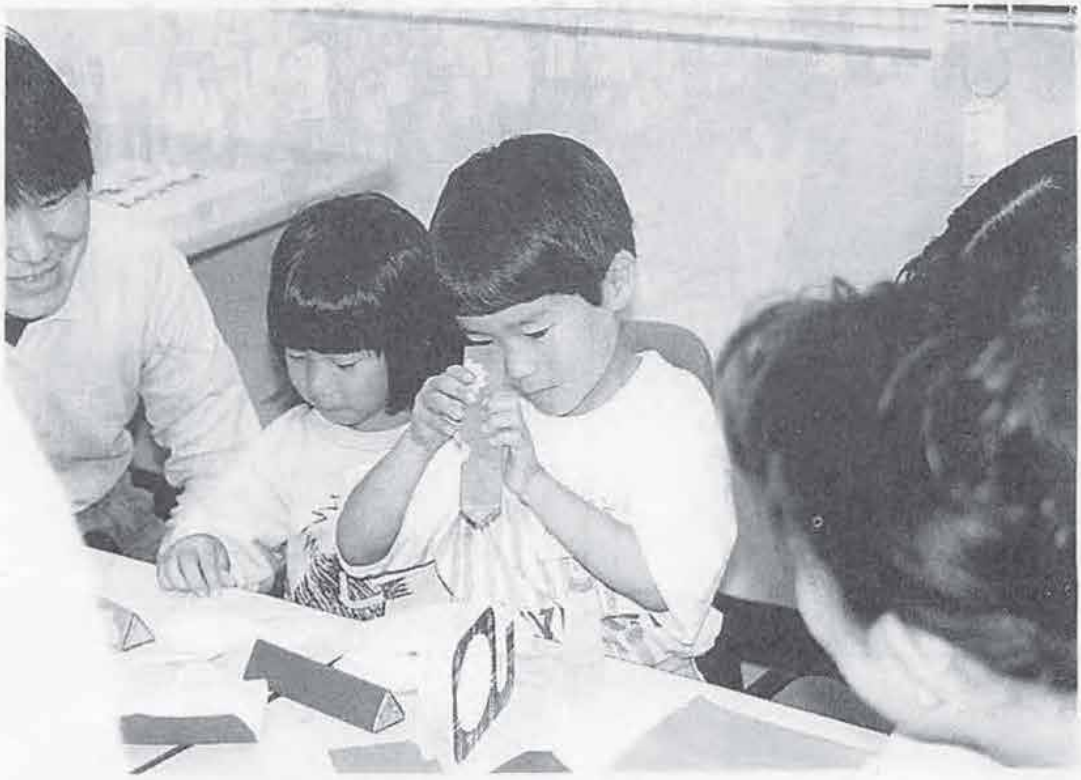
子どもたちは自分たちの万華鏡をつくりながら、周りの友達の万華鏡をみて工夫をしていた。例えば万華鏡の外に自分の名前を折り紙で貼っている子がいると、それを見て自分でも作ったり、中の色を見ながら外に巻く折り紙や中に入れる折り紙の種類を変えたりしていた。人のを覗いたときに「もっと自分のを良くしよう」という反応が見られ、お互いを高めていくことのできるなかなか良い講座だったと感じている。

最後に、発表会の時に、他の講座を受けてきた子どもたちに見せてあげている光景を見て、この講座をやって何かが子どもたちの中に残ってくれたと感じた。今回参加した子どもたちが、これからも万華鏡というものに興味を持ってくれたらうれしいなぁ。

4．講座を通しての反省と今後の課題

第1に教室が狭かった。後でもらったアンケートの中でも「ちょっと狭かった」と書かれてあった。W館のみでやったのだからぜいたくは言えないが、それにしてもちょっと窮屈だったのは残念だった。

第2に、スタッフの数が少なかった。しかし、実際に子どもを集めてみるまでスタッフの数が足りなくなるとは思ってもいなかったのが本当の気持ちである。わたしはこの講座を持つまでスタッフの数は少ないに越したことはないと考えていた。確かにスムーズに進むと言うことは計算された最少人数で行えるということである。しかし、スムーズに進んでいるときはいないように感じ、スムーズに進んでいないときはしっかりと存在しているのが大切なことで、スタッフの数が問題ではないと痛感した。特に人数が多くともそれを感じさせない身軽さを保つことが大切なことなのだと…。



（３）第１０回信大ＹＯＵ遊サタデー

No.1

講座名 たのしく作ろう藤かご作り

講座紹介

自分の手で
かわいいかごを
作ってみませんか?

よく見かける、すてきなかわいい藤のかご
実はそんなに、作り方は難しくないのです。一緒にたのしくかごを作りましょう

材料費：300円

持ち物：タオル、洗面器
はさみ、メジャー
(あれば：目打ち
平打ち、エンマペンチ)

No.2

講座名 プロへの一歩!?イラスト・漫画体験
～パワーアップ・バージョンⅡ～

講座紹介

No.5

講座名 学校では教えてくれない
(秋) 化学実験

講座紹介

学校では教えてくれない
(秋) 化学実験2

・小学校4年生から
中学校3年生まで

No.6

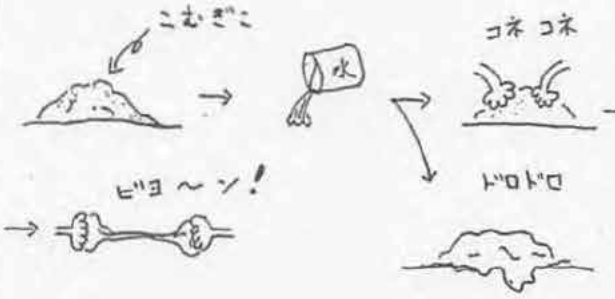
講座名 君も紙づくり名人
(牛乳パックからはがきを作ろう)

講座紹介

No. 3

講座名
サラサラ・ドロドロ・カッチカチ（小麦粉粘土）

講座紹介



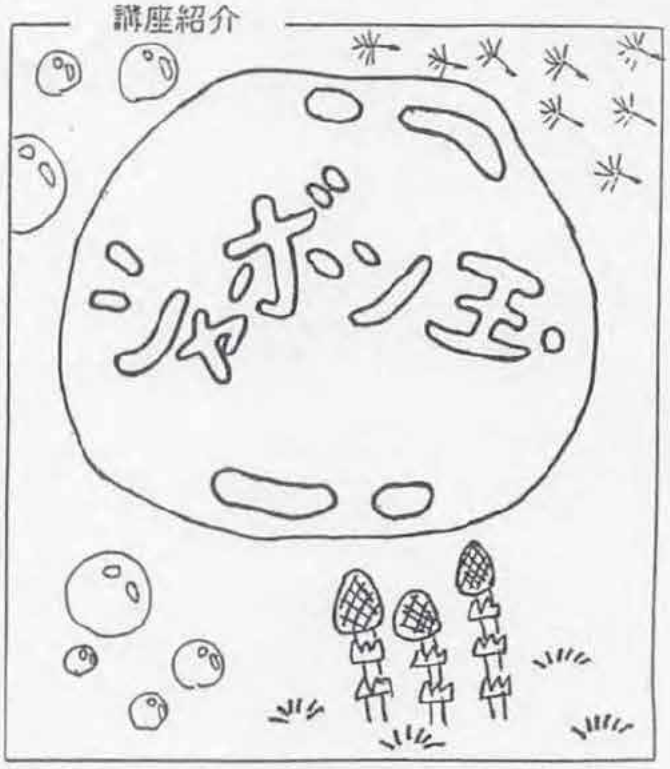
・アッ！ こむぎこだ。 サラサラしてる。
　水をいれてみよう。
・アッ！・ドロドロになっちゃった。
・アレッ！ カチカチになってるよ。
・こむぎこって おもしろいなあ、

みんな，こむぎこで あそんで みようよ！

No. 4

講座名
でっかい でっかい しゃぼん玉 をつくろう！
～ 中に入れるかも！？ ～

講座紹介



No. 7

講座名
親子でサッカー

講座紹介

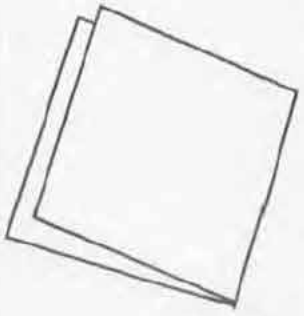
みんなでサッカー楽しもう!!
内容：親子でミニゲーム，ボールを使った遊びなど。

服装（持ち物）：運動のできる服装
（別にスパイクでなくてよいよ）
雨天の場合，体育館なので
体育館用シューズも用意する。

No. 8

講座名
とびだす紙しばい

講座紹介



みんなの「みらい」を「とびだす紙しばい」にして、おはなしを作っていこう。

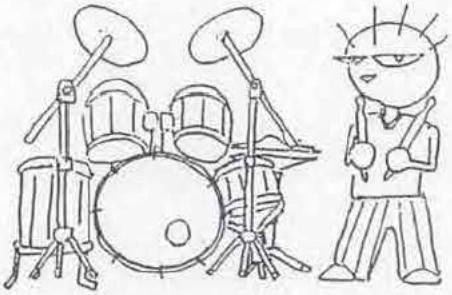
No. 9

講座名
ドラム・パーカッション入門

講座紹介

君もドラマーだ
たたきまくる一日

タッタカ
タッタカ



持ち物. 300円. 雑布.

No. 10

講座名
宇宙生物 スラスラスライム

講座紹介

宇宙生物
スラスラ
スライム

No. 13

講座名
おどってあそぼ! 1・2・ダンス

講座紹介

元気に
楽しく
ワン・ツー・ダンス!

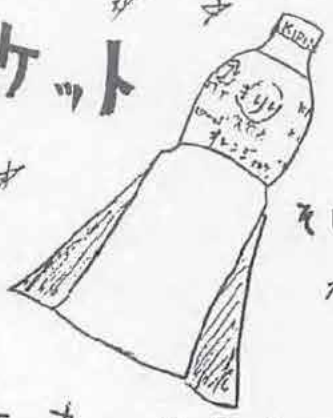
・ミッキーマウス
・体操
・おやまのジャズダンス
・マイム マイム
・ジェンカ
・タタロチカ
など

No. 14

講座名
ペットボトルロケット

講座紹介

ペットボトルで
ロケット 作ろう



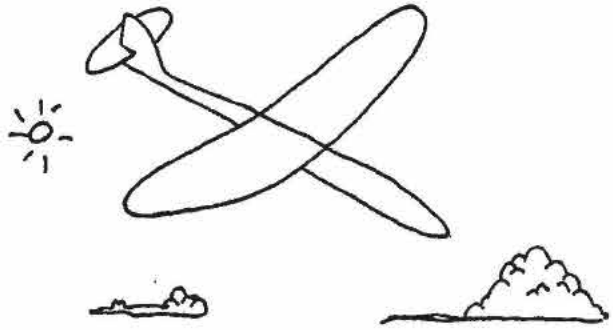
そして宇宙へ
…?

さあ みんなで飛ばそう。

No.11

講座名
ペーパーグライダーを飛ばそう

講座紹介



画用紙を切りぬいてペーパーグライダーを作ろう。うまく飛ばしたらギネスブックたものまちがいなし!?

No.12

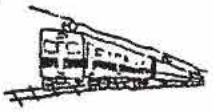
講座名『地図で旅行しよう』
～松本駅からの旅立ち'96秋～

講座紹介

この講座でやることは

『V.T』です。

V.Tとは何か、Virtual(バーチャル)・Travel(トラベル)(仮想旅行)のことです。地図と時刻表をつかって旅行をした"気分"になろうというゲームです。



電車好きの人!!
旅行好きの人!!

一緒に遊びましょう。

※旅行に行きたくなったら自費でどうぞ。

No.15

講座名 Part Ⅲ
続・教育学部ってどんなところ

講座紹介

教職の道へ進みたいと考えてるあなたへ

信州大学教育学部で一昨年からスタートしている、「信大Yoo遊サタデー」を御存知でしょうか。学生と子どもが肩ひじ張らずに遊んで学んでいます。Yoo遊サタデーの見学を通して新しい視点からあなたの好奇心を刺激します。教育学部や学生生活についても、学生が体験談を「生々しく」語ります。「先生になろうかな」と思ったら、まず教育学部のキャンパスへ…。

『だれも、はじめは子どもだった。しかしそのことを忘れずにいるおとなは、いくらもいない。』

第１０回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	楽しく作ろう 籐かご作り	平成8年１０月１２日（土） （午後）
キャプテン名	檜山　いづみ（理科専攻４年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　１８　名 参加者数　　１４　名
指導教官名	癸生川　武次　教官	活動場所　屋外（生協前）

講座のねらい

籐かごを作る場面で、籐のおもしろい性質（水に浸しておくとやわらかくなる）を利用して、籐を自由自在に形作ることを通して、物を作る楽しさを味わうことができる。

講座の展開

時間	段階	学習活動	予想される子どもの動き	指導・援助
１５分	導入	１．グループに分かれ自己紹介をする ２．講座の活動内容や注意点をキャプテンが説明しみんなで準備をする	・グループに分かれ簡単な自己紹介をする ・講座の内容や段取りを理解し、注意点を聞きそのことを心に留めておくようにする ・籐を水に浸して準備する	・人間関係（親子、友人など）を見ながらグループを作る手助けをする ・スタッフの自己紹介もする ・準備をしてから講義の内容や段取り、注意点などを説明する
３０分	展開	３．籐かごを作る	・籐のおもしろい性質に驚き興味を持つ ・手順を踏んでけがをしないよう注意をしながら籐かごを作る ①縦芯と編み芯を選ぶ ②根締めをする ③一本とびのザル編みをする ④ザル編みをする ⑤縦芯を立ち上げる ⑥縄止めし、内ひねりをする ⑦できあがり	・水に浸して置いた籐と乾いた籐を比較させる ・手順を分かり易く教える ・子どもがけがをしないよう目を配る ・子どもが困っていたら、すぐ援助できるようにする（あくまでも子どもの手で作らせる）
１５分	まとめ	４．後片付けをする ５．お互いの作品を見せ合い感想などを発表する ６．アンケートに記入し、修了証を受け取る	・キャプテンやスタッフの指示に従って自分たちで後片付けをする ・友達の作品を見て、自分の作品とどこが違うか、どこを工夫しているかを知る ・自分の工夫したところや、苦労したところ、かごの中に何を入れるつもりなのかなどを発表する ・今回の活動を振り返り、アンケートに記入する ・修了証を受け取る	・後片付けの指示をし、後片付けのできない子には一緒になって後片付けをする ・出来上がった作品をお互いに見せあってもらう ・工夫したところや苦労したところ、かごの中に何を入れるつもりなのかなどを、発表してもらう ・アンケートを配り、記入してもらう ・修了証を渡す

楽しく作ろう籐かご作り

槍山　いづみ（理科専攻　4年）

1．講座を開くにあたって

最近は、なんでもお金で簡単に手に入れられる時代である。この様な時代なので、子どもたちは自分の手で何かを作り出すという機会が少ない。

私は小学生の頃、籐かごクラブの活動がきっかけで手作りのおもしろさに惹かれていき、その気持ちを子どもたちにも味わってほしいと思った。そこで、子どもたちが自分の手で物を作り出し、物を作る楽しさを味わうきっかけになればと思い、この講座を企画した。

2．籐かごについて

材料に籐を選んだ理由としては、あけびなどと違い水に浸けると柔らかくなり、小学校低学年の子どもでも危なくなく、自由に扱えることと、それほど高価ではないことが挙げられる。また、選んだ籐は東南アジア産のもので、子どもが他国の植物に直に触れられる良い機会だと思った。

作品をかごにしたのは、籐編みのなかでは、メジャーであること、そんなに難しくないこと、道具が身の回りのもので済むことがあり、また、小さいかごにしたので、時間がかからないことも挙げられる。

3．子どもたちの様子

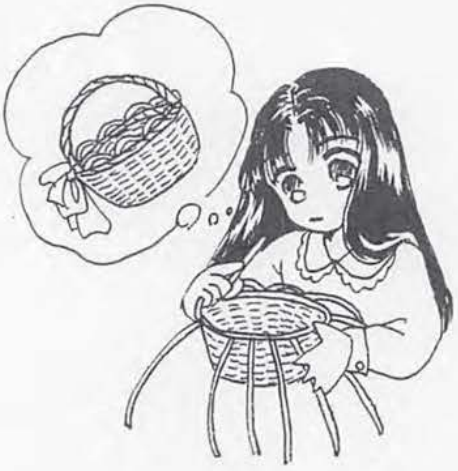
小学校1年生もいて、作っているうちに飽きてしまうのではないかと心配だったが、講座を始めてみて、それが私の杞憂であることが分かった。子どもたちはおしゃべりもせず、座り込んで、熱中してかごを編み始めた。分からないところは聞きに来たが、それ以外はほとんど自分で黙々とやっていた。どんどん形ができていくにつれ、「もっと底の深いかごにしたいからいっぱい籐が欲しい」という子もいて、驚かされた。この瞬間子どもたちは、十分にものを作る楽しさを味わっていたと思う。

4．講座を開いてみて思うこと

子どもたちの作業している様子、また、できていく作品を見て思ったのだが、編み目をきつきつに編んでいる子、すかすかに編んでいる子など様々で、子どもたちの性格が良く出ている個性的な作品ができあがったと思う。すかすかに編んでいた子は、編み目を綺麗に編んでいる子に気後れをしていたが、私が「このかごにポテトチィップスを入れて食べたら絶対おいしいよ。」と言ったら、嬉しそうな恥ずかしそうな顔をしていた。スタッフも教育実習前の人もいたのだが、子どもにうちとけるのが上手く、子どもの主張を大事にしながら作業を手伝っていた。反省すべき点としては、低学年の子どもでも入れる講座が少ないため、どうしても籐かごの講座に集中してしまい、子どもたちの人数が多すぎると共に、スタッフの人数が足りなく、十分な援助ができなかったため、時間内に終わらせることができなかった子どもがいたことである。そこで、もっと子どもの数を少なくし、スタッフの人数を増やすことが大事であると思う。ともかく、私としてはやって良かったと思う。あの子どもたちの熱中している姿、嬉しそうな顔を見れたのだから。それに、子どもたちが家に帰ってからももう一度お母さんとやってみたというアンケートの答えがあり、とても嬉しかった。というのも、子どもたちがものを作る楽しさをこの講座で味えたのが分かり、私がそのことに関われたからである。

5．『クリスマスリース作り』について

出張ＹＯＵ遊サタデーという形で、担任の先生と島田さんの協力の元に、１１月３０日に裾花小学校３年４組に於いて『本立て作り』と『クリスマスリース作り』の講座を開き、私は理科３年生の千葉さんと『クリスマスリース作り』の講師をさせて頂きました。２つの講座のうちどちらがいいか選んでもらい、私は約半数の子供たちとその保護者と午前中いっぱいを過ごした。材料はバゴバゴ（蔓性の植物、東南アジア産）、ベル、リボン、ポインセチアの造花、ワイヤー、着色用スプレーを私の方で用意し、飾りたい物は子どもたちの方で用意してもらった。当日、子どもたちは、松ぼっくり、柊の葉と実、ドライフラワー、モール、折り紙、松の葉など実に多様な物を用意してきた。基本的な骨組みは私が教え、あとは自由に子どもたちと保護者の方で作ってもらった。みんな熱心に取り組み、試行錯誤しながら上手に作成していった。私たちはあまり助言するところもなく、ただただ、誉めるばかりなぐらいだった。かなり保護者の方たちが手を出してしまったようだが個性的な作品ができあがった。松ぼっくりを青色にペイントするなど、思いもつかないアイデアに驚かされた。子どもたちは、「家の人に見せるんだ。」「家の玄関に飾るんだ。」など嬉しそうな顔をしながら大事に持って帰った。後から届いた子どもたちの手紙を読んでみると、後でお正月用のリースを作ろうと考えている子もいて、とても嬉しかった。
『籐かご作り』も『クリスマスリース作り』もとても良い勉強をさせて頂いたと思う。様々な方たちに助けて頂いた。この場を借りてお礼を述べたいと思う。ありがとうございました。



第（10）回 僧大YOU遊サタデー遊学プラン

講座名	プロへの一歩!?イラスト・漫画体験 ～パワーアップ・バージョンII～	平成 8年 10月 12日（土） （午前・午後・終日）	
キャプテン	山谷 早苗 黒沢 祐子 中島 亜由美　（幼教 専攻 4年）	アシスタントスタッフ数 参加者数	5 名 11 名
指導教官	布谷 光俊 教官	使用教室	64番 教室

☆何をするのか（具体的に）

最初に 人物の描き方や色のつけ方のポイント等を簡単に説明する。子どもたちには イラスト用のケント紙、しおりにできる紙、シールを少しずつ用意。（←どれをやってもよい）イラストを下描きし、ペン入れし、色つけする。お互いの作品を見てまわれるような雰囲気にしたい。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

絵を描くことの楽しさ、特に今回は 自分のイメージに合うような色をつけをすることで"達成感や喜び"楽しさを味わってほしいと思う。作品を見てまわったり、色つけのポイントを他の子に教えさせる場面を設けることで、子どもたち同士が話せる機会をつくりたい。

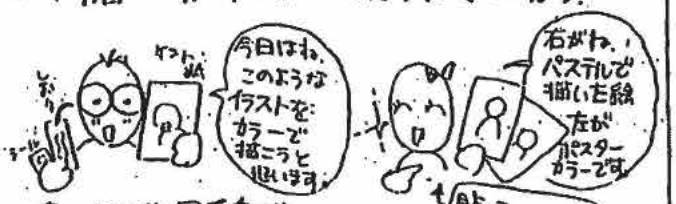
講座の時間配分

時間

① 自己紹介（10分）

かんたんに! 名前と学年だけ。グループごとにしようかなぁ? しよう!!

② 内容・ポイントの説明（10分）



色つけで 同系色でまとめるときれいとか、「◯◯」の説明とか。

③ 製作（90分）

←（となりで描きながら子どもの様子を見る1年生スタッフ）

1. 下描き …… キャラクターの絵を描く子が多いかも。輪郭とか目や口の配置くらいをアドバイス。（あまり細かく指導しないこと）
   → 子どもが困ってたら…ね。
2. ペン入れ …… はみだしたり汚しちゃったりする子が出てくるハズ。右ききの子は こんなカンジで ペン入れするとよごれないことをアドバイスしてあげて。（最初に）汚れやはみだしは ホワイトでごまかせるから大丈夫だよ、と安心させてあげてネ。
3. 色つけ …… 子どもたちの感性におまかせ。「◯◯」のやり方がわからない子には教えてあげて下さい。

※1・2が出来ないような小さい子には ぬり絵を用意してあります。

とにかく、その子の良いところを見つけていっぱいほめる。手伝わないようにする。子どもたちはすぐ「ここ、うまくいかない」と言うけど、気にしなくていい程度ならそのまま描かせる。あまりにも違っていたら少しアドバイス。最後まで子どもたち自身の力でやりとげさせて下さい。

←1年生スタッフへ

④ おかたづけ ☆（5分）

⑤ 修了証（グループごと）（5分）

今回の私たちの目標は「楽しんでもらうこと」と「他の子と話す機会をつくること」です。

プロへの一歩！？イラスト・漫画体験
～パワーアップ・バージョンⅡ～

山谷　早苗（幼児教育専攻　４年）
中島真由美（幼児教育専攻　４年）
黒沢　祐子（幼児教育専攻　４年）

１．パワーアップさせた理由

第９回はＡ、Ｂの二つのグループに分けたが、グループ間の交流がなく、同じクラスで同一の講座として行った意味がなくなってしまった。また、Ａコースでは専門的にイラストや漫画についてのアドバイスをすることができたのが一人だったため、子どもたち一人ひとりの絵をじっくり見てあげることができなく、Ｂコースの方では、高学年には少し物足りなかったという反省点があった。

そこで第１０回では、コース分けせずに様々な年齢の参加者に対応できるような内容にし、講座内でもう少し子どもたち同士が話せる機会をつくっていこうと考えた。「カラーイラストを描く」という、自分の好みや力に合わせた作品づくりが可能な内容に決め、小さい子のためにぬり絵も用意しておくことにした。そして、前回できなかった「交流」については講座の途中や最後で作品を見せ合うことによって、作品を通してその子と触れ合う、その子を知ることができるのではないかと思い、ねらいの一つに設定した。

２．講座のねらいと教材観

絵を描くことの楽しさを実感してほしいというねがいがあり、特に今回は自分のイメージに合うような着色をすることで満足感や楽しさを味わってほしいと思った。もう一つのねがいは上の１番でも述べた「子どもたち同士が話す機会をつくること」である。

「パステル」を選んだ理由として、色使いが柔らかくあたたかい作品に仕上がるだろうという点が挙げられる。また、あまり子どもたちが使ったことのない道具だろうと思い、新しい素材と出会うことで絵を描く楽しさが広がるのではないかと考えたことも理由の一つである。ポケットティッシュを使ってうすくパステルでつけた色は消しゴムである程度消すことができるので子どもたちにも容易に修正できることや、背景に（厚紙を使ってキラキラ輝いているような）効果を作ることができ，視覚にうったえるような魅力的な作品づくりができることもパステルという素材の持ち味であると思う。

３．子ども・参加者の取り組みの様子

今回は大人が２名、子ども１０名の参加だった。イラスト用にＢ５版とＢ４版のケント紙を用意し、色ケントを切ってリボンをつけたしおりやシールも準備しておいた。教室に入ってきた子どもたちは黒板に貼られたイラストや机の上に置いてある様々な道具や紙に引き付けられていたようである。絵の描き方のポイント（人物の全身、アップ）、パステルの使い方、効果等を簡単に説明すると、子どもたちは驚きの声をあげたりもした。

予想していたよりも早く活動に取り組みはじめ、すぐにシールを完成させしおり作りをする子、じっくりとケント紙に絵を描く子など、それぞれのペースで作品に取り組んでい

た。キャプテンが描き方の説明のために歩き回っていたり、6つくらいにまとめた席ごとに2、3人のスタッフやキャプテンが座っていて、子どもたちとの会話が多かったため、とても自由な雰囲気で始めることができたのではないだろうか。そのうち、子どもたち同士でも話をしたり、遠くの席まで作品を見に行ったりする姿が見られた。

4．良かった点・改善すべき点・感想

＜一年生の声＞

・子どもたちみんな絵が上手で驚いた。描くのが好きみたいだし、とても熱心。キラキラ輝く効果の説明を一回聞いただけなのにすぐにできていてすごいと思った。・ポケットティッシュを忘れたときに両隣の子どもたちがさし出してくれて、どちらからもらったらいいのか戸惑ってしまったが、子どもたちの気持ちがとても嬉しかった。

・子どもたちが積極的に話しかけてくれたり、来てくれたりして、こちらも話しやすかった。子どもたちと同じ目線で、対等に話すことができてよかった。

・受付に子どもたちが来たとき、恥ずかしかったし案内もぎこちなかったけれど、講座が始まって絵を描き始めると和やかに接し合えた。

・「いらないからあげる」という言葉ではあったけれど、一生懸命に描いていた絵をさし出してくれた子がいて、嬉しかった。

・時間が少し足りなかったかもしれない。

＜キャプテンの声＞

・前回は黙々と作業をしていて子どもたち同士が話す機会がなかったけれど、今回は前回の反省点が生かされ、よく話せていてよかった。

・子どもたちと一緒に絵を描いてみたが、予想以上に面白く、子どもたちと一緒に自分も楽しんだ。

・マンツーマン状態が雰囲気を良くしていたのではないか。

・今回は、シールやしおり、ケント紙など、おみやげがたくさんあったので子どもたちも嬉しいのではないかと思う。

・三種類用意していたので自分の好きなものから始められ、予想していたよりも着色が進んでいた。完成しないまでも、作品が全く出来なかった子はいなかった。・パステルの用意が難しい。削って置いておくと、一人ひとりに分けることができ、持ち帰りも可能になるが、着色する際に余分な線がでたり（パステルの柔らかい色使いが損なわれてしまう）、消費量が多くなってしまったりするので今回は削らなかった。パステルをおみやげにしてあげたかったが、良い方法が見つからなかった。

5．参加者アンケートからの声、子どもの声

「もっと時間がほしかった」と書いてあるアンケートには、かわいい犬と魚のイラストが描かれたシールが貼ってあった。時間が足りなかった分、家で自分で描いてみてくれたようだ。講座の内容もう一度を家でやってみてくれているという事は私たちにとって大変嬉しいことである。私たちの行ったことが、子どもたちの中に何らかの形で残ってくれたらと思っていたので、家でもまた描いてみてくれた子どもの気持ちに感謝している。自由記述覧に大きく書かれた「またいきたいと思います。」の文字が今でも心に残っている。

第10回信大YOU遊サタデー遊学プラン

講座名	サラサラ・ドロドロ・カッチカチ	平成8年 10月12日（土）
キャプテン	坂本　真哉（教育学研究科1年） 小海　到　（医学部6年）	アシスタントスタッフ数　14人 参加者数　9人
指導教官	布谷　光俊教官　使用教室	54番教室

☆何をするのか（具体的に）

小麦粉に水と酢を加え、小麦粉の感触や形状の変化を楽しみながら遊ぶ。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

小麦粉の変化を味わってもらうとともに、キャプテンやスタッフ、友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知ってもらいたい

講座の時間配分

時間	具体的な活動	児童・園児の働きかける姿	キャプテン・スタッフの支援・指導上の留意点	児童・園児を認める観点
5	1. キャプテン・スタッフの自己紹介を聞く	・優しい人かな ・お母さんがいなくて寂しいな ・私も自己紹介したいな	・子供の不安を取り除くような自己紹介をこころがける ・自己紹介したがる子がいれば、スタッフの次にしてもらう ・どうしても一人での活動が難しいような子には保護者の方にも活動に参加してもらう	・一人で講座に参加する姿
10	2. 小麦粉の感触を味わう	・白くてさらさらだな ・触ると気持ち良いな ・いい匂いがするよ ・一人分だと少ないから友達と一緒にして遊ぼうかな	・子供の緊張をほぐすためにもキャプテンやスタッフは積極的に活動に参加し、子供と関わる ・一人でのみ活動している子には、周りの子供と関われるように配慮する ・触るのを楽しむ時間は個人で異なるため次の段階へは一斉に進ませる必要はない	・小麦粉のさらさら感を味わう姿 ・友達と感動を共有する姿 ・年下の子供を気遣う姿 ・共同活動への意欲的な姿
65	3. 小麦粉に水酢を加え、粘土にして遊ぶ	・なんだかべとべとしてきたぞ ・酢をいれると臭いな ・足でふんずけると楽しいな ・くっついて気持ち悪いな ・何かかたちを作りたいな ・いちごの形がいいな ・今度は赤い色がつけたいな ・いちごが出来たぞ ・今度は違うものも作ろう ・緑の粘土がないけど～ちゃんくれないかな ・～くんの恐竜かっこいいな	・関わっている子供たちの気づきを周りに広げていく ・活動に消極的な子供に対しては決して強要はせず、出来る範囲で活動させ、出来るだけその子の活動を認めていってあげたい ・子供に形を意識するような言動があれば、そこから造形的活動に入る ・着色の前に作りたいものを考えさせ、イメージをもって活動に向かうようにする ・着色は食紅を解かした色水を用い、少しづつ加えていくように指示する ・作りたい色の組み合わせが分からない子にはアドバイスする ・全体で作品を見合う場は設けないが、片づけのときなどに見あうようにしていきたいこの時、作品を作らなかった子供が劣等感をもたないように注意する	・小麦粉のべとべと感を味わう姿 ・小麦粉の変化に気づく姿 ・粘土遊びを楽しんでいる姿 ・発想を工夫している姿 ・着色を工夫している姿 ・友達同士で助け合う姿 ・友達相互で認めあう姿
35	4. 後片付け（手足を洗う）	・かちこちに固まっているぞ ・なかなか汚れが落ちないよ ・はやく着替えたいな	・足など洗うのに時間がかかると思われる場合は援助する。多少の汚れは家で洗うよう伝える	
5	5. 終了証渡し	・今日は楽しかったな ・また来たいな	・キャプテン、スタッフがそれぞれで一緒に活動した子供に終了証を渡す	

その他の留意点

- 活動の前には必ず手洗いに行かせるようにする
- 活動中は出来るだけ子供の自主性に任せ、必要以上には手を出さないようにする
- キャプテンとスタッフは「教える人」ではない。「ともに遊ぶ仲間」として子供たちと関わってほしい
- 会場の片づけに関しては講座終了後に学生で行う。子供たちの片づけとは「手足をきれいに洗うこと」「忘れ物をしないこと」「大きなゴミを拾うこと」である

小麦粉粘土

小海　到（医学部　6年）

1．講座開設にあたり

私は小麦粉粘土講座の開設にあたり次の二点に注目した。一つは「手触りの感覚をいかした遊び」であり、もう一つは「他の子との関わり」であった。

手触りの感覚をいかした遊び

子供たちは日常生活においては、手触りの感覚をそれほど用いていないのではないか。幼児期には粘土遊び、泥遊びなどでよく遊ぶが、学童期にはそういう機会は減ってくる。また、今の教育はあまりにも視覚優位になっているのではないか。そこで、子供たちに身近な素材である小麦粉を与えたら、どういう反応を示すのだろうか。

他の子との関わり

信大 ＹＯＵ遊サタデーで初めて出会った子供たちが、仲良くいっしょに遊べるかどうか。異年齢の子とうまく関われるかどうか。他の子との協同作業を見られるかどうか。

2．子供たちの様子

子供たちは小麦粉の手触りがとても気に入ったようだった。しばらく作業に没頭し、他のものは目に入らないかのようだった。幼児は水分を多めにしてドロドロ、ベトベト感覚を楽しんでいた。児童は、逆に水分を少なめにしてこねるのを楽しんでいた。子供同士はそれほど関わることはなかった。それぞれ自分の作業に熱中していたのかもしれない。

3．講座を終えて

幼児の活動はこのままでよいが、児童は素材の特性をいかして料理教室をし、より創造的な活動に関わらせたらよいのではないだろうか。また、片付けに手間取ってしまったので時間が不足ぎみかもしれない。

講座としてはスタッフの数が多すぎたかもしれないが、1年生スタッフにとっては子供と関わるよい機会であったのではないかと思う。

第１０回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	でっかいでっかい シャボン玉をつくろう	平成　8年10月12日（土） （午後）
キャプテン	宮本　愛　（音楽専攻　3年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　１９　名 参加者数　１５　名
指導教官	長谷川　博史教官	使用教室　屋外（生協前広場）

☆何をするのか（具体的に）

いろいろな道具を使って、小さなシャボン玉や、大きなシャボン玉をつくる。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

無数の小さなシャボン玉をつくったり、今までにつくったこともないような“でっかい”シャボン玉をつくったりして、みんなで驚き、楽しみたい。

講座の時間配分

時間	活動内容	スタッフの動き	用意する物
15'	1．グループ分け 2．注意事項	・名前を呼びながらグループを分ける。 １班 3人，スタッフ 4人	
80'	3．グループごとに分かれて、シャボン玉づくり。 ① シャボン玉の液をつくる。 ② 実際にとばして遊ぶ。 1）小さな道具を使って自由に遊ぶ。 2）“でっかいシャボン玉”の中に入ってみよう。	・安全面に気をつけて、一緒に活動する。 ○液を飲んでしまったり、なめたりしないように注意する。 ○万が一、液を飲んでしまったり、目の中に液が入ってしまったら、すぐ水道につれていき、洗う。 ・シャボン液や道具作りは、なるべく子どもにやらせる。 ・スタッフ３人で、“でっかいしゃぼん玉”づくりをする。 ○シャボン玉の中に子どもを入れたいときは、必ず子どもにカッパを着せること。	・トレイ…… 12コ ・かきまぜ棒…… 10本 ・ペットボトル(1.5l)… 10コ ・シャボン玉液（１班分） ○グリセリン…… 180ml ○グラニュー糖…… 54g ○蒸留水…… 1220ml ○洗たくのり…… 適量 ○洗ざい…… 180ml ・うちわ…… 5本 ・ハンガー…… 10本 ・ストローとたこ糸…… 20本 ・ストロー…… 適量 ・雨ガッパ…… 2着
25'	4．後片付け 5．修了証とプレゼントをわたす。	○後片付けの指示 ・手をよく洗わせる。	・ゴミ袋 ・修了証

でっかいでっかいシャボン玉をつくろう

宮本　愛（音楽専攻　3年）

1．講座を開くにあたって

「手軽で、しかもみんなで楽しめる遊びはないだろうか？」
これが、講座を開くにあたって、私達がいちばん大切にした考えだった。この考え方をもとに、実際にどのような講座を開いたらよいかという事について、私達は長い間話し合いをした。「動くおもちゃ作り」や「手作りのおもちゃによるゲーム大会」など、確かに楽しいと思える企画はたくさん思いついたのだが、いまいち納得のいくものではなかった。そうして、あれこれと考えていく中で、ある一人の「シャボン玉は？」という発言によって、話はとんとん拍子に進み、その結果、私達は「でっかい　でっかい　シャボン玉を作ろう！」という講座を開くことを決めたのである。

では、なぜ「でっかいでっかいシャボン玉」なのか？その理由はいくつかある。

①シャボン玉遊びは、こどもが楽しめる遊びであると考えたから。
②私達スタッフ自身が、今まで作ったこともないような、でっかいシャボン玉を作ってみたいという願いがあったから。
③こどもにとっても、でっかいシャボン玉は、驚き、楽しめるものだろうと考えたから。

以上の理由により、この講座を開くことを決めた。

2．でっかいシャボン玉ができるまで

この講座を開くことに決めてから、“でっかいシャボン玉を作るには、どのようなな液をつくったらよいのだろうか？”という事柄を中心に、素材研究をすすめた。

まず私達は、図書館へ行って、シャボン玉に関する本をかりてきた。

『シャボン玉と遊ぼう』　　杉山　弘之　　（福音館書店）　他

しかし、これらの資料だけでは、人が入れるくらい大きなシャボン玉は作れない。資料をもとに、いろいろな工夫をしてもなかなかうまくいかず、「いっそうのこと、もう“でっかい”ということにこだわらずに、“シャボン玉遊び”という講座にしてしまおうか。」と考えた時もあった。また、ある時、あるテレビ番組で科学技術館という存在を知り、そこへ問い合わせてみたがいい返事はいただけなかった。

そして、いよいよ立往生してしまった時、土井先生が、とてもいい情報を私達に教えてくださった。それは、茨城県の総和町という所で、ＰＴＡの方を中心とした活動があり、その中で“大きなシャボン玉作り”を以前にやったことがある、ということだった。

早速、総和町役場へ問い合わせてみたところ、その活動をおこなったのは、西牛谷小学校であったことがわかった。そこにも問い合わせ、ようやく、私達は答えを見つけた。

「でっかいシャボン玉を作るには、液をどのように作ったらよいか？」という問の答えは、「洗濯のりを混ぜる。」ということだった。

この事がわかってから、私達の実験は、再びはじまった。そして、この時に問題になっ

たのは、「洗濯のりを、どのぐらいの分量で混ぜたらいいのか？」ということだった。そのことを考えながら、少しずつ少しずつ洗濯のりをまぜ、失敗を繰り返し、そうしてやっと、でっかくて、プヨプヨしたシャボン玉ができたのであった。

3．子どもたちの様子

シャボン玉を作っては飛ばす子どもたちの顔は、本当に生き生きとしていた。

シャボン玉がなかなか作れず、どうやったらうまくいくだろう必死に頑張る子ども。友達が飛ばしたシャボン玉を、どこまでも追いかける子ども。でっかいシャボン玉を作るために友達に声をかけて、一緒に協力して作ろうとする子ども。自分で飛ばしたシャボン玉を静かに手にのせ、「シャボン玉つかまえた！」とはしゃぐ子ども。１つのシャボン玉を、われるまでじいっとみつめる子ども。このように、子どもたちの活動の様子を挙げ出せばきりがない。しかし、確かに言えることは、活動している子どもたちの姿はさまざまでも、決して受け身ではなかったということである。

子どもたちだけでなく、まわりで見ておられた保護者の方も、またＹＯＵ遊サタデーのスタッフも、子どもたちと同じぐらいにはしゃぎ、夢中になってシャボン玉を作っていた姿がとても印象的であった。

学校では教えてくれないマル秘化学実験

長谷川直紀（理科専攻３年）

この「学校では教えてくれないマル秘化学実験」で行われた実験の一部を紹介します。遊学プランは、第８回のものを参照して下さい。

5　火で書く文字

＜火で書く文字＞

内容

小さい頃、家や小学校で果物の汁を使ってあぶり出しをしたことがあるかな？これと同じことが化学薬品を使ってできるんだ。今日はそれをここでやってみよう。

準備するもの

硝酸カリウム，筆，紙，ビーカー

方法

① 硝酸カリウム６ｇを水１５ｍｌに溶かす。溶けない場合は加熱する。

② 熱いうちにこの溶液を筆につけ、紙に自分な好きなように絵や文字を書いてみよう。

③ よく乾かしてから筆で書いた部分に線香の火をつけるとたちまち・・・

6　固形燃料

内容

キャンプとかで使う固形燃料っていったい何？どうして燃えるのかなあ？何が燃えてるの？今日は単なる固形燃料じゃなく、いろいろな色の炎を出す固形燃料を作ってみよう。

準備するもの

酢酸カルシウム，エタノール，ビーカー（５０ｍｌ），各種塩類（炭酸カルシウム，塩化カリウム，硫酸バリウム，食塩，硫酸銅など）

方法

① ５０ｍｌのビーカーに酢酸カルシウム２．５ｇと水９ｍｌ、各種塩類を少量をいれ、完全に溶けるまでよく混ぜる。

② 別の５０ｍｌビーカーにエタノールを５０ｍｌを入れる。

③ エタノールのビーカーに酢酸カルシウムの溶液をすばやくいれ、続けて交互に２回移して反応液を固まらせ、固形燃料を作る。この反応は素早くしないとすぐ固まっちゃうぞ

④ どんな色の固形燃料が出来たか火をつけてみよう。

第１０回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	君も紙づくり名人 牛乳パックからハガキをつくろう	平成　8年10月12日（土） （午後）
キャプテン	佐々木　美恵　（家庭専攻　3年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　１４　名 参加者数　３　名
指導教官	粟津原　宏子　教官	使用教室　５１番教室

☆何をするのか（具体的に）

パルプに水を加えドロドロにする→枠をくぐらせる→かわかす
できた作品をもって帰る

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

自分でものをつくる楽しみ
牛乳パックのリサイクルへの興味・関心

講座の時間配分

時間	全体の流れ	諸注意など
５分	・自己紹介（スタッフ、参加者）をする。	
５分	・予めやっておいたことの説明をする。 作り方の説明を書いた模造紙を貼る。	
８０分	・牛乳パックの表面のビニールをはがす。 （１～２枚はがす。他は予めはがしておく。） ・パルプに水を加え、ミキサーにかける。 ・枠をくぐらせる。 ・新聞紙やタオル、アイロンで乾かす。	班に分かれて行う。（各班ごとにスタッフがつき、まず手本を見せた後、支援のかたちで一緒に行う。） 早く終わった人は、時間がある限り何枚も作る。 絵の具、折り紙、落ち葉などを自由に使う。（こちらで用意しておく。） スタッフ、子ども共に、ミキサーやアイロンを使う際は安全に十分注意する。（アイロンは低温で扱う。ミ
１０分	・他の人の作品を見る。 ・感想を発表する。（修了証を渡す。） ・マニュアルを配布する。 ・作品紹介をする。（お土産を渡す。）	キサーは１０秒間程度まわしたら、しばらく止めるようにする。） １年生のスタッフは、子どもと同じ立場で頑張ってもらう。（前日は、教室を片づけておいてもらう。１年生の材料は、こちらで用意しておく。）
２０分	・片づけをする。 新聞紙などのゴミをまとめる。 濡れたところを雑巾で拭く。 使用した道具を片づける。 机、椅子を整頓する。	電源は、たこ足コンセントを使う。 水は、できるだけペットボトルに用意しておく。

君も紙づくり名人
牛乳パックからはがきをつくろう

佐々木　美恵（家庭専攻　3年）

1．講座を開くにあたって

小学校での教育実習中、私が担当させていただいたクラスでは、社会の授業で身近なゴミ問題を扱っていた。そして、子どもたちから、各スーパーで回収されたトレイや牛乳パックは、その後どのようになっているのだろう、との疑問が挙がったが、私自身もその疑問に答えられるだけの知識をもっていなかった。そこで、各スーパーでそれらについての調査を行い、トレイや牛乳パックのリサイクルについて学んだ。

その後、ちょうど、この紙すきの企画を知り、自分でも牛乳パックのリサイクルを体験してみようと思い、講座を開かさせていただいた。

2．紙すきについて

まず、牛乳パックは家庭で簡単に手にはいるものであり、普段よく目にするが、それから、日常でも使えるはがきをつくることができるという驚きを大事にしたいと考えた。また、一言ではがきと言っても、色や模様などが各自の工夫により様々にできるため、子どもたちに自由に考えさせたいと考えた。

しかし、紙すきは、牛乳パックの両面のビニールをはがす作業、枠をつくる作業など、準備に時間を要するため、2時間という中で、子どもたちに様々な作品をつくらせることは困難だと分かった。そのため、牛乳パックからできるという全過程を知らせるための一部を除き、残りはスタッフで準備するということで、この問題を解決させた。また、紙すきは作品の乾燥にも時間を要するため、当日完成させられないことから、その指導も必要となった。

紙すきは、このように時間がかかるという問題があるが、それらはスタッフでカバーすることができる。そして、作業からは、ものをつくる楽しみや、工夫を凝らすアイデア、牛乳パックからはがきが作れるのだという驚きなどを体験することができる。

3．子どもたちの様子

作業の過程には、ミキサーやアイロンを使う段階があり、子どもだけでどこまでできるのかという不安もあったが、例えば小学校2年生で、はじめはこわがっていた子どもも、班ごとにスタッフがつき、手本を見せたり一緒に行ったりすることで、次第に自分でできるようになっていた。また、2で述べたように、準備時間を短くしたため、作業時間が長くとれ、子どもたちは様々に工夫を凝らして作品を次から次へと作っていた。枠を取り外したときに、出来上がったはがきを見て、「わーっ」と目を輝かせた子どもの顔が印象的であった。

4．反省にかえて－講座を開いてみて思うこと－

この講座は、今年2回開かさせていただいたが、子どものために、私達スタッフのために、これが最高だという完成はないと思う。

2回の講座を終えた後、私は、ある小学校2年生の生活科の授業で、紙すきの研究授業を参観させていただく機会をいただいたが、その授業では、私達が行った講座とはまた違った、子どもたちの笑顔があった。紙すきの取り扱い方、環境などの違いはあるし、私達が行った講座には満足しているが、紙すきひとつとっても、様々な工夫ができ、そこから子どもたちが受けとめることもまた様々ではないのだろうかと感じた。

第１０回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	親子でサッカー	平成　8年１０月１２日（土）（午後）
キャプテン	柳沢　勇志　（数学専攻　4年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　１３　名 参加者数　４　名
指導教官	鈴木　次雄教官	使用教室　グラウンド

☆何をするのか（具体的に）
・ボールを使った遊び（ボールリレー、ドリブルリレー、リフティング教室）
・ミニゲーム（親子チーム、スタッフチーム、子どもチームなどに分かれて行う）

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）
・サッカーをする楽しさを体全体で味わう。
・親子でするサッカーを通して、親と子のコミュニケーションの場にしたい。
・見知らぬ人達や他学年の人達とサッカーをすることで、友達の輪を広げ、おもいやりの心を持つ。

講座の時間配分

時間	内容	方法・注意点
１５	・自己紹介を行う	・名前、学校名、学年だけでなく、好きなサッカー選手なども言ってもらう。また、どんなふうに今日はやりたいかも聞く。
１５	・準備体操	・けがは絶対してはいけないので念入りに行う。手や首、上半身、足やひざ等の下半身のストレッチ。
３０	・ボール を使った遊び ボールリレー ドリブルリレー リフティング	・ボールリレーでは、チームに分け競争する形で行う。スタッフも一緒に参加する。 ・ドリブルリレーでは、２０ｍぐらい先のコーンをまわって返ってきてタッチする形と、時間があれば１つ１つのコーンをドリブルで進む形もやりたい。 ・リフテイング遊びは、実際にスタッフ、キャプテンがやってみせる。いろいろな体の部分を使ってできることを見せて、数人のグループでやってみる。 どんな部分で、できるようになったか数人に発表してもらう。
６０	・ミニゲームをする	・子どもチーム、親チーム、スタッフチームに分けて行ったり、みんなをまぜてチームに分けて行ったりする。 ５－７分間ゲームを何本か行う（子どもや親の体の様子を見てコントロールする）。
１０	・ダウン （体操）	・疲れが残らないように、しっかり行う。 この時も、上半身、下半身ともまんべんなく行う。
１０	・移動	

親子でサッカー

柳沢　勇志（数学専攻　4年）

1．講座を開くにあたって

講座を開こうと思った理由は、親と子と触れ合うことのできる場を提供したいと考えていたからである。私もよく、日曜日は、父とキャッチボールをして遊んでもらっていたが、この心のキャッチボールをサッカーでもできないかと考え、自分の特技を生かしこの講座を開こうと決意した。今日では、Ｊリーグができサッカーに対する子どもたちの関心は、かなり増している。ある新聞を読むと、子どもの好きなスポーツは、野球を抜き一位となっている。このような現実を生かし、親子がサッカーに興味を持ち、さらに一緒にやることで親子の絆を深めることができたらいいと思いこの講座を開いた。理由のもう一つは、うまくなくても、下手でもよいからみんな集まってサッカーする楽しみを味わってもらいたいと思っていたからである。普通、サッカーのチームなどに入るには、うまくなければならないという考えを持ってしまい、なかなかチームには入れなくて苦しんでいる子がかなりいる。しかし、この講座は、チームとは全く違いサッカーの好きな子が集まり楽しむ講座なので、どんなレベルの子でも受け入れができるのである。更にもう一つの理由は、年齢の違う人とサッカーを楽しむことを通して友だちの輪を広げていってほしいと思いこの講座を開いた。

2．サッカーについて

サッカーでは、パス、シュート、ドリブル、リフティングなど基礎的なことがたくさんあるが、サッカーを楽しむとは、どういうことか考えたとき、思いついたのが、リレーや競争形式で相手と対戦する形であった。まず、基礎を身につけることはとても大切なことだが、それプラスおもしろさや興奮がないと、やっていても楽しくないと考えたからである。今回の講座では、基礎的なことを競争形式にして行うことにした。この形式により少しでもレベルアップがはかれればこども達の自信にもつながるし、サッカーに対する興味が増すと考えている。

3．子ども参加者の取り組み

集まった子どもが二人で親二人で少し寂しい感じがしていて、更に一年生のスタッフ１０人プラス学部スタッフ４人がいたので、こども達は、最初親から離れようとしなかった。自己紹介でも、小学１年の吉崎君は、声がほとんど聞こえないぐらいであった。

準備体操、パス練習、ボールリレーをやっていくうちに体が温まると同時に心も温まり、更に１年生スタッフの盛り上げなどにより、徐々に打ち解けてスタッフと話ができるようになった。特に、リレーの時は、自分のチームを応援するようになり、自分の番が来ると目の色を変え、チームのためにがんばっていた。この後、リフティング教室を行ったのだが、まず、スタッフが４名ほど円の中で見本の技を披露した。この時、こども達は、食い入るように見ていた。その後、分かれて練習したのだが、青木君も吉崎君も、スタッフの応援を背にがんばり、自分の最高回数をどんどん伸ばしていった。この、記録を更新したとき

の笑顔は、とても印象的であった。

途中から辻君兄弟が参加して、ミニゲームを行ったわけだが、こども達の体力は、とてもすごかった。ただ、けがをさせないようにスタッフは気づかい、子どもが転びそうになると自分の手を子どもの体の下に入れ支えていた。この時のこども達の体や、心は、スタッフと一体になっているのが感じられた。更に、仲間どうしで協力する様子が、ゲーム中何度か見られた。仲間から仲間へのパス、スタッフの間をすり抜けボールのもらいやすい位置に行き、パスをうけシュートするタイミングは、かなりチームプレーに近くなっていた。

4．スタッフの声

・私がスタッフに思ったこと

一番印象的だったのが、講座の途中に1年生スタッフが、「こんなことしてみたら楽しいと思うのでやってみましょう。」と、私に一声かけてくれたことである。1年生スタッフと学部スタッフの気持ちが一つになった証拠だと私は考える。

・スタッフの声

子どもの笑顔が自分の疲れをいやしてくれた。

楽しかったです。（子どもも自分も楽しめて良かった）

最初は、自己紹介もあまりよくできなかったのに、最後はうちとけることができてよかった。

5．講座を通しての成果、今後の課題

一番良かったのは、親も子もスタッフもけがをせずにサッカーを楽しむことができたことである。私が恐れていたことは、やはりけがであり、日頃あまり運動しないお父さんや、スタッフの肉離れ、捻挫にはかなり注意した。体全体にわたる体操、更に足首、もも、ふくらはぎを重点的に行った。スポーツ関係の講座の場合、けがには十分気をつけて行う必要があることを実感した。

今回は、親と子の触れあいは、リフティングの場面、ゲームの場面などで親と子がお互い応援しあったり、助け合うということがあり目的はほぼ達成されたのだが、残念であったのは人数のことである。予定では、親子合わせて３０人ぐらい募集したのだが、実際は、親２人、子ども４人であった。土曜日でも会社のあるお父さんがいること、親子が一緒でなければ参加できないというような題目「親子でサッカー」が重なり、少なくなってしまったと考えられる。もう少し題目などを工夫したらもっと楽しくできたと思う。1年生のスタッフのなかでは、「来年は、たくさんの子どもを集めてまたやろう。」と、言ってくれた。来年は、とても楽しみである。

いろいろな工夫を加え、また今後もスポーツ講座開いていって欲しい。

6．参加者アンケートからの声や子どもの声

・めちゃめちゃ楽しかった。（辻君）

・リフティングは、難しかったけど楽しかった。（吉崎君）

第１０回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	とびだす紙しばい	平成　8年10月12日（土）（午後）
キャプテン	桐山　潤　（国語専攻　3年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　１０　名 参加者数　８　名
指導教官	滝澤　貞夫　教官	使用教室　６３番教室

☆何をするのか（具体的に）

自分で考えたお話や出来事を、開くととびだす仕掛けの紙しばいにすることによって、楽しく作品を作る。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

・自分で作品を創造することのよろこび。
・友だちに発表することのよろこび。
・新しい仲間と協力すること。

講座の時間配分

時間	過程	活　動	子どもの動き	指導・助言・留意点
5分 10分	導入	1.自己紹介をする 2.見本を提示する	◎元気よく自己紹介をする ◎キャプテンの作った例を見る	◎キャプテンとスタッフが元気よく自己紹介する ◎見本となる作品を用意しておく
90分	制作	3.作品を見る	◎自分の作品を考える ・どのような題材でどのような場面を ◎絵を描く ・色鉛筆、クーピーを使用 ・必要に応じて折り紙を使用する ◎お話を書く ◎のり付けをする	◎具体的な場面を考えさせる ◎子どもの発想を尊重すること ・色鉛筆(予備)、画用紙、折り紙をあらかじめ用意する ◎一場面だけのものを作るか、一話で二場面以上のものを作るか、子どもにまかせること ◎飛び出す部分の画用紙は、あらかじめ、のりしろを作り、閉じたときに収まるように切る ◎ほめながら助言をするように心がける
15分	発表	4.友だちの作品を見る	◎自分の作品を友だちに見せる ◎元気よく発表する ◎友だちの作品を見る ◎静かに発表を聞く	◎作品を見る ＊不完全でも作品を成果として認めること

とびだす紙しばい

桐山　潤（国語専攻　3年）

1.はじめに

第9回から、初めて「ＹＯＵ遊サタデー」にキャプテンとして参加させていただきました。直接の理由は簡単で、教育実習とは違ったシチュエーションで子どもたちと接してみたいと思い、また、自分の専攻科目である国語に関する自己表現の講座を開きたいと思い、開講しました。また、図画工作もからめてやったら子どもたちに好評なのではないかと思い、「とびだす紙しばい」開講の運びとなったわけです。

2.講座作りの着想とねらい

皆さんは絵を描くのが好きですか。私は嫌いではないけれど苦手です。苦手だと、つい引っ込み思案になってしまい、挙げ句の果てには嫌いになってしまう。よくあるパターンです。でも、何かを作っている時って楽しくないですか。何かを表現している時ってワクワクしませんか。ドキドキやワクワクがいっぱいですね。今回は、そんなドキドキやワクワクを感じてもらいたいと思い、また、表現が苦手な子どもたちに表現のおもしろさを感じてもらうために、この題材を設定しました。

さて、ドキドキするにはどうしたらよいか、普通に絵を描いても良いけれど、絵が嫌いな人や苦手な人はどうするのか。そんな子どもたちにドキドキを感じてもらう要素が「とびだす」であり、表現の要素が絵を描くことや「かみしばい」であるのです。

3.「とびだす紙しばい」について

まず、なぜ「とびだす紙しばい」なのかということを説明したいとおもいます。皆さんは「とびだす絵本」というものを御存知でしょうか。そう、あの幼児用の絵本なんかにある、頁を開くと絵が飛び出すように仕掛けられている絵本のことです。最初は「絵本」をやってみようと思ったのですが、何よりも子どもたちに発表する場を設けてやりたい、みんなに自分の描いた作品を「こんなに上手に出来たよ」って発表してもらいたい、という願いを込めて、「紙芝居」という形式にしました。

さて、「とびだす」部分ですが、一枚の紙を使って「とびだす」部分を作るやり方と、一枚の紙を台座として使いもう一枚の紙で「とびだす」部分の絵を描いて、それを絵を開けたときに飛び出すように台座に貼る、という二通りの方法を考えました。前者の方は、スタッフの方に指摘されて気付いたのですが、小学生ということもあり少々難易度が高いと思い、今回は後者の方法を採ることにしました。「紙しばい」という部分が弱くなってしまうのではないかと思いましたが、これは、「とびだす」という部分が強調された結果なのでしょうか。

4.子どもたちの様子

予想通りなのか、予想に反してなのでしょうか、小学校低学年だけの講座となってしまいました。もう少し高学年の子どもたちが参加して、リーダーシップを発揮してくれるような講座にしたかったのですが、これも講座の性格というものでしょうか。

講座が始まり、説明が終わり、作業開始の時に、何をしたらいいのかわからない子どもがいました。長野の時と違い松本では、特に副題をつけませんでしたが、子どもたちの自由に描かせてみようと子どもたちの自主性を尊重したいと考えていました。もう少し具体的に何をしたらよいかを示してあげればよかったと思いました。

描く内容が決まると子どもたちは本当に夢中になって描きだしました。色鉛筆を使ったり、クーピーを使ったり、スタッフの用意した色紙を使ったり、様々な活動をしていました。一枚をじっくりと仕上げようとする子ども、次から次へとどんどん描き進めようとする子ども、様々な子どもがいましたが、どの子どもにも共通していえることは元気だったということです。しかし、なかには絵を見せるのを嫌がったりする子どももいて、その子どもに対する指導についても考えさせられました。

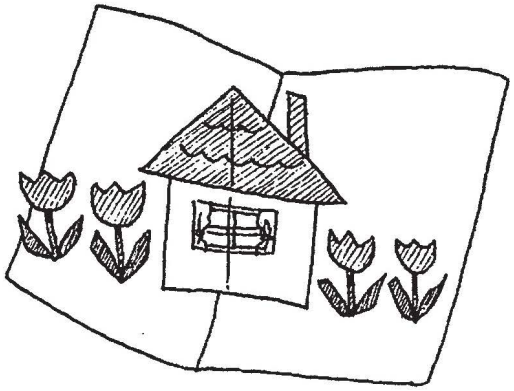
とびだす部分の子どもたちの反応ですが、おおむね好評だったようです。とびだす部分を見たときの子どもの表情については、私が緊張していて、あまり子どもたちの表情を読みとる余裕というものがなかったのですが、講座の最後に、「家でもやってみたい」といって、余った紙を持って帰る子どもがいたので、この活動が面白かった証拠だと確信しています。

5.反省

今回の反省点として考えられるのは「果たして紙しばいといえるのか」という問題になると思います。活動としては子どもたちが楽しんだので、成功と言えるでしょう。もちろん、一枚だけの紙しばいも「あり」だとおもいます。しかし、自分としては、連続した場面を紙しばいにするべきだったと考えているし、何よりも、発表する時間があまりとれなかったことが残念でした。連続した場面を描くときの指導ということと活動する時間と発表する時間の兼ね合いも考えていかねばならない課題だと思います。

講座の活動中のことだったのですが、スタッフと子どもとでマンツーマンになってしまい、スタッフが他の子どもとあまり話すことが出来なかったことも反省点です。一年生スタッフが１０人近くいたからかもしれませんが、机の配置をもう少しこじんまりするなどして対処すべきだったのかもしれません。

教育実習事前指導の時に、「参加したい」と希望したのですが、夏休みに土井先生から電話をいただいたとき、正直言って、「経験のない者がいきなり講座を開いて本当に大丈夫なのだろうか」と、少々不安になりました。しかし、実行委員長の加納さんをはじめとする多くのスタッフの皆さん、長野でのスタッフだった島谷さん、藤沢さん、松本でのスタッフだった斎藤さん、増田さん、山田さん、一年生スタッフのみんな、そして何よりも、土井先生のあたたかい励ましのお言葉により、なんとか無事に終えることが出来ました。本当に感謝しております。



第１０回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	ドラム・パーカッション入門	平成　8年10月12日（土）（午後）
キャプテン	奥井　一良　（理科専攻　1年） 小林　理英　（家庭専攻　4年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　5名 参加者数　4名
指導教官	土井　進　教官	使用教室　５５番教室

☆何をするのか（具体的に）

・バチを使って楽譜のリズムをたたいてみる。
・ドラムをたたいてみて簡単な８ビートなどのリズムを刻んでみる。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

・ドラムを使ってリズムを刻むことを通し、音楽を演奏する楽しさを知ってもらう。
・ドラムの魅力。
・ドラムをたたくことで自分自身の可能性が広がること。

講座の時間配分

時間	子どもたちの活動内容	キャプテン・スタッフの支援、援助
10分	自己紹介 ・キャプテン、スタッフの自己紹介 ・参加者の自己紹介	・キャプテンがドラムを演奏し、興味を引きつける。 ・参加者を緊張させないようになごやかな雰囲気で、自己紹介する。
5分	講座の内容説明を聞き、活動内容を知る	・講座の説明 参加者とスタッフでペアを組むこと 練習の進め方　順番にドラムを使うこと 最後に全員で合奏すること
5分	バチを握る バチを持って、手首の運動をする	・バチを配る ・キャプテンが実演して、まねをしてもらうようにする。
5分	バチでたたき方を机で練習する	・机の上にはタオルを1、2枚敷き、机を傷つけないように配慮する。 ・バチの握り方、たたき方の練習をする
80分	リズム練習をする ドラムセットを使い、ドラムをたたく ・ペア１組づつ順番にドラムを使う ・残りの４組は机でリズム練習する ・楽譜を見てリズムを打つ	・各ビートごと二重奏になっている楽譜を配りそれぞれのスタッフが声をかけながらペアで練習する　各ペアで二重奏などやってみる ・主に８ビート（できるペアはfill inもやってみる） ・ドラムセットについてはキャプテンが指導する
10分	全員で合奏する ・５組で机をたたいて合奏する ・５組とドラムで合奏する	・ペアごと上下に分かれて、楽譜のリズムを二重奏する ・ドラムも加えて合奏する ・キャプテンだけでなく参加者にドラム演奏をしてもらう
5分	・修了証をもらう	・修了証を渡し、バチをプレゼントする

ドラム・パーカッション入門

奥井　一良（理科専攻　1年）
小林　理英（家庭専攻　4年）

1．開講の動機、理由

教育参加という授業をとても面白そうだと思い、できるだけ積極的に参加して色々なことをやってみたいと思ったのが、自分で講座を開いてみようと思った動機だ。学校の授業でやる音楽は、楽器を使う時間が少なかったので、楽器を楽しく演奏する機会のある人はあまりいないと思う。自分は小学校6年生のときから打楽器を扱ってきたので、音で楽しむということを知っている。授業では行われない、音を楽しむための音楽を知って欲しかったので、この講座を開こうと思った。

2．ドラム・パーカッションを選んだ理由

パーカッション（打楽器）とは、実に単純な楽器である。叩けばそれだけで音が出る。しかもスネアドラムやティンパニーやシンバルなどの楽器を叩かなくても、手を叩けばそれだけで楽器となる。手拍子でもひざを叩いても足を踏み鳴らしても、それで音が出れば立派にリズムが作り出せる。普段の生活の中に一番すんなりと受け入れられる楽器は打楽器だと思う。また、ただ簡単なだけでなく、リズムをとる事によりできてくる組み合わせだけでも無限にある。安くて、誰でも簡単に使える打楽器。音を楽しむ事を知ってもらうためには、これほど良いものはないと思った。

3．参加者やスタッフの様子

今回この講座に参加した人の年齢が、小学生から成人までと非常に幅広いものであった。そのため、全員でちゃんと出来るのだろうかという不安があった。参加者は最初、参加者に同年代の人がいないのと、人数が少なかったためにかなり緊張していた。しかし、横についたスタッフの人たちが積極的に言葉掛けをして、コミュニケーションをとってくれていたおかげで、かなりリラックスした状態で講座を進める事が出来た様子だったのでよかったと思う。

小学2年生の子などは、他の参加者に比べて進むのが遅かったのだけれど、ついていたスタッフに励まされ、最後にはリズムを打てたり、二重奏が出来るようになった。その他の参加者とスタッフも、ペアでいっしょに練習して上手くなっていくというような感じで、進める事が出来たのでよかったと思う。

4．この講座を通しての反省

自分は、このような形で人と接するのは初めての経験であり、計画の段階から戸惑ってしまって、先輩からさまざまなアドバイスをいただいてなんとか出来たという状況だった。実際やってみると時間がとても短く感じ、「もっと伝えたい事があったのに」と思う事もあった。

この講座への参加者は5人だったのだけれど、とても1人では指導や援助がゆきとどかなかった。スタッフの人の協力があって、はじめてこの講座は成功する事ができた。

このＹＯＵ遊サタデーを通しての率直な感想は、人と接していくというのはかなり難しいという事だった。しかし、一つのドラムという手段を通じて、初対面の、異年齢の人たちが気持ちを通いあわせ、楽しいひとときを過ごせたということは素晴らしいことだと感激した。

今後、言葉をかけるタイミングや、子どもと同じ視点で教えてあげられるようなことをもっと気をつけて、充実感の得られる講座が開けるよう考えていきたい。

第１０回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	宇宙生物スラスラスライム	平成　8年10月12日（土）（午後）
キャプテン	田淵　久晃　（理科　専攻　1年） 安喰　和之　（理科　専攻　3年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　１９名 参加者数　３２名
指導教官	土井　進　教官　漆戸　邦夫　教官	使用教室　５６番教室

☆何をするのか（具体的に）

洗濯糊（PVA）と四ほう酸ナトリウム（ほう砂）水溶液をある割合で混ぜることにより、触った感じがぷにょぷにょと柔らかく、どんな形にでもなるスライムを作る。また色素や絵の具などを使って、カラフルなスライムをたくさん作る。最後にビニールプールを用いておっきなスライムをみんなで協力して作る。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

スライムの柔らかく、ひんやりとした気持ちいい感じを手や足を通して感じるとともに、自分で決めたいろいろな色をスライムにつけることで、世界でたった一つしかない自分だけのスライムをつくってほしい。またこの講座に集まったたくさんのお友達とおっきなスライムを協力しながら楽しく作ってほしい。

講座の時間配分

時間	段階	子どもたちの経験内容	スタッフの支援	教材
１５分	どうやってスライムって作るんだろう	・どんなお兄さんやお姉さんが教えてくれるんだろう？ ・あのお兄さんこわそうだな！ ・今日はたくさんスライムを作っておうちへ持って帰るんだ！！ ・自己紹介なんてどうでもいいから早くスライム作りたいよー	・スライムの作り方の実演（キャプテン） ・子ども及びスタッフの自己紹介と抱負 ・作り方の説明 ・注意事項の説明	作り方を書いた模造紙
７０分	スライムをたくさんつくろー！！	・スライムができたー！みてみて！！ ・ネチョネチョしててきもちわるーい。 ・ぷにょぷにょしてきもちいいー。 ・ぼくのスライムはこんな色だぞ！！！ ・ぼくはもう６個もスライムを作ったんだ！！ ・上手くスライムにならないよー。何とかしてスライムにして！ ・ぼくのスライムが合体した！！ ・私のスライムなんかかたくなっちゃった。 ・どこまでも伸びてくー！！！ ・私のスライムきれいでしょ。	・子どもたちと一緒にスライムを作る。 ・手順の分からない子どもと一緒に作る。 ・コップを一緒に洗う ・上手くできない子どもと一緒に作る。 ・一緒に色を付けにいく。 ・服や髪の毛に付いたスライムをとる。	コップ わりばし 洗濯糊 ほう砂 水 新聞紙 色素 絵の具 ビニール袋 バケツ スポイト
３０分	みんなでおっきなスライムをつくちゃおー	・こんなおっきいの作るの？ ・早く混ぜなきゃ！ ・なかなかかたまんなーい。 ・どんな色にしようかなあ。 ・でっかいスライムができたぞ！！ ・足で踏んづけてみよう！！！	・子どもたちと一緒に作る。 ・服や紙に付く糊やスライムをとってあげる。	ビニールプール ビニールシート ぞうきん
５分	おかたづけ	・なかなかスライムとれなーい ・机がべちょべちょだ！ ・もう終わりー。もっと作りたーい。	・子どもたちと一緒にかたづける。 ・修了証を渡す。	ぞうきん 修了証

宇宙生物スラスラスライム

田淵　久晃（理科専攻　1年）
安喰　和之（理科専攻　3年）

1．講座設定の理由

「柔らかーい」、「ぷにょぷにょしててきもちいー」、「手にくっついたー」、「スライムが床に落ちてっちゃう」という声があちこちから聞こえてきます。これが子どもたちが「スライム」という何とも不思議な物体に触ったときに思わずもらしてしまう感想です。このつぶやきからわかるように、子どもたちは「スライム」の感触や刻一刻と変わっていく形の変化に対して高い興味や関心を示します。この反応は子どもだけに限られたものではなく、いい年をした大学生や、社会に出てばりばりと働いているおとなにも共通した反応だと言えると思います（実際大学の実験の一つとして行われる場合、大学生が時間を忘れてスライム作りに熱中している姿を何度も見てきました）。さあ、こんな世代を越えてまで人々が熱中し、同じような感覚をもてるような物がはたして身の回りにあるでしょうか？ないとは言い切れないにしろ、かなり数が限られてくるのではないかと思います。そしてもしこんなおもしろい「スライム」が手軽に作れるとしたら皆さんはどうするでしょうか？この答えは言うまでもないと思います。事実、実際の教育現場や地域の子供会などでもこの「スライム作り」が教材として取り上げられ、全国各地で実践されてきました（聞くところによると、あまりの過熱ぶりにクラブまでできた学校があるそうです）。我々もこんなおもしろい教材をほっとくわけにはいきませんし、子どもたちもスライムを作りたくてうずうずしているはずです。こうしてできた「スライム作り講座」は第１回から間をあけながらも延々と引き継がれ、子供たちの中でも最も人気のある講座へとなっていきました。この人気ぶりはＹＯＵ遊サタデーの開催が報道され、参加希望の子どもたちの受け付けが始まるとすぐに定員いっぱいとなってしまい、泣く泣く別の講座へ移っていただくという状況を生み出すほどです（中にはスライム講座には入れないなら今回は参加しませんという方もいます）。このような子どもたちの希望と要求に応えるために今回もスライム講座を開きました。

2．教材について

こんなとっても不思議なスライムはどのようにして作られるのでしょうか。これは各地の地域の子供会を開催される保護者の方々から寄せられる疑問です。そこでまずはじめにスライムの作り方を説明します。

1．コップなどの容器に水と洗濯のり（ＰＶＡ）を１：１の割合で入れて、軽く混ぜます。
　（この際あまり混ぜすぎるとスライムの中に気泡がたくさん入ってしまうので要注意）
2．ここへ色素や絵の具などを用いて自分の好きな色をつけます。
3．２．のコップへ別に用意しておいた四ほう酸ナトリウム（ほう砂）の飽和溶液を徐々に加えていきます。（飽和溶液を作る場合は溶液の底に四ほう酸ナトリウムの固体が少し残るぐらいに調整するとちょうど良いと思います）。
4．自分の気に入った固さにスライムができあがったら、そのスライムを手にとって遊びましょう（この時にスライムになれなかった水や四ほう酸ナトリウム溶液がコップに残っていて、スライムを取り出すときに一緒に出てきてしまうことがあるので、スライムを取り出すときはバケツや洗面器の上で取り出すことをおすすめします）。

以上がスライムの作り方ですが、今回の講座ではさらに以下のような工夫をしてみました。

1．従来の講座ではスライムの着色絵の具や色素を入れる量を調整することがむづかしいということで、子どもたちの希望を聞いた上でスタッフがスライムの着色を行ってきました。しかしそれでは着色という最も子どもたちの個性が表れる活動が、本人以外の人によって行われてしまうために、自分らしさがはっきりでてきませんでした。そこで今回の講座ではあらかじめ絵の具や色素を水に溶いておき（今回は絵の具１２色＋色素３色）、それを自由に子どもたちがスポイトを使って着色できるようにしておきました。

2．従来の講座では一人一人スライムを作った後は、テーブルごとにバケツを用意し、その中で大きなスライムをつくっていました。しかしこれでは協力してスライムを作ったと言っても５～６人の子どもたちで作るのが限界です。そこで今回の講座ではさらに大きなスライムをつくるためにビニールプールを用意し、講座に参加してくれた子どもたち全員で協力して作れるようにしました。さらにこの活動の結果できた大きなスライムのプールに裸足で入れるようにすることで、手だけではなく足も使ってスライムの感触を体験できるようにしました。

3．子供たちの反応

年に１回の松本でのＹＯＵサタデーと言うこともあり、はじめから子どもたちはとても楽しそうに教室へと入ってきました（というよりは開会式の時から楽しそうでした）。この様な子どもたちのｈｉｇｈ－ｔｅｎｓｉｏｎぶりは子どもたちやスタッフが自己紹介をしたり、キャプテンがスライムの作り方の説明をしている間もずっと続いていたと思います。そのため子どもたちの間から、「スライムの作り方なんか知ってる」、「前学校で作ったことがある」、「自己紹介なんてどうでもいいじゃん」といったつぶやきがいたる所から聞こえてきました。このつぶやきは早く自分たちでスライムが作りたいう気持ちの表れであり、いかにこどもたちがスライムに対して興味を持ち、実際に自分で作ることを楽しみにこの講座に参加しているかがうかがえしれます。しかしそんな強がりを言っていた子どもたちも、実際に自分でスライムを作り始めると近くにいるスタッフに作り方を聞いたり、手順を何度も確認するといったとても微笑ましい姿があちこちで確認されました。また絵の具や色素をあらかじめ水に溶いておいたことが功を奏したのか、自分でスライムにつけたい色を自分で入れられるので、非常に個性的な色をしたスライムがあちこちで見られました。さらに今回の講座ではスライム作りの活動が全て自分の力でできるようになったため、兄弟姉妹で参加してくれている子どもの中には弟や妹と協力してスライムを作っていく姿も見られました。この様に子供どもちは自分のペースで何個も何個もスライムを作り上げていきました。しかし子どもたちの動きには従来の講座では見られなかった今回の講座ならではの行動もありました。それはまだ完全にスライムになっていない状態（つまり四ほう酸ナトリウムが足りないためにどろどろの状態）のままビニール袋に入れている子どもが非常に多かったということです。これではスライムを持って帰る間に、中に入っているどろどろの液体が出てきてしまい、服や回りにあるものを汚してしまうとともに、うちへ帰ってスライムで遊ぼうと思っても、どろどろのままでは遊べません。スタッフはどうしていいものかと頭を抱え込んでしまうほどでした。ところが子どもたちもこのこのスライムでは駄目だと言うことに気づいたのか、これでは嫌だといってスタッフの

所へやってきては、「このスライム直して」と言ってどろどろのスライムが入ったビニール袋をスタッフに突き出しました。ある子どものスライムに関していえば、どろどろのスライムをたくさん作ってしまったために、作りなおそうにもコップに入りきらず、バケツを導入して大きなスライムを作らなくてはいけない子どももいました。このように試行錯誤をしなくてはならない個人でのスライム作りでしたが、その活動にも一段落ついたところで今回の講座の最大の目玉、「ビニールプールでおっきなスライムを作ろう」へと活動を移していきました。スタッフとしては子供たちはすぐにこの活動に飛びかかってきてスライムを作り始めると思っていたところ、一人でスライムを作っていたほうが楽しいと言ってはじめのうちは参加しようとしませんでした。ところが「回せ！回せ！」と声をかけているうちに子どもたちも何かおもしろいことが始まったぞと思ったらしくプールの回りに集まりはじめ、結局「おっきいスライムはつくんない」と言っていた子どもも途中から参加でき、みんなでスライムを作れた気がします（とは言えそれでも参加しなかった子どもがいたのも事実です）。 そしてスライムの色づけです。「何色がいい」の問いかけに「赤」、「青」、「緑」など様々な意見が飛び交いましたが結局「黄緑色」という子どもが多く、黄緑色に落ち着きました。しかしこの「黄緑色」を作るにも「緑」と「黄色」を混ぜていくこととなり、この配合をめぐって「もう少し黄色」、「もっと青」とあちらこちらから子どもたちの声が聞こえ、すったもんだしたあげくきれいな「黄緑色」ができました。しかしこれからが大変。このどろどろの溶液の中に四ほう酸ナトリウムを加えてスライムに仕上げていくわけですが、これも少しずつ混ぜながら固さを調節していくのでなかなか固さが決まらず、水を加え直したり、四ほう酸ナトリウムを加えたりと子供たちの希望通りの固さに調節するのにかなり時間がかかりました。このような苦労を重ねつつやっとの思いでできたおっきなおっきなスライムを使ってみんなで遊ぼうと思っていた矢先、知らぬ間にビニール袋を持ってきた子どもたちが僕のものだといわんばかりに袋につめはじめたのです。そこでキャプテンが「まった、まった」と声をかけ、「スライムプールの上を裸足であるいてみよう」といってみたものの、実際に靴下を脱いだのは１人だけで後のみんなはまたスライムをビニール袋につめはじめたのです。この様にはかなくもキャプテンの夢はくずれてしまったわけですが子どもたちはとても満足そうな顔をして、修了証を受け取って閉会式の会場へと向かいました。閉会式が行われている間は子どもの横に座ることができ、ここだけのはなし閉会式の内容はそっちのけで楽しくしゃべっているうちに閉会式は終わってしまったわけです。そして両手いっぱいに重そうなスライムを抱えて子どもたちは帰っていきました。スタッフの後かたづけの苦労も知らずに・・・。

４．講座を通しての反省

今回はスタッフの中に教育実習を終えた３年生以上の人が１人しかおらず、後はみんな１年生というとてもおもしろいスタッフ構成になりました。そのためこの延々と続いてはいるもののだんだんマンネリ化してきた「スライム講座」にも、「ビニールプールを使って大きなスライムを作ろう。手だけじゃなくって足も使ってスライムを感じよう！！」という一見すると無謀にも思えるような講座展開が行えるとともに、より多くの子どもたちが一度に同じものを作るという作業が可能になったのです。またスライムに色をつけるための絵の具や色素を水に溶き、子どもたちが自由に色をつけられるようになったことで、非常にカラフルで個性的な色のついたスライムを作る子どもがたくさんみられました。こ

の様に今回の「スライム講座」は以前のものに比べると飛躍的に子どもたちの個性が表れる作品ができる講座になりました。しかし反面、ＹＯＵ遊サタデーにな慣れていない１年生が多く、子どもたちとどのように接していったらいいか分からないスタッフがたくさんいたために、後のアンケートではお叱りの一言をいただく結果となってしまいました。またスタッフ自身がスライム作りに熱中してしまい、子どもそっちのけで遊んでしまっている姿も見られ残念な気持ちになったのも事実です。しかし子どもたちの帰った後の教室の汚れ具合をみると、子どもたちが集中して楽しんで遊んでいってくれたなあと言う気がしました。もちろん後かたづけは非常に大変でしたが・・・。何につけても子どもたちが満足して帰っていってくれたことを考えると今回の講座のねらいは十分達成できたのではないかと考えます。そこで次回からの課題としてはさらなる「スライム講座」の個性化を図るとともに子どもたちの満足度を上げていく必要があります。そのためには展開部での工夫がますます必要になってくると思います。その方法は講座に集まったキャプテンやスタッフの考え方、個性によって大きく変わるものだと思うので、次回のキャプテンおよびスタッフに任せることにします。

第１０回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

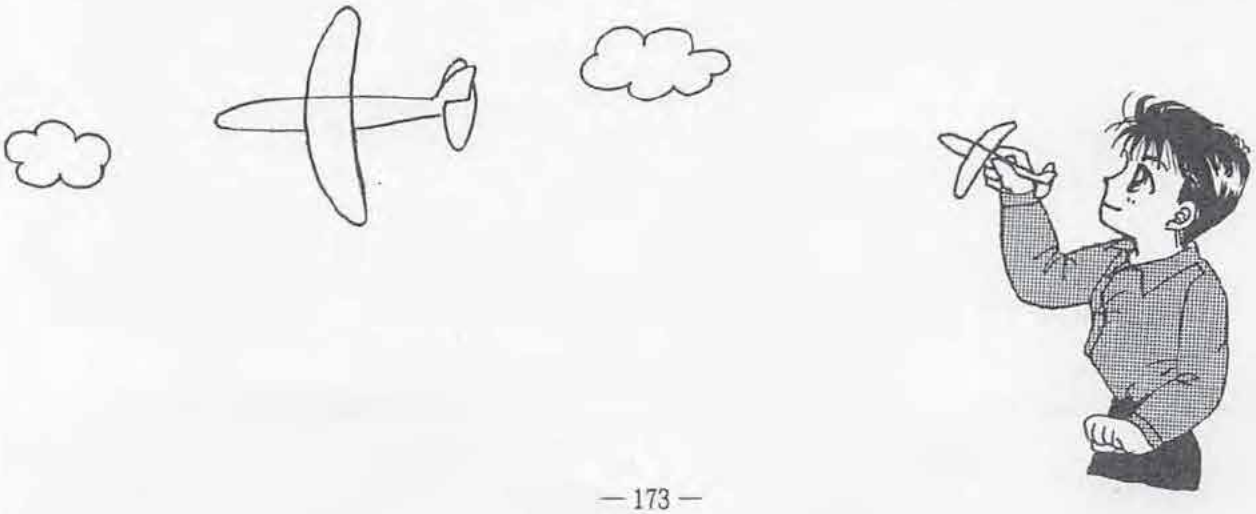
講 座 名	ペーパーグライダーを飛ばそう	平成8年10月12日（土）
キャプテン名	中村　典史　（社会専攻3年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　１１　名 参加者数　６　名
指導教官名	阿久津　昌三　教官	活動場所　５３番教室

講座のねらい

型から自分で切り抜き、飛行機を作ることにより、カッターの上手な使い方を知るとともに、長く遠くに飛ばすために工夫することを覚える。

講座の展開

時間	子どもたちの活動内容	キャプテン・スタッフの支援
１０分	自己紹介 ＃キャプテン、スタッフ、子どもが自己紹介をする。	＃子どもたちの緊張をほぐし、明るい雰囲気を作るようにする。
８０分	配布物配布 ＃型紙となる画用紙３枚と作り方を書いた紙１枚を配る。 作成 ＃見本を見て簡単な説明を聞いて、基本的な作り方を理解する。 ＃できた子どもは外で飛ばしながらよく飛ぶように調節をする。	＃作る前に紙を参考に基本的な説明をし、そのとき見本を見せる。あわせてカッター、はさみの使い方にも注意するよう伝える。 ＃作成中はスタッフで手分けして子ども一人一人に目を配る。（１年生スタッフは、子供と一緒に作成しながら子どもと交流する。） ＃外へでていった子どもにはついていって、危険なことをしないようにする。 ＃調節用のクリップを用意する。
２０分	飛行コンテスト ＃誰が長く遠くにとばせるかコンテストをする。	＃２回飛ばし、距離は歩いてはかる。
１０分	コンテストの賞状を渡す 感想文を書く 修了証を渡す	



ペーパーグライダーを飛ばそう

中村　典史（社会専攻　3年）

1．講座の着想

私がこの講座を思いついたのは、去年のＹＯＵ遊サタデーの新しい講座を考えているときであった。まず最初に考えたのは、ＹＯＵ遊サタデーという企画は、教育をどのくらい意識しているのか、ということであった。つまり、これは私自身がこの企画に参加する際のスタンスに関わることであるが、子どもに何か学んでかえってほしいという願いを持つのか、はたまた楽しく時を過ごしてほしいという願いを持つのか、という問題である。私個人の意見は、後者の方に属しており、他学部の友人に説明するときは、「週休２日制で暇になった子供と一緒にあそぶ会」という、実行委員の人にはあまり聞かれたくない紹介をしている。しかし、いざ講座に携わると、そんな軽い気持ちではやっていられない面もあり、いったいどう言った方針で講座を開けばいいのか、という問題は、いまだに解決されていない。そんな混沌とした状態でこれならまあいいかな、ということででてきたのがこの「ペーパーグライダーを飛ばそう」という講座である。ペーパーグライダーの正式名称は、「Ｗｈｉｔｅ　ｗｉｈｇｓ」といって株式会社Ａ．Ｇ．から発売されているペーパークラフトのキットである。これは私が小学生の時、学級活動などで作って、かなりはまっていたものなので、ＹＯＵ遊サタデーにぴったり、とまでは言わないが、あっても叱られたりはしないだろう、と思ったのである。

2．講座の準備

さて、１９９６年の５月と１０月に私がおこなった講座についてであるが、講座の流れやイベントなどはほとんど去年技術科の丹羽さんがたてた遊学プランを流用させていただくといった甚だ主体性に欠けるものであった。しかしいいわけをしておくと、去年おこなったプランはそのまま使っても何ら問題ないものであり、新しく考える必要はなかったのである。

とはいえ、去年の反省点がなかったわけでもない。第１に作り方がわかりにくい、ということである。教材は本来大人向けのものであり、いきなり渡され、さあ作れ、といわれても、どこから切ったらいいのかもわからない、という子どももいたようだ。そこで今回は作り方を簡単に書いたプリントを配布した。

第２にうまく飛ばそうとするあまり、工夫に工夫を重ね、思いあまって飛行機の胴体を切断するといった暴挙ともいえる行為にはしる子どもがでてきた。講座の方針として、子どもへの助言は最小限にする、ということではあったが、さすがにそれを発見したときは「それでは飛ばないよ」とつぶやいてしまった。そこで今回は、あらかじめ黒板に「うまく飛ばすコツ」として３つほど注意事項を書いておいた。

もう１つ、遊学プランを検討するキャプテン会議で問題となったことがあった。子どもが家に帰ってまた作りたくなったらどうすればいいか、ということである。その対処として、それまでは余分に印刷した画用紙を配っていた。しかし、それも作ってしまったときのことまで考えてか、突如として、設計図の書き方を教えたら、という案がでてきた。

実はこの講座が最終的に目指すところは自分で設計した飛行機を飛ばすところにある。いくら自分で切り抜いたといっても、所詮は既製品であり、自分が設計してものが飛ぶ感動には及ばない。その点ではこの案はまことに持って有効なのであるが、問題がいくつか

ある。１つに自分が設計した飛行機がきちんと大空を舞う、という感動を味わうには、かなり高度な専門知識がいると言うことである。これは根っからの文系人間であるとはいえ、２０歳をとっくに過ぎた私でさえ難解なものであり、そんな人間が教えたところで、小学生がすぐ理解できるか、というところに大きな不安を感じる。

私のできの悪さを何とかクリヤーできたとしても、子どもの飲み込みを少しでもよくするには、一度この講座に参加した子どもの方がよい、ということになってきて、またいろいろと問題が浮上する。

また、この講座に参加している子どもの意識の問題もある。ペーパーグライダーを作りに来たのに、学校と同じような授業めいたものをされてはかなわないのではないか、という考えもある。などなどいろいろ考えていると、やはり従来どおりおこなうのが一番いいのではないか、という消極的な結論に達し、設計についてはなにも触れないこととなった。

また、５月におこなったときの反省として、おもりに使っているクリップがあっというまに底をつき、本部はおろか、実践センターの研究室のものものまで一つ残らず拝借してしまう、という不測の事態にならぬよう、１０月の時は事前にクリップを注文しておいた。

また、５月に書いてもらった感想の中に、色を塗るための準備がほしかった、という保護者の意見があったので、１０月には色えんぴつも持ってきてもらうようにした。

５月に講座を開くにあたり、事務的な準備がある、ということを十分理解していなかった私は、その予想外の量に度肝を抜かれ、すっかり狼狽してしまった。しかしアシスタントスタッフの協力のおかげで何とか講座を持つことができた。１０月には、その反省も含め、準備にも力を注ぐようにはしていたが、定例会にもあまり顔を出さず、実行委員の人々には迷惑をかけたことと思う。

１０月に講座を開くにあたり、もう一つ、問題になったことがあった。１年生の扱いである。教育参加で１０月のＹＯＵ遊サタデーで私の講座には９名の１年生が手伝いに来てくれることになっていた。この１年生にどうやって講座に参加してもらうのか、ということは、大きな問題であった。１０月のこの講座には当初１１人の子どもが申し込んできていた。スタッフが学部生を入れて１２人のところに、子どもが１１人である。スタッフみんなが机間巡視をし始めたら、子どもがどこにいるかもわからなくなってしまう。そこで１年生には不満が残ることになるではあろうが、とりあえず子どもと１対１で机に座り、子供と一緒にペーパーグライダーを作ってもらうことにした。また、前日準備で彼らにペーパーグライダーの作り方を知りたいかとたずねたところ、ぶっつけ本番がいい、ということだったので、作り方も教えずにおいた。

３．講座の中で

５月の講座に関しては、去年とまるっきり同じ手順で行動していたため、さほど大きな違いは見られなかった。しかし、黒板に書いた「うまく飛ばすコツ」が効いたのか、あまり大きな改造をする子どもがおらず、そこそこ飛ぶ飛行機を作る子供が多かった。ただ裏を返せば、去年のような大々的な改造がなくなったという事であり、少し面白味に欠けるものになったという事は否定できない。

さらに、飛行コンテストで使うメジャーを借りるのを忘れていて、当日しかたなく歩数ではかることにしたが、子どもからは何の文句もでず、一緒になって数えてくれたほどであった。

１０月の講座では、またも全く同じ流れで終わらせる予定が、いくつかの予期せぬ要因により、私の想像と違った方へ一人歩きを始めてしまったという事がいえる。まず、当日子どもの欠席者が５人もでたという事。それに対して我が有能なスタッフは、律儀に全員参加で、スタッフ超過はごまかしの利かない域に達していた。結局私が判断する前に１年生が子どもの周りで班を作ってくれたので、何とか収まりがついた。

つぎに教室の雰囲気である。松本でこの講座を開くのは初めてであったが、まさかあそこまで子どもの態度が違うとは思っていなかった。子どもが静かなのである。作り始めたとたん、まるで腹を空かせた私が一心不乱に飯を食うように、ものも言わずに下を向いてしまったのである。そればかりか、せっかく完成しても、すぐに飛ばしに行こうとせず、つぎの製作に移ってしまう。長野の場合は、セメダインが乾いてないからもう少し待ったら、という助言も聞かずに次々と外へ飛び出していったので、この違いにも驚いた。あまりにみんなが机にかじりついているので私は飛行コンテストを中止しようかと考えたほどである。しかし、スタッフの一人が、「うまく飛べば賞状がもらえるよ」といってしまったので、私のもくろみはもろくも崩れ、時間ぎりぎりで何とかコンテストもおこなった。また、それだけの余裕がなかったせいか、クリップを鎧のようにつける子どももおらず、色を塗る時間もなく、結局前回の反省は少しも生かされなかった。

４．講座の反省

今年、２回の講座を開く中で、今後につながる反省点がいくつかでてきている。まず、１年生の問題である。１０月の講座で、１年生は予想以上に活躍してくれた。子どもとの会話も１年生から率先しておこなってくれ、教室が黙々と作業する機械的な場所から脱出できたのも彼らのおかげである。感想文に「話をする子としない子がいて、気を使いながら話をしていた」などとあり、１年生にも、なに得るものがあったのではと、すこしほっとした。しかし反面、グループに分かれての作業のため、特定の子どもとしか親しくなれないなどの不満の声もあった。

確かにその点で不満がでてくるのはうなずける。しかし、松本のＹＯＵ遊サタデーに１５０人以上ものスタッフが動員されていては、こうした事態が起こることも避けられなくなってくるのである。子どもの数が松本の倍近くいる長野でスタッフの数が５０人程度であり、松本では子どもがどこにいるのかわからないほどのスタッフで満ちあふれているというのも、矛盾した話である。可能であるならば１年生に長野に来てもらうべきである。どうやって１年生を詰め込むかを考える前に、どう１年生を長野に運ぶかを考える必要があるといえる。

また、依然として、この講座がどの程度学習として成り立つのか、という問題も未解決のままで、いろいろな場面で問題を引き起こしている。１年生のスタッフからも、子どものカッターの持ち方が危なっかしくて気になったが、結局なにもいえなかった、という意見が出された。私自身も、この講座に参加するたびに同じような状況にぶち当たる。子どもが恐ろしく不安定に紙を切っている。ここで一言切り方を説明したいが、人に教えられて果たしてその子に定着するだろうか。いや、しかし指を切ったりしてしまってから「ほらね」というわけにもいかないし、というジレンマに陥り、結局他の人に任せよう、と別の子どもを見に行ってしまったりする。

また、２時間で飛ぶ飛行機を作り飛ばすには、どうしても飛ばすためのポイントをいく

つか説明したいのだが、それもふつうに作っても飛ばないことを知ってからの方がよくわかるのではないか、でも2時間じゃそこまでいけないし、子どもが自分でそれを発見できればなおいいし、などと考えてしまい、結局それにもふれないように封印してしまう、ということがたびたびあった。

しかし、何はともあれ、一人のけが人もなく、子どもも1年生スタッフも楽しかったと言ってくれたので、私としてはまずまずの出来だったのではないかと密かに自負している。その中でいくつ問題がでてきても、つぎに生かせれば成功の内である。

第１０回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	地図で旅行をしよう ～松本駅からの旅立ち’96秋～	平成　8年10月12日（土） （午後）
キャプテン	登坂　武人　（社会専攻　2年） 小宮山　博　（社会専攻　2年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　１３名 参加者数　２名
指導教官	鵜飼　照喜　教官	使用教室　７１番教室

☆何をするのか（具体的に）

まず知らない子には地図・時刻表の見方から教える。それがわかったら、行きたいところ（目的地）を決め、そこに行くまでの方法をスタッフとともに考える。目的地の見所も調べられたら調べる。（社会的視座に基づいて行う。）実際の旅行は各自で。

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

・旅行プランをたてる楽しみをわかってほしい。
・社会科が暗記科目でないことをわかってほしい。

講座の時間配分

時間	内　容	必要な物
13:30 ↓ 13:45	スタッフ・子どもの自己紹介	
↓ 13:55	キャプテンの話及び、講座内容紹介	
↓ 14:00	グループ分け　（用紙の配布）	わら半紙
↓ 14:10	キャプテンによる模範例の紹介	模造紙
↓ 14:30	時刻表がわかる子ども：プランづくりを始める わからない子ども：時刻表の見方を教える	
↓ 15:00	プランをつくる	各自必要な物 時刻表・地図帳・計算機 筆記用具
↓ 15:25	みんなで発表しあう	キャプテンが用意する物 旅行ガイド・鉄道図鑑
↓ 15:30	かたづけ	

地図で旅行をしよう
～松本駅からの旅立ち’96秋～

登坂　武人（社会専攻　2年）
小宮山　博（社会専攻　2年）

1．動機とねらい

今回私たちが本講座を開いてみようと思った動機は、前回のＹＯＵ遊サタデーで社会科的ねらいを持った講座が見受けられなかったことにある。社会専攻の私たちにとって少々寂しく感じられ、それなら私たちがひとつ社会科らしい講座を開いてみようと思い立ち、本講座を開くに至った。しかし、社会科らしい講座とはいっても、学校での授業と同じようなものでは私たちにとってつまらないし、子どもたちにとってもつまらないだろう。そこで、ゲーム感覚で取り組め最終的には日本の地理が学べていることをねらいとし、地図帳・時刻表・旅行ガイドを使い旅行プランを練るという本講座の内容を考えた。

2．子どもの動きと私たちの対応

当初は10人くらい子どもが集まる予定だったが、当日の参加者は２人だった。そのため、子ども２人にスタッフが10人くらいというアンバランスが生じてしまった。それによって、キャプテンが１人の子どもにつきっきりという形にならなかったので全体の動きをよく見ることができた。そこで私たちの気づいた全体的な子どもとスタッフの動きを書いていこうと思う。

まず、子どもが２人ということもあり、形態的には２つのグループに分かれて作業をするということになり、それにスタッフが半分ずつつくということになった。そのことにより子どもたちも集中して自分のプランを練ることができたように思えた。スタッフは子どもたちがプランを作る際、あまり口をはさまず、自分の経験談を話すなどといった形で極力補助に徹し、子どもたちもその話に耳を傾けプランの参考としていたようであった。このことは当初の、スタッフは極力サポートに徹し、突拍子もない計画をしそうになったら、それを指摘する程度にとどめ、あまり子どものプランを決定づけるような発言はしないという考えどおりの動き・対応であったように見えた。ただ、各自自分のプラン作りに没頭してしまったあまり、お互いに相談し合ったり、一緒に○○へ行こうといった相互交流のような動きは見受けられなかった。

3．１年次生スタッフについて

今回から大学の授業の一環である「教育参加」というかたちで、ＹＯＵ遊サタデーに１年次生が参加するということになったわけだが、そのことについて私たちが感じたことを書いておこうと思う。

本講座はスタッフの９割が１年次生だったため、１年次生スタッフの動きによって講座の出来具合が左右されるほど重要な位置づけであった。それだけに、初めてＹＯＵ遊サタデーに参加する１年次生に対しての私たちの懸念は大きなものだった。しかし、講座名を見て集まっただけあって、旅行好き・旅行経験の豊富な学生が多く、当日もその経験談を話してくれたりして、子どもへのよきアドバイスになり、当初の懸念を忘れてしまうほどの働きであった。だが一部のスタッフには、授業の一環ということもあり、単位取得のた

めだけに参加したような者も見られた。このことは今後もこの形態で続ける場合危惧されることとなるであろう。

4．反省

1で示したねらいに関して、達成されたかどうかは私たちは知ることができないが、短時間とはいえ子どもが真剣に地図を見ていたことからも、達成されなかったとは言えないだろう。本講座に参加したことで以前よりも地図を身近に感じてくれたら幸いである。ただ初めてであったため、反省すべき点もある。羅列的ではあるが挙げてみたいと思う。

・子供同士の交流がもてなかった。

・時間配分がうまくいかず、当初の予定と食い違ったかたちでの成果発表となってしまった。

・内容的にデスクワーク中心となってしまったが、今後は何らかのかたちで実践的活動も取り入れていきたい。

以上のことが、私たちの気づいた点である。

第１０回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	おどってあそぼ！ １・２・ダンス	平成　8年10月12日（土） （午後）
キャプテン	尾島　久美（障害児教育専攻２年） 中村　愛（障害児教育専攻２年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ　１６名 参加者数　４名
指導教官	小島　哲也　教官	使用教室　第１体育館

☆何をするのか（具体的に）

ミッキーマウスの耳を画用紙で作り、それをつけてみんなで踊る
「ミッキーマウス体操」「タタロチカ」「マイムマイム」
「お山のジャズダンス」「ジェンカ」

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

・体を動かして元気に遊ぶことの楽しさ
・大勢で輪になって踊ることの楽しさ

講座の時間配分

時間	過程	子どもたちの活動	キャプテン・スタッフの関わり	用意する物
５分	導入	体育館シューズにはきかえ円になって座る。 自己紹介をする。	子どもたちと一緒に円になって座る。 講座全体の流れを説明する。	体育館シューズ
４０分	展開	ミッキーマウスや動物の耳を画用紙で作る。	・はさみで怪我をしないように気をつける。 ・できるだけ子どもにやらせる。 ・おしっこを我慢している子がいないか気をつける。	画用紙・はさみ ホチキス・輪ゴム セロテープ 色えんぴつ クレヨン
４０分		作った耳を頭につけて踊る。 「ミッキーマウス体操」 「お山のジャズダンス」 「マイムマイム」 「タタロチカ」	・子どもたちが楽しく踊れるように笑顔で踊る。	
１０分		座って麦茶を飲む。 キャラメルを食べる。	子どもたちを休ませる。 おしっこを我慢している子がいないか気をつける。	麦茶 キャラメル
２０分		ゲームをする。 「花いちもんめ」 「あぶくたった」	一緒に楽しく遊ぶ。	
５分	まとめ	終了証・メダルをもらうらう。	修了証、メダルを渡す。	修了証 メダル

おどってあそぼ！　１・２・ダンス

中村　愛（障害児教育専攻　２年）
尾島　久美（障害児教育専攻　２年）

１．講座を開くにあたって

私たちは踊ることが好きである。このことが講座を開いた第一の理由であった。踊ることによって楽しい気分になり、なんだか元気がわいてくるような気がするからである。またいっぱい踊って汗をかくことは気持ちいい。

私たちはこの夏ある体験をした。この体験というのは、観光会社主催で行われた小学生の佐渡旅行に、引率者というかたちで参加したことだった。この旅行の途中私たちはダンスをたくさん取り入れようと思っていた。きっとみんな楽しんでやってくれるだろうと思っていたからである。しかし、実際にやってみると一番楽しんでいるのが私たちで、子どもたちの多くはもっと違うことをやりたいというような様子だった。

今の小学生たちは普段、体をおもいっきり動かして遊ぶという機会が減ってきているのかもしれない。また何か物がなければ遊べないようになっているのかもしれない。ダンスは特別な道具がなくてもいつでもやって楽しめるものだと思う。このダンスを通じて体を動かして遊ぶことの楽しさを味わってほしい。またこの講座で覚えたダンスを子どもたちが自分たちの学校の友達と一緒に踊ることができたらいいなと思い、この講座を開くことにした。

２．ミッキーマウス体操について

ダンス講座を開くことになって、まず最初にやろうと思ったのが「ミッキーマウス体操」だった。この体操は知らなくてもお手本を見ながらすぐ覚えられるし、そしてまず第一に簡単なのにとてもかわいいのだ。私たちの中でも一番お気に入りのダンスだ。例えば「この格好の時はこうするともっとかわいいよ」というふうに手、足の曲げ方、角度まで研究するようになっていた。この体操をするとまるで自分がミッキーマウスになったように思えて楽しいのだ。他のダンスも子どもたちがおにいさん、おねえさんの踊っているのを見てすぐ踊れるようなもの、みんなが幼稚園や小学校で踊っていそうなものを基準に取り入れた。今回はきちんと正しく踊るということより、とにかく体を動かして遊んでほしいと思っていた。

またダンスだけでなく、ダンスの途中に頭につけるために自分の好きな動物の耳を作ったり、ゲームをしようと思った。耳をつけて踊ると、つけない時より自分がその動物になりきれるような気がするのだ。ゲームもみんなで手をつないで輪になったりできるものがいいと思った。ダンスやゲームをすることを通じて子どもも私たち大学生もきっと楽しい気分になれるにちがいないと信じていた。

３．子どもたちの様子

スタッフ１８人に対し子ども４人と少し寂しかったが、子どもたちはとても元気にダンスやゲームをやってくれた。まず最初に「ミッキーマウス体操」と「お山のジャズダンス」を踊り「ダンスに出てきた動物のお耳を作ろう」ということで、それぞれ思い思いの耳を

作った子どもたちは、画用紙に絵を描いたり、それを切って貼ったりすることを、私が予想していた以上に楽しそうにやっていた。出来上がった耳をつけると、その動物になったような気持ちになれたようで、子どもたちは最初よりも元気に体を動かしていた。

参加してくれた子どもたちは4人とも幼稚園児だったので、途中でおやつタイムをとったりゲームをするなどして2時間疲れず飽きずに楽しめるよう工夫した。おやつタイムはスタッフと子どもが座ってゆっくり話をする時間にもなり、子どもたちは幼稚園の話などをたくさんしてくれた。

今回は子どもが少なかったため、子ども同士のふれあいは少なくて残念だったが、大勢で体を動かして遊ぶという点では、とても楽しくできたので良かったと思う。

4．講座を開いてみて思うこと

今回少し残念だったことは、なんといっても参加者が少なかったことだった。それに比べスタッフの人数が多かったので寂しい気がした。でもその気持ちもダンスが始まるとどこかに行ってしまった。子どもたちも楽しんでくれていたようだし、スタッフ全員もまるで幼い頃にかえったようで楽しんでいたようだった。耳を1つ作るにおいても一人一人の個性が表れていておもしろい。耳をつけて踊るとそこはまるで動物園のようだった。またみんなでやったゲームをみても、例えば同じ「あぶくたった」にしても私たちのやっていたものと、今の幼稚園児のしているものとでは少しずつ違うところがあり、時代が変わっているのを感じたのだったみんなで飛び跳ね、走り、汗をかいた時間はあっという間に過ぎてしまった。子どもたちがおいしそうにお茶を飲む姿を見て、私たち全員は満足の気持ちでいっぱいになった。みんな笑顔になっていた。最後に成果発表のとき子どもたちと前で踊れたことは大変うれしいことだった。今度は長野でも是非ダンスの講座を開いてみたいと思う。

第１０回信大ＹＯＵ遊サタデー遊学プラン

講座名	ペットボトルロケット	平成　8年10月12日（土）
キャプテン	松下　貴晴　（数学専攻　1年） 今井　健文　（理科専攻　4年）	ｱｼｽﾀﾝﾄｽﾀｯﾌ数　１０名 参加者数　９名
指導教官	河内　晋平　教官	使用教室　５２番教室

☆何をするのか（具体的に）

①ペットボトルを２本逆さまに付け、マジックやビニールテープ で色や絵を付ける。
②校庭に出て自分のロケットに空気を送り込み遠くへ飛ばす。（ロケットは飛ぶときに危険を伴う可能性があるので基本的にはスタッフが支える。）

☆どんなことを伝えたいか（キャプテンのねがい）

①ロケットのデザインを考えることにより、創造力をのばして欲しい。
②どうしたらロケットがより高く遠くへ飛ぶかを工夫して欲しい。
③なぜロケットが飛ぶのかということに疑問を持ち、探求心を大切にして欲しい。

講座の時間配分

時間	学習活動	子どもたちの動き	支援・援助
5	1、自己紹介をする。 （キャプテン・スタッフ）	・注意点などしっかりと聞く。	・こども達に親しんでもらえるようにこころがける。
10	2、作り方の説明をする。		・模造紙（説明を書いたもの）を見せ、作り方と特に気をつけることなどを言う。
45	3、ペットボトルを作る。 ①ロケット作り ②絵や色をつける	◎黒板の前の模造紙を見たり、スタッフのアドバイスを聞いたりして作る。 ・「よーし、手を切らないように気をつけよう。」 ・「ペットボトルって硬さが違うからカッターを使うとき気をつけなきゃね。」 ・「マジックで色を塗るとすごくきいだね。」	・こどもの動き（カッターの使い方など）に注意しながら、こどもの質問にはやさしく答え、こども達の個性を尊重するようこころがける。
50	4、ペットボトルを外に出て飛ばす。	◎こども達は自転車のポンプで空気を入れる。 ・「人にむけて飛ばさないようにしよう！」 ・「水に濡れるからカッパを着た方がいいね。」 ・「水の量を変えると飛び方が変わるかな。」	・人のいないところに向けてはじめは安全のためにスタッフが飛ばすが、飛ばしたいというこどもにはスタッフが側について飛ばすようにする。
10	5、修了証を渡す。		・修了証とゴム栓をあげる。

ペットボトルロケット

松下　貴晴（数学専攻　1年）
（文責）今井　健文（理科専攻　4年）

1．講座を開くにあたって

私（今井）が松下君と初めて会ったのは、3年生が実習を行っている時期だったと記憶している。会ったときは「スライム講座」をやることになる田淵君と2人同時に説明を行った。その時には相互参加の授業の一貫として、１００名以上の1年生のうち１０数名がキャプテンに名乗りを上げており、夏休み中ということもあって、4名の人とコンタクトをとることができた。最終的には3人の1年生が講座を開くこととなったが彼はその内の一人であった。

松下君は私の説明を聴いた後、今まで先輩がやってきたものではなく、自分が経験したことのある「ペットボトルロケット」をつくり飛ばす講座を開きたいと語った。その積極性に少し戸惑いながら、私は「安全にできるように工夫さえすれば大丈夫かな」とその時は思っていた。しかし松本から長野に戻ってくると「危険だからやめた方がよいのでは」との意見が多数を占め、「開くことは難しいのでは」との流れになっていく。確かにけがをしたら、今まで9回行ってきたＹＯＵ遊サタデーも終わりになるとも限らないのだから、神経質になるのも当たり前である。しかし、私も含めて「ペットボトルロケット」を作ったことのある人はおらず、また松下君の「大丈夫、安全ですよ。」の一言で、私も彼の講座に参加させてもらい、危険なら注意するということで講座を開くということになった。

彼は忙しい授業の合間を見て、ペットボトルロケットの試作品をたくさんつくり、ゴム栓の仕入れや発射台のことなども本当に真剣に考えてくれた。数学専攻の仲間もいっしょによく頑張ってくれたので、2回目にいったときには、松下君の作った試作品を飛ばすところまでこぎつけていた。空を飛ぶペットボトルロケットを見て、私も子どもに戻ったときのように歓声を上げたり、はしゃいだりしてしまい、同時にこれならきっと子どもたちにも喜んでもらえるだろうと感じていた。思っていたような危険もないと思ったが、万が一のことも考えて飛ばすときはスタッフが、固定して方向を定めるようにした。こうして講座を迎えることとなったのだが…。

松下君ならこのあたりで書きたいことがまだあるのだろうがこれ以上はわからないのでやめておくこととする。

2．教材研究（ペットボトルロケットについて）

ペットボトルロケットの作り方については私にはどのような苦労があったのかわかりません。そこで私が関わった範囲で進めたいと思います。

まず、ペットボトルロケットを作るにあたって大切なことが1つありました。それは私たち教育学部生は、教育現場で少しでも役に立つヒントをつかむことが目的の一つとなっているということです。したがって、市販されているようなペットボトルロケットをただ組み立てる講座というのはコストもものすごくかかりますし、（ちなみにペットボトルロケットは、日本ペットボトルクラフト協会で発射装置キットを売っている。噴射口：1200円、発射台：3400円）飛びすぎるのでそのぶん安全性に問題が出てくると考えました。
（キットを買ってやると自転車のポンプで40回ほど空気を入れた場合100mぐらい飛びます。）

手作りでこのようなキットを作ることもできますが、今回はゴム栓を使って1番シンプルなものを作ることにしました。（ポンプで10～15回ぐらい、10～20m飛びます。）

松下君がペットボトルロケットの講座を行うにあたって、ふたつのことを連絡してきました。ひとつは、ペットボトルを飛ばすときに口にふたをするゴム栓のこと。もうひとつは、発射台のことでした。

ペットボトルの口の大きさは、2種類あります。ひとつは透明な口、もうひとつは白い口のものです。そこで6号と7号の2種類のゴム栓を準備しました。購入に際しては化学科の漆戸先生にご協力いただき、またゴム栓の真ん中に穴をあける道具も化学科から当日お借りすることが出来ました。

発射台については、ペットボトルが飛ぶのを支えるだけのしっかりとしたものを作らねばなりません。松下君が固定の仕方、安定性を考えてくれましたが手作りでは非常に難しかったようです。工夫を重ねましたが完成の域には達せず、手で支えることになりました。きっとこれからの課題となるでしょう。

以上で教材研究を終えます。

3．講座の様子（子供の動きとスタッフの働きかけ）

講座の中身は2段階に分けられます。

まずペットボトルを使ってロケットをつくる時の様子は、対象学年が高かったこともあり、安全に早く作ることができました。デザインはビニールテープを巻いてみたり、マジックで色を塗ったりしましたが、特にマジックはとてもきれいでみんなで貸し借りしながらスムーズに進んだと思います。できた子どもからグランドに行って飛ばしましたが、羽を付けた子どもは、少し時間がかかり時間差ができてしまいました。しかし、スタッフが多かったので個別に対応できたのが良かったと思います。

ペットボトルを飛ばす段階では、それぞれの子がかっぱを着て、自転車のポンプで空気を送り込み飛ばしました。最初はスタッフが水の量を調整しましたが、子どもたちはどうするとより遠くまで飛ぶのかということに興味を持ったらしく、自分たちで水の量を調節する子もいました。水を細い口に入れるのには苦労しましたが、みんなで順番を待ちながら遠くへ飛んでいく人のを見て歓声を上げたり、水がかかって悲鳴を上げたりと大騒ぎでした。

片づけもスムーズにできてとても良かったと思います。やはりみんなで片づけまでやることで自分がやったことを振り返れるというのは大切だと感じました。

4．講座を通しての反省と今後の課題

松下くんが終了後送ってくれた報告レポートを全文載せておきます。

私がこのＹＯＵ遊サタデーにおいて、一番焦点を当てて取り組もうとしたことは、まず子どもたちの安全に気を配ると言うことです。これはＹＯＵ遊サタデー全体を通して言えることですが、私たちが開いた「ペットボトルロケット」は、特にカッターを使うことが多く、また飛ばすときも圧力が予想外にかかって膨れ上がる危険があります。スタッフも皆、安全面には特に力を入れて行いました。

それから、とりあえず私自身もスタッフも共に子どもたちと楽しく遊ぼうと考えました。そして、子どもたちにこんなものでも楽しいものになるんだということも伝えたいと思いました。この講座を行う前はいくら楽しむためとは言っても、みんなでいろいろ計画を立てたり、ロケットの試作を繰り返しつくったりしました。とても勉強になったと思います。

反省するところは、まず時間がなくてロケットの発射台をつくれなかったことです。イメージはあったのですが、上手く作れなくて非常に残念でした。

また当日私が感じたことは子供との話し方でした。いつも自分たちが話しているように話しても、子どもたちはきょとんとした顔で見ていました。これからは子どもたちとのコミュニケーションの取り方も考えていきたいと思いました。

最後に１番失敗したと思ったのは最後の発表会の時に子供の名前をしっかりと覚えていなかったことです。

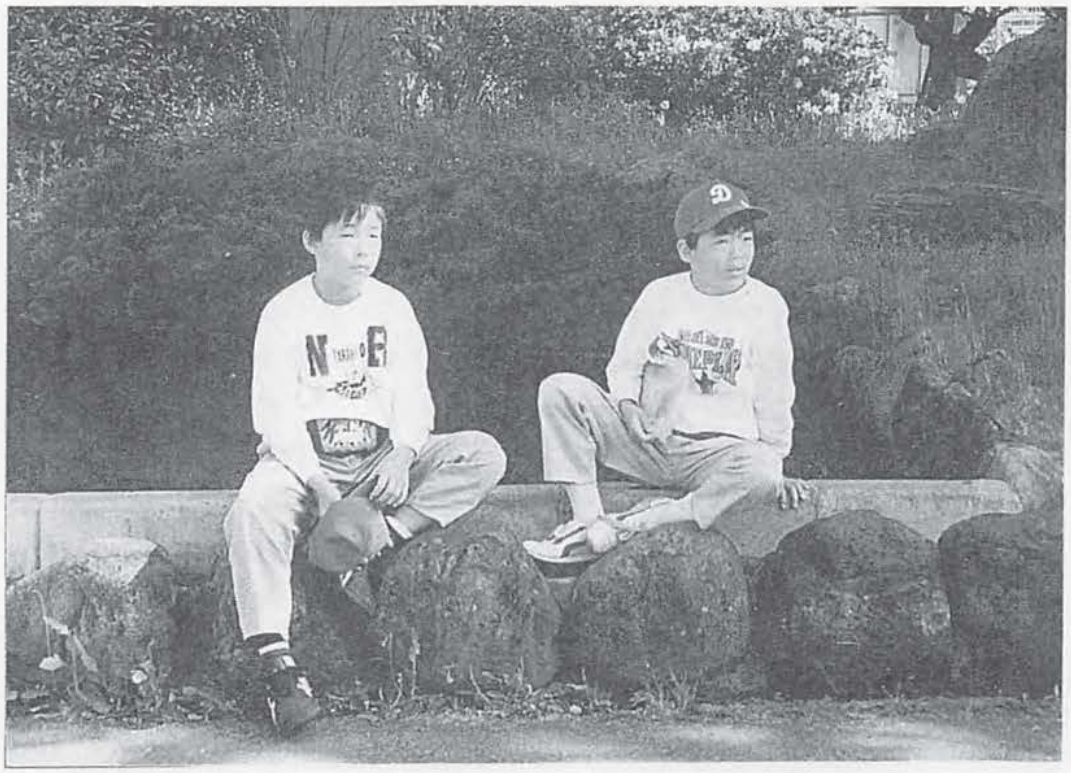
しかしロケットを飛ばしているときに子どもたちがうれしそうにしていたので勉強になりました。楽しくできてよかったです。

今回の講座は安全性の観点から受講制限を小学校４年生以上としたが、作る過程を見るとカッターなどの扱いも非常によかったのでもう少し対象学年を下げ、より多くの人に参加してもらえるようにしても良いような気がしました。

また、松下君の反省の中で述べられていますが、子どもたちがひとりで安全に飛ばせるようにするためには手で支えるのではなく、ロケットと発射台が一体化したものが望ましいでしょう。これから先の課題としておきます。

最後に、松本に出かけていったにしては１年生も含めて良い経験になったと感じます。これからもアイデアと経験を大切に、ペットボトルロケットの歓声が広がっていきますように…。

3．ＹＯＵ遊サタデーに関する意識調査
－アンケート調査から－



編集：臣川元寛（障害児教育専攻４年）

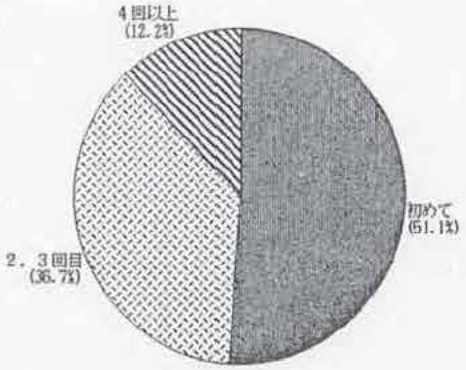
質問紙配布日：第８回ＹＯＵ遊サタデー当日

有効回答率　　学生スタッフ　５８．９％
　　参加者の家族　４０．４％

本質問紙は五件法による質問１０問と自由筆記による回答欄に構成されています。

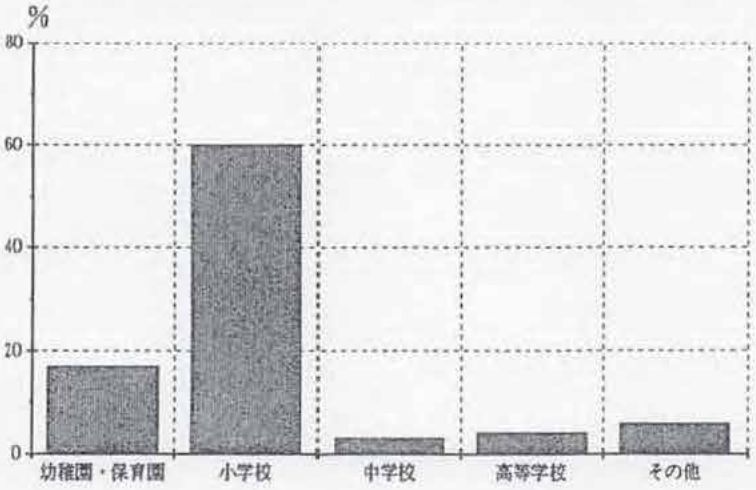
<第８回>

◆あなたのお子さんは今回で何回目の参加になりますか。



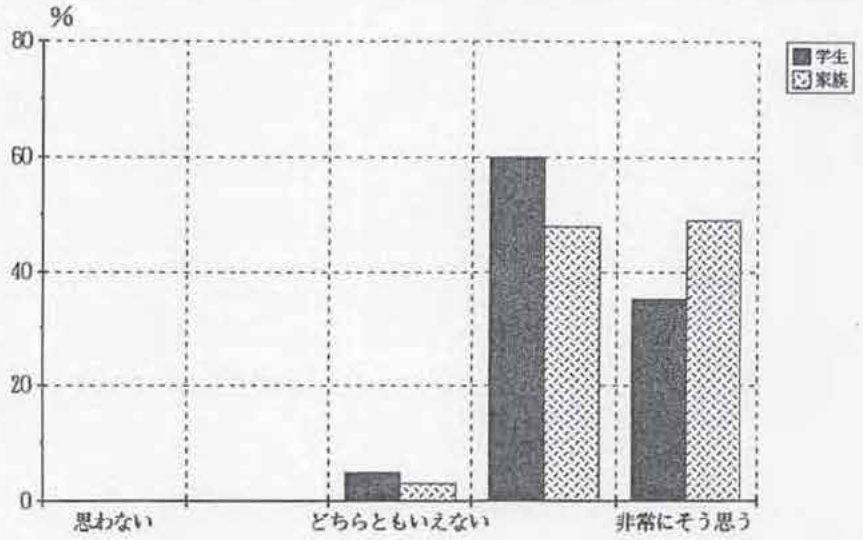
☆なんと半数はベテランなんですね。
「回数を追ってステップアップする講座があったらいい」という保護者からの指摘もうなずけます。

◆ あなたのお子さんの学校を教えて下さい。



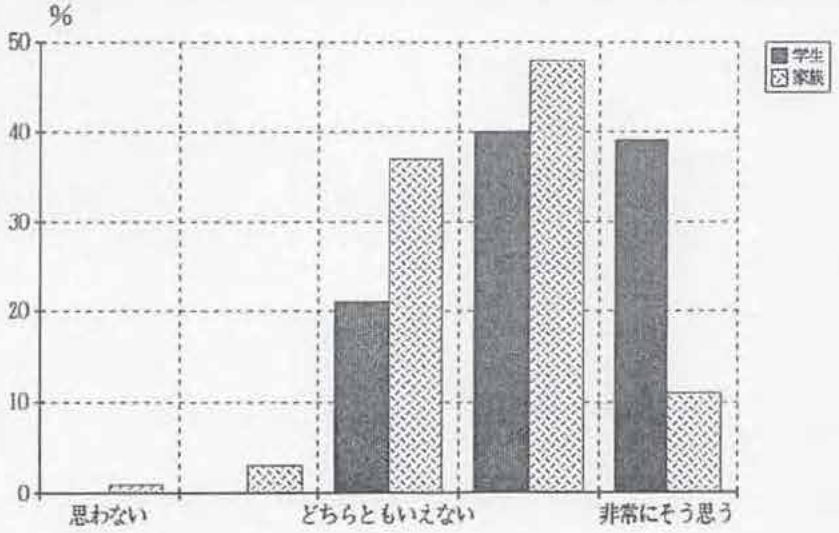
☆こうしてみるとずいぶん偏りのあることがわかります。
特に中学生の参加が少ないんですね。
「教育学部ってどんなところ」に沢山の高校生が参加してくれましたが、
アンケートを出してくれた人が少なかったので、
このような結果になりました。

◆参加した講座は、子どもにとって有意義なものであったと思う。



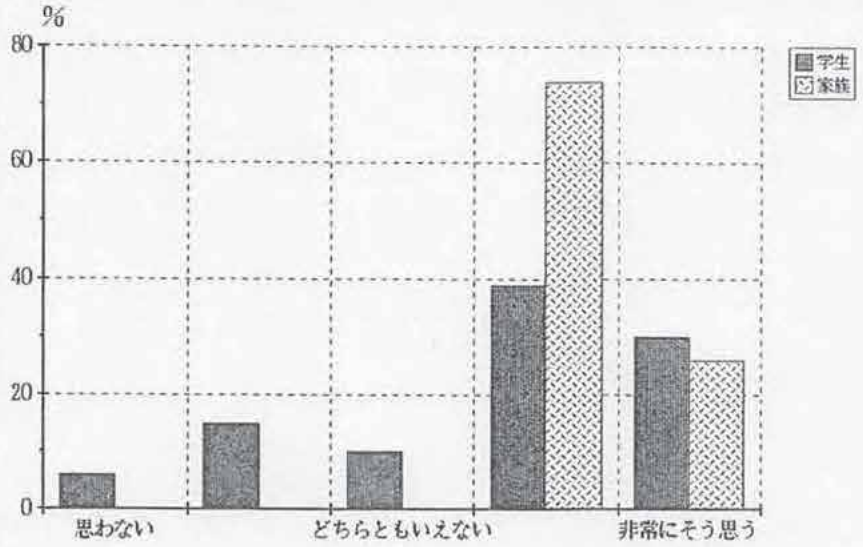
◎前の設問と比べてみると非常によく似ていることがわかります。
「楽しいことは有意義なことだ」と言えそうです。

◆今回関わりを持った子どもや学生と、今後も関わりを持ちたいと思う。



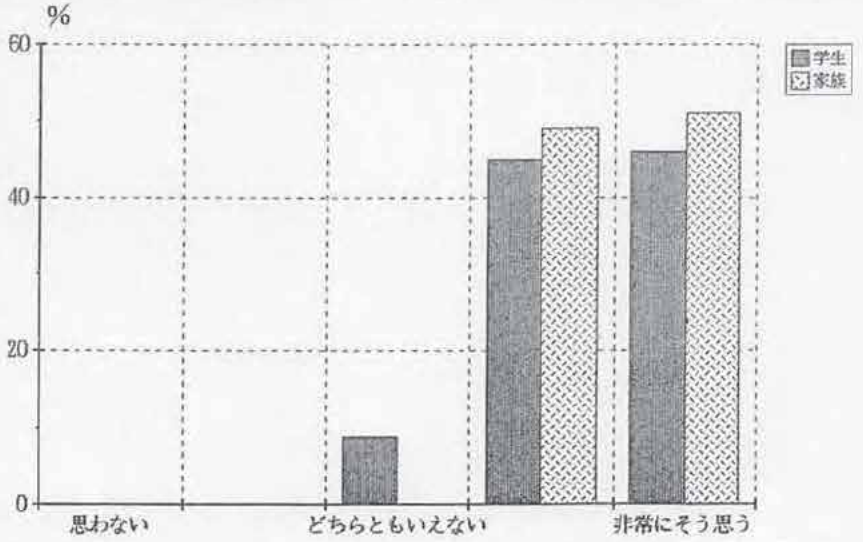
△保護者の方が事後の関わりを望んでいないことがわかります。現在のＹＯＵ遊サタデーは一回性の活動だと捉えられているのでしょうか。

◆参加した講座は、しっかり準備がされていたと思う。



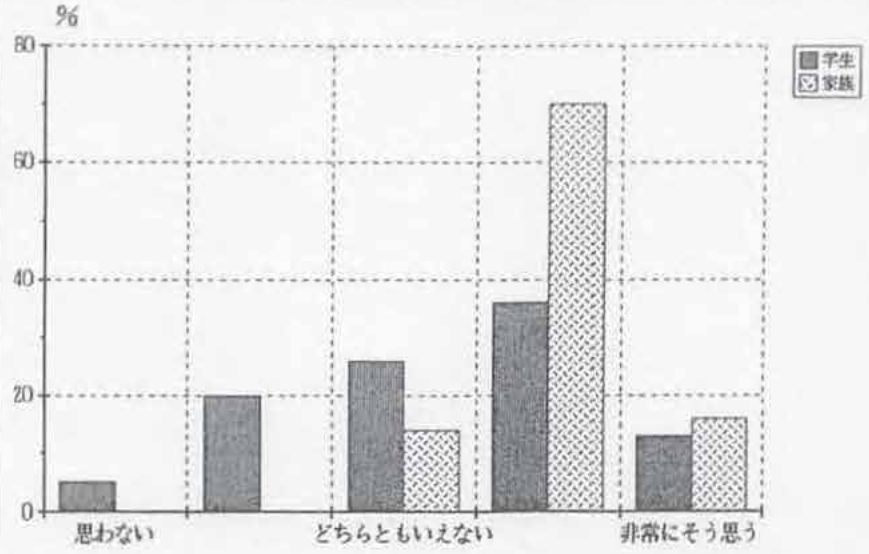
○保護者の方たちが「しっかり準備している」と感じているのに対して、「まだまだ準備不足」と感じている学生が多いようです。

◆今回の講座は、子どもにとって楽しいものであったと思う。



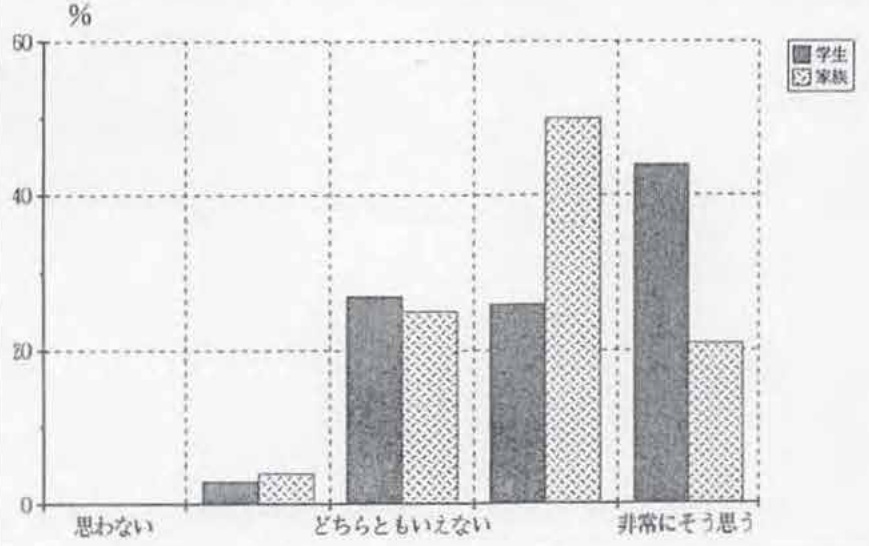
◎学生、保護者とも同じような結果がでました。
「子どもたちは楽しかったんだ」と感じてもらえたようです。

◆広い年齢層の人に参加してもらえるような配慮がされていたと思う。



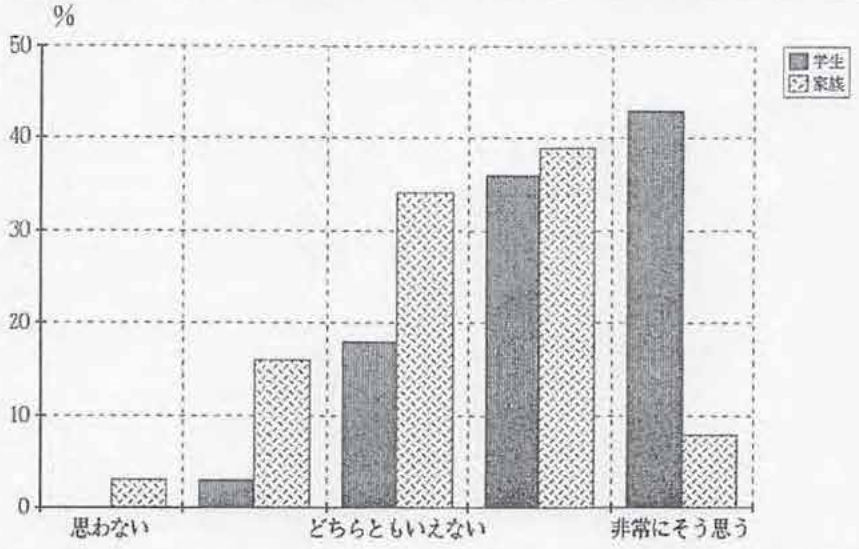
△中学、高校生の参加者が少ないことに気付いている学生が多いようです。様々な人が参加できることが、ＹＯＵ遊サタデーの特長ですから、中学生や高校生、社会人に対しても魅力的な講座が開けたらいいと思います。

◆教育学部生は積極的にＹＯＵ遊サタデーに参加するべきだと思う。



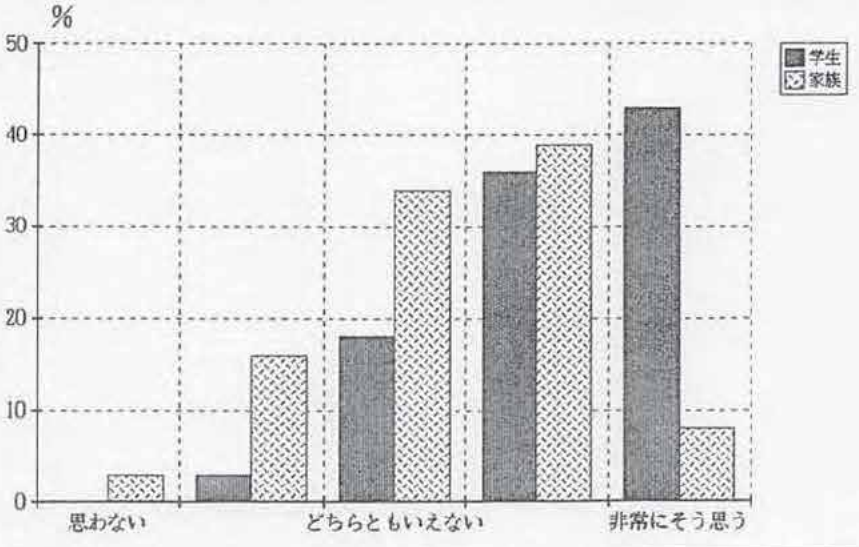
◎教師をめざす教育学部生と、教師の卵に実力をつけてもらいたいと願う保護者の意識が図のように非常に似た結果をもたらしたといえそうです。

♦子どもだけでなく親も一緒に参加できる講座を開くことが望ましいと思う。



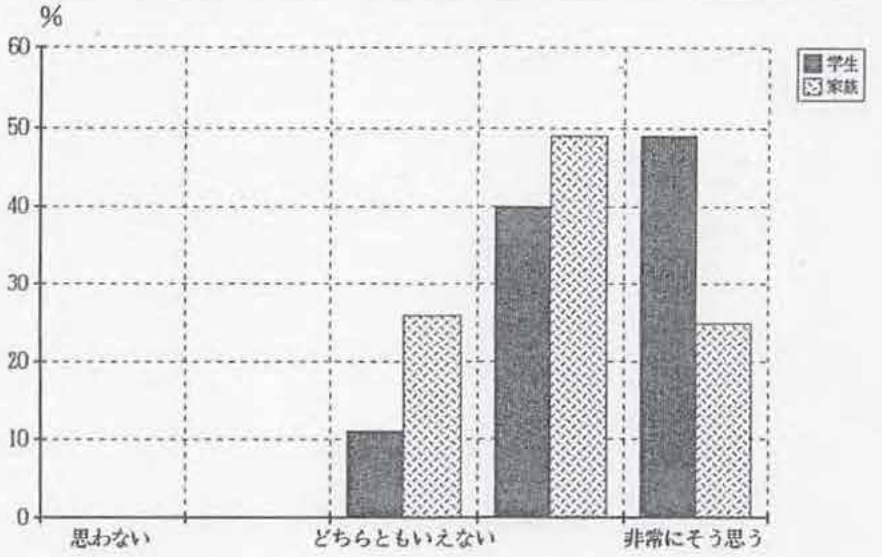
△「親も一緒に」多くの学生が考えているのに対して「ＹＯＵ遊サタデーは子どものための活動」と捉えている保護者が多いようです。

◆現在のＹＯＵ遊サタデーは親からの意見が十分に生かされていると思う。



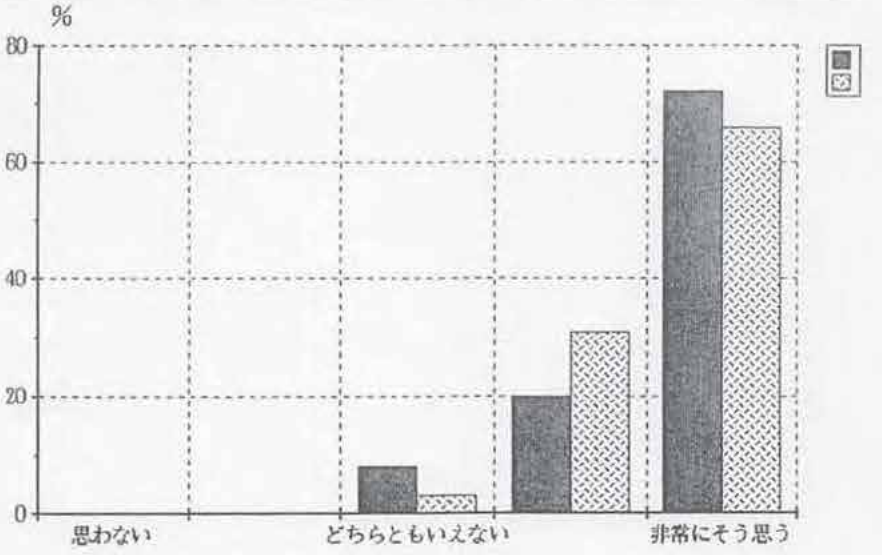
△親からの意見が十分生かされていると感じている学生は少ないようです。子どもが中心の活動である以上、その保護者の方の意見を尊重することも肝要であると思います。

◆障害をもつ子も参加できるように、工夫することが必要だと思う。



◎学生、保護者ともに障害児の参加に好意的なようです。
しかし、不安を感じている人も少なからずいるみたいです。

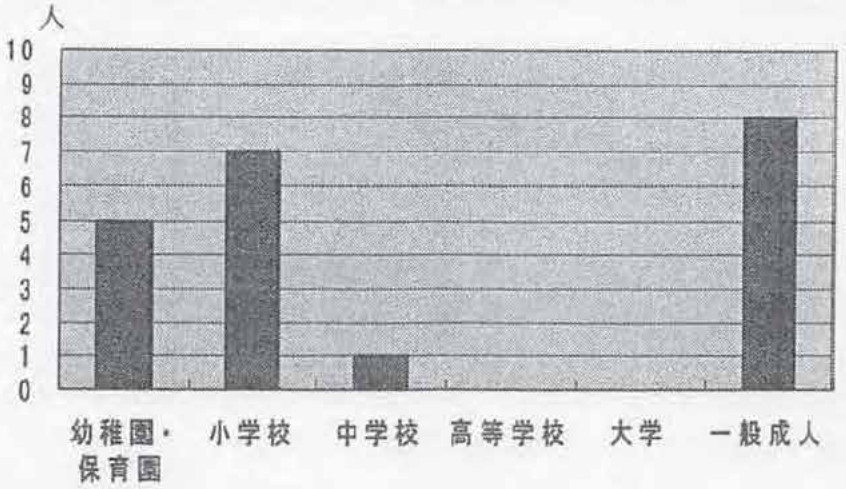
◆これからもＹＯＵ遊サタデーに参加したいと思う。



◎ほとんどの人が「ぜひ参加したい」と答えてくれました。
これがＹＯＵ遊サタデーを支えているエネルギーなんですね。

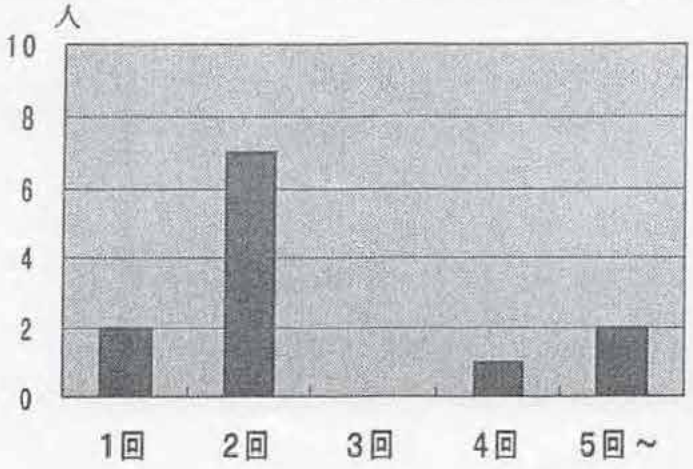
<第9回>

◆あなたの年齢層を教えて下さい。



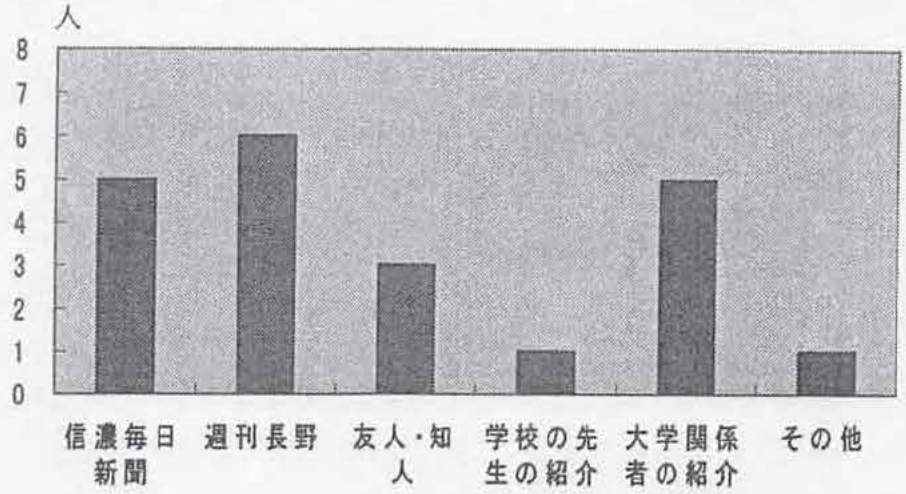
偏りがありますね。でも，一般成人の方の参加も増え，年齢層が広がりました。

◆あなたは今回で何回目の参加になりますか。



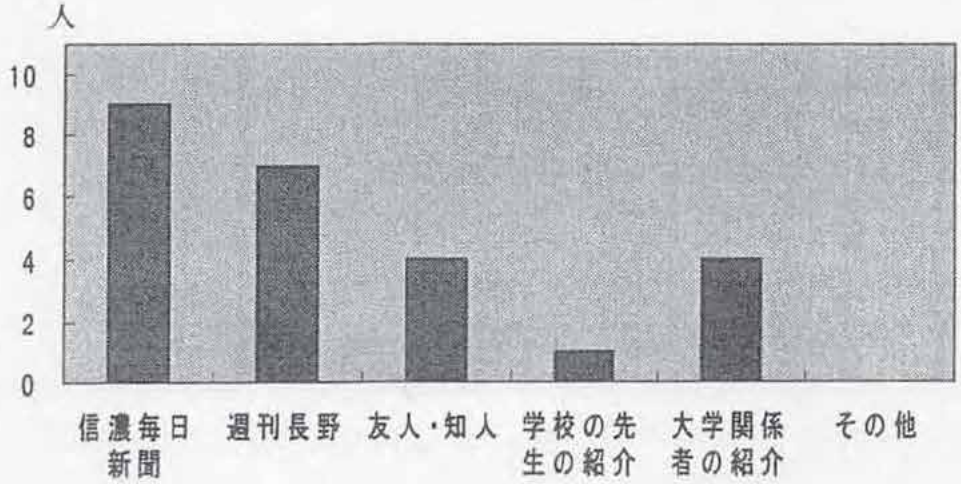
初めてという人は少ないようですね。何回も参加してくれる人はもちろんのこと，新しい仲間を増やしたいですね。

◆どこで今回のＹＯＵ遊サタデーを知りましたか。



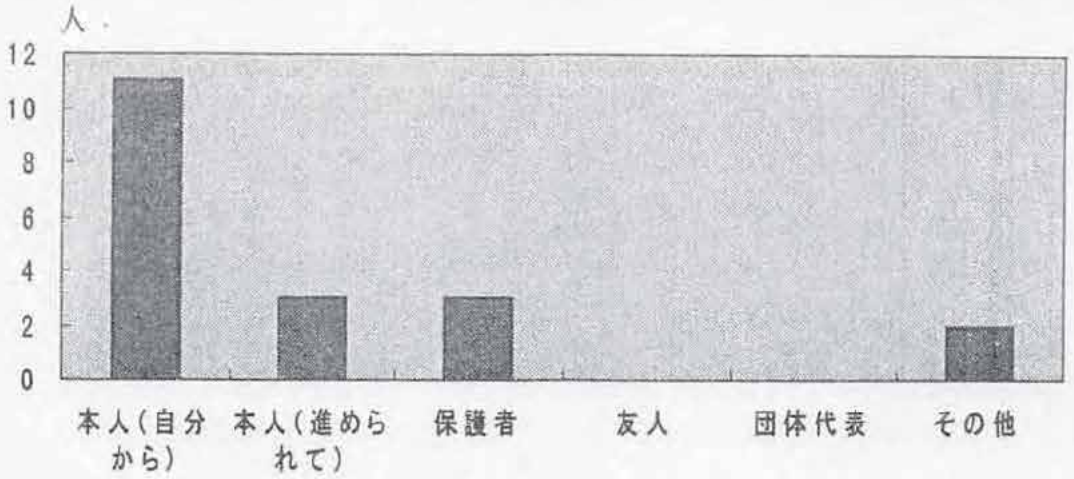
みなさん，あちこちで情報を得てくれているようですが，もっともっと様々な形でアピールしていきたいですね。

◆普段はどこでＹＯＵ遊サタデーを知りますか。



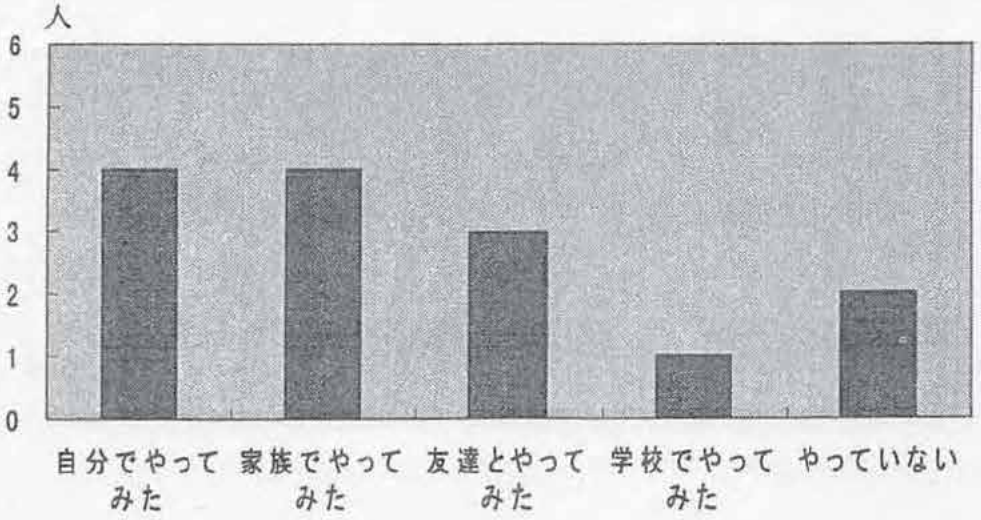
新聞が多いようですが，他でもこのＹＯＵ遊サタデーを知ることができるようにしたいですね。

◆今回参加した講座を選んだのは誰ですか。



本人がやりたいものを選ぶようです。より魅力的な講座を増やしたいですね。

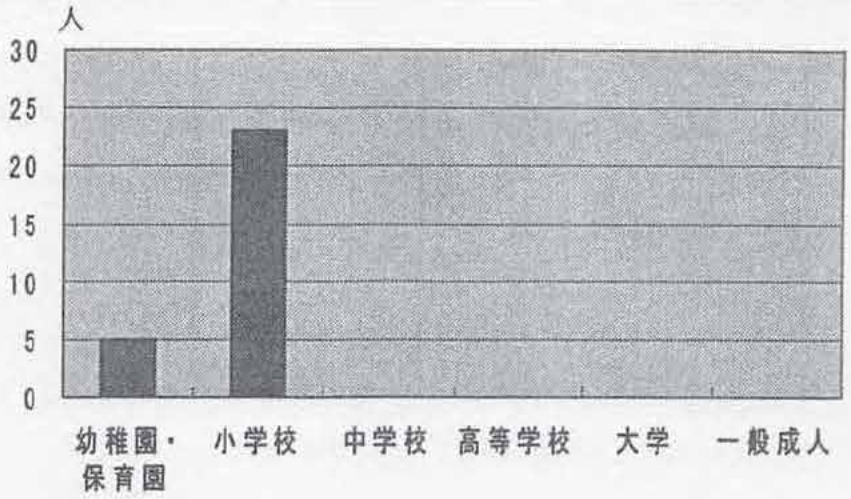
◆ＹＯＵ遊サタデーで学んだことをもう一度やっていらっしゃいますか。



自分で，家族で，友人で，学校で，もう一度やってくれているようです。うれしい限りです。

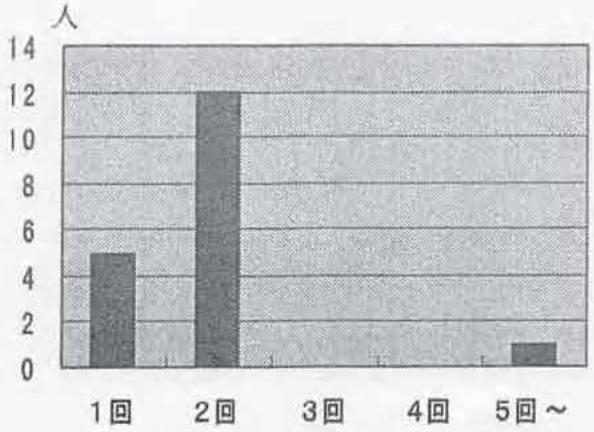
<第１０回>

◆あなたの年齢層を教えて下さい。



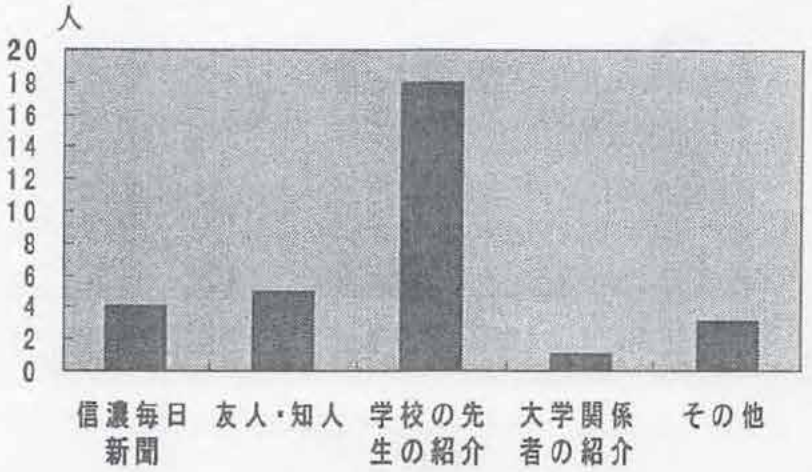
圧倒的に小学生が多いですね。他の年齢層の方も参加できる講座を考えたいですね。

◆あなたは今回で何回目の参加になりますか。



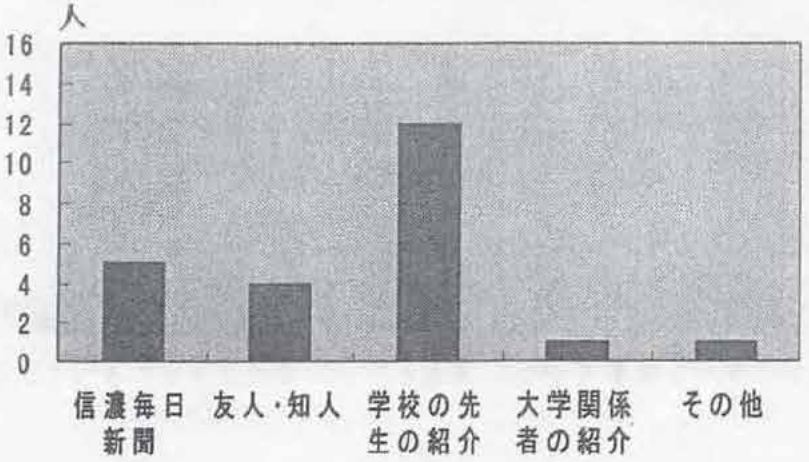
中にはこれで９回目という人もいます。うれしいことです。

◆どこで今回のＹＯＵ遊サタデーを知りましたか。



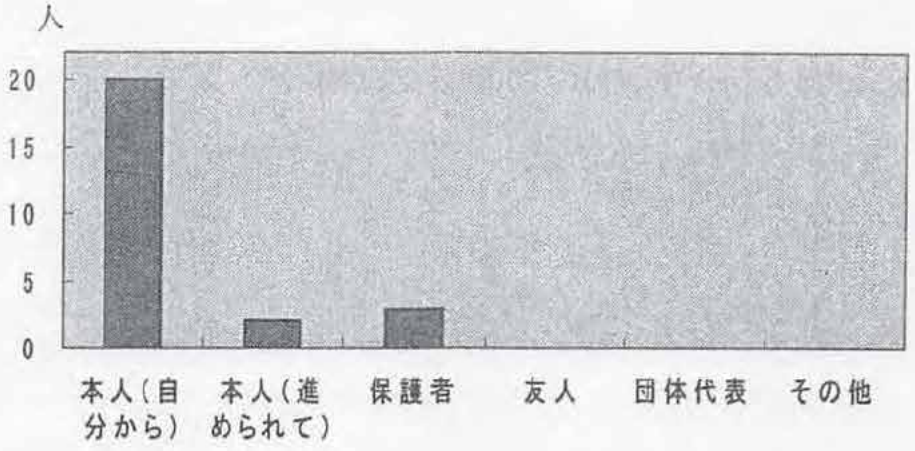
学校のクラス単位で参加してくれる人も増えてきました。

◆普段はどこでＹＯＵ遊サタデーを知りますか。



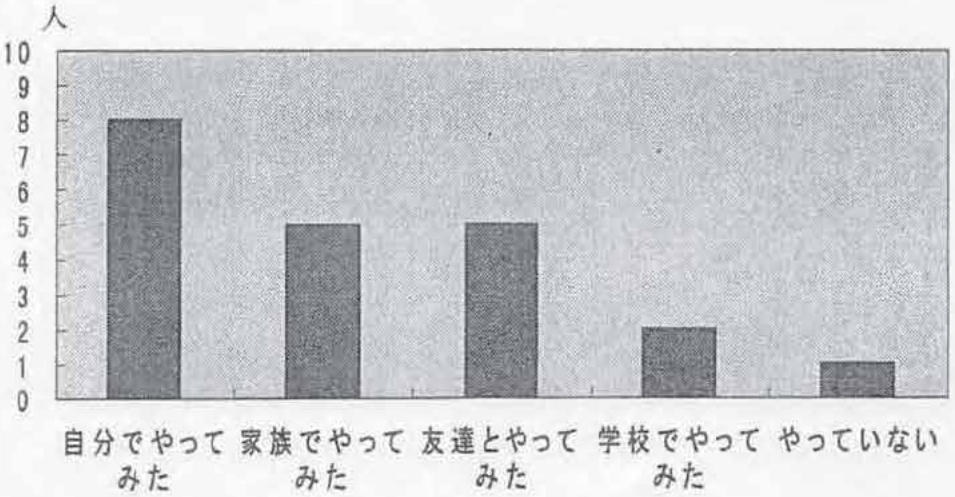
「学校まわり」の 効果がでているようです。より多くの学校をまわりたいですね。

◆今回参加した講座を選んだのは誰ですか。



やはり本人の選択によっています。興味を持ったことを行ってみる，いいことですね。

◆ＹＯＵ遊サタデーで学んだことをもう一度やっていらっしゃいますか。



もう一度やってくれている人の数もだいぶ増えました。その場限りでなく，後に続くものを行っていきたいです。

4．感想文

（１）参加者

第８回ＹＯＵ遊サタデー実践後に寄せられた意見を「次回もがんばろうコメント」「ちょっと聞いてコメント」「心して聞くべしコメント」の３つに分類してみました。

◇次回もがんばろうコメント

・ＹＯＵ遊サタデーがこんなにおもしろく、わくわくするものとは思わなかった。役員の方達は、本当にご苦労さまでした。
・何か１つの企画をやるということは、たいへんなこともあるけれど、いろいろな面で得るものも大きいと感じました。
・今回初めての参加だったが、とてもたのしかった。子どもと一緒にいることにとても幸せを感じた。
・「またくるね」といってくれる子どもがいて、うれしかったし、自分もとても勉強になりました。
・もっといろいろな講座に参加したいと思いました。次回は準備の段階から積極的に取り組みたいです。
・子どもの笑顔があるから、それまでの苦労や寝不足も忘れ、夢中になれるんだなって実感しました。本当お疲れ様でした。怪我や事故なく終えることができ、本当よかったと思います。

◇ちょっと聞いてコメント

・本部スタッフの人達の負担をもっと軽くしたほうがいいと思う。
・本部スタッフへ
頑張りすぎないで、もう少し楽にいきましょう。
・とても楽しかった。子どもが小さすぎて調理台が高かったのでかわいそうでした。
・今回の活動を通して何を学んだのか、きちんと考えてみたいです。今日、何度となく頭や心にピカッと光る何かを感じました。それをきちんと１つ１つとらえていきたいと思います。
・講座準備が思うように進まず、自分に対してイラついた。もっと早くから準備をするべきだったと反省している。
・講座後も子どもたちと関わりを持てたらいいと思う。（ＹＯＵ遊サタデー以外の形で）
・小学生より下の子どもたちがお母さんといっしょに参加できるような講座があ

るといいと思います。

・スライムなどで年齢が限定されていたけれど、もっと年上の人も参加したいという人がいたので、その辺の改善ができたらいいと思う。また、1講座のスタッフ数を多くして人数限定をしないようにできたらいいと思う。

・人気のある講座は午前の部と午後の部というふうに2回位開講したらよかったのではないかと思う。

◇心して聞くべしコメント

・本部スタッフの皆さんには大変お世話になりました。本当にありがとうございました。でも、次回からは私たちにももっと仕事、言ってくださいね。本部のみなさんの抱えてるものが多すぎてたいへんそうです。苦労も分け合いましょう。

・ＹＯＵサタの特長として、フランクなところはよりフランクに、しっかりするところは、よりしっかりさせていくべきだ。

・本当に子どものことを思い、子どもたちの声を聞き、大切に育てていきたいという心があれば、もっともっと一生懸命できるはずなのに、なぜもっと一生懸命やらないのか。ぜんぜんまだまだ、開閉会式は最悪!!現状に満足することなく、これからの進歩を祈る。もっと自信をもって!!

・ＹＯＵ遊サタデーの方針にはずれた感想で申し訳ないのですが、今日一番感激したのは、最後のおそうじを加納さんがお手伝いしてくださったことです。お疲れでしょうに私たちにまでも気を使ってくださってうれしかったです。

・スタッフがＹＯＵ遊サタデーの仕事のすべてを、だいたい把握できるように、もっとスッタフが、土井先生の部屋に来れるような策（？）が必要だと思います。本部の人の仕事がスタッフでもできるようにしておくことが必要!!

・今日はたまたまＬＤの集まりがあったようで、その中でスライムが気になってしょうがない子を講座の方へ案内しました。他にもそういう子がいたようで、あとで障害児教育学科の人にスライムの作り方をたずねられました。（この子は1つつくって満足したのか、あとで本部にもってきて、わざわざ報告＆お礼を言ってくれました）（障害をもつ子も）スライムやシャボン玉なんかは、楽しくできると思います。でもわかっていないとスタッフがあせるので、その辺の配慮をどうするかが大変ですね。ＬＤ対象と決めるならＹＯＵ遊サタデーでやんなくてもいいし、まざるとそりゃまた大変ですね。

家族に対するアンケートでは、「とても子どもが喜んでいた」「次回も是非参加したい」「ありがとうございました」といったコメントを多く寄せていただきました。

しかし、この紙面上では、そのようなコメントは割愛させていただきます。というのも、今回の活動の反省を、次回にどのようにつなげていくべきかを示唆することがこの紙面の役割と考えるからです。

ですから、精選されたコメントの中には厳しい指摘も当然あります。ぜひ耳を傾けて、次回以降の活動に役立てたいと思います。

1. もう少しスタッフの数が欲しかった。校外で公園等を使ってもよかったのではと思いました。
2. 準備や後片付けを、もっと子どもたちにさせて欲しい。（子どもたちを「お客様」扱いしない）基本的な生活習慣を身につけることも、講座の重要な目的ではないでしょうか。
3. 学校で体験できないことを、兄弟感覚で教えていただけたら、ありがたいと思う。
4. 面白かった、とは言っておりましたが、実際に竹とんぼをうまく飛ばす段階に及ばず、少しがっかりしました。簡単な内容でも密度の濃い、その時の感動や思考を触れ合えたら、もっと素晴らしいものになると思います。
5. 小麦粉で、ダイナミックに遊ばせていただけたようで、とても楽しかったと言っていました。小麦粉など感覚遊びは、健常児ばかりでなく障害をもったお子さんたちにも、とても有意義な活動だと思います。小麦粉の袋、新聞紙などの片付けも子どもたちにやらせてください。
6. 子ども同士で群れて遊ぶことの少ない時代。異年齢の子どもが集うことに関係なく良いことだと思う。授業者というよりも集団のガキ大将として共に楽しんでいただければ、と思います。（でも、安全への配慮等、気を使わざるを得ない現実、大変ですね）
7. 毎年楽しみにしている親子です。今年は昨年参加できなかった講座に「行ってみたい」と楽しみにしていました。昨年から今年、今年から来年と続く講座や、スッテプアップする講座など考えてみてください。
8. 返信のはがきを送ってもらえなく、電話で問い合わせるまでわからなかったので（結局もらえなかった）、連絡はきちんとしていただきたいと思いました。
9. ここでの体験はとても印象に残るようで、これからも学生さんの力を借りて、ふだんできないことをさせてやりたいと思います。
10. スタッフの方々が多い中で、その子どもにどんな活動が向きか不向きか、その点を聞いてみたい所があります。そのやった講座の人と話ができればうれしい。

第９回、第１０回ＹＯＵ遊サタデー実践後にこちらに寄せられた意見を講座ごとにまとめました

保護者の声

＜第９回感想＞

★でっかいでっかいシャボン玉を作ろう★

・とても楽しいひと時を過ごさせていただきました。ありがとうございました。またぜひ参加したいと思っています。

・開会式、閉会式では、奇声を上げたりして他のお友達を驚かせてしまいましたが、こういう子どももいるということを、良い機会ですので知って欲しいと思います。

・にこやかな挨拶が気持ちよかった。

・後半あきてしまった

★ネイチャーゲーム★

・スタッフの方々がとても熱心で子どもたちにもやさしく接してくださった様で有難うございました。ＹＯＵ遊サタデーはすっかり気に入って５回出席しておりますが、これからもまだ行きたいと言っていますので今後共頑張って下さい。

・身近なところでお金もかけずに楽しめた。

★算数・数学の家庭教育★

・申し込みをいつでも見落してしまいます。何回か新聞の紙上で知らせてほしいです。子どもも大好きなので回数を増やしていただければありがたいですが・・・

・２時間ではとても足りないように思いました

★学校では教えてくれないマル秘化学実験★

・スタッフの皆様毎回楽しい講座をありがとうございます。参加者がもっと多い方がよいなあと感じました。子どもの友人にもすすめたいと思います。「ＨＯＷ　ＴＯ　サタデー」で万華鏡やスライムを親子で作ってみたいと思っています。今後もＹＯＵ遊サタデーが続けられることを希望しています。

・初めて講座に参加させていただきました。学校では教えていただけないようなことを教えていただき本人もとても楽しかったようです。ありがとうございました。

★家庭教育フォーラム　お父さん出番ですよ！★

・キャプテン同士の連携がいま一つたりなかった。途中から見学されていた方もいたので全体の気配りをしていたら良かったと思う。

・今回で２回目でしたが有意義な時間を過ごさせて頂きました。又、部外者ながら反省会、二次会まで参加させて頂き本当にありがとうございます。次回も参加させて頂きますのでよろしくお願いします。

・①駐車場を確保して下さい。　②外国人の子どもと遊びを通して交流する。（子ども同士）　③学生の職業体験学習を！！　④学生の合宿（１～２年次）－３ヶ月又は６ヶ月の４人～６人部屋で！！

・場所などの案内が適切だった。

・各講座の案内板（掲示板）があればよかった。

★おしゃべり教育学　はるばる２★

・学校の勉強はほとんど、子どもが自分からやりたいと思ってやっているものは少ない。

思いますが、ＹＯＵ遊サタデーの講座は自分でこれをやってみたいと選んでやっているので、生き生きと楽しくできるようです。学校の勉強もこのようにできるものであればきっと一生懸命やるだろうなあとかんじます。

・現役の先生（信州大学を卒業した）も参加してはどうですか。「学校は死んでしまった」かも知れないけどＹＯＵ遊サタデーに参加して、いやいや今の若者にもこんなすばらしい人がいるんだなと思いました。現役の先生と学生さん、そして林先生のような人たちがパネルディスカッションなんかして、「熱く教育について語ってほしい」です。

・笑顔が素晴らしかったです。

★おはじき・あやとり・鬼ごっこ★

・次回また参加したいです。４才児でも参加できるプログラムをどうかまた企画して下さい！

・来年も是非沢山の講座を開いてもらいたい。

・時間が余った。

・子どもが悪いことをしたら叱ってほしい。

＜第１０回感想＞

★プロへの一歩！？イラスト漫画体験★

・今回初めての参加で単独で申込んだ為、親も同伴で教室までついていってしまったのですが、気持ちよく受け入れて下さりありがとうございました。又こういう企画があれば参加したいと思います。

・幼い子どもだったが話し相手になってもらい寂しくなかった。

★サラサラ・ドロドロ・カッチカチ（小麦粉粘土）★

・教育学部の学生さんはスタッフとして参加すると「単位」になるそうですが、本当にやる気のある人にやっていただく方が子どものためになるように思います。

・当日の案内のハガキが２～３日前に到着したので、せめて１週間前には連絡が欲しかったです。

・子どもの好きにさせてくれよかった。

★でっかいでっかいシャボン玉をつくろう★

・企画される側は大変かと思いますがまた参加できる日を楽しみにしていますので、よろしくお願いします。

・ＹＯＵ遊サタデーのプリントが幼稚園で配布されたのが１０／３の午後で、しめ切りが１０／５必着。これではちょっと忙しいので、もう２～３日前に配布していただけたらと思います。

・参加者だけでなく、その弟や妹にまで気を使ってもらいうれしかった。

★学校では教えてくれない秘化学実験★

・初めて講座に参加させていただきました。学校では教えていただけないようなことを教えていただき、本人もとても楽しかったようです。ありがとうございました。

★君も紙づくり名人★

・前回バドミントンで参加してからずっと、次はないのかと楽しみにしておりました。長野でのＹＯＵ遊サタデーは新聞などでよく目にするように思いますが、松本でのＹＯＵ

遊サタデーはあまり気づかず今回もう少しで見逃すところでした。娘は今から次回を楽しみにしております。松本でももっと回数を重ねていってほしいと思います。
・お兄さん・お姉さんに親切にしてもらって、とても喜んで帰ってきました。ありがとうございました。
・成果発表の時間がもっと欲しかった。

★とびだす紙しばい★

・学校から申し込み要領をいただいてきたのが締切の２日前。参加者が少なかったのはそのせいだと思います。初めてなので知らなかったのですが、飛び入りＯＫだとわかっていたら都合をつけて親も参加したのに残念です。「教育学部ってこんなところ」はもっとＰＲすれば話をしたい、話を聞きたいという親は多いと思います。
・長野からいらっしゃった方には準備やら移動やらで大変だったことと思います。松本では年１回ですが、もう１回ぐらいは増やしていただけたらありがたいです。子どもも大喜びでした。学校の先生からのプリントは１０／３に頂いてまいりました。大急ぎで出したのですが、１ヶ月くらいまえに配布されていれば予定をたてやすいのですが・・・。（本当は予定が入っていましたが、子どもの希望で予定をキャンセルして参加させていただきました。）参加人数ももっと増えるのではないでしょうか。スタッフのみなさま、本当に楽しいひとときをありがとうございました。
・本人は短かったといっていましたが親はこれくらいで十分だった。

★ドラム・パーカッション入門★

・来年ドラムの講座があれば親（私）もやりたい。でも子どもは親とは別にやりたいと言っています。
・申し込み、パンフレットの取り寄せと大変だった。パンフレットは取り寄せなくてもいいようにしたら・・・ｅｘ．インターネット

★宇宙生物スラスラスライム★

・毎回子供たちと楽しい交流をしていただきとてもうれしく思っています。今回は主に１年生の学生が講師となるとどうなるかな？と興味津々でしたが、やはりガチガチと体がこわばっていましたね。見ている方もハラハラしていましたが、４年生スタッフがうまくカバーをしてくれていました。まず受付から感想を述べますと、子どもとの目線の高さが違いました。受付で迷っている子に対し学生が気づかず、オドオドしている子もいました。また、緊張している子には、上から見おろす態度では余計緊張してしまう　と思います。講座が始まると子どもに対する姿勢の違いがあきらかに出ました。もじゃもじゃ頭のお兄さん、机にドーンとすわっているだけではいくら元気が良く、口も達者な子どもでもなかなか近づこうとはしないですョ。お客様ではないのです。子どもと接するという目標を持ってこのサタデーにスタッフとして参加しているのなら自分から声をかけて接していかなければ何事も始まりません。「子どもとはこういうものだ」ということは決してありません。十人十色なのです。たくさんの子供たちともっともっと接してほしいと思います。勝手なことばかり述べさせて頂きましたが、『失敗は成功のもと』といいます。失敗を恐れず、これからもどんどん自分をみがいてすばらしい先生になれるよう心から応援しますので、ぜひがんばって下さい。
・学校からＹＯＵ遊サタデーのプリントを頂いてきたのが締切りの２日位前でした。でき

る事ならもう少し前にいただけたらありがたかったですが。

★ペーパーグライダーを飛ばそう★

・今年は２年生ぐらいの年齢の男の子が参加する講座が少なかった。

★おどってあそぼう！１・２ダンス★

・新聞で、ずっと前に１０月１２日にあることはチェックしてありましたが、いずれ詳細はわかるだろうと応募方法をチェックしなかったため、１週間前にあわてました。松本で１０月１２日にあるよという宣伝をもう少ししてほしかった。松本では年１回ですが年２回になりませんか？閉会式が楽しい。各講座の発表を見るのが親も楽しみです。

★ペットボトルロケット★

・学校からプリントをいただいたのが締切りの２日くらい前で、「もう間に合わないから・・・」と申し込まなかったお友達が何人もいました。もう少し早くいただけたら良かったです。

★地図で旅行しよう★

・学校からチラシをもらってきてすぐ講座を決めました。自分が興味をもっている内容の講座がありまして、とても楽しみに当日を待っていました。地図だけで旅行・・・と聞いただけで私などは楽しいのかしらと思っていましたが、何人ものお兄さん方のお話が楽しく、又、丁寧に教えて頂き更に、大きな模造紙にまで書いて頂きうれしく思いました。本当にありがとうございました

・家でもさっそく行いました。

★親子でサッカー★

・親子でなかったら、子どもは参加したがっていた。

<u>参加した子どもの声</u>

・早く終わりすぎたかも。もうちょっと実験を肌に感じたかった。

・楽しかったのですが、キャプテンとあまり話しができず残念です。

・おもしろかった。またやってもらいたい。

・今日いろいろ教えてもらって楽しくって、また作りたいと思った。これからもいろいろな講座を開いてほしいです。

・ありがとうございました。今日を楽しみにしていました。かわいいかごができてうれしいです。来年もぜひ松本でやってください。

押し花、折り紙、考古学入門、焚き火教室、母親のための教育フォーラム
工作教室（紙で作る動く車、ジオラマなど）、留学生を囲んでの会
アウトドアクッキング、障害児対象の講座、プラモデル、風船、紙粘土、早口言葉
カンカンアイス、跳び箱などの運動、バトミントン（親子で）英語、料理、染め物
手織り、土器作り、簡単なロボット、パソコン教室、新体操

こんな講座を開いてほしいとの声も多くとどきました。
今後の参考にさせていただきます。

（２）一年生

本年度から一年生の臨床経験の授業の科目として「教育参加」が開設された。その「参加」メニューの一つとして、ＹＯＵ遊サタデーも取り入れられた。本欄では第１０回に参加した一年生の感想を紹介する。

”学校では教えてくれないマル秘化学実験”に参加した学生より

私は、講座名からワクワクするような”学校では教えてくれないマル秘化学実験”のスタッフを担当しました。私が信大の教育学部を選んだのもＹＯＵサタがあるからという理由もあって、机上の学習だけでなく、子どもたちと触れ合えるこの絶好の機会を経験したいと思い意欲的でした。

本来、子どもが大好きな私でしたが、いざ子どもが集まりだすとどうやって声をかけたらいいのだろうと私自身が緊張してしまいました。「子どもたちはそれ以上に緊張しています。」という土井先生の言葉にはっとし、私がこんな気持ちじゃ駄目なんだと気付き声をかけました。不安な気持ちを打ち明ける女の子や、楽しみにして待っていたという男の子。そんな子どもたちを前にすると、成功させてやるぞと改めて思いました。

私の担当した実験では水酸化ナトリウムという劇薬を使うため、一にも二にも安全ということに注意しました。私が小学生の頃は先生がくどいほど大げさに注意するのがうっとおしく感じられたけれど、やはり指導する立場ともなれば大事な命を預かっているわけだから、その気持ちが今になってようやく分かった気がしました。そして、大きな瞳を輝かせてフラスコを見つめる子どもたちに「次はどんな色になるのかな？」と常に質問しながら、予測を立ててもらい、そして自分の目で確かめるという方法をとりました。自分の視点から物を見てしまえば、どんな結果になるかは知っているので、ついうっかりしていると子どもの想像力を奪っているのかもしれません。だから、子どもの視点から一緒に考え、驚くことが大切なことだと考えさせられ、勉強になりました。

こんなふうに新鮮な喜びを感じることができたのも久しぶりです。もっともっと、子どもたちと一緒にいたいと思いました。たった一回の二時間だけ一緒にいてもしゃべることは限られてよく分からないものです。そう思うと何だか空しいような気もしたけれど、この一回だけの機会でも触れ合えたことは大切な勉強だと思うようにしたいです。そしてたった一回だけの機会がよけいに私を子どもたちともっと一緒にいたいという思いを駆り立てているのかもしれません。絶対、教師になるぞという強い決心をしました。

今回もう一つ大きな収穫を得たことは、先輩たちの姿を直接見て、一緒に活動したことです。たった一つか二つしか年が変わらないのに、子どもたちの前で堂々としていて、うまく子どもの心をつかんでいました。私にはピカピカの教師の卵そのものに見えました。きっと、先輩たちは信念を持って物事に取り組んでいるから、頑張る姿がこんなにも心を打つのではないかと思います。来年は、私もこのようになっていたいと心の底から思いました。そして、どうせやるなら、先頭に立って、人が知ることのできない苦労を一緒に体験したいと思いました。こうした機会を確実にものにすることで、自信を高め、そしてさらに向上できるのではないかと思いました。

”とびだす紙しばい”に参加した学生より

私の参加した講座は「とびだす紙しばい」というものだった。８名の子どもたちが参加してくれたのだが、スタッフの方が多いという状況で、スタッフと子どもたちが交互に座るという形で円になり、会が進んだ。私の隣は、キャプテンと彩花ちゃんという小学一年生で、会の中では、その子どもとの会話が半分を占めた。彼女は、とても無口な子で、初めはただうなずくだけであった。そのうち、どんな紙しばいにするかと話している中で、例として、私の運動会の思い出を話した時、初めて、声を出して笑い、彼女との会話が始まった。私の母が幼稚園の教師をしていたこともあり、以前聞いていた、”同じ目線で話すこと”や”子どもの話が始まったら、聞き役でいつづけること。”というアドバイスを思い出し、その結果、家族のこと、学校のこと、住んでいるところのことなど、たくさんの話をすることができた。私は、子どもたちとふれあいの中で、子どもによって、その作業方法や話し方、年上の私たちにつくる距離というものは、まちまちであり、子どもたちの作ったその距離を超えないことの大切さも学んだ。彩花ちゃんについて言うなら、彼女の作業は、とても細かく、人の大きさなどは、他の人の描く１０分の１にも満たない大きさで、出来事を正確に再現させようとする子であった。また、めんどうみがよく、私や周囲の人に、絶えず不足のもの（色鉛筆など）はないかと聞いたり、落ちたものをすばやく拾ってあげたりした。しかし、しっかりとした面を持っているようだが、時間の経過とともに、「お姉ちゃん」と絶えることなく話をしてくれたり、私が他の子と話をすると、その中に入って、言ってみれば、一人じめしようとしたり、閉会式に行く途中など、手をつなぐことを求めたりと、甘えるような行動も見られた。その態度の変化に、驚いていたが、彼女に、８カ月になる弟がおり、彼女が二人姉弟の上の子であることを聞き、何となく分かった気がした。つまり、年下の弟に対するめんどうみのよさが現れているが、私もそうであったが、何かと一番上の子は、年上の兄や姉を求め、たまたまこの機会、短時間ではあったけれど、できた年上の私に、自分のお姉さんのイメージを写したのではないかと思ったのである。

今回、私は様々な体験を通して、自分なりに答えを出したつもりであった。しかし、いくつかはこれでよかったのだろうかという不安な点もあった。その一つとして、作品の制作進度についてである。彩花ちゃんは、人の数や状況を細かく再現しようとしたため、作品を時間内に仕上げることはできなかった。私は、彼女が思うようにさせてあげたかったため彼女のペースを見守ったが、他の友人が一つずつ作品を作ったのに、彼女だけできなかったというのは、彼女にとってどうだったのだろうか。結局、最後の発表の時には、発表はせず、席に座ったまま、みんなの発表を見守っていました。私は彼女に「家で続きを作って、お母さん、お父さん、じゅんくん（弟）に見せてあげてね。」と無理に発表に出すのはやめたのだが、製作の段階で、私のすべきことがあったのではないのだろうか、そういう不安がよぎったのである。ただ、会の終わったあと、嬉しそうに私の手をひき、彼女のお母さんに私を紹介してくれたとき、何かほっとするものがあった。

会全体を通して、この字数では書ききれないことがたくさんあった。本なんかでは分からないことをたくさん学び考えさせられた。私自身も楽しんだのだが、とてもよい体験、そして学習となった。

”イラスト・漫画”に参加した学生より

私は幼い頃からいろいろな絵を描くのが好きで、私と同じような子どもたちと触れ合いたいと思ったのと、この講座は子どもたちと多く触れ合えると思ったことから「プロへの一歩！？イラスト・漫画体験パワーアップバージョンⅡ」に参加させていただきました。最初、スタッフの先輩から「子どもが、助けを求めるまで、手伝ったり、口をはさまないでください。子どもはすぐにうまくいかないと言うけれど、気にしなくていい程度なら、そのまま描かせて下さい。最後まで子どもたち自身の力でやり遂げさせて下さい。」と言われ、何か物足りないと思いましたが、子どもはよく集中して、自らどんどん描いていくので、こちらの方が圧倒され、充実した一日を過ごすことができました。子どもたちは自分なりに一生懸命、真剣に描いていました。飽きたり、疲れてくると人が描くのを見て回って、自分の絵に取り入れていました。また、今回は「パステル」という画材を使ってみようということで（パステルはそう使うものではないので、子どもたちは初めてだったと思う。）子どもは興味津々、積極的に使っていました。

私がこの講座を通して強く感じたのは子どもの自主性の重要さです。子どもたちは私が思うよりも、創造力があり自分で工夫しながら物事を進めることができるということ、また、教師はその手助けをするためにいるかもしれないということです。私は少々おせっかいなところがあり、すぐに口を挟んでしまうので、子どもが自由に遊べる（自由の中に秩序・ルールを教えることも教師の役割だと思う）、自由に創造できるような環境が作られるような教師になるよう努力したいと思いました。あと、大人と子どもの価値感の違いも感じました。大人には分かりにくい感情を感じられる人になりたいと思いました。

私は今回一人の男の子と特に仲良くなりました。（席が隣だったせいで）その子は、終わり際５分になって、大きな紙に絵を描きだしました。そして、恥ずかしそうに「いらないからあげるよ。」と言って、その絵をくれたのです。私が「人に物をあげるとき、”入らないから”と言うよりも”良くできたから”と言ってあげた方がもらう人は嬉しいと思うよ。」と言っても「いらないからあげる」と言って絵をくれました。後から先輩に話したら「子供は素直じゃないから」と言っていました。また、帰るとき（２０番教室から出るとき）はぐれてしまい、私が探していたら、彼も私を探していたようで、私を見つけて、「バイバイ」と言って走っていきました。その先には彼のお父さんがいました。彼はお父さんを待たせて私を探していたのです。何か、とても嬉しくなって姿が見えなくなるまで見送ってしまいました。

今回この行事に参加して、初めて教師になりたいと思いました。（前はどうでもよかった。）このような機会を与えてくださった、先生や先輩たちに感謝します。どうもありがとうございました。また、ＹＯＵ遊サタデーに参加したいと思いました。

“ドラム・パーカッション入門”に参加した学生より

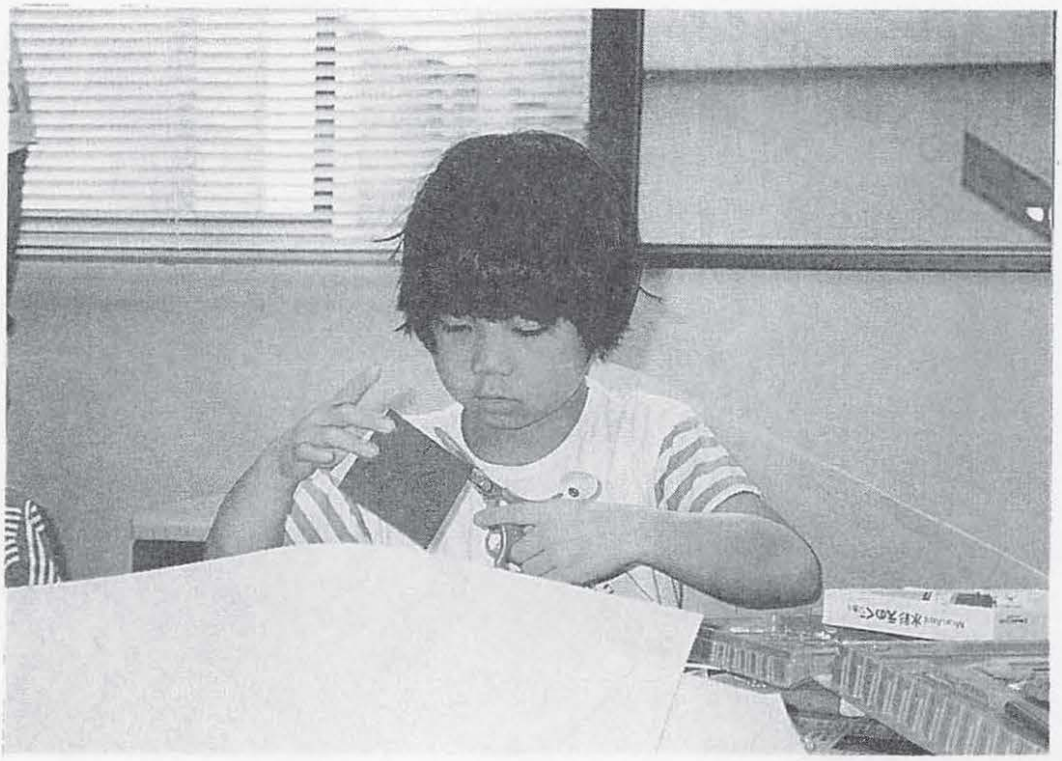
スライム作り、紙飛行機、竹とんぼ、そんな簡単なイメージでしかありませんでしたが、僕がこの「ＹＯＵ遊サタデー」への参加を希望した理由の大なる部分は、何と言っても７月の付属幼稚園での教育参加で体験した、子どもとふれあう喜びをもう一度体験したかったという事です。そんなわけで、とにかく参加してみました。

１０月１２日の土曜日、松本の旭キャンパスで「ＹＯＵ遊サタデー」が開催されました。僕は、「ドラム・パーカッション入門」のスタッフとして参加させていただきました。「ドラム・パーカッション」と言っても、僕なんかは、ドラムに対して何の知識もない単なる素人です。７名のスタッフの内６名までがまた、同じような素人でした。当日の午前中、さっそくバチを持って、読み方さえよくわからない楽譜を前に、練習を開始しました。四分休符？八分休符？何とも不可解なマークが…「タンタタタン」本当に、どれがタンでどれがタなんだかわかりませんでした。「こんなんで教えられるんか？」不安が何度もよぎりました。ドラムセットの搬入などと共に、練習を続けました。この「ドラムパーカッション入門」への参加を希望してくださったのは全部で５名、小学校２年生の女の子と４年生の女の子が２名、２６歳の男性と５６歳の女性でした。

５６歳の女性の平林さんは、信濃毎日新聞で「ＹＯＵ遊サタデー」を知って、参加して下さったのですが、「まさか子どもたちのイベントだとは思わなかった。」と少々驚きの様子でしたが、「じゃあ今日は子どもみたいに、はしゃいでしまおう。」と言っていらっしゃいました。僕は、４年生の小林さんと組んだ訳ですが、どちらも子どもではないのにも関わらず、合わせるのもなかなか上手にいかず、子どものようにはしゃいで練習していました。その間、小林さんから、「ＹＯＵ遊サタデー」の詳細や、３年生の教育実習のことなど、あれこれ伺ってみました。

今回の我々にとっては初めてのこの「ＹＯＵ遊サタデー」を通して、実際は子どもたちとふれあう機会もなかったのだけれど、様々な年齢層の人々と、コミュニケーションをとることができました。そして、小林さんから聞いたことですが、本当に準備は大変らしいです。何日も寝れない日が続くこともあるらしいです。しかし当日、子どもたちの笑顔が、全てを満足に、と言うか、喜びに変えてくれるのだ、と言う言葉が、何より本当の「ＹＯＵ遊サタデー」というものを教えてくれたような気がします。１年生の内では、２回ぐらいしかこのような臨床実習はないのですが、大変によい経験になりました。ただ、本当に子どもとふれあうことが出来なかったのが残念で仕方ありません。次回、長野であるかと思いますが、出来るだけ積極的に参加したいと思います。最後の反省会の時、リーダーの加納さんの涙を見て、先輩方が、どれほど「ＹＯＵ遊サタデー」に思いをかけているのかがわかりました。本当に素晴らし取り組みだと思います。ありがとうございました。

5．資料
（第三期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の記録）



（１）マスコミ報道記録

信大ＹＯＵ遊サタデー関連の
テレビ・ラジオ放映

ＦＭぜんこうじさんでＹＯＵ遊サタデーの宣伝をしていただきました。この場をかり心から感謝申し上げます。また、各局でテレビ放映をしていただき、私たちスタッフ一同大変励みとなりました。これからもＹＯＵ遊サタデーの中に子どもたちの笑顔の輪がたくさん広がっていくよう頑張って行きたいと思います。

４月２８日（日）　ＦＭぜんこうじ
「石川利江のほのぼの談話室」地域社会と教育

５月２５日（土）　各テレビ局
「いじめフォーラム’９６」を中心としたＹＯＵ遊サタデーの紹介

９月　２日（月）　ＦＭぜんこうじ
「この指とまれ、ちょっといい仲間」
（ＹＯＵ遊サタデーの活動内容と開催日の報告）

信大ＹＯＵ遊サタデー関連の新聞報道

今年のＹＯＵ遊サタデーの新聞報道は、３年目を迎え、地域への浸透と新たなる試みから、非常に多岐にわたっているように感じる。また、子どもたちの募集から、開催後の報道まで、新聞報道によっているところは非常に大きい。新聞社各位にはこの場をかりて感謝申し上げる。

１．子供の受け皿探る大人　「伝統」託す試みも
毎日新聞（８．４．２７）

２．ユニーク生活体験活動　子どもを学生が指導　実践力育成必修科目も
日本教育新聞（８．４．２７・５．４）

３．地域の子供と触れ合う　　信大教育学部
毎日新聞（８．５．２６）

４．信州大学の「信大ＹＯＵ遊サタデー」の試み　学生パワーを「地域社会」へ
聖教新聞（８．６．２１）

５．週休二日制に対応　いじめフォーラム’９６も
信大ＹＯＵ遊サタデー　１６講座開講
週刊長野（８．６．２９）

６．信州大学教育学部「ＹＯＵ遊サタデー」　未来の先生に乾杯しよう！
トランタン新聞（８．７）

７．９月１４日に信大ＹＯＵ遊サタデー開く　信州大学教育学部
教育新聞（８．８．１５）

８．父親の役割考える企画も　信大ＹＯＵ遊サタデー　来月最多の２２講座
信濃毎日新聞（８．８．２９）

９．おもしろ講座で子どもと交流を　学生の指導力の向上にも
まつもとタウン情報（８．９．１２）

１０．漫画や昔の遊びに２００人「信大ＹＯＵ遊サタデー」
信濃毎日新聞（８．９．１５）

１１．゛日本語禁止゛クッキングも　信大ＹＯＵ遊サタデー
長野市民新聞（８．９．１７）

１２．信大「サタデー」子供たちと交流　　（東信版）
信大生と子供たち　触れ合い１５講座ＹＯＵ遊サタデー　（中信版）
信濃毎日新聞（８．１０．１３）

１３．信大生、緊張の先生役　教育学部　子どもと触れ合い　ＹＯＵ遊サタデー
市民タイムス（８．１０．１３）

１４．信大教育学部　ＹＯＵ遊サタデー　１５講座で楽しく交流
まつもとタウン情報（８．１０．１９）

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

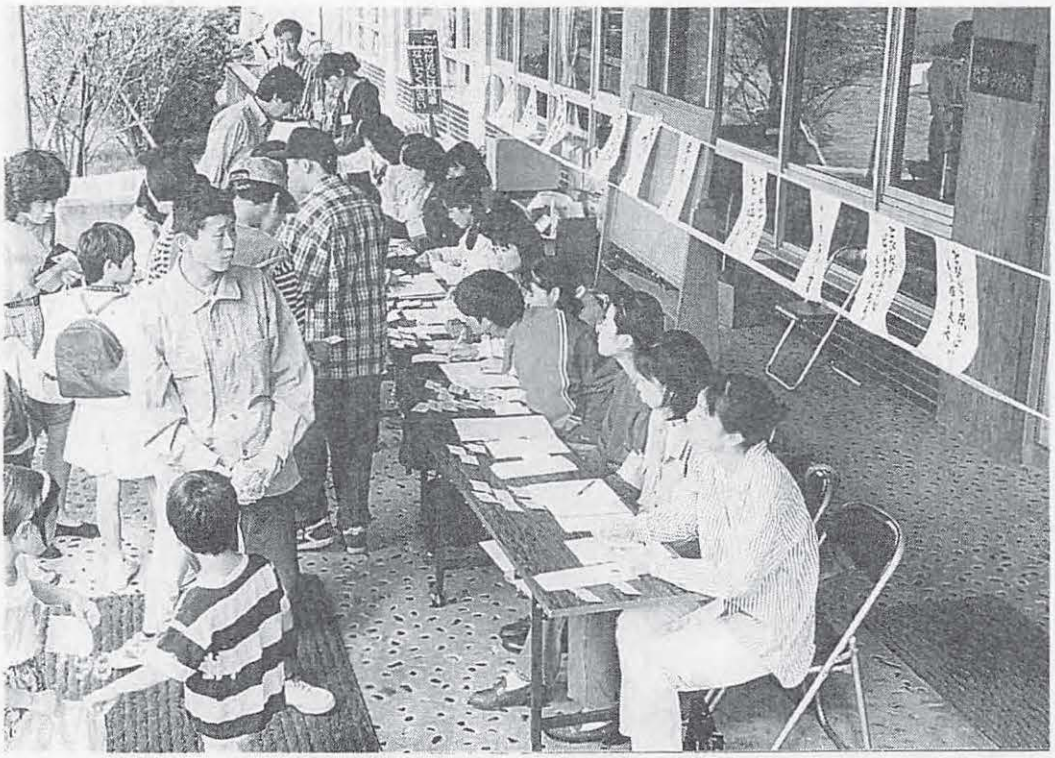
Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

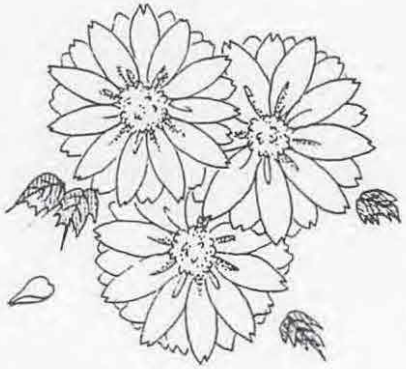
Web上では非公開

（２）スタッフマニュアル



第8回

YOU遊マニュアル



'96. 5. 25 (Sat)

第8回YOU遊サタデー

＜今後のスケジュール＞

5月23日（木）	第7回実行委員会	12：40～13：00
5月24日（金）	前日準備	16：30～
5月25日（土）	YOU遊サタデー当日	8：00（一般スタッフ集合）

タイムテーブル

23日（木）

12：40～ 13：00　◎第7回実行委員会
- ・スタッフマニュアルの配布
- ・本部スタッフの打ち合わせ

24日（金）

16：30～　◎前日最終準備（図書館2階集合）

①開閉会式場準備（全員！！）
- ・机片づけ
- ・イスを並べる

－その作業が終わったら

②各教室準備
- ・各講座が使用する教室の準備
- （終わり次第、実行委員長の加納さんに報告）

③会場準備（教室を準備する必要がない人）
- ・トイレ表示、案内図、矢印など
- ・本部テント張り
- ・看板設置
- ・各教室タイトル張り
- ・その他の準備

25日（土）

◎第8回YOU遊サタデー当日

7：30	本部スタッフ係長集合
8：00	キャプテン・講座スタッフ集合 直前打ち合わせ
8：15～	対外スタッフ（駐車係、受付係など）持ち場へ移動 午前の部受付開始
9：00～	開会式（図書館2階）
9：20	式終了　各講座の教室へ子どもたちを誘導 （キャプテンが先導）
9：30～	○午前の部講座開始
11：30	講座終了　終了次第、閉会式会場（図書館2階）へ誘導
11：40～	閉会式・成果発表
12：00	閉会式終了 （終了後、子どもたちの見送り。最後も笑顔で！）

▼この間に、午後の部の準備、昼食をすませておいて下さい。
（軽食は実践センターに用意しておきます）

12：30～	午後の部受付開始（図書館2階に集合。集まったらキャプテンが先導して各講座の教室まで誘導）
13：00～	○午後の部講座開始
15：00	講座終了　終了次第、閉会式会場（図書館2階）へ誘導
15：10～	閉会式・成果発表
15：30	閉会式終了 （終了後、子どもたちを見送り。疲れていても、最後は笑顔で！！）

▼お疲れさまでした。これで講座は終了です。

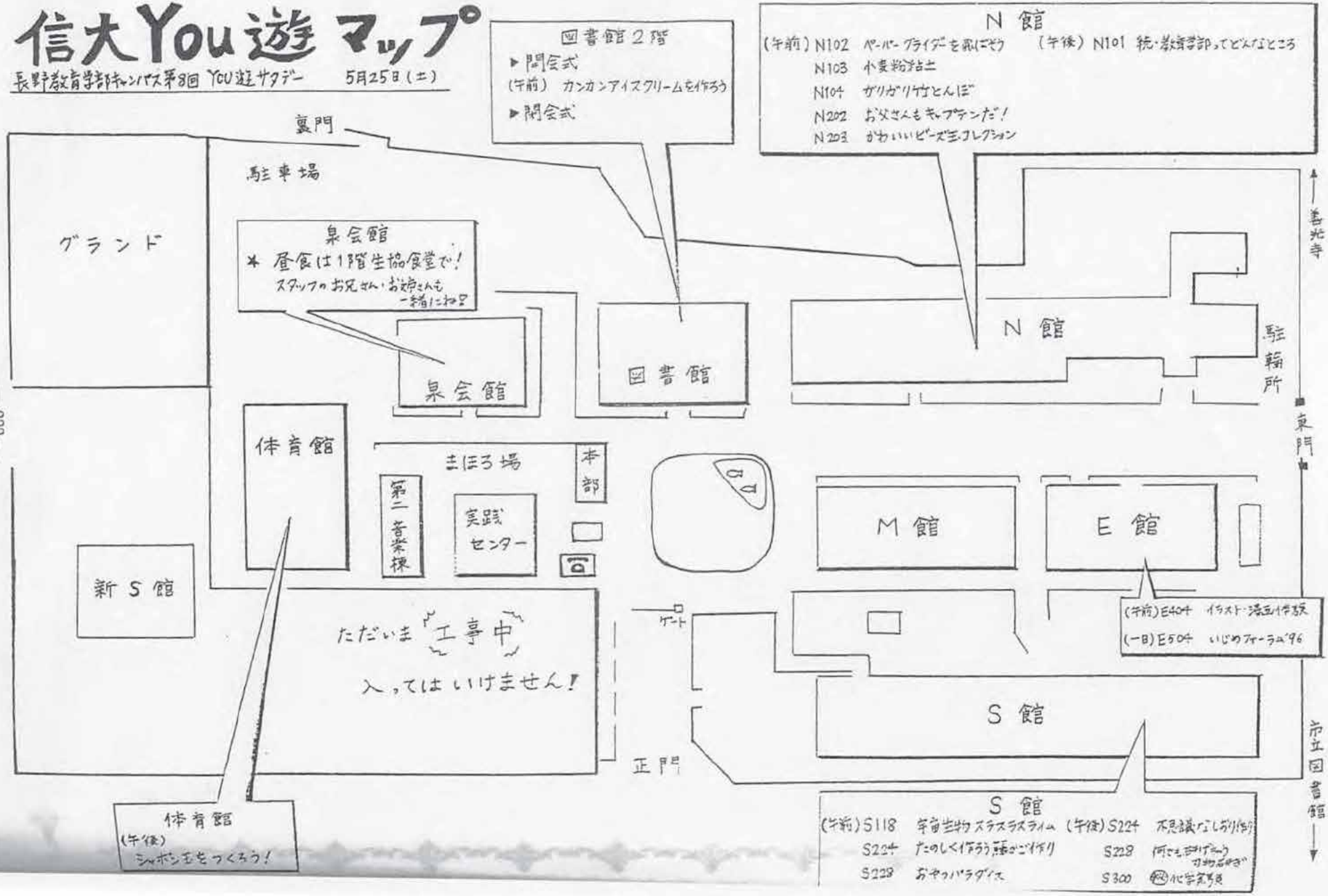
後片づけ（各講座の使った教室、本部テントなどのを片付けます。実行委員長の加納さんかスタッフ長の高橋さんに指示を仰いで下さい。）

16：30～	打ち上げ（生協食堂）

※今回は「いじめフォーラム'96」が開かれています。時間のあいている人は、是非ご参加下さい。午前中は9：30からE504で全体会が、午後は13：00から分科会が開かれます。分科会の会場は、お手元のパンフレットをご覧下さい。

信大You遊マップ

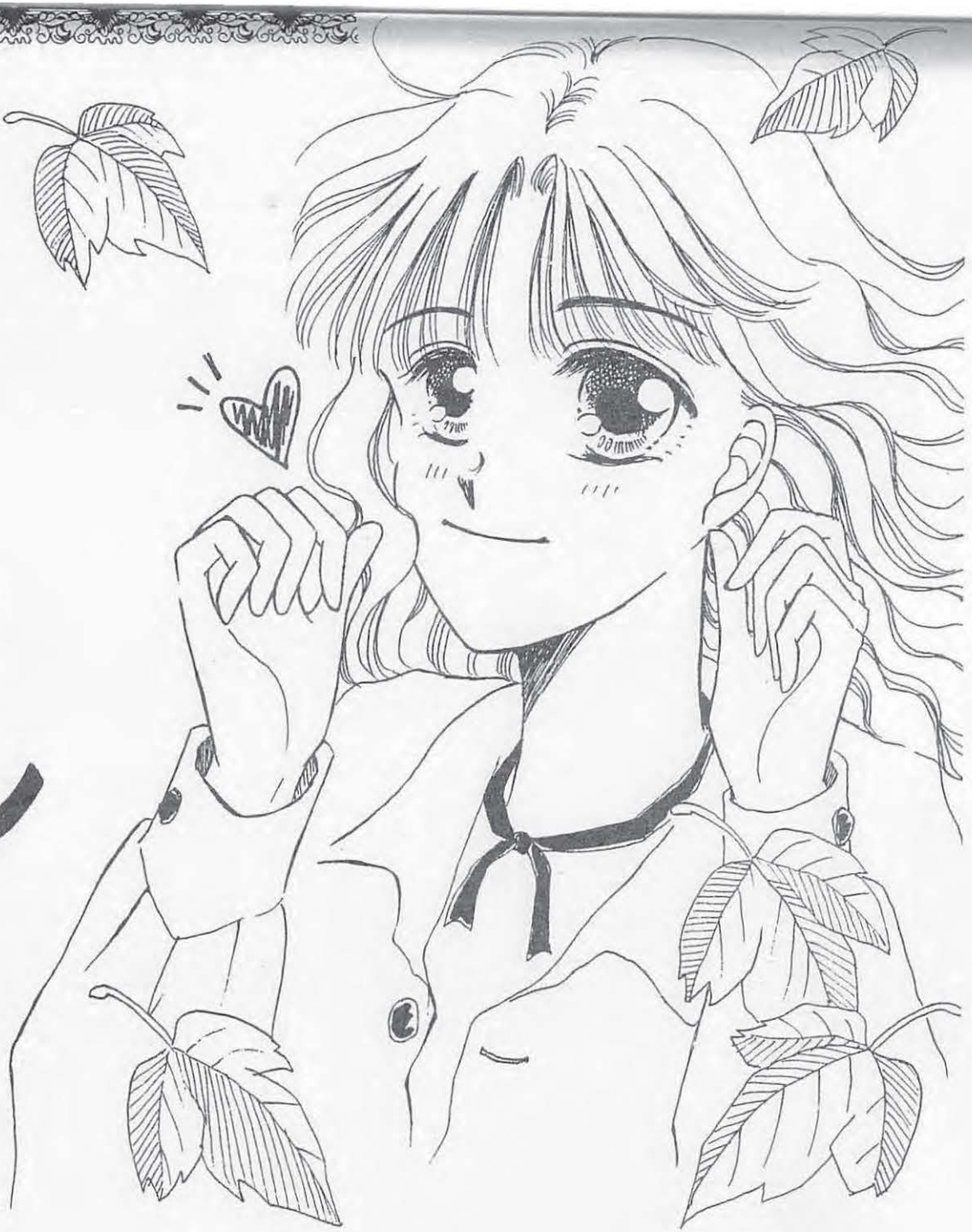
長野教育学部キャンパス第8回 YOU遊サタデー　5月25日(土)



第9回

YOU遊マニュアル

'96.9.14(SAT)



第9回ＹＯＵ遊サタデー

＜今後のスケジュール＞

9月12日（木）	第14回実行委員会	12：40～13：00
9月13日（金）	前日準備	16：30～
9月14日（土）	ＹＯＵ遊サタデー当日	7：50（一般スタッフ集合）

タイムテーブル

12日（木）

12：40～13：00　◎第１４回実行委員会
- スタッフマニュアルの配布
- 本部スタッフの打ち合わせ

13日（金）

16：30～　◎前日最終準備（図書館２階集合）

①開閉会式場準備（全員！！）
- 机片づけ
- イスを並べる

－その作業が終わったら

②各教室準備
- 各講座が使用する教室の準備
（終わり次第、実行委員長の加納さんに報告）

③会場準備（教室を準備する必要がない人）
- 本部テント張り
- 看板の設置
- 各教室タイトル貼り
- ゴミ箱の設置
- その他の準備

プログラム

開会式（午前：9:00～9:15　午後：13:00～13:10）
1. はじめの言葉
2. キャプテンの話
3. 先生の話
4. キャプテンの紹介
5. うた
6. おわりの言葉

キャプテンは、ステージに出て、講座の紹介をします

閉会式（午前：11:40～12:00　午後：15:20～15:30）
1. はじめの言葉
2. 講座の成果発表
3. キャプテンの話
4. 先生の話
5. おわりの言葉

子どもたちをステージに出させて、成果を発表して下さい

14日（土）

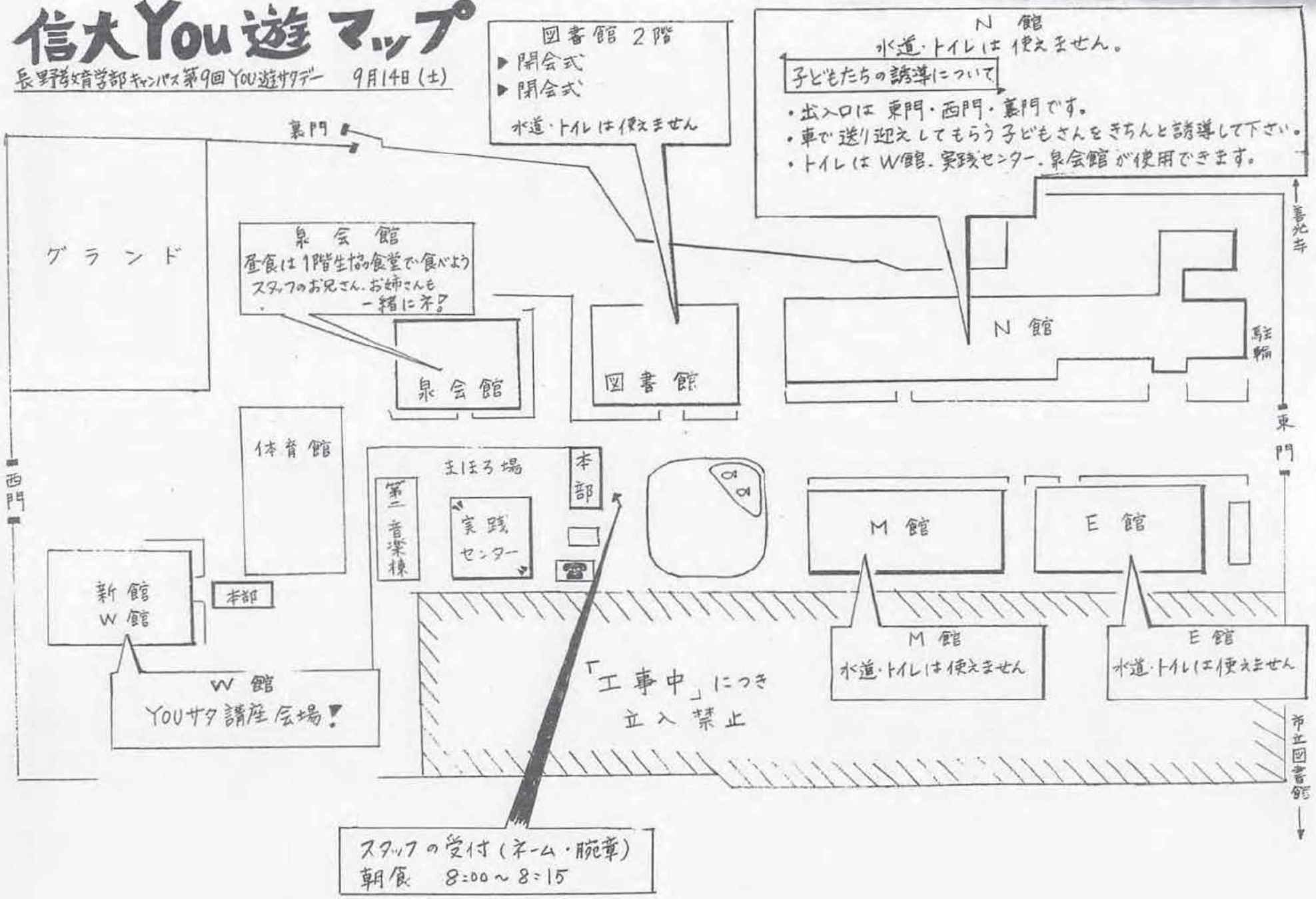
◎第９回ＹＯＵ遊サタデー当日

7：30	本部スタッフ係長集合
7：50	キャプテン・講座スタッフ集合→直前打ち合わせ
8：10～	駐車係、受付係持ち場へ移動→午前の部受付開始
9：00～9：15	開会式（図書館２階） 終了後　各講座の教室へ子どもたちを誘導
9：30～11：30	◇午前の部講座◇ 終了後、閉会式会場（図書館２階）へ誘導
11：40～12：00	閉会式・成果発表 （終了後、子どもたちの見送り。最後も笑顔で！）
12：00～	午前の部の片付け，午後の講座準備 →午後の部受付開始
13：00～13：10	開会式（図書館２階） 終了後　各講座の教室へ子どもたちを誘導
13：10～15：10	◇午後の部講座◇ 終了後，閉会式会場（図書館２階）へ誘導
15：20～15：30	閉会式・成果発表 （終了後、子どもたちを見送り。疲れていても、最後は笑顔で！！） 後片づけ （実行委員長の加納さん，スタッフ長の高橋さんに指示を仰いで下さい。）
17：00～	打ち上げ（生協食堂）

※工事中のため，参加者が困らぬように見送りなど細心の注意を払うこと。

信大YOU遊マップ

長野教育学部キャンパス第9回YOU遊サタデー　9月14日（土）



これだけは

いよいよ、今期最後のＹＯＵ遊サタデーです。どんな、一日になるんでしょうね。
そこで、みんなにこれだけは頭においていただきたい。

１、楽しく！！！

２、安全に！！！

子供達は、１０月１２日を、本当に楽しみに待っています。
そんな子供達が、一人でもけがをしたり、事故にあったら、ＹＯＵ遊サタデーが2度とできなくなってしまいます。

そんなことにならないように、みんなで協力して、楽しい一日にしよう！

文責：第3期YOU遊サタデー
実行委員長
加納 文香
（家庭 4年）

10月12日(土) 当日の日程

前日 4:30～6:30 テント 各新聞づくり 貼り物(掲示物)準備

7:30　実践センターに集合

8:00　出発!!

9:30　松本キャンパス着

9:50　1年生と顔合わせ

10:00　各講座ごとに準備・打合せ

11:20～12:20　昼食

12:30　受付開始

13:00～13:15　開会式

13:30～15:30　講座開始　終了

15:45　閉会式

16:00　お片付け!!

17:00～17:30　反省会

18:00　松本出発

20:00ごろ　長野到着

荷物のつめこみ、点呼など。

荷物をおろします。

委員長あいさつ、日程の確認、キャプテンの紹介など。

本部スタッフ準備

準備がおわったら昼食。自由だよ。

係の仕事につきます。

実行委員長あいさつ、キャプテン紹介など。

楽しく♡安全にね。

成果発表など。

きれーにしましょう。

講座で「良かった点」「改善した方がよい点」を考えてみよう!!

(※これは今のところの予定です。)

おつかれさまでしたー

松本スタッフ 10月12日(土) 当日の日程

9:30　テント前集合

9:50　「委員長あいさつ」と「これからの仕事の説明」に一緒に参加

10:00～　各講座ごとに準備・打合せ。自分のネームづくり

11:20～12:20　昼食(自由)

12:15～1:00　講座準備が終わっていてヒマな1年生は「受付→開会式場」まで子どもたちの誘導をして下さいね。

くらいに子どもたち来ると思うので…

1:00～1:15　開会式!!
ぜったい出てね。20番教室です。

13:30～15:30　講座
ここからは長野スタッフと一緒です。

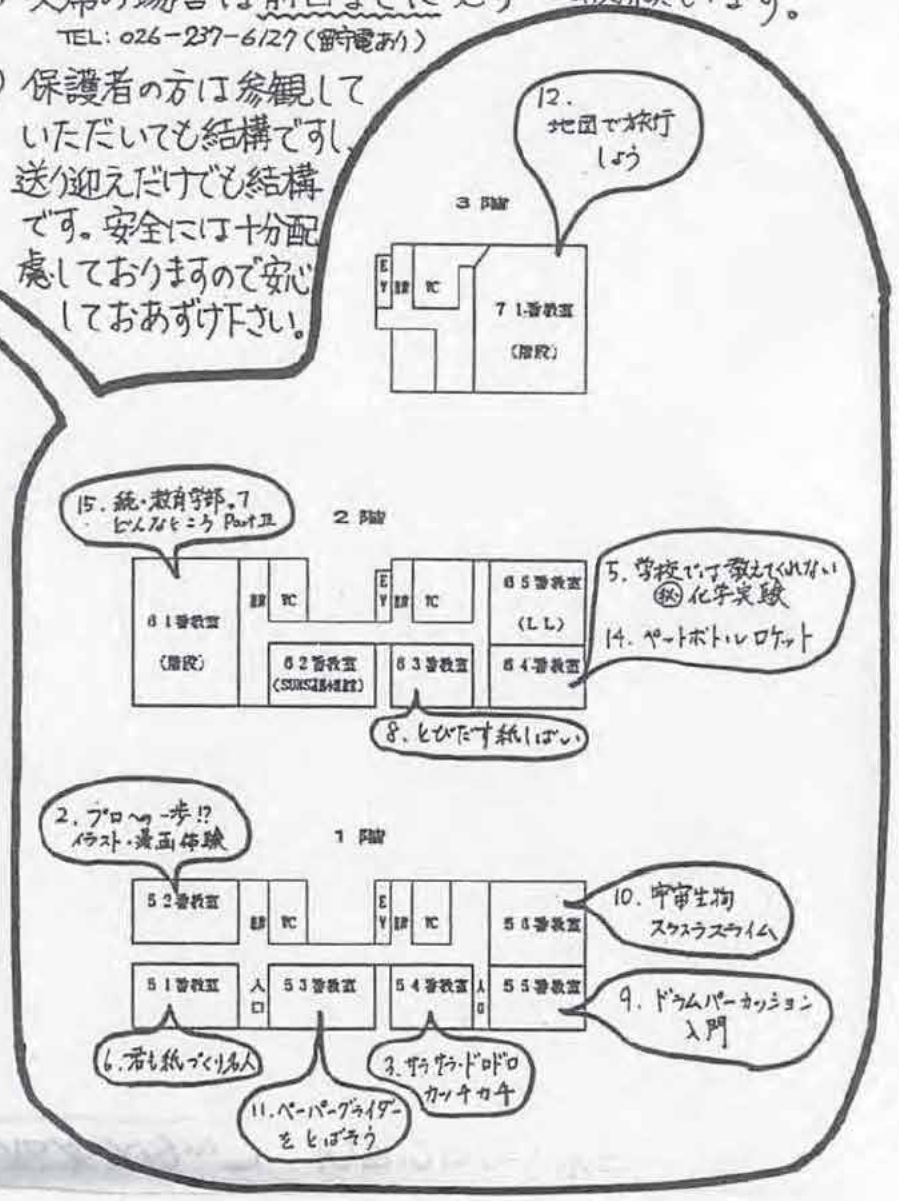
参加してくれた子どもたちもスタッフとして参加してくれるみなさんも、できなくて悲しい思いをすることなく、心から楽しめる一日になるようにね。

「信大YOU遊サタデー」からのお願い!

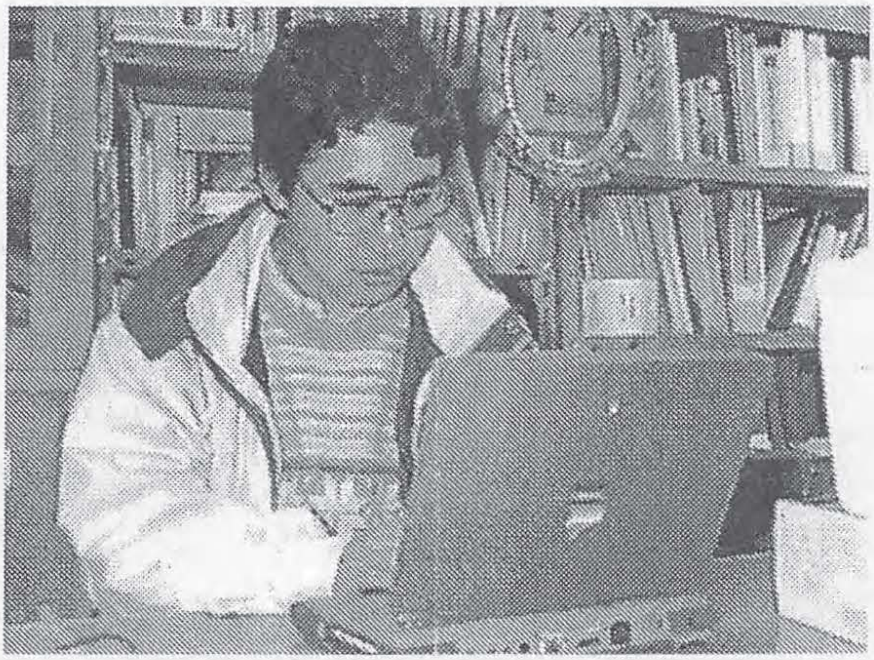
① お昼時には信大内の生協食堂がご利用いただけます。

② 欠席の場合は前日までに必ず一報願います。
TEL: 026-237-6127(留守電あり)

③ 保護者の方は参観していただいても結構ですし、送り迎えだけでも結構です。安全には十分配慮しておりますので安心しておあずけ下さい。



（３）ＹＯＵ遊サタデー通信



YOU遊サタデー通信'96

YOU遊サタデー事務局発行　　4月3日（水）　β評価版

●今年も開催
まずは5月25日だ

毎年多くの子どもたちを集めているYOU遊サタデーが今年も開催されることになった。これは1月に行われたオープンな会議で決定されたもので、参加者からは「YOU遊サタデーはいろんな人と出会うよい機会だ」という意見が多く出された。

そして通算8回目にあたる5月25日のYOU遊サタデーにむけて準備も始まっている。まずこの日に行う講座であるが、今の所おやつ作りや海藻押し葉作り、化学実験などの案が出されている。どのような楽しい講座が出てくるか、楽しみである。

●YOU遊サタデー編集作業終わる

昨年から大きな課題として残されていたYOU遊サタデー実践記録のまとめが、2月28日、ようやく決着が付いた。実践記録は各講座を開いたキャプテンが、その反省なども含めて書いたもので、思い入れやこだわりが感じられるものであった。これらの多くはワープロで打ったものであり、編集作業に使っていた「一太郎」でも問題なく読み込め、編集することができたが、学校の「指導案」にあたる「遊学プラン」は、そのほとんどが手書きのものであり、これをワープロ原稿にするのに時間がかかった。

出来上がってみるとこれは250ページ近い膨大な量になっており、「これじゃあ時間がかかるわ」と編集委員は口々に語った。そして、「遊学プランワープロ原稿化計画」が実行される公算が大きくなった。

「これからの教師はワープロやパソコンくらい使えなければいけない」というのが事務局長の野本聡氏の言い分。これについては実践センターの東原先生からも同意を得られそうである。ただ、この遊学プランの打ち込みでは多くの問題点（特に罫線について）が見つかっており、対応が待たれている。次期キャプテン希望者は早めに使い方をマスターしてほしいものである。

さて、その実践記録であるが、印刷、製本されて3月14日に実践センターに届けられた。そこにたまたま来ていた事務局長（私）が、そのほとんどを土井先生の研究室まで持っていくという作業を行った。重かった・・・。そして翌15日には卒業していくYOU遊サタデースタッフに配られた。土井先生の話によると、皆一様に、素晴らしいものが出来たと感心していたようである。

●YOU遊サタデー実行委員の紹介

今年のはじめに行われた実行委員長の選挙では、二人の立候補者が名乗りを上げた。1月に行われた会議でお互いの主張を述べあい、会場は熱気につつまれていた。そして、キャリアの差で加納文香氏（家庭専攻）が実行委員長に選ばれ、惜しくも当選を逃した丸山和利氏（理科専攻）が副実行委員長となった。実行委員長に選ばれた加納氏は「YOU遊サタデーをより良いものにするために、みんなで協力していきましょう」と力強く語った。今年の実行委員長も強力である。ということで、実行委員の主要メンバーを下に示しておく。

実行委員長	加納文香	（家庭専攻・4年）
副実行委員長	丸山和利	（理科専攻・4年）
事務局長	野本　聡	（理科専攻・4年）

というわけで、今年もよろしくお願いします。また同時に新スタッフも募集中。誰かお友達を誘ってみよう。

●編集後記

とりあえず、この記事は私の独断と偏見によって書かれています。字ばっかりでつまらないね。次回は絵や写真も取り込んで、より内容豊富にして、みんなで創っていきましょう。

YOU遊サタデー通信'96

YOU遊サタデー事務局発行　　4月8日（月）　創刊号

●第1回実行委員会の報告

4月3日に第1回のYOU遊サタデー実行委員会が開かれた。参加者は20人を数え、大変和やかな雰囲気で会は進行した。中でも実行委員長の加納文香さんがYOU遊サタデーについて語った講演は素晴らしいものであったと、内部での評判は高い。参加者もYOU遊サタデーへの思いを新たにしたようであった。

さて、今回の実行委員会は、5月28日に開かれる「第8回YOU遊サタデー」で開講する講座を決めるために行われた。本当に多くの案を出してくれてありがとう。私も講座を開くつもりであるが、いざ開こうと思うと、これがまた大変である。まず講座のタイトルはどうするか、そして何を準備すればいいのか、対象学年は？etc。やっぱり講座のタイトルは重要で、これによってその講座がおもしろそうかどうか判断されているんです。で、聞いてるとやっぱりみんないいネイミングセンスをしている。感心しました。私にはとうていかないません。まいった。

今年開く講座であるが、人気講座のひとつの「スライム作り」は「宇宙生物スラスラスライム」という名で開講されるし、「おやつパラダイス」も開講される予定である。また一般向けに「刃物研ぎ教室」（小学校高学年以上対象）なども開かれるようだ。また、新しい講座として「藤かご作り」や「海藻押し葉」など非常に興味深い講座もある。くわしい内容は次号以降で紹介していこう。

また、今回は同時に係と新事務局長も決められた。というわけで私前事務局長は退陣することになりました。めでたしめでたし、と私個人は思っております。でも、本当に私の仕事がなくなったわけではなく、コンピュータ係長になったわけで、結局仕事の量は変わっていないのです。むしろ仕事が増えたんじゃないかな…。まぁ、みなさん頑張りましょう。

●YOU遊サタデーでのコンピュータ利用について

別に私がコンピュータ係だから言うわけだけど、とにかくコンピュータ、特にパソコンについて語っておこう。

みんなパソコンを使おう。最低限ワープロは使えるようにしよう。というのは知っている人もいると思うが、実践記録のまとめのときに困ったからである（前号の評価版参照）。私もパソコンを使い初めて一年が経とうとしているが、かなりのことは出来るようになった。ロジックボード[注1]　をひき出したのも数回（^^；）。数々のトラブルにもめげず、爆弾、フリーズなんのその。わかる人にはわかるこの恐ろしさ。

というわけで、パソコンで出来ることだが、ワープロ、表計算を始め、データベース作成や教材開発なんかにも使えてしまう。もし今ワープロの購入を考えている人がいたら、是非パソコンをお薦めする。安いのだとワープロと同じくらいの値段でパソコン本体とカラープリンタまで買えてしまう。

もし相談したいって人がいたら、実践センターの東原先生に相談するといいでしょう。自分の用途にあわせてパソコンを選びたいって人もいるけど、今のパソコンだと、動画の編集を行いたいとか言う特別な用途以外のことに使うなら、ほとんどのパソコンでも出来てしまうのだ。ついでに今私が使っているMacは、今ではカラープリンタとセットで14万を切っている（うるる～）。とってもお買い得だね。

●キャプテンのみなさんへ

今回キャプテンをしてくれるみなさんはいろいろと考えることもあって大変でしょうが、スタッフについても考えておいて下さい。基本は自給自足です。今のうちに声をかけておいて下さい。

★あとがき

YOU遊サタデー新聞がいよいよ創刊しました。これからもよろしくお願いします。それから原稿を持ってくればいつでも掲載いたしますので、是非どうぞ。

それから宣伝です。木曜日の一コマ目に教育実践学演習という授業があります。これはYOU遊サタデーを題材にし、「影の実行委員会」といわれているものです。通年なんで、あいてたら取って下さい。

注1　パソコンの中身の基盤。ここにいろんなICとかがくっついている。本当はそんなに出しちゃ駄目。

YOU遊サタデー通信'96

YOU遊サタデー事務局発行　4月18日（木）

●FMぜんこうじ出演日記

先日、ついにYOU遊サタデーはラジオデビューを果たした。これで私らは長野（市内）のヒーロー。というわけで、その道中記（？）をお届けしましょう。

出演予定日の数日前に、正式な出演以来をいただき、12時30分までにスタジオに入ってくれとのこと。金曜の2コマには授業があっただめ、危うく遅れそうになったが、無事、FMぜんこうじに到着した。出演者は実行委員長（加納）、副実行委員長（丸山）、事務局長（小林）、そしてコンピュータ係長（旧実行委員長）（私）。待つことしばし。放送5分前頃にスタジオに案内されて入った。緊張がだんだん高まってきた。でも、昨日作った原稿はある。それを読めばいいじゃないか。12時44分、いよいよ運命の放送開始。まずは自己紹介から。直前まで「お茶くみの野本です」などと落としてやろうと思っていたけど、さすがに出来なかった（まぁ、当然出来るわけはない）。「小林さんと名前がすごく近いんですよ。私小林恵理って言うんです」とりあえず名前の話で盛り上がる。そんなことでは時間が無くなるんじゃないかと思っていると、次々に質問がされていく。私の番までもう少し。緊張もピークを迎えた。

「では、申し込みはどのようにすればいいんでしょう。」

来ましたね。この質問が来るとは思っていたけど、さすがに驚いた。「はい、申し込みですが・・・。」さて、どう答えたのやら。ほっと一息ついていると「申込用紙が送られて来るので、それで申し込むということですか。」え？違うよ。どうしよう。「いえ、住民票書で・・・。」

とりあえず終わったぞ。そう思った瞬間、みんなを凍り付かせた一言。「将来放送局になったとき役に立つと思いますが、先輩の反響は。」え？え？そんな質問あり？時間はもうないよ。え？誰が答えるの？その時、実行委員長の手がまっすぐ副実行委員長にむけられた（様に見えた）。「はい、・・・実践的指導力が・・・力量形成の場として・・・。」丸山君偉い！少し見直したよ。こんな質問を予想してちゃんと原稿を用意していた何てね。いやぁ、助かった。「今日はどうもありがとうございました。」どういたしまして。

で、これが長野市内に聴こえたと思うと、いったい何人の人から反響が寄せられるか楽しみだが、YOUの小林さんが言っていた「まだ知名度が低いから、みんなに宣伝してね。」という言葉がちょっと気に懸かる。ということで、宣伝です。FMぜんこうじは78.5MHzで、絶賛放送中。長野市内のみが放送エリアである分、地域に根ざした放送を行っている。番組ではたくさんの葉書を待っているようです。是非FMぜんこうじを聴いて、葉書を出そう。FMぜんこうじをよろしく。

●講座が出そろう～今年も豪華な顔ぶれ

講座が出そろったので紹介しよう。①「でっかいでっかいシャボン玉を作ろう」②「楽しく作ろう藤かご作り」③「プロへの一歩！？イラスト漫画体験」④「不思議なしおり作り」⑤「ペーパーグライダーを飛ばそう」⑥「なんでも研げちゃう！刃物研ぎ」⑦「カンカンアイスクリーム」⑧「おやつパラダイス～○○でクッキーを作ろう」⑨「宇宙生物スラスラスライム」⑩「学校では教えてくれない化学実験」⑪「続・教育学部ってどんなところ」⑫「かわいいビーズ玉コレクション」⑬「いじめフォーラム96」⑭「お父さんもキャプテンだ」⑮「小麦粉粘土」⑯「ガリガリ竹とんぼ」の、以上16講座。これから各講座のスタッフも決まって行くわけだけど、何かやってみたい講座があったら実行委員に言っておくといい。「初めてやることだからやめておこう」なんて思わなくてもいい。私だって初参加の時いきなり「小麦粉粘土」のスタッフになったときは驚いたけど、子どもたちと遊びながら自分も楽しくできた。やっぱり経験者が望ましいけど、初めてって人でもスタッフになってもらえるとありがたい。初めてって人はどこがわからないかが見えてくるから。ということで、迷わず自分が一番やってみたい講座のスタッフになろう。

●最後に一言（著者のたわごと）

また文章だけになってしまいましたね。だって写真が撮れなかったんだもの。それに書くこともいっぱいあるし。

YOU遊サタデー情報化計画が着々と進みそうです。まずは参加者のデータベース化です。これによって作業の効率化を図りたいと思います。ただ、使うのがMacintoshであるので、今迄のPC-9801で一太郎とは訳が違うので、誰か引き継げる人も探しています。是非皆様もご協力を。また時間を見つけてパソコンの使い方講座を開きたいと思います。いまパソコンを買おうとしている君。迷っちゃいけない。どうせパソコンなんて2年もすれば骨董品になる。パソコン購入のポイントは新機種がでたばかりの、その旧機種。しばらくすると一気に数万円も値が下がる。いずれ値が下がるなら、下がりきったものを買おう。

YOU遊サタデー通信'96

YOU遊サタデー事務局発行　4月25日（木）　第3号

●「YOU遊サタデー通信」に大きなミス

前号の「YOU遊サタデー通信」に大きなミスが発見された。なんと「私」が「旧実行委員長」になっていたのだ。本当は私は「旧事務局長」である。ごめんなさい（^_^;）。それもこれも周りのみんながなんのチェックもしてくれないからだ（T_T）。助けてくれ。俺だけにまかせるな。

まぁ、しかしこれもほとんどボランティアで作っているからしょうがないのかな。これからはこのようなミスがないよう、注意しながら作っていくつもりですんで、みなさまも是非ご協力下さい。原稿はいつでも待ってます！ただし、ワープロ原稿がいいな。

●YOU遊サタデー講座内容煮詰まる

いよいよ当日のアシスタントスタッフが決まりだした。18日に登録者に集まってもらったが、なんと40人近くの人が参加して、自分の希望の講座に分かれた。私の講座には2人がついてくれた。また、ここでも人気講座が分かれている。

そして、同時に遊学プラン（指導案に当たるもの）のほうも、2次案に移りつつある。先日キャプテンが集まり、それぞれの講座の遊学プランをお互いに検討しあった。なかなか鋭い意見も出たりして参考になった。今回は今井君が司会をやってくれたが、彼の指揮はなかなか的を得ていて面白い。私もつい先日ようやく遊学プランを書き上げることが出来たが、それも今井君のいろいろな意見を考慮しながら作った。彼は卒研のため山ごもりをする（火山学研究室）ため、仙人のように時々山を下りてきていろいろ言って帰っていくと宣言している。このような人の協力を得て、だんだんYOU遊サタデーが出来上がっているんですね。

さて、それぞれの講座についたスタッフのみなさんも、これから準備が始まっていくわけです。キャプテンのほうから講座の内容をしっかり聞いて、遊学プランをしっかり読んで本番に臨むようにしましょう。少しでもわからないことがあったらキャプテンに聞いてみましょうね。

●そろそろ受け付けの準備を

YOU遊サタデーも近づいてくると、受け付けのお葉書が多く届くようになる。多くはゴールデンウィーク明けになるので、そのための準備もしなければいけない。そのためにまたご協力いただきたいと思っております。受け付けの方法は「受け付けマニュアル」があるのでわかると思います。詳しい話は実行委員長の加納さんに聞いて下さい。

●著者のたわごと
（密かに進行するYOU遊サタデー情報化計画について）

別に密って訳じゃないけど、情報化計画を進めております。今の所は参加者のデータベース化とインターネット上のYOU遊サタデーホームページの拡張をねらっております。つきましてはパソコンのユーザの協力を賜りたく思います。私はMacはそこそこわかるけど、WINDOWS95（←去年のものだね）はよくわかりませんし、HTMLなんかもよーわかりません。そちらのわかる人、ご協力下さい。また、これからパソコンを始めたいという人も、気軽にご相談下さい。私の拙った意見でよかったら、アドバイスさせていただきます。そうすると、おそらくMacを買うことになるでしょう。

ところで、今回は大きな写真が入りました。どの程度はっきり写っているかはわかりませんけど、あまり写りがよくなかったらそれはプリンターや印刷機のせいです。いまいちこの写真の処理がわからない。

それからみなさん、特に各講座のキャプテンに連絡。もし予備実験や練習なんかをするときは是非事務局に声をかけて下さい。カメラを持って取材に行きたいと思っています。見ての通りネタが乏れています。暖かいご協力を（協力求めてばかりでごめん）。そこの人、笑ってないで手伝って。

YOU遊サタデー通信'96

YOU遊サタデー事務局発行　5月9日（木）　第4号

●さあいよいよ受付開始

ゴールデンウィーク中に、いくつかの新聞にYOU遊サタデー開催のお知らせを掲載していただきました。掲載されるとすぐに問い合わせの手紙が届き、「やっぱり期待されているんだな」とひしひしと感じました。そして、一覧表を送ると、すぐにたくさんの申し込みのはがきが届きました。＼^o^／（ばんざーい）

そんなわけで、今、受付業務に大わらわであります。これが結構気を使う作業で、副実行委員長の丸山君も、「大変な作業だ」と語っていました。

この受付業務への協力に関しては、実行委員長の加納さんから、なんらかの説明もあると思います。みんなで協力していきましょう。

●講座の準備の忙しく

いよいよという感じで、講座の準備も忙しくなってきました。私の担く「不思議なしおり作り」は、材料や、必要な機械が無く、それを探して歩き回っています。先日、車を出してもらって買いに行ったのですが、あいにくホームセンターの定休日で、本当に参った。いやー参った参った。

ということで、キャプテンのみなさんは、準備を早めにして下さいね。それからスタッフのみんなもキャプテンに何をしたらいいのか聞いて、みんなで協力して作業を進めていきましょう。キャプテンだけに任せないようにして、なるべく仕事は分担しよう（と、キャプテンをやる私は思う）。

●シリーズ「人」
YOU遊サタデー実行委員紹介
—第1回—　実行委員長　加納文香編

3代目（？）YOU遊サタデー実行委員長を務める加納文香さんを詳しく紹介しよう。小学校家庭専攻の彼女、実行委員長にふさわしく、あけぼの病に身を寄せている。

自然豊かな伊那で育ったせいだろうか？非常におおらかな性格である。「皆が楽しけりゃいいんだよ。」とか「細かなことは気にしない！」ってことをよく言う。調理実習の時など、「おいしくできりゃいいの」と言って、分量や、見た目はあまり問題視しないらしい。

しかし、みょーな厳しさ（というか怖さ？）がある。

加納：「あー、君きみぃ。これはこーした方がいいんじゃないかい！」

某N：「えっ、でも・・・はい、わかりました。」

という感じで、YOU遊サタデー関係者でも頭が上がらない。寮の先輩方も「文香に指図されることがあるんだ。どっちが年上かわからないよ。」と嘆いているのを聞いたことがある。

しかーし！普段はあまり見られないのだが、女の子っぽいところもあるにはあって（し、失礼）、健気にプレゼントを手作りしたり、かわいい物好きで、模様や型にこだわりがある。そして大変涙もろいのである。

YOU遊サタデースタッフのみなさん、これから加納さんに合う度に、みょーにおおざっぱで、大変よくドジる、ということを知ることになるでしょう。さらに、YOU遊サタデー関係者に「恐い・・・」と敬われている（？）加納さんの涙をYOU遊サタデー当日に見られる・・・かもしれない。

（文責：家庭専攻　小林　理英）

●最後に一言（著者のたわごと）

とうとう始まりました、シリーズ「人」。ここではYOU遊サタデーに関わっている人の素顔を紹介していきます。これに関してはあまり自分で筋書きをたくないので、みなさんのご協力をお願いしたいと思っています。うかつなことを書くと・・・。

そういえば、丸山君が「ガリガリ竹とんぼ」をつくっている。4月の終わりに、吉澤嘉寿さんにきていただいて、教えていただいたようだ。私も作ってみたが、結構簡単に出来た。この「ガリガリ竹とんぼ」が何か分からないという人は、実践センターにきていただけば、実物があります。

さて、もうじきYOU遊サタデーですね。それが終われば3年生は教育実習。そこで、加納さんから一言。

「楽しんでおいで。絶対楽しいから。」

ありがとうございました。

YOU遊サタデー通信'96

YOU遊サタデー事務局発行　5月16日（木）　第5号

●YOU遊サタデーいよいよ来週に

早いもので、いよいよ来週が第8回のYOU遊サタデーということになりました。準備の方も着々と進んでいます。

さて、今期のYOU遊サタデーでは「みんなでやろうDAYS」というのをもうけて、みんなで仕事をしようじゃないかという事になりました。「今まで謎に包まれていたYOU遊サタデーの実態が見えてくる」と言ったような大袈裟なものではないけれども、こういった仕事もあるという事を知ってもらえるいい機会ではないかと思います。

仕事の内容は、講座参加者の名簿の整理や、ネームプレートの作成（名前を紙に書く）その他といったところでしょう。それ程大変という仕事ではないけど、少人数でやると大変なんです。この機会に、みなさんのYOU遊サタデーに関する理解をもっと深めていただけたら幸いと考えております。

●日本海で海藻採り
「不思議なしおり作り」

私の受け持つ「不思議なしおり作り」の材料になる海藻を採りに、去る15日、日本海に出かけてきた。その道程と苦労話にちょっとお付き合い下さい。

当日の天気は晴れ。まさに打ってつけのドライブ日より。私は車の免許などを持っていないので、理科の今井君に車を出していただいた。朝の9時に長野を出発して北国街道を北上して18号を通って日本海へ向かった。お昼前には海に着いたが、なかなか海藻が打ち上げられている海岸（砂浜だと、良く海藻が打ち上げられている）が見つからない。いろいろ見ているうちに糸魚川まで行ってしまった。「何やってんだよ」と言う今井君の視線を感じ、Uターンして戻りはじめた。「これだけしか採れないのか」と、半ばあきらめて帰る途中に見つけた海岸で、多くの海藻を見つけることが出来た。日本海にはあまり砂浜がないので、本当に運が良かったとしかいいようがない。うれしくなって砂浜を歩き回り、これだけあれば十分というだけの量を採り、帰路についた。

ところで、今回行った日本海は、子どもの頃よく行ったところである。いつも能生あたりへ行っていたので、その時に泊まった旅館を探し出すこともできた。また、小学校の臨海実習、じゃなくて臨海学校で行った宿舎なんかも見つけることもできた。これももうひとつの収穫。

☞海藻を探しているところ

●おいしいクッキーが焼きあがる
「おやつパラダイス」

つい先日、「ひとつ食べる」と小林理英さんから差し出されたクッキーを試食させていただきました。その味についてご報告します。

まず一言「美味しかったです。」これは事実。まさかこれに○○が入っているなんて、と思ってしまうほどの良い出来でした。もともと○○にはそんなにクセがないから、入っていてもわからないのかも知れない。でも、何だか栄養価が高そうな気がするのは私だけだろうか。これなら成功間違いなしでしょう。やはりおやつパラダイスは人気講座だけあるなと思った。

（著者注：材料に関しては、一部秘密ということで、本誌面では伏せさせていただきます。）

●最後に一言（著者のたわごと）

今回の海藻採りの記事で、この「YOU遊サタデー通信」がいかに忙しく書かれているかがわかったことでしょう。最も新しい情報を提供しようと、日夜努力した結果でありまして・・・。あまり信じてないみたいですね。いいですよ、信じなくても（あっ、すねちゃった）。

ところで、本当にYOU遊サタデーが近づいています。今回が今年の1回目。新しいYOU遊サタデーの始まりです。みんな気を引き締めていこうじゃないですか！

YOU遊サタデー通信'96

YOU遊サタデー事務局発行　5月30日（木）　第6号

●YOU遊サタデー終わる

YOU遊サタデーお疲れさまでした！楽しくできましたか。私は楽しくできました。上手くいったとは言い切れませんが、子どもたちが楽しそうにしおりを作ってくれたのが嬉しかったです。やっぱり子どもたちの笑顔っていいですねぇ。この笑顔を見るために先生になるんじゃないかと思ったりします。

さて、このYOU遊サタデーができるまでには多くの人の協力がありました。前日までの講座の準備から、会場準備、当日のスタッフ…。陰でこのYOU遊サタデーを支えてくれたみなさんにも、この場を借りて感謝申し上げます。本当にみんなありがとう。

さて、これでYOU遊サタデーが終わったわけではありません。これからさらに大変な仕事も控えているのです。まず、キャプテンのみなさん。実践記録を書いて下さい。書き方はだいたい去年と一緒です。内容は比較的自由ですが、講座設定の理由や、子どもの動き、スタッフの意見などを是非載せて下さい。これが、YOU遊サタデーを研究という域まで高めているのです。3年生の人は、教育実習前で大変かもしれませんが、実習のレポートを書く助けになると思います。よろしくお願いします。

それから、次回のことも考えないといけません。次は9月14日です。つまり、夏休み明けすぐということですので、結構忙しいのです。夏休み中に「みんなで楽しもうDAY（仮称）」をもうけて、またみんなで考えていくようです。詳しいことはまだ何とも言えません。しかし、次回からは3年生のより一層の活躍を願っております。教育実習で気付いたこと、出来なかったこと。それをYOU遊サタデーにぶつけてみよう！

●次回の講座について

次回が9月にあるということで、これから結構忙しい。夏休みがなければ、いまちょうど1ヶ月前、講座が出そろって、報道関係には通知が届き、いよいよ受付開始といったところにあるわけです。しかし、いまは何もできていません。そこで、みなさん、講座を開きませんか。今回はスタッフとして参加したあなた。次回はあなたの番です。6月6日には講座についてだいたい決めてしまいたいと思います。みんなの楽しい企画待ってます。

●最後に（著者のたわごと）

あっという間に第8回のYOU遊サタデーが過ぎていきました。非常に充実した日々を過ごして、気がつけば教員採用試験まであと1ヶ月半。4年生の人はともに頑張りましょう。

さて、いままで頑張って続けてきたこのYOU遊サタデー通信も今回で通算6号目（号外を除く）。みなさんに愛され、親しまれ、私としても精一杯やってきたつもりですが、いよいよ限界です。そこで、YOU遊サタデー通信は次号に続くことになりました。何せもう紙面がないもんで(^_^)。それでは、また逢う日まで。

See you next week!!

YOU遊サタデー通信'96

YOU遊サタデー事務局発行　6月6日（木）　第7号

●9月14日に講座を開こう

いよいよ9月のYOU遊サタデーに向けて準備がスタートしました。随分先に思えるけど、夏休みが終わったらすぐだから、大変だって事は前号でも言ってあるけど、ホントに大変である。何故って、夏休み中にすでに受け付け作業が始まっているからである。3年生は教育実習中になるので、今回は特に2年生の協力をお願いしたい。前回やった「みんなでやろうDAY」の拡張版が行われるらしいです。本部の仕事を知る機会ですので、是非ご協力下さい。

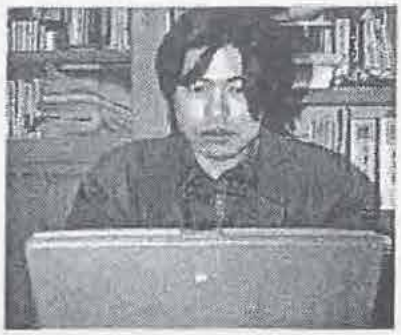
それから今回は私たちの方から講座の提案をしていきます。講座を開きたいけど、いまいち良いアイデアがないという方、参考にしてみて下さい。私たちの方でも、出来るだけの協力はさせていただきます。と言うことで、どなたか私の海苔押し巣をやっていただけないでしょうか。比較的簡単に出来ますよ。（作品例は事務局に置いてあります）

●シリーズ「人」　第2回
副実行委員長　丸山　和利

副実行委員長、丸山和利の朝は速い。あっという間に朝は過ぎ去ってしまう。そのため、彼が動き始めるのは昼からである。実際、彼が一コマ目の授業に間にあったためしはない（と言ったらちょっと大袈裟だが、4年になってからはそうらしい）。そんな彼にもいいところは・・・。何かあったかな。.

丸山君のことを語るときに避けて通れないのが、教育実習である。彼は教育実習に新たな記録を打ち立てた。そう、彼は6週間の間に、70本の「新グロモント」を飲み干したのである。理由を聞いたところ「風邪をひいたらみんなに迷惑がかかるから」ということで、彼なりの気配りであったが、誰一人としてそう思った人はいない。ある意味でかわいそうな奴である。

この話からもわかるように、彼はよく風邪をひく。風邪だけではなく、よく医者にかかることがある。ある医者では、彼は常連らしい。もともと体が弱い（と本人は言っている）らしく、気を使っているらしい。その証拠に、彼はよく寝る。授業中でも寝る。起こすとひどく機嫌が悪い。たちの悪い奴である。



あんまり丸山君のことを悪く言ったら、あとが怖いので、彼のいい点を上げておこう。彼は物事に熱中するタイプであり、出来ないことがあると、出来るまで徹底的にやる。あるピアノの曲が出来なくて、ずっと練習していたこともあるし、今回のYOU遊サタデーの「がりがり竹とんぼ」でも、納得がいくまで何十本も試作品を作った。その情熱を、是非教員採用試験や卒業研究にもむけてほしいものである。

こんな副実行委員長ですが、どうぞみなさんかわいがってやって下さい。

文責、及び分析　P.N　みずくらげ

●最後に（著者のたわごと）

いやー、シリーズ「人」、久しぶりの復活であります。危うくシリーズにならないところでした。今回は原稿の依頼はせず、自分で書きました。悪いことばかり書いてしまったので、お詫びの印に、Macを使いこなしている写真を使わせていただきました。この写真は丸山副実行委員長です。髪の毛の長い頃です。

今回も〆切直前にあわてて書きました。誤字脱字は私の関知するところではありません。多文渡しのバ鍵根は阿玉が井伊ので、飛んで茂ない変化んは市内でしょう・・・。あれ？（こんな事をしていたら、ホントに私の辞書が馬鹿になってしまう。）

最後にもう一言たわごとを。誰かパソコン業務を引き継いでおくれ。まだ今の所大変な仕事はないけど、とにかく頼みます。これからいろいろやっていきます。

YOU遊サタデー通信'96

YOU遊サタデー事務局発行　6月13日（木）　第8号

●9月、10月の講座がほぼ決定！？ キャプテンの募集も始まる

第8回のYOU遊サタデーが終わったと思ったら、もう始まった第9回、10回への準備。ふと気付けばもう講座が出そろっている（提案だけだけど…）。次回もバラエティーに富んだ15近くの講座が開かれる見通しとなった。本当にありがたいことである。これを見た加納さんが一言。「多いね。」

今回はいろんな意味で面白い。まず、大学の先生方が講座を開くということ。以前にもそのようなことはあったが、今回はその内容が面白い。国語科の滝沢先生からは「源氏物語」について、数学科の吉田先生からは「算数、数学の家庭教育」についての講座の提案を出していただいた。対象は一般になるようだが、非常に為になりそうなので、是非スタッフとして参加してみよう。

去年の人気講座の復活も見られる。「かこう書こう描こう」（この順番だったっけ？）や「オリジナルキーホルダー」などが復活するそうである。これもまた楽しみである。

そして今年から始まった講座も再び開かれるものが多い。「藤かご作り」や「しゃぼん玉」「イラスト・漫画体験」「海藻押し葉」などである。今後定番になっていくのだろうか。

9月といえば、S地がなくなり、新校舎に移って（理科、家庭、技術専攻にとっては）最初のYOU遊サタデーであることも見逃せない。新校舎での料理講座や化学実験など、どうなるか楽しみである。いい設備からいい講座が生まれることを期待しよう。

そういえば、「スライム」は開講するのだろうか。あまりに定番になっているから、おそらく今回もやるとは思うけど…。

そして、今回は提案型のYOU遊サタデーとして進めていく方針である。これらの講座でキャプテンが決まっているものはまだ少ない。何かのキャプテンをやりたいけど、いい案がないという人は、是非これらのキャプテンになっていただきたい。どの講座も難しいことはない。とにかくチャレンジしてみよう。

●教育実習間近 3年生緊張の日々

3年生の人は来週から教育実習ですね。期待と不安が入り交じった日々を過ごしている人もいれば、すっかり開き直ってしまった人もいると思います。6週間の無事を祈って止みません。

教育実習は筆者も去年松本で体験したわけですが、それなりに楽しい日々を過ごさせていただきました。私はそんなに辛いとは思いませんでしたし、十分睡眠をとっていました。休日は松本の友人宅に押しかけたり、サークルボックスで暇をつぶしたり。そういえばしっかり長野のホタル祭にも出かけました。夜中に美ケ原にドライブに行ったこともあります。

基本的に私は物事を楽観的に考える方なので、このような生活が出来たのでしょう。それでもしっかり指導案は書いていましたし、予備実験もしていました。今思うとすごいことをしていましたね。

3年生の皆さん。こわがることはありません。何とかなります。ただし何とかしようとしなければダメですけどね。

●最後に（著者のたわごと）

何だか『シリーズ「人」』のコンピュータ係長編のようになってしまいましたね。最近書くことがなくて…。書くことがないけど書かないと気が済まないので、夜中の1時になっても書いています。でも、しっかり教員採用試験の勉強はしてますからね。

そういえば、大学時代で暇なのは教育（1年）の時と、2年の時しかないような気がします。あとは忙しいです。2年生のみんな、時間を無駄にしないようにしよう。

写真の加工をして、ふと気が付けばもう1時半。ようやく仕上がりましたので、今回はこれにて。

YOU遊サタデー通信'96

YOU遊サタデー事務局発行　9月　2日（月）　Second Season vol.1

◎本番2週間前！～準備を急ごう

次回の第9回YOU遊サタデー（9月14日実施）まで、残すところ2週間となりました。夏休みが終わってすぐということもあって、まだそんなに準備もできていない講座もあることでしょう。特に教育実習にいっていたキャプテンは、全然出来ていないというのが実情でしょう。それでもあと2週間を使って、最高の講座を開くために、頑張っていきましょう。

さて、今はその第9回YOU遊サタデーの申し込みの期間になっています。今回は新聞発表が遅れたため（私たちの準備が遅れたせいですが）、心配しておりましたが、思った以上の反響があり、とりあえず一安心です。

さて、今後の日程ですが、今週いっぱいが講座の申し込みの〆切となっているので、各キャプテンはゆうゆうカードの準備をしていただくことになります。そして、今週末迄と、講座の準備を進めていってください。9日～11日は例の「みんなでやろうDAYS」です。みんなで一斉に仕事をしようという日なので、実践センターの方までご足労願います。5日と12日は定例会があります。進行状況を把握するために、是非ご参加ください。

それでは、皆さんで今回のYOU遊サタデーを成功させるために頑張りましょう！

今後の日程表

2日	月	今日です
3日	火	
4日	水	
5日	木	定例会（昼休み）
6日	金	
7日	土	参加申し込み〆切
8日	日	
9日	月	みんなでやろうDAY
10日	火	みんなでやろうDAY
11日	水	みんなでやろうDAY
12日	木	定例会（昼休み）
13日	金	前日準備
14日	土	YOU遊サタデー当日

◎1年次「教育参加」速報！

第9回の準備が忙しい中ではありますが、松本でのYOU遊サタデーの準備も着々と進められています。今回は「教育参加」という授業の一環で、一年次生が講座を開くことになりました。このことに関して、今井君（理科4年）が中心となって進めていますが、今のところ5つ位の講座が開かれそうだといっています（1つはもう遊学プランもでています）。

松本ではさらに一年次生がスタッフとして大勢参加します。その数は100名を越え（！）どういう形で参加するのかと思案しています。

ところで、松本で講座を開いてくれるキャプテンを募集しています。これは大至急でお願いします。今のところ6講座までです（別紙参照）。皆さんの力を松本で生かしませんか。特に松本で教育実習をした人たちは、松本の子どもたちに会う絶好のチャンスです。皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

◎最後に～著者のたわごと～

暑かった夏も一段落し、幾分過ごしやすい季節となりました。信州ではこれから秋が駆け足でやってまいります。秋が来れば次は冬。本当に時の流れって速いものですね。もうすぐ卒業か…（それはオーバーだって）。

さて、この夏、皆さんはどのように過ごされたでしょうか。私は離島実習で南アルプスは北岳の山頂まで出かけてまいりました。山の上はやっぱり涼しくて、だいたい16度くらいでした（寒い…）。山頂を吹き抜けるそよ風のおかげで、雨が下から上に降って（？）いました。北岳山頂からの眺めはみ～んな真っ白。山は厳しいところです。しかし、その翌日、朝日の中、雲海に浮かぶ富士山がまことに綺麗でした。それを見ただけで「山に来てよかった」と思いました。もちろん、実習で来ているんですから、しっかりと勉強をしてきました。皆さんも是非山に登ってみてはいかがでしょうか。きっと感動がえられるでしょう。あ、それからくれぐれも無理のない計画を立てましょう。

今年の夏もこれでおしまい。これからは紅葉の季節です。時には心を落ちつけて、自然を眺めてみるのもいいものですよ。

ところで、気付いた方はいるでしょうか。このYOU遊サタデー通信がセカンド・シーズンになり、今回はその記念すべき第1号なんです。何が変わったって？おっと、そいつは聞かない約束だぜ。（違いを見つけたら、自分をほめてください。間違いは探さないように）

広告

松本でのキャプテン大募集中！
（10月12日YOU遊サタデーin松本）

YOU遊サタデー通信'96

YOU遊サタデー事務局発行　9月 5日（木）　Second Season vol.2

◎本番まで一週間！もうそんな時期ですねェ

夏休みが明けてからすぐとは聞いていたけど、本当にアッという間に本番一週間前です。皆さん、心構えの方はよろしいでしょうか。

さて、今のところの申し込み状況ですが、4日現在、申し込みは88通。すでに「でっかいでっかいしゃぼん玉をつくろう」と「宇宙生物スラスラスライム」は、満員御礼となっております。どうやら「スライム」はもう定番となり、「しゃぼん玉」もこれからの定番になっていきそうな気いです。今後もこれらの講座の発展を願いたいですね。

それから、先日高校に向けてもパンフレットを送りました。「教育学部ってどんなところ」や「化学実験教室」など、高校生向けの講座もあるからです。前回は「教育学部って…」に、随分たくさんの参加を頂きました。今回も私の母校から多くの後輩たちが来ることでしょう（知らない人たちばかりだけど）。

ところで、一週間前ともなりますと、前回参加された方ならわかると思いますが、みんなで仕事を協力しましょうという時期になります。前回同様、お願いです。どうぞ、私たちの仕事を手伝ってください。これからは当日へ向けての準備が始まります。ネームや修了証、領収書の用意などがあります。その他にも会場の飾り付けの準備や、看板、案内図作りなど、やることは多岐に渡っています。

また、それ以外にも講座の準備もしてもらうことになるでしょう。先週、皆さんから講座スタッフ希望のアンケートを採りましたが、それに従ってスタッフを配布してみました（別紙参照）。各講座のキャプテンと連絡を取り、素晴らしい講座をつくるために、一致団結して準備を進めていってください。

いつものことですが、本当に皆様のご協力をお願いいたします。

◎あー、困った～実行委員会の本音

皆さんもここ数日のS館周辺の変わりようには驚かれているのではないでしょうか。これからS館取り壊しと道路拡張工事が始まります。それにともなって、正門からの出入りが出来なくなってしまいます。さぁ、困りました。子どもたちはどこから入ってくればいいんでしょう。

さらに、大学には一台の車も駐車できなくなってしまいます。車で遠くから参加したい方はどうするのでしょうか。

さらにさらに、学校内の車の通り抜けも、事実上出来なくなってしまいます。正門もなくなるので、正門前のあのスペースもなくなります。子どもたちを送って来た親御さんは、どこで子どもを下ろせばいいんでしょうか。

本当に悩みは尽きません。毎日「困ったもんだ」と首をかしげています。とりあえず、当日になってみないとわからないという不確定要素も多いので、何とかなってくれと毎日祈っています。新校舎の例がありますから、少し遅れてくれないかなっと思ったりしています。

「みんなでやろうDAYS」
9月9日
10日
11日
みんなで協力して、楽しいYOU遊サタデーをつくろう！

このことは、実は大変重要なんです。車を安全に止められないということは、子どもがいつ交通事故にあってもおかしくはないということです。学校内だけでなく、学校の外にいるときでも、私たちは子どもの安全を考えなくてはいけません。「無事故」このことを皆さん忘れないようにしてください。

◎最後に～著者のたわごと

たまにはここでまじめなことも書かないと、皆さんに私の人格が疑われるんじゃないかと心配になってきたので、今回はちょっとまじめにいってみたいと思います。

なんて前置きすると、ここまで読んでくれない人もいるんじゃないでしょうか。

ところで皆さんは何か「悩み」を持っているでしょうか。勉強、金銭、人間関係、恋愛、etc。人には悩みが付き物なんですね。

私も悩みのひとつやふたつはあります。ないと本当に人格を疑われてしまいますから。でも、人によって同じ悩みでも別に平気でいる人と、暗く落ち込んでしまう人がいるようです。私なんかは結構楽天的な方で、悩みを悩みとも思わない（ように振る舞っている）ので、その辺、自分は得だなって思います（時に、損だなとも思うけれど）。

実は最近本当に悩んでいたことがあったんですが、いつの間にか忘れていました。悩みってそんなもんなんでしょうか。どなたか教えてください。

YOU遊サタデー通信'96

YOU遊サタデー事務局発行　9月12日（木）　Second Season vol.3

◎いよいよYOU遊サタデー

早いもので夏休み明けからもう2週間。いよいよ今週末が第9回のYOU遊サタデーの本番です。みなさん、学校がこのような状況なので、気を引き締めていきましょう。

講座の準備も進んでいることでしょう。今回は特にキャプテン、スタッフとの連絡を密に取ってもらおうということでやってもらいましたが、しっかりと連絡は取れたでしょうか。いくつかの講座が、当日の練習をしているところを見ましたが、和気藹々（わきあいあい）とやっていてよかったですよ。

さて、前号でも「困った」ともらしていましたが、今回は本当に大変です。ですが、ひとついいニュース。今回のYOU遊サタデーはほとんどの講座が新館で行うことになりました！なぜ新館かと言いますと、実はYOU遊サタデーの当日に水道工事等が行われるため、他の校舎では水が使えなくなってしまったからです。困ったなあと思っていたところ、新校舎を使ってもいいですよというお言葉を頂き、ありがたく使わせていただくことになりました。

そこでひとつ注意！新館はまだ新しく、壁も白く、傷もありません。つまり、少しでも汚したらそれがとても目立つと言うことです。どの校舎を使うときでもそうですが、とくに今回は汚したり、傷つけたりしないようにして下さい。また、後かたづけもしっかりして下さい。午前中の講座の人は、午後にその教室を使うことが多いので、成果発表が終わって、子どもたちを見送ったら、すぐに片付けにはいって下さい。昼食をとる時間がなくなってしまうかもしれませんが、そこはスタッフたちの協力で乗り切って下さい（近くにコンビニもあることですし）。

受け付けの仕事をするキャプテン達

◎「スタッフマニュアル」完成！

コピー機に紙が詰まるというトラブルもありました

当日のタイムテーブルなんかを載せた「スタッフマニュアル」が出来ました。今回のYOU遊サタデーについては、これを見ればだいたいわかる、と言いたいところですが、何せ学校がこの状況ですから、当日になってみないとさっぱりわからないこともあります。当日の朝7:50に皆さんに集合していただきますので、その時に急な変更なんかもあるかもしれません。午後にしか仕事がない人も、お昼頃までには本部テントに顔を出して下さいね。

表紙は前号に続き、「イラスト・漫画体験」のキャプテン、山谷さんに描いていただきました。今迄のYOU遊サタデーにない華やかさと言ってよろしいんでしょうか。一見して「スタッフマニュアル」とは思えないのは私だけではないはずです。それから、裏表紙の「落ち」も相変わらずでよろしいですね。

◎最後に～著者のたわごと

「寒い！！」

朝夕、めっきり寒くなりました。秋の気配を感じるどころか、もうすっかり秋です。そこで、皆さん、体調には十分注意して下さい。風など引かないように、摂生して下さい。当日になって、風邪で休むなんてないようにして下さい。YOU遊サタデーは皆さん一人一人の力で成り立っています。一人でも欠けることなく、当日を迎えましょう。これが終われば前期の試験週間です。体調なんか崩していられませんね。

本当に今回はたわごとでした。おしまい。

YOU遊サタデー通信'96

YOU遊サタデー事務局発行　9月19日（木）　Second Season vol.4

◎お疲れさま！！

第9回のYOU遊サタデーが終わりました。降水確率が90%で当日は雨だとか、S館の工事にともなって新館以外は水道とガスが使えないとか、駐車場が全くないとか、エトセトラ、エトセトラ。色々困難はあったけれど、それがかえってプラスになって、色々な面で注意が行き届いたんではないでしょうか。本当にこんな状況の中、みなさんごくろうさまでした。YOU遊サタデー事務局一同、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

今回の講座の参加者はわかっているだけで203名。ここに当日参加も加えると、おそらく200名くらいにはなるんじゃないでしょうか。そしてそれを支えたスタッフはこちらが把握しているだけで105名。それ以外にも当日飛び入りで手伝ってくれた人たちも多くいました。この合計300名が祈っていたんですから、当日は晴れて当然ですね。これでYOU遊サタデー連続好天記録は9回にのびました。おめでとう！

今回、私はビデオを持って回らせていただきました。みなさんの講座はどれも楽しそうで、私も参加してみたくなりました。しかし、ビデオを撮らなければならないと言う悲しい仕事のため、泣く泣く去っていきました。

さて、夏休み明けでいきなりのスパートで、みなさんお疲れでしょう。それではゆっくりおやすみ下さい。

◎えっ！もう1ヶ月ないの！？

次回のYOU遊サタデーは10月12日。あれっ？もう1ヶ月もないじゃないですか。これじゃゆっくり休んでいる暇なんてないですね。

先日「松本タウン情報」に第10回のYOU遊サタデーの開催のお知らせが載りました。そしてすでに、パンフレットの請求が届いています。このあたり、松本の人たちの期待が感じられます。この人たちの期待に応えようとしたんですが、まだ一覧表や講座紹介が出来ていないんです。そして、今最終の講座の募集を行っています。しめ切りは明日！今あるのは14講座。詳しくは別紙参照。何かやってくれる人はいませんか？

次回は松本でやるということで、都合がつかない方もおられるでしょう。そこは無理をなさらず、準備だけでも手伝って下さい。それだけでもとても助かります。いつものことですが、ご協力お願いします。

◎松本に関する一般的情報

松本でのYOU遊サタデーは1年次生が「教育参加」という授業の一環として参加することになっています。中にはキャプテンをやってくれるという熱心な人もいます。で、その一年次生ですが、なんと100名を超えています。今回のスタッフよりも多くなる見込みです。この100名を超える人たちが、各講座に割り振られます。彼らにスタッフとして中に入ってもらうか、講座の観察をしてもらうかはキャプテンにおまかせしたいと思います。やる気のある人や、授業参観に行くよりはましかと思っている人など、色々な人がいるのが実状です。この中の何人かが、将来のYOU遊サタデーを背負っていってくれると思って、、後輩の育成のためにお力をお貸し下さい。

10月2日にYOU遊サタデーの説明や講座の割り振りのために松本に何人かが来通されます。それまでに各キャプテンには、どう関わって欲しいのかなどを考えてもらいたいと思っています。必要なスタッフ数などとのかね合いもありますので、お早めにお願いします。

◎最後に～著者のたわごと～

みなさん「インターネット」はご存知でしょうか。YOU遊サタデーではホームページを作ってそれを公開しています。大学関係からいくらかの反響があるようで、リンクを張ってもらったりもしています。いずれ、「インターネットでYOU遊サタデーを知りました」という人が出てくるといいなと思いながら、ホームページを作っています。そして、将来的にはインターネットでYOU遊サタデーの申し込みが出来たりしたらいいなぁって、それは難しいかな。

みなさんご存知でしょうか、この著者である私はコンピュータ係長という役職を与えられているんです。つまり、そのホームページづくりなどは、私の仕事になっているんです。私は「HTML」なんてものは4月まで全然知りませんでしたから、本当に苦労しながら作っています。今では何とか見られるくらいのものがつくれるようになりました。これからホームページを作ってみたいという方は、私に声をかけてみて下さい。YOU遊サタデーのホームページを作るという「実践的」な方法でお教えします。

ところで、そのホームページには当日の写真なんかも貼り付けてあります。その写真選びや、講座の紹介について、各キャプテンに協力願いたいと思います。相も変わらず、ご協力お願いします。

YOU遊サタデー通信'96

YOU遊サタデー事務局発行　9月26日（木）　Second Season vol.5

◎一覧表完成！

ようやくようやく、第10回YOU遊サタデーの講座一覧表完成版が出来上がりました。さすがに今回は第9回の直後で、テスト期間を挟んで、テスト休みまではいってしまうということで、開講予定の講座がかなり流動的になっていました。以前にやると言っていた講座がキャンセルになったり、突然新しい講座が入ったり、一年生が開く講座の内容について連絡が取れなかったりと、色々なことがありました。が、ようやく一覧表が出来上がりました。パンフレット請求[注1]がかなり前から来ていましたが、ようやく送ることができます。いやぁ、本当に良かった。

今回開講するのは全部で16講座です。うち3つの講座が1年生がキャプテンとなって開くことになりました。彼等の講座にも期待がかかりますね。ただ、まかせっきりでは不安と言うことで、学部生がキャプテンとしたサポートすることになりました。講座の進め方等をアドバイスしていくという事です。

また、今回は第3期から始まった講座が、定番として残っています。「膳かご作り」や「イラスト・漫画体験」、「しゃぼん玉」などがそうです。これらがYOU遊サタデーの新たな目玉として、「スライム」[注2]にとって変わることができるでしょうか。申し込みの状況が楽しみですね。

さらにです。今回は2年生の方も講座を開いてくれます。1年生に対する対抗意識でも出たんでしょうか。今迄にない斬新なアイデアで、何かやってくれそうです。

いつものことですが、どの講座のスタッフになっても楽しそうですね。私もいくつかやってみたいのですが、ビデオを持って回る[注3]というお仕事がきそうなので、何ともなりません。

◎松本の1年生の情報

松本では1年生が講座に入ってきます。調べてみたところ、YOU遊サタデーに参加する1年生は158人で、各講座に10人入ることがわかりました。1年生のかかわりは各キャプテンにおまかせということになりますので、よろしくお願いします。

これらの1年生がどのような気持ちでYOU遊サタデーに関わろうとしたのかはわかりませんが、YOU遊サタデーをやると言った以上、真剣に取り組んでもらいたいものです。いつも言っていることですが、事故があったらおしまいです。各講座のキャプテンは1年生にその点を徹底するように強調しておいて下さい。

◎アンケート届く

実は先週にはもう届き始めていたんですが、第9回YOU遊サタデーの時に子どもたちに配ったアンケートがいくらか帰って来ています。この結果は、後日集計して出したいと思いますが、どんなことを書いてきたのか知りたい方は土井先生の研究室まで見に来て下さい。講座の感想や、スタッフの対応についての質問項目があり、前回キャプテンをやってくれた人には何らかの役に立つことでしょう。

◎今後の日程について

来週の月曜日にテストが終われば、テスト休みにはいってしまいます。しかし、子どもたちからの講座の申し込みはその時にもやってきます。休み中に受け付けとYOU遊カードの返送をしてしまわないと間に合いません。休み中に実家に帰りたいという方もおられることでしょうが、お時間のある方はご協力お願いします[注4]。

◎最後に～著者のたわごと～

皆さんテストはどうでしたか？え？そんなことは聞くなって？これは失礼。

それにしても最近朝晩と本当に冷え込みますね。朝起きるのがおっくうになる季節が一歩一歩と近づいています。でも、松本に行く日は朝早く起きないといけません。そうしないとバスに乗り遅れてしまいます。今回の松本は、遅刻、忘れ物などが許されない、非常にシビアな回です。皆さん、心してかかって下さい。

それでは残りの試験、頑張って下さい。

注1　YOU遊サタデー参加希望者はまず一覧表と講座紹介のプリントを請求します。これらをまとめてパンフレットといいます。これらはYOU遊サタデー掲示板にもはってあるので見てみて下さい。
注2　いわずと知れたYOU遊サタデーの人気講座。洗濯のりと四ほう酸ナトリウムを混ぜるだけの簡単な講座に、いつも申し込みが殺到している。
注3　配線係のお仕事です。先日はお世話になりました。
注4　いわゆるいつもの「みんなでやろうDAYS」ですが、今回は「WEEK」になるかも知れません、というのが著者の推測。

YOU遊サタデー通信'96　YOU遊サタデー事務局発行　10月 7日（月）　Second Season vol.6

◎いよいよ今週末！

次回のYOU遊サタデーまでとうとう一週間を切りました。今週末にはいよいよ今年最後のYOU遊サタデーが行われます。でも、準備のために一週間を使うわけにはいきません。今週は月～金の5日のうちに休みが2日は入ります。8日が創試で、10日が体育の日で休みになります。木曜日が休みになったりしますので、今後の日程にご注意下さい（先週の表参照）。

ということで、あと3日しか平日はないので、皆さん準備の進め方に気を付けて下さい。とくに8日は大学に入れないかもしれませんので、ご注意下さい。

申し込みの方ですが、意外に順調に来ています。この休み中にどれだけ来ているでしょうか。学校廻り（次章参照）の成果は出るでしょうか。これから各キャプテンはYOU遊カードを書いて返送しなくてはなりません。前回よりもちょっと遅めの返送になってしまいましたので、なるべく急いで下さい。できたら今日中に書いて、遅くとも明日までには全部出してしまいたいですね。

◎松本最新情報！
～松本に行ってまいりました

先日10月2日に松本の共通教育センター（いわゆる教養部）に行ってまいりました。1年生にスタッフの希望アンケートを採ったり、実行委員長からの言葉を伝えるためでしたが、そのついでと言う訳でもないんですが、松本にあるいくつかの小学校を廻って、YOU遊サタデーの広報活動をしてまいりました。私のグループは附属の幼、小、中学校と、岡田小学校、本郷小学校に行き、もう一グループは開智小学校、清水小学校、旭町小学校に行きました。この日は開智小で、付近の小学校長等が集まって会議をやるらしく、慌ただしい雰囲気が漂っておりました。私たちの廻った学校でも、今まさに出かけようとしていた校長先生を呼び止めてしまうというケースもありました。

松本出発前。みんなスーツで決めています

そして久しぶりに松本のキャンパスに入りました。何だか人がいっぱいいて、驚きました（ちょうど4コマの時間でした）。その授業が終わってから各教室を回ってきましたが、何だか昔を思い出して、感傷(?)に浸ったりしてしまいました。

話に聞き入る1年生。語っているのは加納実行委員長

今回松本で参加する1年生は約150人です。「教育参加」という授業後で、彼らに残ってもらって、説明会をやりました。加納さんがYOU遊サタデーについて熱く語ってくれたので、みんな熱心に聞いてくれました。講演(?)のあとで拍手が起こったときにはちょっとビックリしました。

その1年生の講座への配当は別紙の通りになりました。参加する子どもの数や内容などと照らし合わせて、一講座だいたい10人くらいになりました（多いところもありますが）。YOU遊サタデーが終わって、彼等が「良かったな」と思えるようだといいですね。

◎最後に～著者のたわごと

朝夕は寒いのに、昼間はとっても暑い。今は気温差がとても大きいので、風邪などひいている人もいるんではないでしょうか。風邪までいかなくとも、体調を崩していたりしないでしょうか。などと人の心配をできるほど、私は元気です。とりあえず、体調の方は万全です。皆さんも万全の体調で、松本に行けるように、気を付けて下さいね。

そういえば今日は成績発表。皆さん成績はどうでしたか？そんなこと聞くなって？それはどうも失礼しました。

ＹＯＵ遊サタデー通信発行に当たって

ＹＯＵ遊サタデー事務局　野本　聡（理科専攻　４年）

「ＹＯＵ遊サタデーがちょっと閉鎖的じゃないかな」と思ったのは、第２期に参加してみての正直な感想であった。確かに、仲間内の結束は硬く、実行委員会も一所懸命に仕事をしている様子はうかがえた。しかし、今一つ、中身が見えてこなかった。実行委員会があるので集まると、仕事が待っているという状況で、どういう経過でここまで来たのかがわからなかったのである。

これが私がＹＯＵ遊サタデー通信を発行しようとした原点である。ＹＯＵ遊サタデー通信自体は第一期にも存在していたが、第二期にはそれに当たるものは存在していなかった。第一期のＹＯＵ遊サタデー通信にも目を通したが、それがおもしろかったということも、私がＹＯＵ遊サタデー通信を発行しようとした理由である。

ＹＯＵ遊サタデー通信に書いた内容は、主として仕事のお願いであった。昨年度は仕事の内容がわからないでやっていたので、今年はどういう理由でこの仕事があって、みんなにお願いしているのかを、ＹＯＵ遊サタデー通信という場を借りて知らせていった。

今期は第一期を知るメンバーが少なくなってきている。むしろ最初を知らないメンバーの方が多くなってきた。そうなると、最初のＹＯＵ遊サタデーの意義というものでメンバー全員が心を一つにしているということが出来なくなるが、それは時間の流れであり、仕方ないことである。その「知らない人」の一人として今期のＹＯＵ遊サタデー通信を担当してきたが、このＹＯＵ遊サタデー通信がどのような役割を担っていけるか、次期のスタッフたちに委ねていきたいと思う。今期で、第一期ＹＯＵ遊サタデーのメンバーは、全員卒業する。

（4）HOW　TO サタデー

この『HOW TO サタデー』は、YOU遊サタデーの講座の中で 御家庭や地域でも手軽にできる講座を紹介したものです。
ぜひ、御活用ください。

第3期 信大YOU遊サタデー

カンカン

第8回 YOU海サタデー
1996. 5. 25 (土) 発行

アイスクリーム

をつくろう

あまくて おいしい アイスクリーム!! どんなふうに つくるのかな?

ざいりょう (2人分)

アイスクリームのもと

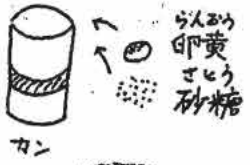
- 牛乳 150cc
- 卵黄 1こ
- 砂糖 40g
- 生クリーム 75cc

よういするもの

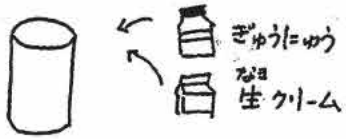
- 氷
- 塩
- 蓋つきの缶
  大きいカンと小さいカン
- ガムテープ
- 断熱材 (カンに巻いて冷たさをにがさないもの)
- ラップ

つくりかた

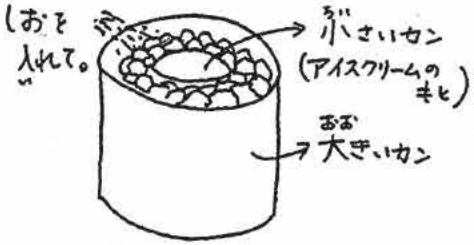
① 小さいカンに、卵黄とさとうを入れ、よくまぜる。



② さらに、ぎゅうにゅうと生クリームをいれてもう一度よくまぜあわせる。



③ アイスクリームのもとがこぼれないように、ラップをはさんでしっかりとふたをする。



④ 大きいカンのなかに、ふたをした小さいカンをいれ、大きいカンと小さいカンのあいだに氷としおをいれる。

⑤ 大きいカンにふたをして、ガムテープでしっかりととめたあと、カンのまわりに断熱材をまく。

⑥ ⑤のカンを20分間ころがす。

さあ、みんなで食べましょう!!

できあがり

いろんなくふうができそうだよ!
たとえば、チョコをのせたり、アラザンをのせたり、いろいろかざってみよう。

さあ、うまくできるかな?!

シャボン玉とばそう!!

でっかいシャボン玉のつくりかた

① よういするもの

- 600ml入りの台所洗剤（ファミリーフレッシュなど）
- 300ml入りの　〃　（ママポケッティー）
- グラニュー糖
- グリセリン（薬局で400円位）
- お水（できれば精製水）

② シャボン玉液のつくりかた

①. 水 80ml に グラニュー糖 27g を入れて よくかきまぜよう。

②. 水 530ml に 洗剤A 135ml（ファミリーフレッシュなど）と 洗剤B 45ml（ママポケッティーなど）と グリセリン 90ml を入れよう。

③. ①と②を あわだてない ようによくまぜたら できあがり!!

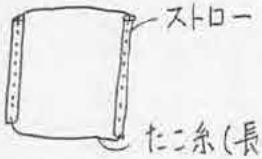
あなただけに教える ヒ・ミ・ツ

- 高く飛ばしたい時は、"炭酸ジュース"を入れるとよく飛ぶよ。
- つよくて、大きなシャボン玉をつくりたかったら、"洗たくのり"を入れるといいよ。

③ さあ、とばそう!!

おもしろい道具を紹介するね。

うちわのほね



たこ糸（長さは自由にかえてね）

④ さいごに…

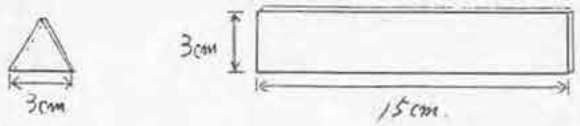
以上は実験ずみですが、天候などによりすべてうまくいくとは限りません。

But うまくいくと、子ども2人が入れるぐらいに大きなシャボン玉がつくれるよ。ちょうせんしてみてね。

万華鏡をつくろう☆

用意するもの

ガラス



1辺3cmの正三角形のガラス　1枚

3cm, 15cmの長方形のガラス　3枚

1辺3cmの正三角形のすりガラス　1枚

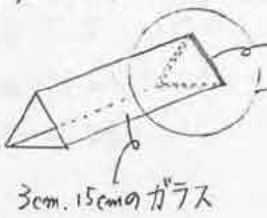
（半透明、白い）

その他

折り紙（普通サイズのもの 1辺15cm）　はさみ　のり　セロハンテープ

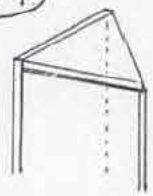
つくり方 ― ガラスで手を切らないよう注意しよう。―

1. すりガラスと、長方形のガラス3枚で、三角柱をつくる



◦セロテープであまりすきまができないようにはろう。

ポイント1

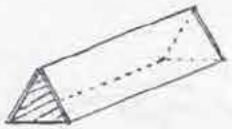


ガラスのくっつけ方を図のようにずらすとうまくいくよ！

2. 折り紙の切ったものを入れる

◦カラーセロハンなどを入れても面白いよ！

3. 三角形のガラスをはめる。



◦セロテープできれいにはろうね。

ポイント2

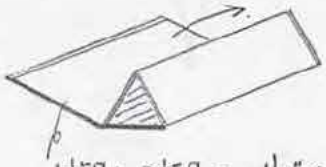
○ → 多角形よりも

▷ → 細長い形にして

△

できるだけ小さくした方がいいよ！

4. 折り紙をまく。



1枚目と2枚目はのりでくっつけよう。

◦2枚巻くと中が暗くなってきれいだよ

⇒ できあがり

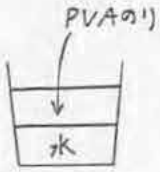
うちゅうせいぶつ スラスラスライムのつくりかた

〈よういするもの〉
- PVAせんたくのり
- 四ホウさんナトリウム（ホウ砂）
- おみず
- ビニールコップ
- わりばし

さあ スライムづくりだぁ！

① ビニールコップにおみずを入れる。

② PVAせんたくのりを おみずと おなじりょう いれる。



※ おみずは、PVAせんたくのりより すこしおおくてもいいよ。

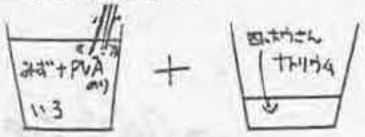
水：PVA洗濯のり ＝ 7：7

③ 色をつける。よーくまぜてネ。

※ しょくべに（あか、みどり、きいろ）えのぐ、チョークのこな などでいろがつくよ。

いろんないろをつくってみよう！

④ きれいにいろがまざったら、四ホウさんナトリウムすいようえきをいれて、すぐにかきまぜよう。

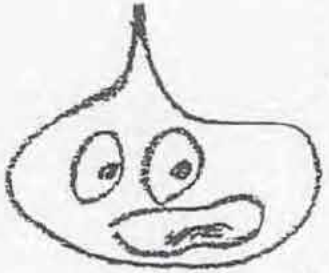


※ 四ホウさんナトリウムは、みずにとかして、とけなくなるまでとかします。

四ホウ酸ナトリウム飽和水溶液は コップの 1/4

⑤ かたまったら、コップからだして、まるめる。

※ べたべたしたら、四ホウさんナトリウムをてにつけるとべたべたがすこしなくなるよ。



スライムの できあがり

父兄の方へ

スライムの保存法…ビニール袋や、冷凍用パック袋に入れて、水分を保てるようにして下さい。
常温に置いておくか、冷凍して下さい。

スライムの利用法…スライムとして遊ぶ他には、夏の暑い日の保冷剤、熱さましのアイスノンとして御利用下さい。

スライムの処理法…可燃ゴミとして捨てて下さって結構です。
また、乾燥させて捨てるか、土にうめてしまうかして下さい。

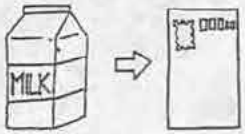
※ 四ホウ酸ナトリウム水溶液は、底に残るくらい水に混ぜ、飽和（それ以上溶けない状態）にして下さい。

※ 食紅は、ほんの少しでかなり色がつきます。色付けは、ほんの少し入れていただけば、色は付きます。

※ 四ホウ酸ナトリウムを購入していただく時は、薬局で『ホウ砂』と頼んで下さい。

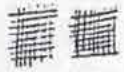
君も紙づくり名人

牛乳パックからハガキをつくろう



用意するもの

牛乳パック4コ



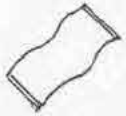
目の細かい金あみ17×12(cm) 2枚

ミキサー

バット

アイロン

新聞紙



タオル

台所用洗剤

カッター

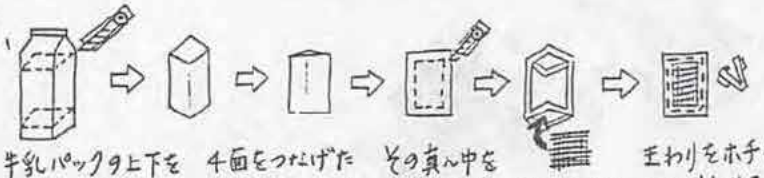
ホチキス

その他、色紙や紙テープ、絵の具、おち葉などを自由に。

つくり方

ぬれるので、シートなどを敷いてやろう!!

1、



牛乳パックの上下を切りおとす。

4面をつなげた主主、平らにつぶす。

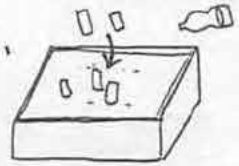
その真ん中をハガキ大の大きさにきる。(両面)

間にあみを入れる。

主わりをホチキスでしっかりとめる。

※これを2つ作る。

2、



牛乳パックをおおまかにきり、洗剤を少し入れた水に一晩つける。(牛乳パックにカッターで浅いかれ目をいれておくと、3の作業がしやすい。)

3、

水に一晩つけた牛乳パックをよく洗い、両面のビニールをはがす。

4、

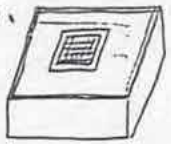
3でとれた紙と、その紙の3〜4倍の水をミキサーにかける。(ここで色紙や紙テープ、絵の具を一緒に入れると色がつく。)

5、

ドロドロになったらバットにとる。

注意 ドロドロになるまでミキサーを回し続けると、ミキサーが壊れやすいので、10秒間位ミキサーを回したらしばらくとめるようにする。

6、

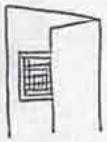


枠をゆっくりくぐらせ、あみの上に均等にのばす。(ここでおち葉などをのせ、そのおち葉などの上にもう一度ドロドロの紙をうすくのばしてもよい。)

7、

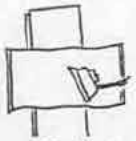
6でとりだしたものの上に、もう一枚の枠を重ねる。

8、



7を新聞紙にはさみ、3〜4回脱水する。

9、



新しい新聞紙にはさんで上にタオルを敷き、アイロン(低温)をかける。

10、

枠からだして新聞紙にはさみ、重しをのせて一晩おく。(端をはさみできれいに切ってもよい。)

できあがり

（５）出張ＹＯＵ遊サタデー

平成８年１１月１８日

信州大学教育学部
附属教育実践研究指導センター
土　井　　進　様

長野市立裾花小学校長
３年４組担任
３年４組ＰＴＡ学級会長

派遣申請書

時下、ご清栄のこととお慶び申し上げます。
下記により、貴校学生、片桐宏さん・小林大士さん・相馬真さん・檜山いづみさん・千葉綾子さんの派遣をお願いいたします。

記

１．目　的　　親子が一緒に一つの物を作る各講座において技術指導やアドバイスをいただくため。
２．日　時　　平成８年１１月３０日（土）
　　午前９：３０～１２：００
３．場　所　　長野市立裾花小学校
４．内　容　　（１）クリスマスリース作り（つる細工）
　　（２）本立て作り（木工）
５．参加者　　・クリスマス作り　　児童２０名　保護者
　　・本立て作り　　児童１０名　保護者

裾花小学校３年４組　学級行事　要項

１．趣　旨
　共同作業を通して親と子のふれあいの場を保障すると共に、クラスの親睦を深める。
　信州大学の学生の方々をスタッフとしてお招きすることで、「年の離れたお兄さんやお姉さんと遊ぶ」経験をさせたい。また、各講座における技術指導・アドバイスをお願いしたい。信大ＹＯＵ遊サタデーで受講生が見せる緊張感と課題達成の喜びを、クラスの子供達にも体験させたい。

２．実施内容
①クリスマスリースづくり（つる細工）
②本箱づくり　　（木　工）

３．実施計画
・１１月３０日（土）午前中　　（９:30～12:00）
　9:00 ：スタッフ、役員集合（３年４組教室）
　　↓・打ち合わせ
　9:30 ：３年４組教室集合
　　↓・挨拶　　（担任）
　　↓・スタッフ紹介　（スタッフ自己紹介）
　　↓・講座紹介　　（スタッフ）
　　↓・注意、連絡事項　（　　）
　9:40 ：移動
　　↓・注意、連絡事項　（スタッフ）
　9:50 ：
　　↓・制作活動
　11:30 ：
　　↓・片づけ
　11:40 ：見直、スタッフ移動　　：役員、保護者
　　↓・講座の様子、作品発表　　↓・使用教室の清掃
　　↓　　（スタッフ、見直）　　↓
　　↓・挨拶　（担任）　　↓・終了後３－４教室へ
　12:00 ：解散
　　↓・スタッフ懇食
　　↓・スタッフと学級担任との懇談会（14:00終了予定）

４．参加者

	児　童	保護者	スタッフ
①クリスマスリースづくり	２０名	名	２名
②本箱づくり	１０名	名	３名

５．参加者が持参する道具
①クリスマスリースづくり
　・飾りたいもの（松ぼっくり、ヒイラギの葉、杉の葉等）
　・ハサミ、メジャー、ボンド
②本箱づくり
　・ノコギリ、カナヅチ、キリ
　・色鉛筆、サインペン等

６．材　料
①クリスマスリースづくり

品　目	備　考	数量	単　価	金　額
バゴバゴ	つる	20		9840
ポインセチア	造花	20		2472
ベル	飾り用小物	20		3708
リボン	緑(8m)			895
ワイヤー	緑(33m60cm)			191
スプレー	金	1		1133
ボンド	速乾性木工用	2		660
			合　計	18900
			個人負担	945

②本箱づくり

品　目	備　考	数量	単　価	金　額
杉板	900×180×14mm	11	780	8580
	900× 45×14mm	11	230	2530
丸クギ	φ1.9×32mm×390本	1	120	120
紙ヤスリ	研紙 #240	5	40	200
水性ニス	300ml	2	770	1540
ハケ	ﾀｶﾞﾈ20号	2	180	360
消費税				400
			合　計	13730
			個人負担	1373

６．事前準備
・信州大学あて依頼書
・保護者あて通知
・スタッフ打ち合わせ（１１月１６日(土)12:00～裾花小学校）

（６）修了証・ＹＯＵ遊カード

ゆうゆうカード（入場券）

ＹＯＵ遊サタデーへのお申し込みありがとうございます。
あなたの参加するのは次の講座です。
当日は忘れ物に気をつけておこし下さい。
それでは、会場で会えるのを待っています。

講座名

キャプテン（　　）

持ち物

ゆうゆうカード（入場券）……このカードです
１００円（傷害保険料、参加費）

開催日時　９月１４日（第２土曜日）（雨天決行）

	【午前の部】	【午後の部】
受付	８：３０～８：５０	１２：３０～１２：５０
終了	１２：００（予定）	１５：４０（予定）

集合場所

信州大学教育学部キャンパス図書館２階
正門から入って正面にある建物です。当日は
黄色の腕章をつけた学生が誘導・案内します。

※欠席の場合は、必ず前日までにご連絡下さい。

<連絡先>
〒３８０　長野市西長野６－ロ
信州大学教育学部附属教育実践センター
信州大学ＹＯＵ遊サタデー係
TEL/FAX　０２６－２３７－６１２７（留守電あり）

修　了　証

さん

あなたは

講座において

自分の力を発揮して立派に

やりぬきました。

今後も今日のことを忘れず

がんばってください。

平成　　年　　月　　日

信大ＹＯＵ遊サタデー

キャプテン

（７）本部スタッフの仕事

当日の運営

スタッフ長　高橋　貴子（理科専攻　4年）

1．当日本部スタッフとは

当日本部スタッフが、講座以外のＹＯＵ遊サタデーを取り仕切ります。駐車場係・開閉会式係などのような係分担がされていて、基本的に参加学生全員が何らかの係になっています。

このそれぞれの係については、次からのページの中で、詳しく述べていただいてあるので、ぜひ御覧いただきたいと思います。

2．本部テント

ほとんどの当日本部スタッフは、講座が始まると、講座のスタッフとして子どもたちと向き合います。しかし、写真・記録係、スタッフ長、副スタッフ長は、講座中に仕事があります。写真・記録係は、各講座を回りますが、スタッフ長と副スタッフ長は、本部テントでの仕事が主になります。

ここでは、本部テントの仕事について、少し述べたいと思います。仕事は大きく６つに分けられます。

１）　当日受付

ＹＯＵ遊サタデーには、当日になって参加して下さる方もいらっしゃいます。その窓口となるのが、本部テントの中にひっそりと設けられている“当日受付”です。その小さな張り紙は意外と人目に触れるのか、子どもを待つお母さん方に人気があります。また、新聞広告を見逃して申し込みが遅れた方、運動会などの行事が中止になって参加したいと来て下さった方など、多数の受付がありました。当日受付の人数は、だいたい１０人前後でした。

仕事内容は次の通りです。

①当日までに、全ての講座キャプテンと相談し、当日参加可能人数を明らかにしておきます。各講座で、参加費が異なっているので、参加可能人数と一緒に、一覧表にしておくとわかりやすいと思います。

②受付においては、参加したい講座を調べて参加可能なら、参加費をいただいて領収書をお渡しし、名前・住所・電話番号を記入していただきます。

③講座の時間中に修了証を書きます。本来ならば、講座のキャプテンの手書きなのですが、講座中なので代わりに記入しておきます。

　また、当日受付のものだけでなく、名前の間違っているものについても書き直しをします。

④修了証が書きあがったら、講座に配布して回ります。

２）　案内

子どもの講座を見に来られた保護者の方、そのほかＹＯＵ遊サタデーに来て下さった方を迎える窓口となります。必ず一人は本部テントにいるようにしています。

３）　時間管理

講座終了時間が迫ると講座を回って、夢中になっているキャプテンたちを激しくせかす役目です。講座も好きなだけ出来ればいいのですが、閉会式の時間に間に合わなければ、

お迎えの方にも迷惑です。また、参加している方は、全員閉会式で成果発表をしてほしいので、時間内に終わることはとても重要なことです。

4）　救急医療

講座中の子どもたちは、講座のスタッフが責任を持って見ていますので、主に救急箱の管理です。今のところ、大きな怪我や病気がなくやってきましたが、小さな怪我や病気は、毎回必ずあるので、それに対処します。

5）　事前チェック

前日までの仕事ですが、名札・領収書・修了証をチェックします。できていない講座には呼びかけます。全部そろうまでチェックします。キャプテンが責任を持ってやっていますが、後から参加が決まった子どもなど、行き届かないこともあります。名札がなかったり、間違っていたりしないように、慎重にチェックする必要があります。

6）　その他

当日は、講座を見て回っている内に、いろいろ足りないものなど頼まれます。また、会場から出ている子どもがいないかもチェックします。講座が終わった後に、各講座の片づけの状況をチェックすることも仕事のひとつです。

3．トラブル対応

当日本部スタッフの話とは少しずれますが、トラブルに対して、当日混乱がないように、スタッフ全員がどのように対応してきたか述べたいと思います。

1）　雨対策

第一期、第二期では、全く雨が降りませんでした。しかし、今期は降水確率の高い状況があり、対策を講じました。

・校舎の玄関・エレベーターの前に、足拭きマット（いらない毛布など）を敷いた。

・カッパを用意した。

・傘を入れるビニール袋を用意した。

2）　水道対策

第9回は、上下水道の改修工事と重なったため、予定していた教室の多くで水道が使えなくなってしまいました。そのために、水を使用する講座やトイレについて、次のような対策を立てました。

・大きなポリバケツ・ビニールプールを用意した。（水の補給用）

・ホースを用意した。

結局先生方のご厚意により、唯一終日水道を使用できた自然科学校舎を使用させていただきました。自然科学校舎は新築されたばかりで、ガスさえも通っていなかったところを、当日までに使えるようにして下さった先生方に、厚く御礼申し上げます。

3）　駐車場対策

道路拡張工事のため、9月から正門が閉鎖されてしまいました。構内への車の乗り入れが出来ない状態になり、子どもの乗降時の安全の確保が難しくなりました。また、少しばかりの駐車場も全く使えなくなってしまいました。そのため、次のような車に対する対策を講じました。

・各家庭に前々日に電話連絡をして、状況を理解していただき、駐車を伴う車でのご来場は遠慮していただいた。
・駐車場係を多く配置し、歩いてきた子どもを安全に誘導するとともに、子どもを車で送ってきた保護者の方については、車を交通量の少ない北門まで誘導した。
・各門から受付までの誘導を徹底した。

4.　反省・感想

第一の反省は、“とにかく仕事がわからない”ということに加え、来て下さった先輩方の手を煩わせてしまったことです。そうなってしまった要因には、本部の仕事をだれも知らなかったこと、人数が少なかったことの２点があります。人数は、少なくとも、ちゃんと本部にいることの出来る人間が４人は必要です。今回は、副スタッフ長が写真・記録係をかねていた事などにより、人数が少なくなってしまいました。仕事内容は、一番混乱する当日受付については、簡単ですが、今回書かせていただきましたので、参考にしていただきたいと思います。

講座を見て回っていると、子どもたちの生き生きした姿と、それに負けずにはりきっているスタッフの姿がいたる所で見られました。講座が終わって閉会式の会場に向かう子どもの中には、わざわざ、本部テントまで作ったものを見せに来てくれる子もいました。本部テントにいると、直接子どもと関わる場面は極端に少なくなります。それでも、誰かがやらなくてはならない仕事なので、いやがらずに、交代しながらやっていってほしいと思います。講座のスタッフとして参加するのとは、また違った感想をもてるかもしれません。

２年生の時から、ＹＯＵ遊サタデーに参加して、その度に違う感想を持っていた気がします。今期は、講座スタッフとして参加することが少なくて残念でしたが、その分、色々な講座を見て回ることができて楽しかったです。縁あって、４年の最後まで関われたことを、大変嬉しく思います。ありがとうございました。

＜①　受付係＞

【受付のお仕事】

各講座から１名が、受付の係についてもらいます。受付係の人は当日、子どもたちを迎える玄関の役となり、子どもたちの手にしているＹＯＵ遊カードと名前を確認します。前もってキャプテンが用意してくれている名札に間違いがないように、そして、１日の始まりを快い笑顔で始められるように受付係の人は、十分な注意を払いながらの仕事となります。でも、決して大変なものではありません。たった一つのことを忘れずにいてくれれば、ＹＯＵ遊サタデーは成功に終わる！と、言ってもいいのではないでしょうか。それは、“笑顔”です。子どもたちの中には、緊張しながらやってくる子もいます。小さい子は、特にドキドキが大きいと思います。そんな不安を打ち消してくれる優しいお姉さん、お兄さんたちであることを示すためにも、受付の笑顔は大切なんです。子どもたちの元気な挨拶に負けない挨拶を交わしたら、もうそこからＹＯＵ遊サタデーが始まります。だから、とっても大切な役とも言えるでしょう。子どもたちの、知らないところに来る不安や、怖いお姉さん、お兄さんだったらどうしようという心配を跳ね除けるくらいの元気な挨拶と、優しい笑顔は、受付係には欠かせない仕事となっています。

また、子どもたちや、参加者との関わりだけでなく、参加者と本部との架け橋ともなるのが、受付です。当日は、何が起こるかわかりません。欠席する人、参加したい人、代わりに来た人など、キャプテンが、何度も何度も確認していても、参加してくれる人たちの変更はあるものです。それが、受付を通して、キャプテンや本部へ連絡が行き、当日参加者の名札や修了証の準備を行うこととなります。１日の始まりの大事な仕事を受け持つのが、この仕事です。

【受付の準備と心構え】

以上の当日のお仕事はもちろんのこと、当日までの準備としては、細かいところで多少あります。受付の名簿作りや、参加費・教材費の確認、名札や領収書、修了証の確認をすることも仕事となっています。子どもたちの参加状況を本部と連絡し、子どもたち一人一人の名前や名札の欠損がないか、事前に見ておくことは、参加してくれた子どもたちをがっかりさせないためにも重要となってきます。

当日の受付場所の準備にも、ちょっとしたところの気配りが大切になってきます。それは、受付の場所や、受付をする講座の名前の位置が、参加者の目に付くところになければいけないと言うことです。一番混雑する場所だからこそ、受付の位置は、ぱっと見てすぐにわかるところに準備することにも注意を払っておく必要があります。

子どもたちを迎える玄関として、受付係は“笑顔”を忘れず“元気”に挨拶をし、子どもたちの心と打ち解ける場所としてこれからもみんなを待っています。

（千葉綾子）

＜②　駐車場係＞

駐車場係の仕事は、主に学校の入り口に立ちＹＯＵ遊サタデーに来てくれた子どもたちを安全に誘導し、帰りの時も安全に子どもたちが帰れるように見送ることである。初めてＹＯＵ遊サタデーに来てくれた子どもたちは大学という見慣れない場所に来たので、不安な気持ちでいる。その不安な気持ちを最初にやわらげてあげられるのは駐車場係である。また、ＹＯＵ遊サタデーを終えて楽しかった気持ちを胸に秘め、帰る子どもたちと最後まで会えるのは駐車場係である。子どもたちが楽しいという気持ちを持ったまま帰ることができるように、事故が起きないように見守ることも駐車場係の大切な仕事である。

駐車場係は、目立つ仕事ではない。しかし、なくては困る係であると思う。学校には駐車場がなく、係員も少なく大変だった。雨が降った日もあり、その中を傘もささずに仕事をしてくれた係員もいた。遅れてきたり、早めに帰る子もいるので、係員は自分のやりたい講座の仕事をやめてまで、駐車場係の仕事を行ってくれた。とても地味な仕事だったが、係員になった人は黙々と仕事を行ってくれてありがたく思う。

見方を変えれば、駐車場係はＹＯＵ遊サタデーの顔と言ってもいいと思う。ＹＯＵ遊サタデーに来てくれた子どもたちや保護者の方々は、まず駐車場係の人に接するだろう。このときの対応の仕方でＹＯＵ遊サタデーの印象が決まると言うこともある。このことを忘れないで駐車場係は仕事を行っていかなくてはいけないと思う。朝に会った子どもたちと、帰りの時には笑顔で挨拶ができることが、係員をやっていて一番嬉しいことであり、駐車場係でなくては味わえないことかもしれない。

（宮沢　元）

〈③　開閉会式係〉

１．開会式

今期の開会式は「明るく、楽しくいこう」がねらいであった。なんといってもＹＯＵ遊サタデーの始まりなのだから、楽しい雰囲気で、リラックスできるような一時にしたいと願った。

さて、ＹＯＵ遊サタデー当日。子どもたちは図書館の前の受付で、お姉さんに優しい声をかけてもらって受付を済ませていた。後ろを振り返ったときにはすでにお兄さんやお姉さんが立っていて、「スライムに参加するのかな？座るところはこっちだよ。」と、手をつないで連れていってくれるのであった。（この誘導が開閉式係の仕事の中心になるのである。）そして図書館二階の会場に入ると、ジャジャーン！正面の黒板にはクマやキリンやライオンが楽しそうにしている、色紙で作られていてカラフルな貼り絵があり、黒板の縁には紙で作られたひまわりやバラの花が飾ってある。そして、トトロやセーラームーンの音楽が流れていて、子どもたちは、なーんかはずかしいんだけど楽しそうだな、という表情になっていくのである。開会式が始まる３０分も前に会場に来ていた子どもたちは「今日は何時に起きたの？」「誰と一緒に来たの？」などと聞かれて、沢山の子どもたちが集

まってくる頃にはすっかり会場の雰囲気にとけ込んでいる様子だった。

今期の特徴として、開会式が始まる前にパフォーマンスがあったことがあげられる。いくら楽しい雰囲気だからといっていても、何もしなければ飽きてきてしまうのは当然である。そこで、パフォーマンスをして、子どもたちを楽しませてくれる人を探した。そして、第８回と第１０回は数学科３年の竹下雅道君が剣玉やこま廻しを披露し、会場を沸かせてくれた。第９回は社会科２年の登坂武人君
、小宮山博君がよく飛ぶイカ飛行機の作り方を実演し、子どもの興味を引きつけてくれた。開会式の始まる前といっても、この時間は大変重要で、子どもたちに「つまらない」という気持ちにさせてしまうことは絶対に避けなければならない。しかし、今期はこのパフォーマンスのおかげで子どもたちの気持ちが高潮に達したままの状態で開会式に入ることができた。

また、開会式の時の歌も今期はニューバージョンができた。「あわてんぼうのサンタクロース」のメロディーに乗せて、比較的歌いやすい明るい歌ができた。この歌の練習も開会式の前にやってみて、少しでも印象に残るようにした。この歌の最後には「ヘイ！」という言葉があるのでそのときには片手を高くあげるようにする、といったところもユーモアたっぷりに仕上がっていた。

午前の開会式は２０分間、始めるのも終わりにするのも時間通りでなければならない。開会式のポイントとなる講座紹介に時間をかけるために、そのほかの部分をずいぶん省略した。はじめの言葉は司会者の「ＹＯＵ遊サタデーの始まりでーす。」ではじめ、実行委員長、先生のお話の手短にしていただいた。そして、講座紹介に多くの時間を割いたのだが、これが子どもたちを飽きさせなかったようだ。司会進行するときには、実行委員長のことは「キャプテンたちの中で一番偉いキャプテンのお姉さん」、先生のことは、「信州大学の先生ですよ。」と子どもたちにわかりやすい言葉で語りかけるように配慮した。

午後の開会式は講座の数が少なく、午前に比べ明らかに寂しい会場になってしまうのだが、参加者には、午前の参加者と同じような気持ちでいてもたらいたかった。時間は１０分間で先生の挨拶も歌も省略したが、開会式前にはパフオーマンスを披露したり、歌を歌ってみてリラックスできるような一時にすることができた。

開会式が終わってから教室に移動する時間は１０分、新しい西校舎までは距離があるので、早く移動できるように、子どもたちが迷子にならないようにキャプテン・スタッフにはきちんと誘導してもらうようにお願いした。そのために、開会式会場でも、キャプテン・スタッフが子どもの席の隣に座るようにし、すぐに移動できるようにしたのだが、そうすることで、早い段階から子どもとコミュニケーションをとることができ、よい効果となったようだった。

２．閉会式

閉会式は講座が終わってから１０分後、時間通りに始まるかが最大のポイントである。講座を持っていないメンバーが教室を回り、閉会式に間に合うように時間を知らせたり誘導をきちんと行うように連絡するようにした。

開会式と違い、会場に子どもを誘導するのは各講座のスタッフになる。第８回のときには２講座が時間に遅れ、１講座は閉会式に出ることができなかったという失敗があったが、第９、１０回では多少遅れた講座も出たが、成果発表には間に合うことができた。

閉会式の時間は２０分が成果発表主となる。成果発表の時は参加者、キャプテン・スタッフ全員がステージに上り作ったものを披露したり、感想を言ったりする。キャプテンの「○○を作って、こんなことを頑張りました。」という紹介で、子どもたちが成果を披露するときはとてもいい表情で、見に来ている保護者の方々も感心したり、とても喜んでくれていた。２０分という時間はなかなか守れず、どうしても時間が延長してしまうのだが、子どもたちはすべての講座が終わるまでおとなしくしていて、十分満足している様子だった。

最後に、席に座っている状態でネームをスタッフに渡してもらい、帰る準備をしてもらった。そして、「交通事故に遭わないように家に帰るように」「お家の人のお迎えを約束している子はお家の人が来るまでスタッフと一緒にいるように」ということをきちんと約束した。この後、スタッフが見送りをするのだが、最後まで、子どもたちの安全に責任を持つことを第一に考えているので、重要視した。　最後は全員で拍手をして終わりにしたのだが、会場にいるすべての人が同じ時を、十分楽しんでくれたことがとてもよかった。

３．前日準備

会場の椅子を並べるのは、スタッフ全員で協力して行った。その後の飾り付けは開閉式係で行った。黒板の飾り付けの他に、ＹＯＵ遊サタデーの歌の歌詞と、会場図を入り口に用意した。座席の椅子には、各講座ごとに講座名を書いた紙を貼り、スタッフにも子どもにもわかりやすいようにした。

また、今期は３回とも雨の心配をする必要があり、傘を入れるためのビニール袋を土井先生に用意していただいた。そのほかにごみ箱も用意した。

４．注意すること

開会式、閉会式とも、子どもたちを飽きさせずに楽しい雰囲気にすることが大切なのはもちろんだが、それ以上に、子どもたちの安全に気をつけることが重要である。今期は、子どもの隣にスタッフが座り、常に子どもの様子に気を配っていたことがとてもよかったが、トイレに行ったり、教室に忘れ物を取りにいったりするときに、スタッフが知らないようでは子どもに事故がないとも限らない。また、閉会式の後の見送りも、子どもが一人にならないようにし、最後まで子どもの安全に責任を持つことが重要であることを、スタッフ全員に理解してもらうことも開閉式係の大切な仕事である。

５．司会進行

開会式

１．はじめの言葉
２．実行委員長のあいさつ
３．実践センター長の先生のあいさつ
４．土井先生のあいさつ
５．講座紹介
６．うた
７．終わりの言葉

＊午後の開会式は３、４、６を省略

閉会式

１．はじめの言葉
２．成果発表
３．実行委員長のあいさつ
４．諸連絡（ネーム集め、交通安全）
５．おわりの言葉

（小林理英）

＜④　Ｃｏｏｋｉｎｇ隊＞

材料　（スタッフ９０名の場合　約１００人分）

☆おにぎり

□　お米　約４０ｋｇ
□　ふりかけ　８袋（長崎屋１階の１００円ショップにて　ゆかりなど）
□　海苔　４袋（同上）
□　たくわん　２袋　白菜漬け　１袋（スパーにて）

☆豚汁

□　お肉　豚コマ約800g　（今回は118円／100gをダイエーにて）
□　ジャガイモ　３袋（以下スパーにて）
□　コンニャク　４袋（8枚）
□　ニンジン　８本
□　大根　６本
□　ゴボウ　６本
□　お味噌（ダシ入り）２パック

お仕事

◎前々日

事前に連絡を取って土井先生とともに買い出し。その際車を出してくれる人を事前に頼んでおくと非常にスムーズに事が運ぶ（あっしー君兼荷物持ち）。もし見つからなければ、荷物持ちを１人頼む。豚汁の材料は調理室へ、おにぎりの材料は実践センターへ。

◎前日

今回はお肉とふりかけと海苔を買い出しに行った。

午後なるべく早い時間から豚汁＆おにぎり作り。Cooking隊員を分担して 能率よく行う（今回は13:30スタート20:00終了）。

※1おにぎりが腐る心配があれば、炊く前に炊飯器１つ（９合）につき小さじ１杯の酢を入れるとよい（by生協食堂のおばちゃん）。

※2おにぎりのお盆は生協のおばちゃんに言えば大きいのを貸してくれる（多分）。200個（一人２個）を目安で。

※3炊く量は、炊飯器２台×３回（９合×６）

※4ふりかけは９合につき１袋。海苔は１畳を８割。

※5豚汁は６つの鍋で作るとちょうどよかった。

朝おにぎりを作るため、炊飯器の予約をする（９合×２台）。

麦茶を作る。お漬物を切る。

◎当日

朝7:00～7:30頃に集まって、おにぎり作り（お昼用）＆豚汁を温める。

まほろ場に豚汁、おにぎり、割り箸、器、お漬物、麦茶、湯呑み茶碗（実践センターの）を出してスタッフの人に食べてもらう。

8:30には片付ける。器、湯呑み茶碗などは洗う。

お昼になったら、残っている豚汁を温めて実践センターに持って行く。

余ったおにぎりなどは、反省会の時に出す。

反省会が終わったら、しっかり後片付けをし、生協から借りたものも忘れず返す。実践センターも炊飯器や器など使ったものは決められた場所へ返す。割り箸やお米などは倉庫へ。

☆余っているもの

お米6kgぐらい、割り箸、器、ふりかけ1袋など。事前に確認してください。割り箸や器は買わなくてもよいと思う。

反省会について

今回の予算　1人500円分×70人=35000円

会費　学生1人300円

会場　生協食堂

内容　缶ビール60本　缶ジュース(きりり)20本　計80本

料理は予算から飲み物の金額を引いた金額で作ってもらった。

いなりずし、鳥の唐揚げ、しゅうまい

反省会の場所は参加人数の予定を早めに把握し、生協食堂で行う場合は早めに予約をする。

土井先生や実行委員長とまめに連絡を取り合いましょう。

文責　第8回YOUサタCooking隊隊長

以上は第８回信大ＹＯＵ遊サタデーでの活動をもとに作成したマニュアルです。これはあくまでも参考ですのでその時その時に応じた材料や量を決めて下さい。今年も家庭科の皆さんが中心となるかと思いますが楽な仕事ではないので今後の存続も含めて人数や体制を考えていってもらいたいと思います。

今まで作りすぎたかなと思うときもありましたがみんな残さず食べてくれてとてもうれしかったです。またＣｏｏｋｉｎｇ隊隊員の皆さんにも講座のスタッフの傍ら本当に良くやってもらいました。どうもお疲れさまでした。そして多くの面で支えて下さった漆戸先生、土井先生本当にありがとうございました。

（斉藤かおる）

＜⑤　写真・記録係＞

写真・記録係の仕事は、ＹＯＵ遊サタデー当日に、写真とビデオを撮ることである。ただ撮るだけでなく、気をつけることがある。それは、子どもたちとスタッフたちの、生き生きとした姿を撮るということである。この写真は、ＹＯＵ遊サタデー終了後、実践センター内に掲示され、後に、この実践記録の写真として使われる。残った写真はスタッフたちに配られる。責任は重大である。

ビデオは、後に編集して使われる。編集作業はスタッフの中でビデオ編集ができる人が行うが、その量が膨大であるので、大変な作業になる。

写真・記録係は、二人からなるが、一人が、一回の半日で使うフィルムとビデオテープの量は、フィルムが３６枚撮りで２～３本、ビデオテープが６０分８ｍｍテープで１本である。今期のＹＯＵ遊サタデーで使った総量はフィルムが２４本（うち、２４枚撮りが３本）ビデオテープが１２本である。これら全てが、今期のＹＯＵ遊サタデーのビジュアルとしての記録である。

（野本　聡）

＜⑥　前日設営係＞

前日設営係の主な仕事は、本部テント張り、看板の設置、各教室のタイトル張り、ごみ箱の設置などがあります。前日の流れは、「（２）スタッフマニュアル」に明記してあります。そこで主だったものについてその役割を考えてみようと思います。

まず看板は、「目立つ」ということが１番大切です。第８回のＹＯＵ遊サタデーで看板を見て、参加してくれた方がいらしゃいました。このようにしっかりとした看板は、来る方や近所の方に対し、お知らせしたり、参加を呼びかけたりする役割を果たします。また正門の他に、中にも２つほど絵入りの看板を設置しています。これは、ムードを盛り上げる効果があります。このような効果も大切にしていきたいと考えています。

テントは、本部の人がいるところです。救急箱が置いてあったり、困った方に対しいつでも対応できる「何でも屋」の意味もあります。また、スタッフが情報を確認しあったり、指示を受けたりする「司令塔」の役割も果たしています。一日中いてくれるスタッフ長などが縁の下の力持ちとなって、ＹＯＵ遊サタデーは成り立っているのです。したがって、テントはみんなから見えるところにあり、重要な目印なのです。

そのほかにも、各教室のタイトル張りやごみ箱・ほうきの設置があります。この２つの重要なところは、参加してくれる子どもたちの気持ちや視線、講座の流れを良く考えて準備することです。そこで各教室はもちろんのこと、トイレにも見えるように貼り紙をしたり、エレベーターのところにも、その建物の中で行われる講座の教室一覧を見ることができるようにしました。また、ごみ箱やほうきもあらかじめ目立つところに置き、いつでも使えるようにしました。目立たないところの準備も前日準備の大切なところと言えるでしょう。

最後に、ＹＯＵ遊サタデーは雨に降られたことが、第１０回の終了間際にしかありません。しかし雨が降りそうなときの準備も大切な仕事となります。建物の入り口に雑巾を敷いたり、濡れた傘を入れるビニール袋を用意したりというのも大切なことです。

このように前日準備では細心の注意を心がけています。そして前日準備も本番と同じようにみんなで取り組むことが当日の成功をもたらしていくのです。

（今井健文）

＜⑦　備品管理係＞

備品管理係は第二期ＹＯＵ遊サタデー最終反省会の時に発足し、今期（第三期）から活動を開始した係である。備品管理係ができるまでは、備品管理係が行っている仕事はすべて本部が行っていたため、ＹＯＵ遊サタデー開催の前後数日の本部の負担はかなり大きかった。また備品の管理がどこで行われているのかがはっきりしていなかったため、講座のキャプテンが備品の請求をどこに行って良いかわからず、講座に必要な道具が充分そろわない講座があったように思えた。そこで以上のような反省をふまえて、以下に示すような観点により備品管理係の活動を行うとともに、活動の改善を試みてきた。

1．備品管理を行っている係を明確にすることにより、各講座のキャプテンが備品の確認と請求を行いやすくする。
2．備品の管理及び整理を行い、備品の一覧表（以下備品管理表とする）を作ることにより、各講座へ備品の情報を供給する。
3．各講座のキャプテンに対して事前に講座に必要な備品調査を行うことにより、各講座への公平な備品の分配を図る。
4．備品の管理・整頓を行うことで、不足している備品の補充を円滑に行う。
5．事前に各講座のキャプテンに備品の情報を提供することで、講座内容を作成する際の一つの指標となるようにする。

以上のようなことをふまえた上で実際の備品管理係の仕事を紹介していく。よほどのことがない限りＹＯＵ遊サタデー終了後にスタッフ全員の手により備品の後片付けをするため、前回のＹＯＵ遊サタデーが行われた形のまま倉庫に保管されている。そのため備品の置き場所はバラバラで各講座ごとに用意された箱の中に備品が入っていることが多い。そこで備品管理係の最初の仕事として倉庫内の整理整頓を行い、用途ごとに備品を分類しておく必要がある。その際分類を行うとともに現在保管されている備品およびその個数を記録しておく。これが後に作る備品管理表のベースとなるからである。

倉庫内の整理が終わると続いて備品管理表の作成にはいる。この備品管理表は現在ある備品を把握し、不足している備品の補充を行う上で不可欠なものであることは言うまでもないが、現在ある備品の情報を備品管理表にまとめ、各キャプテンに提示することは、講座内容を決定する時や、内容を豊かにしていく時の一つの指針となると考えられるため、早めに備品管理表を作るとともに、各講座のキャプテンへ配る必要があると思う。

続いて各講座ごとに備品の希望調査を行う。講座の内容、定員によって用意する備品の種類も違えば数も違う。また新たな講座が開設されればその講座に必要な備品を準備しなくてはならない。そこで事前につくっておいた備品管理表を各キャプテンへ配り、必要な備品およびその数をチェックしてもらうことによって早めに必要な備品の種類と数を把握しておく必要がある。この作業は講座に必要な備品を確実に準備をすることにより、各講座に公平かつ充分に備品が供給され、子どもたちが満足して帰ることができる講座作りをしてもらうための基礎となるので確実に行っていってほしい。

希望調査が終わると各講座から要求された備品のチェックである。各キャプテンから要求された備品が現在あるもので足りていれば問題はないが、数が足りなかったり、新たに備品を買わなくてはならない場合もある。そこで何が足らないのか、何を新たに買わなくてはいけないかをはっきりさせ、購入の手続きをとる。そして最低でもＹＯＵ遊サタデー開催前日までには講座に必要な全ての備品が各講座のキャプテンにわたるようにしておく。

希望調査が終わり、備品の準備ができれば備品管理係の事前の仕事としては各講座に備品を配るだけである。各講座ごとに箱を用意しその中へ講座ごとに必要な備品を入れていく。この時備品管理表が各講座への備品の分配に非常に役立つのでこの時まで大切に保管しておくこと。また講座準備を行っていて突然必要になってくる備品（ガムテープやマジック、画用紙、模造紙、のり）などは少し余分に用意しておき急な要求にも対応できるようにしておくこと。

そして備品管理係最後の仕事は返却の確認である。各講座から使った備品が帰ってくるが、この時何がなくなっているかを把握しておくことははじめの倉庫内の整理整頓および備品管理表を作る際に楽なのでこの時にできればチェックしておくと良いだろう。しかし実際は片づけが非常に忙しく、この様な作業を行うのは難しいと思う。

以上が備品管理係の仕事である。しかし今年一年間の備品管理係の作業を振り返ってみると、１．各講座のキャプテンが備品の確認と請求を行いやすくすること、２．備品管理表を作りキャプテンに対して備品の情報を供給すること、３．各講座へ公平に備品を配ること、４．円滑な備品の補給することという四つの目的は達成できたのではないかと思う。しかし５．講座内容を作成する際の一つの指標となるようにするという備品管理係の究極の目的は備品管理表を各キャプテンへ配るのが遅く、講座内容が決まってからの情報提供

にしかならなかったため目的は達成されなかったと思う。しかし備品管理表に示された備品およびその数は、各キャプテンが講座内容を決めていく上での一つの情報となり得るためぜひ早いうちに備品管理表を配ることをおすすめしたい。さらにＹＯＵ遊サタデー終了後の備品の片づけおよび整理がいつも中途半端になってしまっていたことを考えると、備品の片づけを別の場所で行い、備品管理係が責任を持って行うなど方法を変えていく必要があるのではないかと思う。

（安喰和之）

＜⑧　外報活動＞

ＹＯＵ遊サタデーを地域に広めるに当たって、大事なことは、やはり広報活動である。ＹＯＵ遊サタデー参加者から採ったアンケートでも、新聞でＹＯＵ遊サタデーを知って参加という人が半数を占めている（あとは、大学関係者からの紹介が多い）。ＹＯＵ遊サタデーは、その大きな部分を、新聞社に頼っていると言ってよい。

３月の末に、長野市内の新聞社やテレビ局等の報道機関を回って、ＹＯＵ遊サタデーの広報の依頼をしてきた。その時には、年間計画しかわからないので、その計画と、ＹＯＵ遊サタデーの参加者募集のお知らせを報道していただけるようお願いした。報道各社の対応は十人十色であったが、おおかた良く受け入れられているようである。ある社では「頑張ってくださいね」と激励された。

長野市内に比べると、第１０回の会場である松本では、まだ知名度が低い。また、第９回から１カ月後ということもあって、新聞社への広報依頼も遅れがちになっていた。そのため、会場の信州大学旭町キャンパス周辺の小学校に、直接参加者募集のプリントを配布して回った。その結果、多数の応募があったが、募集締め切り日直前に配布したということもあって、参加を見送った子どもたちも多くいたようであった。

参加者を募るためには、やはり報道各社の力に頼らざるをえない。だが、それだけでなく、私たちから直接情報の発信もしている。今期からインターネットのホームページを利用して、参加者の募集も始めた。今のところインターネットを見ての応募はないようであるが、今後、インターネットの普及によっては、ホームページの活用も考えられるであろう。最後に、参加者募集の報道をして下さった報道各社に感謝申し上げたい。

（野本　聡）

あとがき

古来、「石の上にも３年」といわれる。学生たちの自主的・自発的な取り組みとして始まった「信大ＹＯＵ遊サタデー」も３年の節を刻み、合計10回の経験を積み重ねてくることができた。これもひとえに信州大学教育学部に学ぶ学生たちの教育への情熱と、その活動を温かく見護り応援して下さっている全教職員の皆様のご指導・ご鞭撻の賜物である。そしてまた、今年度もこのような実践記録をまとめることができたのは、大学当局の深いご理解とご支援のおかげである。ここに記して衷心より感謝を捧げたいと思う。

「信大ＹＯＵ遊サタデー」とは、これからの我が国の学校教育を担って立つ志を抱いた学生たちが、自らに課した実践の場、鍛えの場である。平成９年度の第四期実行委員会も間もなく発足しようとしている。私も一人ひとりの学生と苦楽をともにしながら、教育の未来について大いに希望を語り合っていきたいと思っている。

今後とも，さらに一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

【参考文献】

(1)土井進編『平成６年度第一期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実践』　信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター　全114頁　1995年

(2)土井進編『平成7年度第二期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実践』同上 全248頁 1996年

(3)土井進編『平成8年度第三期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実践』同上 全272頁 1997年

(4)土井進・山口直行・渡辺一博「信大ＹＯＵ遊サタデーの概要」　信州大学教育学部教育実践研究指導センター紀要第４号　pp.176-183　1996年

(5)土井進「信大ＹＯＵ遊サタデーのもつ応用教育実習としての意義」　同上第３号　pp.109-118　1995年

(6)土井進「信大ＹＯＵ遊サタデーにおいて“もの作り体験学習”を指導した学生の教材観(1)」　日本教材学会年報第７巻　pp.193-195　1996年

(7)土井進「信大ＹＯＵ遊サタデーにおいて“もの作り体験学習”を指導した学生の教材観(2)」　日本教材学会年報第8巻　3頁　1997年

(8)土井進「信大ＹＯＵ遊サタデーを通して修得される実践的指導力」信州大学教育学部実践センター研究発表論文集第１号　ｐ．２　1996年

(9)林向達・土井進「信大ＹＯＵ遊サタデーにおける“人間力”の考察」　信州大学教育学部教育実践研究指導センター紀要第４号　pp.55-64　1996年

(10)土井進「信大ＹＯＵ遊サタデーに願うもの」　信濃教育第1318号　1996年

(11)土井進「教員養成学部における実践的指導力の養成－信大ＹＯＵ遊サタデーでの体験的学習の指導を通して－」　関東教育学会紀要第23号　pp.39-46　1996年

(12)土井進「学校週五日制時代の地域教育力蘇生への教員養成学部の対応－学生パワーを地域社会に開く「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実践－」　日本教育大学協会第二常置委員会編『教科教育学研究第15集』　pp.1-16　1997年

土井　進（附属教育実践研究指導センター）

平成９年２月22日

＜編集後記＞

お礼の言葉

中村　典史

雪が降らないと騒がれている今年にしては珍しく大雪となった２月２２日、『第三期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実践』は完成しました。昨年が２月の末に完成したとの事ですから、１週間近く早いわけです。このように作業がスムーズに進んだのも、実行委員会の入念な下準備と、編集委員会のたゆまぬ努力の成果であり、心からお礼申し上げたいと思います。

加納　文香

卒論に没頭し、気がつくと、編集作業は終わりに近づき、私たち４年生の原稿を待ってくれていました。毎晩頑張ってくれたみなさんに心から感謝します。

－編集委員－

安喰和之	浅沼康理	今井健文	小木曽雄亮	片桐　宏
加納文香	桐山　潤	小林理英	小宮山博	酒井由佳里
佐々木美恵	高橋貴子	千葉綾子	土屋淳子	中村典史
野本　聡	丸山和利	宮沢　元	山谷早苗	渡辺一博
土井　進（顧問）				（５０音順）

平成８年度
第三期「信大ＹＯＵ遊サタデー」の実践
－体験的学習の指導による実践的力量の形成－

平成９年３月１４日発行
編集者　第三期「信大ＹＯＵ遊サタデー」編集委員会
発行者　信州大学教育学部
附属教育実践研究指導センター
〒３８０　長野市西長野６－ロ
TEL/FAX　026-237-6127
TEL/FAX　026-237-9296
HomePage:http://cert.shinshu-u.ac.jp/
E-Mail:doisusm@gipnc.shinshu-u.ac.jp
higashi@gipnc.shinshu-u.ac.jp